

2026年度

大学院シラバス

政治経済学研究科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外

作詩

山田耕筰

作曲

一

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

2026 年度大学院学年暦・行事予定	2
授業時間割	3
人材養成その他教育研究上の目的	4
「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針	5
修士学位取得のためのガイドライン（修了要件）	8
博士学位取得のためのガイドライン（修了要件）	13
履修登録について	17
履修登録スケジュール	18
科目ナンバリングについて	19
他大学大学院の聴講について	20
修了要件・履修にあたっての注意事項（博士前期課程）	25
科目名一覧表（博士前期課程）	27
シラバス（博士前期課程）	36
科目名一覧表（博士後期課程）	197
シラバス（博士後期課程）	200
交通遅延発生時の授業等の措置について	237
大規模地震等災害発生時の対応について	237
大地震発生時の避難マニュアル（駿河台キャンパス）〔学生用〕	240

◎2026年度 大学院学年暦・行事予定（2026年4月～2027年3月）

<春学期>

時 間 割 ・ 履 修 関 連 書 類 配 布	2026年 4月1日(水)～
【学生証有効期限・通学区間】証明(学生証裏面シール)更新	
各 研 究 科 新 年 度 ガ イ ダ ン ス	
入 学 式	4月7日(火)
授 業 開 始	4月10日(金)
研 究 論 集 提 出 締 切 日 (9 月 発 刊 分)	4月9日(木)10:00まで
履 修 届 ・ 履 修 計 画 書 提 出 (M ・ D)	4月17日(金)～4月20日(月)
W E B 履 修 登 録 (M の み)	4月17日(金)10:00～4月20日(月)10:00
個 人 別 時 間 割 表 公 開	4月20日(月)12:00～
履 修 修 正 期 間	4月20日(月)12:00～4月22日(水)15:00
休 日 授 業 実 施 日	4月29日(水)〔昭和の日〕
臨 時 休 業 (休 講) 日	5月1日(金)・5月2日(土)
研 究 論 集 予 備 登 録 (2 月 発 刊 分)	6月22日(月)～6月26日(金)10:00
休 日 授 業 実 施 日	7月20日(月)〔海の日〕
授 業 終 了 日	7月22日(水)
夏 季 休 業	8月1日(土)～9月19日(土)
研 究 論 集 発 刊	9月4日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

<秋学期>

研 究 論 集 提 出 締 切 日 (2 月 発 刊 分)	9月18日(金)10:00まで
授 業 開 始	9月20日(日)
履 修 修 正 期 間	9月21日(月)～9月30日(水)
休 日 授 業 実 施 日	9月21日(月)〔敬老の日〕
休 日 授 業 実 施 日	9月22日(火)〔国民の休日〕
修 士 論 文 予 備 登 録	10月1日(木)10:00～10月5日(月)15:00
休 日 授 業 実 施 日	10月12日(月)〔スポーツの日〕
大 学 祭 週 間 (全 日 休 講)	10月29日(木)～11月3日(火)
大 学 祭 (明 大 祭 ・ 生 明 祭)	10月30日(金)～11月1日(日)
創 立 記 念 祝 日	11月1日(日)
休 日 授 業 実 施 日	11月23日(月)〔勤労感謝の日〕
臨 時 休 業 (休 講) 日	12月23日(水)・12月24日(木)
冬 季 休 業	2027年 12月25日(金)～1月7日(木)
修 士 論 文 提 出 日	1月8日(金)10:00～1月12日(火)15:00
創 立 記 念 日	1月17日(日)
臨 時 休 業 (休 講) 日	2026年度は1月中の臨時休業日無し
授 業 終 了	1月23日(土)
修 士 論 文 面 接 試 問	2月2日(火)
研 究 論 集 発 刊	2月26日(金)
修 了 通 知	3月初旬
研 究 論 集 予 備 登 録 (9 月 発 刊 分)	3月8日(月)～3月12日(金)10:00
修 了 式	3月26日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

※政経学会(例年学祭期間)

※茶話会(例年5月ごろ)

◎授業時間割

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院

専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）

【月～土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：40
2 時 限	10：50～12：30
3 時 限	13：30～15：10
4 時 限	15：20～17：00
5 時 限	17：10～18：50
6 時 限	19：00～20：40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。
授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時 限	時 間 帯
マネジメント 1 時限(M 1 時限)	18：00～19：40
マネジメント 2 時限(M 2 時限)	19：50～21：30

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科）

【月～金曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：30
2 時 限	10：40～12：10
3 時 限	13：00～14：30
4 時 限	14：40～16：10
5 時 限	16：20～17：50
6 時 限	18：55～20：25
7 時 限	20：30～22：00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

人材養成その他教育研究上の目的

〔政治経済学研究科〕

政治経済学研究科には、政治学専攻と経済学専攻が設けられ、横断的には政治学、社会学、経済学その他隣接諸科学を包含し、縦断的の学問構造として、理論、歴史、政策の三位一体体系から構成される総合社会科学の追究を教育研究上の目的としている。そして、高度な専門的知識とそれを応用できる研究手法を備え、新たな課題に挑み、社会に貢献できる人材を育てることを使命としている。

博士前期課程は、研究者コースと高度職業人コースの2つのコースを有している。研究者コースは、博士後期課程との一貫教育により国際的にも通用する若手研究者を養成することを目的とし、高度職業人コースでは、グローバルに活躍できる高い判断能力を備えた高度職業人を養成することを目的とする。博士後期課程は、自立性・創造性・革新性に優れたオリジナリティにあふれる、国際的にも十分通用できる研究者の養成を目的とする。

【政治学専攻】

政治学専攻では、政治学、社会学及びその関連領域の学問を修得させ、特定分野のみならず、政治・社会現象全体に対する総合的視野と分析能力を有した専門的な研究者や高度職業人を養成する。博士前期課程の研究者コースでは、博士前期・後期課程の一貫した研究指導体制をとることによって、早期の博士学位取得を推進するとともに、先端的な課題に取り組み、国際的にも十分通用できる自立した研究者の養成を目指す。他方、高度職業人コースでは、関連分野の幅広い知識を習得して、複雑な現代の政治的及び社会的現象に十分対応できる高度専門職業人の養成を目指し、アナリスト、公務員、政治家、教員、ジャーナリスト等各種専門職として専門知識と研究能力を生かして、広く社会で活躍できる人材の育成を目指す。

【経済学専攻】

経済学専攻では、経済学及びその関連領域の学問を修得させ、特定分野のみならず、経済社会全体に対する総合的視野と分析能力を有した専門的な研究者や高度職業人を養成する。博士前期課程の研究者コースでは、博士前期・後期課程の一貫した研究指導体制をとることによって、早期の博士学位取得を推進するとともに、先端的な課題に取り組み、国際的にも十分通用できる自立した研究者の養成を目指す。他方、高度職業人コースでは、関連分野の幅広い知識を習得して、複雑な現代の経済的現象に十分対応できる高度専門職業人の養成を目指し、エコノミスト、アナリスト、公務員、教員、ジャーナリスト等各種専門職として専門知識と研究能力を生かして、広く社会で活躍できる人材の育成を目指す。

明治大学大学院政治経済学研究科

「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針

【入学者受入方針】

【博士前期課程】

政治経済学研究科博士前期課程は2つのコースを有し、博士後期課程との一貫教育により国際的にも通用する若手研究者の養成を目指す研究者コースと、グローバルに活躍できる高い判断能力を備えた高度職業人の育成を目指す高度職業人コースとがあります。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 政治、社会、経済のいずれかの一般的ならびに専門的素養を持ち、明確な問題意識を持つ者。
- (2) 外国語文献にも取り組む向学心を持ち、粘り強く研究を続ける意欲を持つ者。

以上の入学者受け入れ方針に基づき、学内選考入学試験、コース別の一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、明治大学政治経済学部卒業生入学試験、飛び入学試験など、多様な受験生に対応した適切な入学者選抜試験制度が設けられています。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 政治学、社会学、経済学、またそれらの関連領域において、一般的素養を持ち、研究対象について分析・考察を進めるための基礎的能力を修得していること。
- (2) 他者の意見を尊重しながら、自分の考えを明確化するために議論できるようなコミュニケーション能力を備えていること。
- (3) グローバル化が進展する現代社会に対応する能力を備え、幅広い視野と優れた外国語能力を修得していること。

【博士後期課程】

政治経済学研究科博士後期課程は、自立性・創造性・革新性に優れたオリジナリティにあふれる、国際的にも十分通用できる研究者の養成を目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 政治、社会、経済のいずれかにおいて十分な専門的素養を持ち、明確な問題意識を持つ者。
- (2) 外国語文献の十分な読解力を持ち、粘り強く研究を続ける意欲を持つ者。

以上の入学者受け入れ方針に基づき、修士学位論文、外国語試験、面接試験により公正な入学者選抜が行われています。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 政治学、社会学、経済学、またそれらの関連領域において、十分な専門的素養を持ち、自分の専門に関する研究を推進できる能力を修得していること。
- (2) 学術、研究の高度化とグローバル化が進展する現代社会に対応できるような幅広い視野、分析手法、優れた外国語能力を修得し、自分の専門分野に生かす力を修得していること。

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期課程】

政治経済学研究科博士前期課程では、独自の横断的および縦断的な研究教育体系に基づいた「総合社会科学の追究」という目的を達成するために、高次の専門的知識を修得させ、各専攻分野における問題解決のための卓越した研究能力と高度職業人にふさわしい能力を育成することの可能な教育課程を編成・実施します。そのために本研究科は各専攻において独自のカリキュラムを編成し、定められた指導教員とともに研究計画を組み立てて研究発表の機会を確保することで研究テーマ、研究アプローチさらには理論構築など修士論文及び研究報告書の作成を支援します。

政治学専攻では、「理論系」「歴史・思想史系」「行政学系」「社会学系」の授業科目を設置し、政治・社会現象全体に対する総合的視野と高い分析能力を培うことのできるカリキュラムを編成・実施します。

経済学専攻では、「理論系」「歴史・思想史系」「経済政策系」「国際経済系」「地域・環境系」の授業科目を設置し、経済社会全体に対する総合的視野と高い分析能力を培うことのできるカリキュラムを編成・実施します。

【博士後期課程】

政治経済学研究科博士後期課程では、卓越した自立性・創造性・革新性を有するオリジナリティにあふれる若手研究者の養成を目指しています。高次の専門的知識を備え、グローバルな活躍が期待される研究者の養成を目指していることから、基盤的研究能力と応用的研究能力を向上させるカリキュラムを編成・実施するとともに、各専攻において独自のカリキュラムを編成・実施します。

政治学専攻では、理論、歴史・思想史、行政学及び社会学に関する授業科目を設置し、政治学・社会学の研究分野における高度な知識に基づく研究能力を涵養・向上させるカリキュラムを編成・実施します。

経済学専攻では、理論、歴史・思想史、経済政策、国際経済及び地域・環境に関する授業科目を設置し、経済学の研究分野における高度な知識に基づく研究能力を涵養・向上させるカリキュラムを編成・実施します。

このようなカリキュラム編成のコアは、各研究分野のなかに各自の研究を明確に位置づけた体系的な研究を推進していく能力と同時に、国内外の交流を通じて共同研究を企画する能力、研究成果を国際的に発信する能力、また、研究を国内外で主導する能力を開発・育成するものです。これらの方針を踏まえて、本研究科は、研究指導のなかに研究成果の発信力を高める指導体制と国際的な学術研究の交流を促進する指導体制を構築しています。

【学位授与方針】

【博士前期課程】

政治経済学研究科博士前期課程では、本研究科の定める修了要件を充たし、かつ、学業成績ならびに学位論文から、各専攻・コースにおいて、以下に示す資質と能力を備えたと認められる者に対し修士（政治学または経済学）の学位を授与します。

〈専攻〉

政治学専攻

政治学・社会学のいずれかの研究分野において幅広く、かつ深い学識を備えていること。

経済学専攻

経済学の研究分野において幅広く、かつ深い学識を備えていること。

〈コース〉

研究者コース

基盤的研究能力と応用的研究能力を備え、自立した研究者を目指して博士後期課程に進学し、独創性・新規性・論理性を備えた研究成果を発信できる資質と能力。

高度職業人コース

課題設定能力と問題解決能力を有し、国際機関、行政機関、研究機関、シンクタンク、ジャーナリズム、NPO・NGO、企業などにおいて高度職業人として国内外で活躍できる資質と能力。

【博士後期課程】

政治経済学研究科博士後期課程では、本研究科の定める修了要件を充たし、かつ、学業成績ならびに学位論文から、各専攻において、以下に示す資質と能力を備えたと認められる者に対し博士（政治学または経済学）の学位を授与します。

政治学専攻

- （１）政治学・社会学のいずれかの研究分野において、研究者・教育者として大学その他の研究・教育機関において自立した創造的で革新的な活動ができ、かつ高度な研究を着実に推進できる資質と能力。
- （２）政治学・社会学のいずれかの研究分野における高度な専門性を活かして、国際機関・行政機関・シンクタンク・研究所、ジャーナリズム、NPO・NGO、企業など国内外で活躍できる資質と能力。

経済学専攻

- （１）経済学の研究分野において、研究者・教育者として大学その他の研究・教育機関において自立した創造的で革新的な活動ができ、かつ高度な研究を着実に推進できる資質と能力。
- （２）経済学の研究分野における高度な専門性を活かして、国際機関・行政機関・シンクタンク・研究所、ジャーナリズム、NPO・NGO、企業など国内外で活躍できる資質と能力。

明治大学大学院政治経済学研究科 修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

政治学専攻	修士（政治学）	Master of Political Science
経済学専攻	修士（経済学）	Master of Economics

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程2年次に在学し、所定の研究指導を受けていること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。（要修業年限短縮申請）

修了要件

〔研究者コース〕

- 1 本研究科の博士前期課程（研究者コース）においては、32単位以上を修得しなければならない。
- 2 所属専攻の授業科目の中から専修科目を選定し、その12単位（講義4単位及び演習8単位）及び外国語文献研究4単位を必修するものとする。ただし、専修科目の演習8単位のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
- 3 専修科目12単位及び外国語文献研究4単位以外については、所属専攻の授業科目（ただし、基礎研究科目は除く。）の中から少なくとも8単位を修得しなければならない。
- 4 所属専攻の授業科目のほか、他専攻・他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目を修得することができる。この場合は、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。
- 5 単位互換協定による他の大学院の授業科目は、10単位を上限として履修することができる。この場合は、指導教員の許可及びその協定に基づいた手続きをしなければならない。
- 6 基礎研究科目は、10単位まで履修することができる。この場合は、指導教員の許可及び当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。ただし、修了要件単位の選択科目に含むことができるのは、4単位を上限とする。
- 7 4から6までに規定する他専攻・他研究科の授業科目、他大学大学院単位互換制度による授業科目及び基礎研究科目の履修は、在学中合わせて10単位を上限とする。
- 8 学則別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- 9 指導教員による修士学位請求論文のための研究指導を受けなければならない。
- 10 日本事情Ⅰ及び日本事情Ⅱは、外国人留学生のみ履修することができる。

〔高度職業人コース〕

- 1 本研究科の博士前期課程（高度職業人コース）においては、40単位以上を修得しなければならない。
- 2 所属専攻の授業科目の中から専修科目を選定し、その12単位（講義4単位及び演習8単位）を必修するものとする。ただし、専修科目の演習8単位のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

- 3 専修科目12単位以外については、所属専攻の授業科目（ただし、基礎研究科目は除く。）の中から少なくとも16単位を修得しなければならない。
- 4 所属専攻の授業科目のほか、他専攻・他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目を修得することができる。この場合は、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。
- 5 単位互換協定による他の大学院の授業科目は、10単位を上限として履修することができる。この場合は、指導教員の許可及びその協定に基づいた手続きをしなければならない。
- 6 基礎研究科目は、10単位まで履修することができる。この場合は、指導教員の許可及び当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。ただし、修了要件単位の選択科目に含むことができるのは、8単位を上限とする。
- 7 4から6までに規定する他専攻・他研究科の授業科目、他大学大学院単位互換制度による授業科目及び基礎研究科目の履修は、在学中合わせて10単位を上限とする。
- 8 学則別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- 9 指導教員による研究報告書作成のための研究指導を受けなければならない。
- 10 日本事情Ⅰ及び日本事情Ⅱは、外国人留学生のみ履修することができる。

研究倫理教育の受講

本学が指定する研究倫理教育を受講済であること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

修了要件比較表【参考】

区分	研究者コース（条件）	研究者単位数	
【学位】	修士（政治学）／Master of Political Science	必修単位数	履修可能単位数
在学期間	博士前期課程2年次に在学し、所定の研究指導を受けること。 ※優れた研究業績者は1年以上で修了可（要申請）		
修得単位数	修了に必要な最低単位	32	
専修科目	必修（講義4・演習8、演習4単位は代替可）	12	
外国語文献研究	所属する専攻で開講されている外国語文献研究Ⅰ・Ⅱ	4	
所属専攻科目（その他）	所属専攻科目（基礎研究科目を除く）から選択	8	
「他専攻・他研究科授業科目」、「他大学単位互換授業科目」、「基礎研究科目」	各区分ごとに最大10単位まで修得可。ただし、「他専攻・他研究科」、「他大学」、「基礎研究科目」を合わせた修得上限は合計10単位まで。そのうち基礎研究科目を修了要件単位に含められるのは最大4単位。		合計で10 ※基礎研究科目は4単位までしか修了要件単位に算入できない
研究科間共通科目	4単位まで修了要件単位に含可		4
研究指導	修士論文作成のため指導教員による必要な研究指導を受けること		
日本事情Ⅰ・Ⅱ	外国人留学生のみ履修可		
研究倫理教育・学位請求	研究倫理教育受講済・学位請求プロセスを経ていること		

区分	高度職業人コース（条件）	高度職業人単位数	
【学位】	修士（経済学）／Master of Economics	必修単位数	履修可能単位数
在学期間	博士前期課程2年次に在学し、所定の研究指導を受けること。 ※優れた研究業績者は1年以上で修了可（要申請）		
修得単位数	修了に必要な最低単位	40	
専修科目	必修（講義4・演習8、演習4単位は代替可）	12	
所属専攻科目（その他）	所属専攻科目（基礎研究科目を除く）から選択	16	
「他専攻・他研究科授業科目」、「他大学単位互換授業科目」、「基礎研究科目」	各区分ごとに最大10単位まで修得可。ただし、「他専攻・他研究科」、「他大学」、「基礎研究科目」を合わせた修得上限は合計10単位まで。そのうち基礎研究科目を修了要件単位に含められるのは最大8単位。		合計で10 ※基礎研究科目は8単位までしか修了要件単位に算入できない
研究科間共通科目	4単位まで修了要件単位に含可		4
研究指導	研究報告書作成のため指導教員による必要な指導を受けること		
日本事情Ⅰ・Ⅱ	外国人留学生のみ履修可		
研究倫理教育・学位請求	研究倫理教育受講済・学位請求プロセスを経ていること		

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

すでに入学時に決定している指導教員が研究指導の責任を負う。学生は1年次の最初に2年度分の履修計画書を提出する。その際、指導教員は学生の研究テーマ・研究計画と履修科目が適合しているか、1年次・2年次の履修単位数の配分に無理がないかなどを十分に確認する。これにより、2年間での計画的な学位取得を学生に自覚させる。また、当該指導教員と同じ科目系に属する教員も、当該指導教員の求めに応じて研究指導に適宜協力する。

1年次

春学期 出願時に提出した入学後の研究計画を今一度検討する。同時に、各自の研究テーマのディシプリンにおける位置づけを把握し、2年間での学位取得にふさわしい論文テーマへと問題関心を絞り込む。

秋学期 1年次の年度末に提出が義務付けられている概要書の作成を念頭において研究する。とりわけ、先行研究の消化と関連文献の渉猟の観点から、概要書のドラフトを授業時に報告する。

2年次

春学期 概要書を修士論文・研究報告書（以下、論文等）へと質・量ともに高める。その際、論文等の章立てを具体的に組み上げる。さらに、序論部分を執筆し、論文研究の意図を明確にすることを目指す。

秋学期 論文等の作成指導を随時受ける。ひとまとまり（章あるいは節）ごとにドラフトを事前提出し、授業時に訂正箇所などの指示を受ける。文章の巧拙・誤字脱字の指摘から注記の書き方に至るまで、完成に向けた詳細な検討を行う。

【修士学位請求論文等に求められる要件】

修士学位請求論文

修士学位請求論文は、広い視野に立った精深な学識と専攻分野における十分な研究能力を示すと認められるものであり、かつ本研究科の修士学位請求論文として相応の質・量、内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性・新規性
- (2) 研究テーマの意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の綿密な調査
- (5) 理論的分析・実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性と一貫性
- (7) 形式的要件
- (8) 研究倫理の遵守

研究報告書

研究報告書は、広い視野に立った精深な学識に基づく高度の専門性を要する職業等に必要な能力を示すと認められるものであり、かつ本研究科の研究報告書として相応の質・量、内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 課題設定と問題解決の妥当性
- (2) 先行研究の十分な調査
- (3) 分析手法の的確性
- (4) 論旨・主張の明確性
- (5) 形式的要件
- (6) 研究倫理の遵守

【修士学位請求論文等の提出書類・提出期日】 ※詳細は「修士学位請求論文」等提出・作成要領参照

予備登録及び論文提出は、大学が指定する期間のみ受け付ける。期限を過ぎた場合、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

予備登録

- (1) 予備登録時期は論文提出年度の10月上旬とする。
- (2) 論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
- (3) 予備登録時に「論文作成・提出要領」の他、「修士学位請求書」及び論文用「扉」をホームページからダウンロードすること。

論文提出

- (1) 論文提出時期は論文提出年度の1月上旬とする。
 - (2) Oh-o! Meiji グループへの提出を原則とする。ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-o! Meiji での提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MB を超える可能性がある場合は、提出期間前に提出方法について研究科に問い合わせること。
- その他、詳細は予備登録時に公開する「作成・提出要領」にて確認すること。

提出書類等

- (1) 「修士学位請求書」 1 部 【本学所定様式】
必要事項を記入のうえ、指導教員の承認を得たうえで提出すること。
※この請求書に記載された論文題名を正とする。
なお、論文題名に副題がある場合は、ダッシュ（－）で最初と最後を括ること。
- (2) 「修士学位請求論文」（下記①～⑥により完成されたもの）
 - ①用紙：A4判（横書き又は縦書き）
図表・資料もA4判で作成すること。
 - ②字数：修士論文は概ね58,000字以上、研究報告書は概ね28,000字以上
（指導教員の指示に従うこと。）
※必ずページ番号を付すこと。
 - ③書式：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
 - ④論文用「扉」（表紙）：研究科・指導教員氏名・本人氏名を記入し、それぞれ論文の最初に挿入すること。
- (3) 「修士学位請求論文要旨」
A4判、3,000字程度（英文、1,000ワード程度）で作成し、表紙には論文題名、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であると判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出し、審査委員会を設置する。

審査委員会による面接試問

- (1) 審査委員会は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員会は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。
- (2) 面接試問は論文提出年度の2月上旬に実施する。

研究科委員会の可否判定

研究科委員会は審査委員会からの報告をもとに、審議のうえ可否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【可否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

明治大学大学院政治経済学研究科 博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

政治学専攻	博士（政治学）	Doctor of Philosophy in Political Science
経済学専攻	博士（経済学）	Doctor of Philosophy in Economics

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む。）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該修業年限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 修士課程を1年で修了した者にあつては、本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む。）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。
- (3) 本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあつては、博士後期課程入学日から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

修了要件

- (1) 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- (2) 所属専攻の授業科目の中から専修科目を選定し、その4単位を必修するものとする。
- (3) 指導教員が必要と認めた場合には、本研究科の博士前期課程授業科目、他研究科の博士後期課程授業科目及び学則別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

研究業績

- (1) 本研究科在学中に発表した博士学位請求論文に関連する学術論文（修士論文を除き、本研究科研究論集の論文を含む。）が、原則として4本以上あること。
- (2) 博士学位請求論文を提出する者は、論文提出3ヶ月前までに政治経済学研究会において、その論文の内容に関する研究発表を行うこと。

研究倫理教育の受講

本学が指定する研究倫理教育を受講済であること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

すでに入学時に決定している指導教員が研究指導の責任を負う。毎週の授業である「特殊研究」を通じて、学生の研究の進捗状況を把握する。あわせて、当該指導教員と同じ科目系に属する教員を中心に、研究指導への協力を求め、集団的な態勢で研究水準の向上を図る。

1 年次～3 年次

課程博士論文の提出資格要件である博士学位請求論文に関連する学術論文 4 本以上（修士論文を含まない。）の作成に向けた指導を受ける。具体的には、『明治大学社会科学研究所紀要』、本研究科が年 2 回発行する学術雑誌である『政治経済学研究論集』、さらには学外の学術雑誌への論文投稿をする。また、毎年 1 1 月に開催される明治大学政経学会や学外の研究会における報告を積極的に行う。

博士論文提出年次

当該年次の 7 月末日までに、博士論文の提出資格要件である政治経済学研究会（博士論文研究発表会）を開催する。10 月 25 日 17 時 00 分（ただし、10 月 25 日が土曜日又は日曜日の場合は、直前の金曜日 17 時 00 分とする。）の提出最終期限までに論文を提出できるように、内容面の充実はもちろんのこと、形式要件にも不備のないように配慮する。

【博士論文に求められる要件】

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すと認められるものであり、かつ、本研究科の博士論文として相応の質・量、内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性・新規性・卓越性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の調査
- (5) 理論的分析・実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性と一貫性
- (7) 形式的要件
- (8) 研究倫理の遵守

【博士学位請求時の提出書類・提出期日等】

以下の明治大学学院ホームページより、各フォーマットについてダウンロードして使用してください。
https://www.meiji.ac.jp/dai_in/thesis/doctor/paper.html

提出書類

- (1) 学位請求論文
- (2) 論文表紙
- (3) 論文要旨

4,000 字程度（英文の場合、1,000 ワード程度）

- (4) 学位請求書

【本学所定様式】

指導教員の署名を得たうえでスキャンデータを提出すること。

論文題名は邦文には英文訳を、欧文には邦文訳を付すこと。

（欧文が英文以外の場合、英文訳も付すこと。）

- (5) 履歴書

【本学所定様式】

暦年は西暦表記とします。

(6)業績書

【本学所定様式】

暦年は西暦表記とします。

(7)指導教員の推薦書

(8)パスポートまたは住民票の写し

(注) 研究科が定める所定の日時までに、「明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書」を追加で提出しなければならない。なお、データの提出方法については、別途定めた方法による。

(注) 学位請求論文以外の表紙を含む全ての様式は、本学ホームページからダウンロードのこと。

提出期日等

(1)提出期日：4月1日～10月25日 17時00分まで

(ただし、10月25日が土曜日又は日曜日の場合は、直前の金曜日17時00分とする。)

(2)提出先：Oh-o! Meiji グループへの提出を原則とする。

(3)審査手数料：不要

※論文提出受付は、指定提出日・指定時間内のみとする。提出締切時間経過後は、理由のいかんを問わず受け付けられないので、十分注意すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は、博士論文提出資格を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が博士学位請求に十分な水準であると判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会による受理審査

研究科執行部は提出された学位請求論文について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、研究科委員会を開催し、当該論文の受理について指導教員からの推薦をもとに審査し、受理の可否を決定する。

審査委員による本審査

研究科委員会は、学位請求論文としての受理を決定した論文に対して、主査1名及び副査2名以上の審査委員を選出する。

審査委員は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。なお、審査委員による審査期間は概ね6ヶ月を標準とする。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ投票により可否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員は、指導教員のほか、当該論文に関連ある科目の担当教員2名以上（審査のため必要がある場合は、研究科委員会の議を経て、講師又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力を求めることがある。）により構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※ 「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

- 例 ① 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
- ② 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
- ③ 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から1年を超えて生じる場合
なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文をインターネットで公開しなければならない。

※ 博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットにより公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

- 例 ○ 刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。
- 引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

※ 博士学位論文が、特許などの申請に関連する場合、同申請手続きについては論文提出前に行っておかなければならない。なお、手続き方法等について不明な場合は、指導教員の指示を受けた後、各キャンパスの研究知財事務室に相談すること。

本学及び国立国会図書館における公表

- ・ 博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」により公表される。
- ・ 明治大学学術成果リポジトリにより公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

履修登録について

- 1 履修登録 毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。
- 2 履修計画書の提出 各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEB による履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。
- 3 履修登録方法
 - (1) ガイダンス時に、時間割表、履修計画書を受け取ってください。
 - (2) 博士前期課程は WEB により、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に履修登録を行ってください。なお、WEB による履修登録の詳細は WEB 履修登録要領を参照してください。
 - (3) 履修登録期間後の科目の追加、変更、取消は認められません。
 - (4) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に大学院事務室まで連絡してください。
 - (5) 所定の単位を取得した者は、履修登録の必要はありません。
 - (6) 履修登録後、個人別時間割表を各自教務システムから、所定の期間に確認してください。この期間を過ぎると修正することはできません。なお、修正は次の場合に限り認めます。その他の場合については、大学院事務室で相談してください。
 - 登録科目の誤り
 - エラーメッセージ記載事項
 - 修了要件不足
 - (7) 他研究科履修をしようとする者は、大学院事務室で該当する研究科の時間割等を確認してください。所属研究科以外の時間割等は、配布できません。
 - (8) 他大学の授業科目を履修する場合は、「他大学大学院の履修の手続」に従ってください。
- 4 履修にあたっての注意事項
 - (1) 履修計画書は1年次の始めに各自の研究計画に従い、在学期間中の履修計画を指導教員と相談のうえ作成すること。
 - (2) WEB 履修登録の際には当該年度の履修科目のみ登録すること。
 - (3) 単位互換協定科目を履修する場合は、指導教員の許可を得たうえで事務局に申し出、必要な手続きをとること。
 - (4) 同一名称科目で、複数の教員が担当しているものについては、担当者が違う場合に限り、その科目を複数履修することができる。
 - (5) 他研究科科目は当該研究科生の履修生がいない場合は、開講されない場合（無開講）があることに留意し、必要に応じて履修修正を行うこと。
- 5 個人別時間割表 履修登録後、4月下旬に教務システムで配信します。必ず確認してください。
- 6 履修登録スケジュール
履修計画書・時間割表の配布 4月初旬
WEB 履修登録・履修計画書の提出 4月中旬
個人別時間割表の確認 4月下旬
履修登録不備の修正 4月下旬
秋学期開講科目履修修正の受付 9月下旬

履修登録スケジュール

各研究科別新入生ガイダンス **4月上旬** ※研究科の日程を確認のうえ出席すること

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程

博士後期課程

**指導教員と履修計画について相談のうえ、修了までの履修予定科目を決定し、
履修計画書を作成・提出する**（締切：4月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う

- 当該年度の春および秋学期に履修する科目を登録する
- 明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
(携帯電話・スマートフォンは不可)

WEB履修非対応科目を登録する(該当者のみ)

- 「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する
- WEB履修非対応科目（例）
- ・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
 - ・研究科で履修が認められている学部設置科目（基礎研究科目）
 - ・単位互換協定科目

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。
(商学研究科、教養デザイン研究科を除く。)

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

登録期限
4月中旬

個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修登録を修正する（4月下旬）

- 履修修正願を別途作成する
- 履修修正期間中に提出する

履修修正後の個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修エラー等がなかった場合

**履修計画書の記載科目が
正しく登録できているか
を必ず確認！**

履修登録完了

秋学期は履修修正のみ可能
基礎研究科目は追加・削除は不可

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

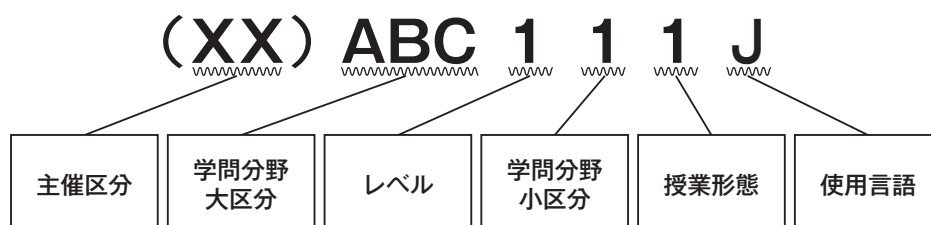
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバを付番します。

<科目ナンバの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野 小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバの例>

(PE) POL 5 1 1 J

政治経済学研究科／政治学／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／政治学／講義／日本語

※ 政治経済学研究科が設置する、政治学-政治学分野の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以 上

他大学大学院の聴講について

他大学大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、「大学院特別聴講学生制度（単位互換制度）」及び「首都大学院コンソーシアム」を設けています。

他大学大学院科目履修に関わる本学の受付期間 ～4月24日（金）

希望者は大学院事務室にて手続方法を確認してください。

また、受入大学の受付期間については各自で確認し、その指示に従ってください。

1. 大学院特別聴講学生制度（単位互換制度）

これは、大学院学生が研究上の必要性から、他の大学院（特別聴講学生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、本研究科において実施されているものは、次に掲げる制度です。

(1) 政治学分野に関する協定

協定校	学習院大学大学院政治学研究科
	成蹊大学大学院法学政治学研究科政治学専攻
	中央大学大学院法学研究科政治学専攻
	日本大学大学院法学研究科政治学専攻
	法政大学大学院政治学研究科政治学専攻
	明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻
	立教大学大学院法学研究科法学政治学専攻

(2) 社会学分野に関する協定

協定校	茨城大学大学院人文社会科学研究科
	埼玉大学大学院人文社会科学研究科
	千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻
	駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻
	駒澤大学大学院グローバル・メディア研究科グローバル・メディア専攻
	成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻
	専修大学大学院文学研究科社会学専攻
	中央大学大学院文学研究科社会情報学専攻
	東洋大学大学院社会科学研究科
	常磐大学大学院人間科学研究科
	日本女子大学大学院人間社会研究科現代社会論専攻
	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻
	武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻
	立教大学大学院社会科学研究科社会学専攻
	流通経済大学大学院社会科学研究科社会学専攻
	都留文科大学大学院文学研究科社会学地域社会研究専攻
	創価大学大学院文学研究科社会学専攻
	立正大学大学院文学研究科社会学専攻
	明治学院大学大学院社会科学研究科社会学専攻
	明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻
	明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻現代社会学専攻
	大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻
	大正大学大学院人間学研究科人間科学専攻
	日本大学大学院新聞学研究科
	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科

(3) 経済学分野に関する協定

協定校	青山学院大学大学院経済学研究科
	専修大学大学院経済学研究科
	中央大学大学院経済学研究科
	日本大学大学院経済学研究科
	法政大学大学院経済学研究科経済学専攻
	明治学院大学大学院経済学研究科
	明治大学大学院政治経済学研究科経済学専攻
	立教大学大学院経済学研究科経済学専攻
	東洋大学大学院経済学研究科経済学専攻
	駒澤大学大学院経済学研究科

2. 「首都大学院コンソーシアム」

詳細は研究科ホームページを参照してください。

政治経済学研究科

博士前期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

博士前期課程履修方法

修了要件

【研究者コース】

1. 本研究科の博士前期課程(研究者コース)においては、2年以上在学し、32単位以上を修得しなければならない。
2. 所属専攻の授業科目の中から専修科目を選定し、その12単位（講義4単位、演習8単位）及び外国語文献研究4単位を必修とする。ただし、専修科目の演習8単位のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
3. 専修科目の担当教員を指導教員とする。
4. 専修科目12単位及び外国語文献研究4単位以外については、所属専攻の授業科目（ただし、基礎研究科目は除く。）の中から少なくとも8単位を修得しなければならない。
5. 所属専攻の授業科目のほか、他専攻・他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目を修得することができる。この場合は、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。
6. 単位互換協定による他の大学院の授業科目を10単位を上限として履修することができる。この場合は、指導教員の許可及びその協定に基づいた手続をしなければならない。
7. 基礎研究科目は、10単位まで履修することができる。この場合は、指導教員の許可及び当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。ただし、修了要件単位の選択科目に含むことができるのは、4単位を上限とする。
8. 5から7までに規定する他専攻・他研究科の授業科目、他大学大学院単位互換制度による授業科目及び基礎研究科目の履修は、在学中合わせて10単位を上限とする。
9. 学則別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位に含めることができる。
10. 各年次の科目履修単位は、原則として次の区分によること。

	専 修 科 目	必 修 科 目	専修科目以外の科目	計
1 年	講義 4、演習 4	外国語文献研究 4	講義（又は演習）	講義 24 以上、 演習 8
2 年	演習 4		16 以上	
計	12	4	16 以上	32 以上

11. 指導教員による修士学位請求論文のための研究指導を受けなければならない。
12. 日本事情Ⅰ及び日本事情Ⅱは、外国人留学生のみ履修することができる。

【高度職業人コース】

1. 本研究科の博士前期課程（高度職業人コース）においては、2年以上在学し、40単位以上を修得しなければならない。
2. 所属専攻の授業科目の中から専修科目を選定し、その12単位（講義4単位及び演習8単位）を必修とする。ただし、専修科目の演習8単位のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
3. 専修科目の担当教員を指導教員とする。
4. 専修科目12単位以外については、所属専攻の授業科目（ただし、基礎研究科目は除く。）の中から少なくとも16単位を修得しなければならない。
5. 所属専攻の授業科目のほか、他専攻・他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目を修得することができる。この場合は、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。
6. 単位互換協定による他の大学院の授業科目を10単位を上限として履修することができる。この場合は、指導教員の許可及びその協定に基づいた手続をしなければならない。
7. 基礎研究科目は、10単位まで履修することができる。この場合は、指導教員の許可及び当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。ただし、修了要件単位の選択科目に含むことができるのは、8単位を上限とする。
8. 5から7までに規定する他専攻・他研究科の授業科目、他大学大学院単位互換制度による授業科目及び基礎研究科目の履修は、在学中合わせて10単位を上限とする。

9. 研究科間共通科目については、4 単位を限度として、修了に必要な単位に含めることができる。
10. 各年次の科目履修単位は、原則として次の区分によること。

	専 修 科 目	専修科目以外の科目	計
1 年	講義 4、演習 4	講義（又は演習） 28 以上	講義 32 以上、 演習 8
2 年	演習 4		
計	12	28 以上	40 以上

11. 指導教員による研究報告書作成のための研究指導を受けなければならない。
12. 日本事情Ⅰ及び日本事情Ⅱは、外国人留学生のみ履修することができる。

履修にあたっての注意事項

1. 履修計画書は 1 年次の始めに各自の研究計画に従い、在学期間の履修計画を指導教員と相談のうえ作成すること。
2. WEB 履修登録の際には当該年度の履修科目のみ登録すること。
3. 単位互換協定科目を履修する場合は、指導教員の許可を得たうえで事務局に申し出、必要な手続をとること。
4. 同一名称科目で、複数の教員が担当しているものについては、担当者が違う場合に限り、その科目を複数履修することができる。
5. 他研究科科目は当該研究科生の履修生がいない場合は、開講されない場合（無開講）があることに留意し、必要に応じて履修修正を行うこと。

授業科目及び担当者

博士前期課程 ※〔M〕はメディア授業科目

政治学専攻【研究者コース・高度職業人コース共通】

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
理論系	政 治 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
	政 治 学 演 習 II		2		
	政 治 学 演 習 III		2		
	政 治 学 演 習 IV		2		
	比 較 政 治 論 演 習 I		2	専任教授 Ph.D. 堀 金 由 美	
	比 較 政 治 論 演 習 II		2		
	比 較 政 治 論 演 習 III		2		
	比 較 政 治 論 演 習 IV		2		
	政 治 体 制 論 演 習 I		2	専任教授 外 池 力	
	政 治 体 制 論 演 習 II		2		
	政 治 体 制 論 演 習 III		2		
	政 治 体 制 論 演 習 IV		2		
	政 治 過 程 論 演 習 I		2		2026年度開講せず
	政 治 過 程 論 演 習 II		2		
	政 治 過 程 論 演 習 III		2		
	政 治 過 程 論 演 習 IV		2		
	政 治 行 動 論 演 習 I		2	専任教授 井 田 正 道	
	政 治 行 動 論 演 習 II		2		
	政 治 行 動 論 演 習 III		2		
	政 治 行 動 論 演 習 IV		2		
	国 家 論 演 習 I		2	専任教授 博士 (政治学) 西 川 伸 一	
	国 家 論 演 習 II		2		
	国 家 論 演 習 III		2		
	国 家 論 演 習 IV		2		
	国 際 政 治 学 演 習 I		2	専任教授 Ph.D. 伊 藤 剛	
	国 際 政 治 学 演 習 II		2		
	国 際 政 治 学 演 習 III		2		
	国 際 政 治 学 演 習 IV		2		
	政 治 理 論 演 習 I		2		2026年度開講せず
	政 治 理 論 演 習 II		2		
	政 治 理 論 演 習 III		2		
	政 治 理 論 演 習 IV		2		
	政 治 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
	政 治 学 研 究 II	2			
	比 較 政 治 論 研 究 I	2		専任教授 Ph.D. 堀 金 由 美	
	比 較 政 治 論 研 究 II	2			
	政 治 体 制 論 研 究 I	2		専任教授 外 池 力	
	政 治 体 制 論 研 究 II	2			
	政 治 過 程 論 研 究 I	2		専任講師 Ph.D. in Political Science 加 藤 言 人	
	政 治 過 程 論 研 究 II	2			
	政 治 行 動 論 研 究 I	2		専任教授 井 田 正 道	
	政 治 行 動 論 研 究 II	2			
	国 家 論 研 究 I	2		専任教授 博士 (政治学) 西 川 伸 一	
	国 家 論 研 究 II	2			
	国 際 政 治 学 研 究 I	2		専任教授 Ph.D. 伊 藤 剛	
	国 際 政 治 学 研 究 II	2			
	国 際 政 治 学 研 究 I	2		兼任講師 諏 訪 一 幸	
	国 際 政 治 学 研 究 II	2			
	政 治 理 論 研 究 I	2			2026年度開講せず
	政 治 理 論 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
				専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
歴史・思想史系	政 治 学 説 史 演 習 I		2	専任教授 博士 (政治学) 高 山 裕 二	2026年度開講せず
	政 治 学 説 史 演 習 II		2		
	政 治 学 説 史 演 習 III		2		
	政 治 学 説 史 演 習 IV		2		
	西 洋 政 治 史 演 習 I		2	専任教授 博士 (政治学) 水戸部 由 枝	
	西 洋 政 治 史 演 習 II		2		
	西 洋 政 治 史 演 習 III		2		
	西 洋 政 治 史 演 習 IV		2		
	外 交 史 演 習 I		2	専任教授 博士 (法学) 川 嶋 周 一	
	外 交 史 演 習 II		2		
	外 交 史 演 習 III		2		
	外 交 史 演 習 IV		2		
	日 本 政 治 思 想 史 演 習 I		2		2026年度開講せず
	日 本 政 治 思 想 史 演 習 II		2		
	日 本 政 治 思 想 史 演 習 III		2		
	日 本 政 治 思 想 史 演 習 IV		2		
	日 本 政 治 史 演 習 I		2	専任教授	小 西 徳 應
	日 本 政 治 史 演 習 II		2		
	日 本 政 治 史 演 習 III		2		
	日 本 政 治 史 演 習 IV		2		
	政 治 思 想 演 習 I		2	専任教授	重 田 園 江
	政 治 思 想 演 習 II		2		
	政 治 思 想 演 習 III		2		
	政 治 思 想 演 習 IV		2		
	政 治 学 説 史 研 究 I	2		専任教授 博士 (政治学) 高 山 裕 二	
	政 治 学 説 史 研 究 II	2			
	西 洋 政 治 史 研 究 I	2		専任教授 博士 (政治学) 水戸部 由 枝	
	西 洋 政 治 史 研 究 II	2			
	外 交 史 研 究 I	2		専任教授 博士 (法学) 川 嶋 周 一	
	外 交 史 研 究 II	2			
	日 本 政 治 思 想 史 研 究 I	2		兼任講師 博士 (政治学) 大久保 健 晴	
	日 本 政 治 思 想 史 研 究 II	2			
	日 本 政 治 史 研 究 I	2		専任教授	小 西 徳 應
	日 本 政 治 史 研 究 II	2			
	政 治 思 想 研 究 I	2		専任教授	重 田 園 江
	政 治 思 想 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
	外 国 語 文 献 研 究 II	2		専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	
行政学系	行 政 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (政治学) 西 村 弥	
	行 政 学 演 習 II		2		
	行 政 学 演 習 III		2		
	行 政 学 演 習 IV		2		
	地 方 自 治 論 演 習 I		2	専任教授	牛 山 久仁彦
	地 方 自 治 論 演 習 II		2		
	地 方 自 治 論 演 習 III		2		
	地 方 自 治 論 演 習 IV		2		
	都 市 政 策 演 習 I		2	専任教授 博士 (工学) 野 澤 千 絵	
	都 市 政 策 演 習 II		2		
	都 市 政 策 演 習 III		2		
	都 市 政 策 演 習 IV		2		

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
行政学系	危機管理演習Ⅰ		2		2026年度開講せず
	危機管理演習Ⅱ		2		
	危機管理演習Ⅲ		2		
	危機管理演習Ⅳ		2		
	行政学研究Ⅰ	2		専任教授 博士 (政治学) 西 村 弥	
	行政学研究Ⅱ	2			
	地方自治論研究Ⅰ	2		専任教授 牛 山 久仁彦	
	地方自治論研究Ⅱ	2			
	都市政策研究Ⅰ	2		専任教授 博士 (工学) 野 澤 千 絵	
	都市政策研究Ⅱ	2			
	危機管理研究Ⅰ	2			2026年度開講せず
	危機管理研究Ⅱ	2			
	外国語文献研究Ⅰ	2		専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
	外国語文献研究Ⅱ	2		専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	
社会学系	マス・コミュニケーション学演習Ⅰ		2	専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	
	マス・コミュニケーション学演習Ⅱ		2		
	マス・コミュニケーション学演習Ⅲ		2		
	マス・コミュニケーション学演習Ⅳ		2		
	社会学演習Ⅰ		2		2026年度開講せず
	社会学演習Ⅱ		2		
	社会学演習Ⅲ		2		
	社会学演習Ⅳ		2		
	比較社会学演習Ⅰ		2	専任教授 博士 (文学) 加 藤 彰 彦	
	比較社会学演習Ⅱ		2		
	比較社会学演習Ⅲ		2		
	比較社会学演習Ⅳ		2		
	社会心理学演習Ⅰ		2		2026年度開講せず
	社会心理学演習Ⅱ		2		
	社会心理学演習Ⅲ		2		
	社会心理学演習Ⅳ		2		
	産業社会学演習Ⅰ		2	専任教授 博士 (学際情報学) 荒 木 淳 子	2026年度開講せず
	産業社会学演習Ⅱ		2		
	産業社会学演習Ⅲ		2		
	産業社会学演習Ⅳ		2		
	福祉社会学演習Ⅰ		2	専任教授 博士 (社会学) 鍾 家 新	
	福祉社会学演習Ⅱ		2		
	福祉社会学演習Ⅲ		2		
	福祉社会学演習Ⅳ		2		
	社会人類学演習Ⅰ		2		2026年度開講せず
	社会人類学演習Ⅱ		2		
	社会人類学演習Ⅲ		2		
	社会人類学演習Ⅳ		2		
	マス・コミュニケーション学研究Ⅰ	2		専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	
	マス・コミュニケーション学研究Ⅱ	2			
	マス・コミュニケーション学研究Ⅰ	2		専任教授 博士 (教育学) 海 後 宗 男	
	マス・コミュニケーション学研究Ⅱ	2			
	社会学研究Ⅰ	2		兼任講師 博士 (社会学) 藤 村 正 之	
	社会学研究Ⅱ	2			
	比較社会学研究Ⅰ	2		専任教授 博士 (文学) 加 藤 彰 彦	
	比較社会学研究Ⅱ	2			

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
社会学系	社 会 心 理 学 研 究 I	2		専任准教授 博士 樋 口 収 (社会学)	
	社 会 心 理 学 研 究 II	2			
	産 業 社 会 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (学際情報学)	2026年度開講せず
	産 業 社 会 学 研 究 II	2		荒 木 淳 子	
	福 祉 社 会 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (社会学)	鍾 家 新
	福 祉 社 会 学 研 究 II	2			
	社 会 人 類 学 研 究 I	2		専任准教授 博士 (国際政治経済学)	比 嘉 理 麻
	社 会 人 類 学 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		専任教授 博士 (学術)	木 寺 元
	外 国 語 文 献 研 究 II	2		専任教授 Ph.D.	水 野 剛 也
政治学専攻共通科目	日 本 事 情 I	2			2026年度開講せず
	日 本 事 情 II	2			
	政 治 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 Ph.D.	伊 藤 剛
	政 治 学 特 殊 講 義 II	2			
	政 治 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 Ph.D.	堀 金 由 美
	政 治 学 特 殊 講 義 II	2			
	政 治 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 Ph.D.	松 浦 正 浩
	政 治 学 特 殊 講 義 II	2		専任教授 博士 (政策研究)	田 中 秀 明
	政 治 学 特 殊 講 義 III	2			2026年度開講せず
	政 治 学 特 殊 講 義 IV [M]	2		兼任講師 博士 (学術)	小 林 良 樹
	政 治 学 特 殊 講 義 V	2			2026年度開講せず
	政 治 学 特 殊 講 義 VI [M]	2		兼任講師	野 上 達 也
	社 会 学 特 殊 講 義 I	2			2026年度開講せず
	社 会 学 特 殊 講 義 II	2			
	社 会 学 特 殊 講 義 III	2			
	社 会 学 特 殊 講 義 IV	2			
	社 会 学 特 殊 講 義 V	2			
	社 会 学 特 殊 講 義 VI	2			

【政治学専攻共通基礎研究科目】

	授 業 科 目	単位数	備 考
		講 義	
政治学専攻共通科目	政 治 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 I	2	
	政 治 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 II	2	
	政 治 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 III	2	
	政 治 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 IV	2	
	政 治 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 V	2	
	社 会 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 I	2	
	社 会 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 II	2	
	社 会 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 III	2	
	社 会 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 IV	2	
	社 会 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 V	2	

経済学専攻【研究者コース・高度職業人コース共通】

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
理論系	理 論 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 八 木 尚 志	
	理 論 経 済 学 演 習 II		2		
	理 論 経 済 学 演 習 III		2		
	理 論 経 済 学 演 習 IV		2		
	理 論 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 武 田 巧	
	理 論 経 済 学 演 習 II		2		
	理 論 経 済 学 演 習 III		2		
	理 論 経 済 学 演 習 IV		2		
	理 論 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 Ph.D. 平 口 良 司	
	理 論 経 済 学 演 習 II		2		
	理 論 経 済 学 演 習 III		2		
	理 論 経 済 学 演 習 IV		2		
	理 論 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 盛 本 圭 一	2026年度開講せず
	理 論 経 済 学 演 習 II		2		
	理 論 経 済 学 演 習 III		2		
	理 論 経 済 学 演 習 IV		2		
	理 論 経 済 学 演 習 I		2	専任講師 博士 (経済学) 高 橋 聡	2026年度開講せず
	理 論 経 済 学 演 習 II		2		
	理 論 経 済 学 演 習 III		2		
	理 論 経 済 学 演 習 IV		2		
	計 量 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 小 林 和 司	
	計 量 経 済 学 演 習 II		2		
	計 量 経 済 学 演 習 III		2		
	計 量 経 済 学 演 習 IV		2		
	統 計 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (学術) 永 原 裕 一	
	統 計 学 演 習 II		2		
	統 計 学 演 習 III		2		
	統 計 学 演 習 IV		2		
	経 済 数 学 演 習 I		2		2026年度開講せず
	経 済 数 学 演 習 II		2		
	経 済 数 学 演 習 III		2		
	経 済 数 学 演 習 IV		2		
	理 論 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 八 木 尚 志	
	理 論 経 済 学 研 究 II	2			
	理 論 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 武 田 巧	
	理 論 経 済 学 研 究 II	2			
	理 論 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 Ph.D. 平 口 良 司	
	理 論 経 済 学 研 究 II	2			
	理 論 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 盛 本 圭 一	
	理 論 経 済 学 研 究 II	2			
	理 論 経 済 学 研 究 I	2		専任講師 博士 (経済学) 高 橋 聡	
	理 論 経 済 学 研 究 II	2			
	計 量 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 小 林 和 司	
	計 量 経 済 学 研 究 II	2			
	統 計 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (学術) 永 原 裕 一	
	統 計 学 研 究 II	2			

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
理論系	統 計 学 研 究 I	2		専任准教授 博士 (経済学) 関 根 篤 史	
	統 計 学 研 究 II	2			
	経 済 数 学 研 究 I	2			2026年度開講せず
	経 済 数 学 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2			
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
歴史・思想史系	西 洋 経 済 史 演 習 I		2	専任准教授 博士 (経済学) 下斗米 秀 之	2026年度開講せず
	西 洋 経 済 史 演 習 II		2		
	西 洋 経 済 史 演 習 III		2		
	西 洋 経 済 史 演 習 IV		2		
	日 本 経 済 史 演 習 I		2	専任准教授 博士 (経済学) 日 向 祥 子	
	日 本 経 済 史 演 習 II		2		
	日 本 経 済 史 演 習 III		2		
	日 本 経 済 史 演 習 IV		2		
	経 済 思 想 史 演 習 I		2	専任准教授 博士 (経済学) 奥 山 誠	
	経 済 思 想 史 演 習 II		2		
	経 済 思 想 史 演 習 III		2		
	経 済 思 想 史 演 習 IV		2		
	社 会 思 想 史 演 習 I		2		2026年度開講せず
	社 会 思 想 史 演 習 II		2		
	社 会 思 想 史 演 習 III		2		
	社 会 思 想 史 演 習 IV		2		
	経 済 学 史 演 習 I		2	専任教授 高 橋 信 勝	
	経 済 学 史 演 習 II		2		
	経 済 学 史 演 習 III		2		
	経 済 学 史 演 習 IV		2		
	西 洋 経 済 史 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 石 山 幸 彦	
	西 洋 経 済 史 研 究 II	2		専任准教授 博士 (経済学) 赤 津 正 彦	
	西 洋 経 済 史 研 究 I	2			
	西 洋 経 済 史 研 究 II	2		専任准教授 博士 (経済学) 下斗米 秀 之	2026年度開講せず
	西 洋 経 済 史 研 究 I	2			
	西 洋 経 済 史 研 究 II	2		専任准教授 博士 (経済学) 日 向 祥 子	
	日 本 経 済 史 研 究 I	2			
	日 本 経 済 史 研 究 II	2		専任講師 博士 (文学) 中 島 満 大	
	社 会 経 済 史 研 究 I	2			
	社 会 経 済 史 研 究 II	2		専任准教授 博士 (経済学) 奥 山 誠	
	経 済 思 想 史 研 究 I	2			
	経 済 思 想 史 研 究 II	2		専任講師 博士 (社会学) 杉 本 隆 司	
	社 会 思 想 史 研 究 I	2			
	社 会 思 想 史 研 究 II	2		専任教授 高 橋 信 勝	
	経 済 学 史 研 究 I	2			
	経 済 学 史 研 究 II	2		兼任講師 博士 (経済学) 三 浦 留 美	
	外 国 語 文 献 研 究 I	2			
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
経済政策系	経 済 政 策 演 習 I		2		2026年度開講せず
	経 済 政 策 演 習 II		2		
	経 済 政 策 演 習 III		2		
	経 済 政 策 演 習 IV		2		
	財 政 学 演 習 I		2	専任教授 星 野 泉	
	財 政 学 演 習 II		2		
	財 政 学 演 習 III		2		
	財 政 学 演 習 IV		2		

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
経済政策系	財 政 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 小野島 真	
	財 政 学 演 習 II		2		
	財 政 学 演 習 III		2		
	財 政 学 演 習 IV		2		
	財 政 学 演 習 I		2	専任准教授 倉 地 真太郎	2026年度開講せず
	財 政 学 演 習 II		2		
	財 政 学 演 習 III		2		
	財 政 学 演 習 IV		2		
	金 融 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周 司	
	金 融 経 済 学 演 習 II		2		
	金 融 経 済 学 演 習 III		2		
	金 融 経 済 学 演 習 IV		2		
	社 会 保 障 論 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 加 藤 久 和	
	社 会 保 障 論 演 習 II		2		
	社 会 保 障 論 演 習 III		2		
	社 会 保 障 論 演 習 IV		2		
	労 働 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 原 ひろみ	
	労 働 経 済 学 演 習 II		2		
	労 働 経 済 学 演 習 III		2		
	労 働 経 済 学 演 習 IV		2		
	食 料 経 済 学 演 習 I		2		2026年度開講せず
	食 料 経 済 学 演 習 II		2		
	食 料 経 済 学 演 習 III		2		
	食 料 経 済 学 演 習 IV		2		
	人 口 学 演 習 I		2		2026年度開講せず
	人 口 学 演 習 II		2		
	人 口 学 演 習 III		2		
	人 口 学 演 習 IV		2		
	日 本 経 済 論 演 習 I		2	専任教授 飯 田 泰 之	
	日 本 経 済 論 演 習 II		2		
	日 本 経 済 論 演 習 III		2		
	日 本 経 済 論 演 習 IV		2		
	N P O 演 習 I		2		2026年度開講せず
	N P O 演 習 II		2		
	N P O 演 習 III		2		
	N P O 演 習 IV		2		
	経 済 政 策 研 究 I	2		専任講師 齋 藤 雅 己	
	経 済 政 策 研 究 II	2			
	経 済 政 策 研 究 I	2		専任講師 博士 (経済学) 柴 田 有 祐	
	経 済 政 策 研 究 II	2			
	財 政 学 研 究 I	2		専任教授 星 野 泉	
	財 政 学 研 究 II	2			
	財 政 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 小野島 真	
	財 政 学 研 究 II	2			
	財 政 学 研 究 I	2		専任准教授 倉 地 真太郎	2026年度開講せず
	財 政 学 研 究 II	2			
	金 融 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周 司	
	金 融 経 済 学 研 究 II	2			
	社 会 保 障 論 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 加 藤 久 和	
	社 会 保 障 論 研 究 II	2			

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
経済政策系	労 働 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 原 ひろみ	
	労 働 経 済 学 研 究 II	2			
	食 料 経 済 学 研 究 I	2			2026年度開講せず
	食 料 経 済 学 研 究 II	2			
	人 口 学 研 究 I	2		特任教授 Ph.D. 金 子 隆 一	
	人 口 学 研 究 II	2			
	人 口 学 研 究 I	2		専任准教授 博士 (経済学) 鎌 田 健 司	
	人 口 学 研 究 II	2			
	日 本 経 済 論 研 究 I	2		専任教授 飯 田 泰 之	
	日 本 経 済 論 研 究 II	2			
	N P O 研 究 I	2			2026年度開講せず
	N P O 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		兼任講師 博士 (経済学) 三 浦 留 美	
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
国際経済系	国 際 経 済 政 策 演 習 I		2	専任教授 藤 永 修 一	
	国 際 経 済 政 策 演 習 II		2		
	国 際 経 済 政 策 演 習 III		2		
	国 際 経 済 政 策 演 習 IV		2		
	開 発 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 末 永 啓一郎	
	開 発 経 済 学 演 習 II		2		
	開 発 経 済 学 演 習 III		2		
	開 発 経 済 学 演 習 IV		2		
	国 際 金 融 演 習 I		2		2026年度開講せず
	国 際 金 融 演 習 II		2		
	国 際 金 融 演 習 III		2		
	国 際 金 融 演 習 IV		2		
	国 際 経 済 政 策 研 究 I	2		専任教授 藤 永 修 一	
	国 際 経 済 政 策 研 究 II	2			
	開 発 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 末 永 啓一郎	
	開 発 経 済 学 研 究 II	2			
	国 際 金 融 研 究 I	2		専任准教授 博士 (経済学) 田 中 茉莉子	
	国 際 金 融 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		兼任講師 博士 (経済学) 三 浦 留 美	
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
地域・環境系	経 済 地 理 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (理学) 廣 松 悟	
	経 済 地 理 学 演 習 II		2		
	経 済 地 理 学 演 習 III		2		
	経 済 地 理 学 演 習 IV		2		
	地 域 政 策 演 習 I		2		2026年度開講せず
	地 域 政 策 演 習 II		2		
	地 域 政 策 演 習 III		2		
	地 域 政 策 演 習 IV		2		
	地 域 産 業 論 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 奥 山 雅 之	
	地 域 産 業 論 演 習 II		2		
	地 域 産 業 論 演 習 III		2		
	地 域 産 業 論 演 習 IV		2		
	中 小 企 業 論 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 森 下 正	
	中 小 企 業 論 演 習 II		2		
	中 小 企 業 論 演 習 III		2		
	中 小 企 業 論 演 習 IV		2		

	授 業 科 目	単位数		担 当 者	備 考
		講 義	演 習		
地域・環境系	環 境 経 済 学 演 習 I		2	専任教授 博士 (経済学) 大 森 正 之	
	環 境 経 済 学 演 習 II		2		
	環 境 経 済 学 演 習 III		2		
	環 境 経 済 学 演 習 IV		2		
	協 同 組 合 論 演 習 I		2	専任教授 Ph.D. 大 高 研 道	
	協 同 組 合 論 演 習 II		2		
	協 同 組 合 論 演 習 III		2		
	協 同 組 合 論 演 習 IV		2		
	経 済 地 理 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (理学) 廣 松 悟	
	経 済 地 理 学 研 究 II	2			
	地 域 政 策 研 究 I	2			2026年度開講せず
	地 域 政 策 研 究 II	2			
	地 域 産 業 論 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 奥 山 雅 之	
	地 域 産 業 論 研 究 II	2			
	中 小 企 業 論 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 森 下 正	
	中 小 企 業 論 研 究 II	2			
	環 境 経 済 学 研 究 I	2		専任教授 博士 (経済学) 大 森 正 之	
	環 境 経 済 学 研 究 II	2			
	協 同 組 合 論 研 究 I	2		専任教授 Ph.D. 大 高 研 道	
	協 同 組 合 論 研 究 II	2			
	外 国 語 文 献 研 究 I	2		兼任講師 博士 (経済学) 三 浦 留 美	
	外 国 語 文 献 研 究 II	2			
経済学専攻共通科目	日 本 事 情 I	2			2026年度開講せず
	日 本 事 情 II	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 I	2			2026年度開講せず
	経 済 学 特 殊 講 義 II	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 武 田 巧	2026年度開講せず
	経 済 学 特 殊 講 義 II	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 Ph.D. 平 口 良 司	
	経 済 学 特 殊 講 義 II	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 I	2		専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周 司	2026年度開講せず
	経 済 学 特 殊 講 義 II	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 III	2			2026年度開講せず
	経 済 学 特 殊 講 義 IV	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 V	2			
	経 済 学 特 殊 講 義 VI	2			

【経済学専攻共通基礎研究科目】

	授 業 科 目	単位数	備 考
		講 義	
経済学専攻共通科目	経 済 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 I	2	
	経 済 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 II	2	
	経 済 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 III	2	
	経 済 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 IV	2	
	経 済 学 専 攻 基 礎 研 究 科 目 V	2	

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

修士論文を書くためのキックオフ的な指導を行う。
修士論文を書くために必要な能力の涵養を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修士論文構想発表(1)
第3回 修士論文構想発表(2)
第4回 文献リスト作成・指導
第5回 基本資料講読(1)
第6回 基本資料講読(2)
第7回 基本資料講読(3)
第8回 基本資料講読(4)
第9回 修士論文構想発表(3)
第10回 修士論文構想発表(4)
第11回 研究作業の課題の確認
第12回 修士論文のテーマの修正案の提示(1)
第13回 修士論文のテーマの修正案の提示(2)
第14回 修士論文のテーマの修正案の提示(3)

履修上の注意

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

教科書

関連図書

参考書

関連図書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性

その他

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

修士論文を書くための指導を行う。
修士論文を書くために必要な能力の涵養を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修士論文構想発表(1)
第3回 修士論文構想発表(2)
第4回 文献リスト作成・指導
第5回 資料講読(1)
第6回 資料講読(2)
第7回 資料講読(3)
第8回 資料講読(4)
第9回 修士論文中間発表(1)
第10回 修士論文中間発表(2)
第11回 研究作業の課題の確認
第12回 修士論文の修正案の提示(1)
第13回 修士論文の修正案の提示(2)
第14回 修士論文の修正案の提示(3)

履修上の注意

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

教科書

関連図書

参考書

関連図書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)		木寺 元

授業の概要・到達目標

論文を書くための指導を行う。
論文執筆に必要な能力の引き上げを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文構想発表(1)
- 第3回 論文構想発表(2)
- 第4回 文献リスト作成・指導
- 第5回 資料講読(1)
- 第6回 資料講読(2)
- 第7回 資料講読(3)
- 第8回 資料講読(4)
- 第9回 論文中間発表(1)
- 第10回 論文中間発表(2)
- 第11回 研究作業の課題の確認
- 第12回 論文の修正案の提示(1)
- 第13回 論文の修正案の提示(2)
- 第14回 論文の修正案の提示(3)

履修上の注意

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

教科書

関連図書

参考書

関連図書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性

その他

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)		木寺 元

授業の概要・到達目標

論文を完成させるための指導を行う。
論文執筆に必要な能力の引き上げを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文構想発表(1)
- 第3回 論文構想発表(2)
- 第4回 文献リスト作成・指導
- 第5回 資料講読(1)
- 第6回 資料講読(2)
- 第7回 資料講読(3)
- 第8回 資料講読(4)
- 第9回 論文中間発表(1)
- 第10回 論文中間発表(2)
- 第11回 研究作業の課題の確認
- 第12回 論文の修正案の提示(1)
- 第13回 論文の修正案の提示(2)
- 第14回 論文最終発表

履修上の注意

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するのに必要な準備を行うこと。

教科書

関連図書

参考書

関連図書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL532J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

大学院において研究をするための基礎能力を養うことを目標とする。研究テーマを具体的に絞り込んでゆくことを目指して、関連分野の基礎知識・理論をカバーするとともに、社会科学の研究の方法論についても扱い、「科学的」アプローチの方法を身につけ、実践してゆくこととしたい。

具体的には社会科学としての政治学について理解を深め、研究の意義・論文のあり方について理解することを目指す。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 修士論文構想発表(1)
- 第3回 基礎文献講読(1)
- 第4回 基礎文献講読(2)
- 第5回 基礎文献講読(3)
- 第6回 基礎文献講読(4)
- 第7回 修士論文構想発表(2)
- 第8回 研究の方法論(1)
- 第9回 研究の方法論(2)
- 第10回 研究の方法論(3)
- 第11回 研究の方法論(4)
- 第12回 研究の方法論(5)
- 第13回 研究の進捗状況発表
- 第14回 今後の研究計画と総括

履修上の注意

教員およびクラスメートとの議論を繰り返しながら、ともかく「自分で」積極的に勉強すること。自分で勉強しないことには授業に来てても前進はない、ということをしっかり自覚すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にリーディング・マテリアルを精読・理解して出席すること、あるいは必要に応じて発表準備をして出席すること。（毎回、少なくともどちらかを要す。）

教科書

受講者の興味・研究テーマに応じて指定する。

参考書

受講者の興味・研究テーマに応じて推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、授業への参画度30%、レポート・概要書・論文などの提出物40%

その他

科目ナンバー：(PE) POL532J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

第1セメスターに引き続き、大学院において研究をするための基礎能力を養うこととする。

具体的には修士論文概要書（研究報告書概要書）の執筆に向け、具体的にテーマを絞り込み、関連分野の先行研究サーベイにとりかかる。関連分野の基礎知識・理論をカバーするとともに、望ましい研究のアプローチを検討し、そのために必要となる方法論についてもカバーすることとしたい。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 修士論文構想と進捗状況の報告
- 第3回 アプローチの検討
- 第4回 研究の方法論(1)
- 第5回 研究の方法論(2)
- 第6回 研究の方法論(3)
- 第7回 研究の方法論(4)
- 第8回 研究の進捗状況報告
- 第9回 関連分野文献講読(1)
- 第10回 関連分野文献講読(2)
- 第11回 テーマ、リサーチクエッションの検討・絞り込み(1)
- 第12回 テーマ、リサーチクエッションの検討・絞り込み(2)
- 第13回 修士論文概要書ドラフトおよび研究計画概要確定
- 第14回 総括

履修上の注意

教員およびクラスメートとの議論を繰り返しながら、ともかく「自分で」勉強すること。自分で勉強しないことには授業に来てても前進はない、ということをしっかり自覚し、十分の準備をした上で授業に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前のリーディング、もしくは発表準備。

教科書

受講者の興味に応じて指定する。

参考書

受講者の興味に応じて推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、授業への参画度30%、レポート・概要書・論文などの提出物40%

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL632J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆に向けて、研究を本格化する。
具体的には受講生それぞれが自分の研究を進めるべく努力し、その成果を披露して他人と議論すること、そして他人の研究についても考え、意見を述べることを通じて、さらなる研究の充実を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究の進捗状況発表(1)
- 第3回 研究の枠組み確定(1)
- 第4回 研究の枠組み確定(2)
- 第5回 研究計画の見直し・確定
- 第6回 関連文献講読(1)
- 第7回 関連文献講読(2)
- 第8回 関連文献講読(3)
- 第9回 関連文献講読・発表
- 第10回 研究の進捗状況発表(2)
- 第11回 論文のアウトライン作成
- 第12回 先行研究のサーベイ発表
- 第13回 論文のテーマ、目的およびクエシヨ
- 第14回 今後の研究計画の検討と総括

履修上の注意

教員およびクラスメートとの議論を繰り返しながら、自己の研究をどんどん進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の事前リーディングもしくは発表準備。

教科書

受講者の興味に応じて指定する。

参考書

受講者の興味に応じて推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、授業への参画度30%、レポート・概要書・論文などの提出物40%

その他

科目ナンバー：(PE) POL632J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

論文の執筆と推敲、議論を繰り返しながら、修士論文を完成させる。
到達すべき目標は、当然、優れた論文の完成である。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 修士論文進捗状況の発表
- 第3回 修士論文の構成検討、アウトラインの修正
- 第4回 議論と推敲(1)
- 第5回 議論と推敲(2)
- 第6回 議論と推敲(3)
- 第7回 議論と推敲(4)
- 第8回 修士論文概要発表(1)
- 第9回 議論と推敲(5)
- 第10回 議論と推敲(6)
- 第11回 議論と推敲(7)
- 第12回 修士論文概要発表(2)
- 第13回 最終的推敲(修士論文完成へ)
- 第14回 総括・修士論文発表

履修上の注意

ひたすら執筆と推敲・議論を重ねることとなる。教員に指摘された点をただ修正するのではなく、自分で受け止め、考えた上で、自分の論文を自分でブラッシュ・アップする姿勢と努力を忘れないでほしい。論文執筆は「キツイ」作業であることを忘れずに、それなりの覚悟を持って取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文を着実に書き進め、そして推敲すること。自らが書き綴ったものを改めて読み直し、推敲を重ねることで、初めて問題の全体像が見えてくる。毎回、必ず「前進する」こと。

教科書

受講者の興味に応じて指定する。

参考書

受講者の興味に応じて推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、授業への参画度30%、レポート・概要書・論文などの提出物40%

その他

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 外池 力		

授業の概要・到達目標

デモクラシーと人権についてそれらの現状、関連する思想、さらには理論的問題点を様々な視点から考察する。
論文指導を中心にしながら、関連分野の文献を検討していきます。
また自分の研究テーマを修士論文につながるように構成を考えていきます。
私の教育目標は、以下の四つを身につけることです。
1 知的誠実さ(オリジナリティある思考を育てます)
2 健全な批判精神(他人の考えを安易に利用しないようにします)
3 許す勇氣(自分と異なる意見も取り容れます)
4 思想的自立(自分の立場を確立させます)
について、事実を知り、実情を常に取り入れ入れることができるように、資料の収集などの方法を学びます。
またデモクラシーと人権の問題点への考察などを含めさまざまな角度から考えることができるようになることが目的となります。

授業内容

本演習では、修士論文もしくは研究報告書を執筆するために必要な文献を読んできていきます。特に先行研究のレビューを中心に発表形式で行います。またデモクラシーの理論や民主化、また一方で、人権の理論や人権侵害の様々なケースを中心とした文献により、常に新しい理論の動向や世界や日本の人権状況を常にフォローします。文献としては、多くのデモクラシーや人権関連の本および雑誌論文や、法務省、外務省、日弁連、Amnesty International, Human Rights Watch, Freedom House, UPRなどの機関や制度からの情報を検討していきます。また各自の関心ある領域の発表も適時行ないます。
*授業計画
第1回:はじめに(イントロダクション)
第2回:人権関連のフィールドワークについて
第3回:文献検索の方法と問題意識の設定(1)
第4回:文献検索の方法と問題意識の設定(2)
第5回:資料の収集と先行研究のレビュー(1)
第6回:資料の収集と先行研究のレビュー(2)
第7回:資料の収集と先行研究のレビュー(3)
第8回:研究報告と討論(1)
第9回:研究報告と討論(2)
第10回:研究報告と討論(3)
第11回:研究報告と討論(4)
第12回:研究報告と討論(5)
第13回:論文作成上の注意点
第14回:まとめ・総括

履修上の注意

自分の研究テーマとのつながりを意識して人権やデモクラシーを考えていくことが望ましい。自分のテーマに沿ってレジюмеを使って発表し、それについて討論する形態を中心とする。理論や思想の動向に注意しながら、特に論文やレポートの作成方法を習得していくために、短いレポートを課していくつもりなので、作成のルール、また提出物やプレゼンテーションの期限や予定は守ること。
*春学期と秋学期は基本的に同様なやり方で進めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通す必要がある。発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

Amnesty International, Human Rights Watch, Freedom Houseなどの刊行物。
Seymour Martin Lipset (ed.) The Encyclopedia of Democracy,
George Thomas Kurian, (ed) The Encyclopedia of Political Scienceその他、人権理論、人権侵害、民主主義論、民主化論などの文献
たとえば、中村睦男はか編『世界の人権保障』三省堂、2017年
フリーマン(高橋宗瑠監訳)『コンセプトとしての人権』現代人文社、2016年
日本弁護士連合会国際人権問題委員会編『ビジネスと人権』現代人文社、2022年
筒井清輝『人権と国家』岩波書店、2022年など。
<https://freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
<http://www.amnesty.org/>
<http://www.hrw.org/>
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00005.html
<http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>
<https://www.v-dem.net/>

課題に対するフィードバックの方法

授業にて求められる課題のレポートやレジюмеについては、常に参加者を含めて内容を議論し、教員がアドバイスをします。

成績評価の方法

授業への参加度(議論への積極性や適宜のレポートを含む)(50%)と報告の内容(50%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 外池 力		

授業の概要・到達目標

デモクラシーと人権についてそれらの現状と理論的問題点を様々な視点から考察する。
論文指導を中心にしながら、関連分野の文献を検討していきます。
また自分の研究テーマを修士論文につながるように構成を考えていきます。
私の教育目標は、以下の四つを身につけることです。
1 知的誠実さ(オリジナリティある思考を育てます)
2 健全な批判精神(他人の考えを安易に利用しないようにします)
3 許す勇氣(自分と異なる意見も取り容れます)
4 思想的自立(自分の立場を確立させます)
修士論文の計画書を最後の段階で完成させていくことを通じて、自分のテーマを深化させる。
春学期に続き、デモクラシーと人権についての様々な文献を読み、多角的な視点を得る。

授業内容

本演習では、修士論文もしくは研究報告書を執筆するために必要な文献を読んできていきます。特に先行研究のレビューを中心に発表形式で行います。またデモクラシーの理論や民主化、また一方で、人権の理論や人権侵害の様々なケースを中心とした文献により、常に新しい理論の動向や世界や日本の人権状況を常にフォローします。文献としては、多くのデモクラシーや人権関連の本および雑誌論文や、Amnesty, Human Rights Watch, Freedom Houseなどの機関からの情報を検討していきます。また各自の関心ある領域の発表も行ないます。
*授業計画
第1回:はじめに(イントロダクション)
第2回:文献検索の方法と問題意識の設定(1)
第3回:文献検索の方法と問題意識の設定(2)
第4回:資料の収集と先行研究のレビュー(1)
第5回:資料の収集と先行研究のレビュー(2)
第6回:先行研究のレビューと方法の検討(1)
第7回:先行研究のレビューと方法の検討(2)
第8回:研究報告と討論(1)
第9回:研究報告と討論(2)
第10回:修論に向けた研究計画の作成(1)
第11回:修論に向けた研究計画の作成(2)
第12回:修論に向けた研究計画の作成(3)
第13回:論文作成上の注意点
第14回:まとめ・総括

履修上の注意

自分の研究テーマとのつながりを意識して人権やデモクラシーを考えていくことが望ましい。特に論文やレポートの作成方法を習得していくために、短いレポートを随時課していくつもりなので、作成のルール、また提出物やプレゼンテーションの期限や予定は守ること。修論に向けた研究計画の作成について、相談しながら進めていく。
*春学期と秋学期は基本的に同様なやり方で進めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通す必要がある。発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

Amnesty International, Human Rights Watch, Freedom Houseなどの刊行物。
Seymour Martin Lipset (ed.) The Encyclopedia of Democracy,
Richard Falk et al. (ed.) Human Rights
George Thomas Kurian, (ed) The Encyclopedia of Political Science
その他、人権理論、人権侵害、民主主義論、民主化論など邦語文献
たとえば、中村睦男はか編『世界の人権保障』三省堂、2017年
フリーマン(高橋宗瑠監訳)『コンセプトとしての人権』現代人文社、2016年
日本弁護士連合会国際人権問題委員会編『ビジネスと人権』現代人文社、2022年など。
<https://freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
<http://www.amnesty.org/>
<http://www.hrw.org/>
国際人権法学会のHPのリンク集
<http://www.ihrla.org/links.shtml>
法務省人権擁護局
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html>
外務省UPR (Universal Periodic Review)の概要
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
国会図書館デジタルコレクション
<http://dndl.go.jp/>
Varieties of Democracy (V-Dem)
<https://www.v-dem.net/>
外交史料館検索システム
<https://www.da.mofa.go.jp/DAS/meta/default>
日弁連HP
<https://www.nichibenren.or.jp/activity/human.html>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジюмеは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(議論への積極性や適宜のレポートを含む)(50%)と報告(50%)で評価する。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		外池 力

授業の概要・到達目標

デモクラシーと人権についてそれらの現状と理論的問題点を様々な視点から考察する。
論文指導を中心にしながら、関連分野の文献を検討していき、修士論文や研究報告書を作成します。

私の教育目標は、以下の四つを身につけることです。
1 知的誠実さ(オリジナリティある思考を育てます)
2 健全な批判精神(他人の考えを安易に利用しないようにします)
3 許す勇氣(自分と異なる意見も取り容れます)
4 思想的自立(自分の立場を確立させます)
修士論文や研究報告書の作成に向けて指導を行い、必要に応じて政経学会での発表などの準備をする。

授業内容

本演習では、修士論文もしくは研究報告書を執筆するために必要な文献を読んでいきます。特に先行研究のレビューを中心に発表形式で行います。またデモクラシーの理論や民主化、また一方で、人権の理論や人権侵害の様々なケースを中心とした文献により、常に新しい理論の動向や世界や日本の人権状況を常にフォローします。文献としては、多くのデモクラシーや人権関連の本および雑誌論文や、Amnesty, Human Rights Watch, Freedom Houseなどの機関からの情報を検討していきます。また各自の関心ある領域の発表も行ないます。

*授業計画

- 第1回:はじめに(イントロダクション)
- 第2回:論文構想の検討と文献検索(1)
- 第3回:論文構想の検討と文献検索(2)
- 第4回:人権関連の先行研究のレビュー
- 第5回:デモクラシー関連の先行研究のレビュー
- 第6回:研究計画の作成(1)
- 第7回:研究計画の作成(2)
- 第8回:論文発表と討論(1)
- 第9回:論文発表と討論(2)
- 第10回:論文発表と討論(3)
- 第11回:論文発表と討論(4)
- 第12回:今後の研究方針確認(1)(政経学会などへの発表を含む)
- 第13回:今後の研究方針確認(2)(政経学会などへの発表を含む)
- 第14回:まとめ・総括

履修上の注意

修士論文、研究報告書の準備をしながら、関連分野の幅広い知識を涵養すること。
必要に応じて、政経学会での報告を計画すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

Amnesty, Human Rights Watch, Freedom Houseなどの刊行物。
Seymour Martin Lipset (ed.), The Encyclopedia of Democracy,
Richard Falk et al. (ed.), Human Rights
George Thomas Kurian, (ed) The Encyclopedia of Political Science
Forsythe, editor in chief, Encyclopedia of Human Rights
その他、人権理論、人権侵害、民主主義論、民主化論など邦語文献
たとえば、中村睦男ほか編『世界の人権保障』三省堂、2017年
フリーマン(高橋宗瑠監訳)『コンセプトとしての人権』現代人文社、2016年
日本弁護士連合会国際人権問題委員会編『ビジネスと人権』現代人文社、2022年など。
<https://freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
<http://www.amnesty.org/>
<http://www.hrw.org/>
<http://www.jinken.or.jp/jinken-info/links> (リンク集)
<http://democracynow.jp/>
<http://www.indexonensorship.org/>
<http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>
<http://www.ihrla.org/links.shtml> (リンク集)
<https://www.v-dem.net/>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(適宜のレポートを含む)(50%)と報告(50%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		外池 力

授業の概要・到達目標

デモクラシーと人権についてそれらの現状と理論的問題点を様々な視点から考察する。

論文作成指導を中心にしながら、関連分野の文献も検討する。
私の教育目標は、以下の四つを身につけることです。

- 1 知的誠実さ(オリジナリティある思考を育てます)
 - 2 健全な批判精神(他人の考えを安易に利用しないようにします)
 - 3 許す勇氣(自分と異なる意見も取り容れます)
 - 4 思想的自立(自分の立場を確立させます)
- 以下の具体的目的を達するための指導を行う。
:政経学会を修論中間発表会として活用する。
:修士論文を完成し、推敲する。

授業内容

修士論文もしくは研究報告書を執筆するために毎回発表を行う。

*授業計画

- 第1回:はじめに(イントロダクション)
- 第2回:論文構想の確認(1)
- 第3回:論文構想の確認(2)
- 第4回:関連研究のレビュー
- 第5回:論文発表と検討(1)(必要に応じて政経学会の発表準備)
- 第6回:論文発表と検討(2)(必要に応じて政経学会の発表準備)
- 第7回:計画の修正・再確認
- 第8回:論文発表と検討(3)
- 第9回:論文発表と検討(4)
- 第10回:論文発表と推敲
- 第11回:論文発表と推敲
- 第12回:論文の最終検討
- 第13回:論文の校正
- 第14回:まとめ・総括

履修上の注意

論文を作成することに集中しながらも、関連研究にも目を配ること。
必要に応じて、政経学会で発表する準備をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

<https://freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
<http://www.hrw.org/>
<http://www.hrweb.org/resource.html>
<http://democracynow.jp/>
<https://cpj.org/>
<http://www.indexonensorship.org/>
<http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>
国際人権法学会
<http://www.ihrla.org/links.shtml> (リンク集)
法務省人権擁護局
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html>
国会図書館デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/>
UPR (普遍的・定期的レビュー)の概要
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
Varieties of Democracy (V-Dem)
<https://www.v-dem.net/>
外交史料館検索
<https://www.da.mofa.go.jp/DAS/meta/default>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(適宜のレポートを含む)(50%)と報告(50%)で評価します。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

日本政治に関する邦語文献を読み、日本政治について検討を加える。日本政治に関する幅広い知識を習得することが本授業の到達目標である。

授業内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 投票行動理論(1)
- 3 投票行動理論(2)
- 4 先進諸国における政党一有権者関係
- 5 日本政治の展開(1)
- 6 日本政治の展開(2)
- 7 日本政治の展開(3)
- 8 日本政治の展開(4)
- 9 日本政治の展開(5)
- 10 日本政治の展開(6)
- 11 日本政治の展開(7)
- 12 日本政治の展開(8)
- 13 日本政治の展開(9)
- 14 日本政治の展開(10)

履修上の注意

関連文献を読んでくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをよく読んでくること。

教科書

井田正道『政治・社会意識の現在』北樹出版

参考書

ポグントケ・ウェプ『民主政治はなぜ大統領制化するのか』ミネルヴァ書房

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

前半では、政治的社会化に関する文献を読み、政治意識の形成過程について学習する。後半は、修士論文概要報告書作成に向けて各自のテーマ設定の検討を行う。

授業内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 政治意識とは
- 3 政治的社会化とは
- 4 政治的社会化と政治文化
- 5 政治教育
- 6 政治意識の形成過程(1)
- 7 政治意識の形成過程(2)
- 8 政治意識の変容過程
- 9 修士論文概要報告書に関する発表(1)
- 10 修士論文概要報告書に関する発表(2)
- 11 修士論文概要報告書に関する発表(3)
- 12 修士論文概要報告書に関する発表(4)
- 13 修士論文概要報告書に関する発表(5)
- 14 修士論文概要報告書に関する発表(6)

履修上の注意

関連文献を読んでくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをよく読んでくること。

教科書

ドーソン・プルウィット『政治的社会化』芦書房

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 井田 正道		

授業の概要・到達目標

修士論文の構想を練り，先行研究に検討を加える。

授業内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 修士論文の構想(1)
- 3 修士論文の構想(2)
- 4 修士論文の構想(3)
- 5 修士論文テーマに関する先行研究(1)
- 6 修士論文テーマに関する先行研究(2)
- 7 修士論文テーマに関する先行研究(3)
- 8 修士論文テーマに関する先行研究(4)
- 9 修士論文テーマに関する先行研究(5)
- 10 修士論文テーマに関する先行研究(6)
- 11 修士論文テーマに関する先行研究(7)
- 12 修士論文テーマに関する先行研究(8)
- 13 修士論文テーマに関する先行研究(9)
- 14 修士論文テーマに関する先行研究(10)

履修上の注意

関連文献を読んでくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表準備をしっかりとってくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点

その他

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 井田 正道		

授業の概要・到達目標

修士論文の諸部分について発表し，修士論文を作成する。

授業内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 修士論文に関する発表(1)
- 3 修士論文に関する発表(2)
- 4 修士論文に関する発表(3)
- 5 修士論文に関する発表(4)
- 6 修士論文に関する発表(5)
- 7 修士論文に関する発表(6)
- 8 修士論文に関する発表(7)
- 9 修士論文に関する発表(8)
- 10 修士論文に関する発表(9)
- 11 修士論文に関する発表(10)
- 12 修士論文に関する発表(11)
- 13 修士論文に関する発表(12)
- 14 修士論文に関する発表(13)

履修上の注意

関連文献を読んでくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表準備をしっかりとってくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の発表

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	国家論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：履修者のテーマにかかわる基本文献を輪読し、ディシプリンにおける各自のテーマの位置づけおよび広がり概観する。その上で、文献検索法や文献利用のルールなど研究者としての基本的なノウハウを指導する。毎月1回、履修者のテーマ報告を行う。
- (2)到達目標：大学院生として必須の研究技法を身につける。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 基本文献講読および討論(Ⅰ)
- 第3回 基本文献講読および討論(Ⅱ)
- 第4回 テーマ報告(Ⅰ)
- 第5回 基本文献講読および討論(Ⅲ)
- 第6回 基本文献講読および討論(Ⅳ)
- 第7回 テーマ報告(Ⅱ)
- 第8回 基本文献講読および討論(Ⅴ)
- 第9回 基本文献講読および討論(Ⅵ)
- 第10回 テーマ報告(Ⅲ)
- 第11回 基本文献講読および討論(Ⅶ)
- 第12回 基本文献講読および討論(Ⅷ)
- 第13回 テーマ報告(Ⅳ)
- 第14回 総括

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本文献講読については事前にテキストを精読し、またテーマ報告にあたっては入念にレジュメを作成して授業に臨んでください。

教科書

履修者のテーマに応じて決めます。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%＋授業への参画度50%

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

科目ナンバー：(PE) POL512J			
理論系		備考	
科目名	国家論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：修士論文概要書・研究報告書概要書の作成を目指した指導を行う。具体的には、論文テーマを絞り込ませ、先行研究・関連文献の収集と分析を指示する。その後、概要書のドラフトを授業時に精査する。併せて、履修者の論文テーマに関連する文献の輪読を行う。
- (2)到達目標：中身の濃い修士論文概要書・研究報告書概要書を作成する。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 論文テーマ報告(Ⅰ)
- 第3回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅰ)
- 第4回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅱ)
- 第5回 論文テーマ報告(Ⅱ)
- 第6回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅲ)
- 第7回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅳ)
- 第8回 論文テーマ報告(Ⅲ)
- 第9回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅴ)
- 第10回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅵ)
- 第11回 概要書のドラフト報告(Ⅰ)
- 第12回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅶ)
- 第13回 論文テーマ関連文献の講読および討論(Ⅷ)
- 第14回 概要書のドラフト報告(Ⅱ)

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文テーマ報告にあたっては入念にレジュメを作成して授業に臨んでください。

教科書

履修者のテーマに応じて決めます。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%＋授業への参画度50%

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	国家論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：修士論文概要書・研究報告書概要書に基づく追加資料の収集と分析を行う。併せて、修士論文・研究報告書の骨子を検討し、参考文献リストを完成させる。序論部分を書かせて、リサーチ・クエスチョンを明確にさせる。次いで、修士論文・研究報告書の第1稿の検討を行う。
- (2)到達目標：修士論文・研究報告書の章・節構成を完成させる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 概要書の内容確認
- 第3回 修士論文・研究報告書骨子報告(Ⅰ)
- 第4回 文献リスト報告(Ⅰ)
- 第5回 修士論文・研究報告書骨子報告(Ⅱ)
- 第6回 文献リスト報告(Ⅱ)
- 第7回 修士論文・研究報告書骨子報告(Ⅲ)
- 第8回 修士論文・研究報告書序論報告(Ⅰ)
- 第9回 修士論文・研究報告書序論報告(Ⅱ)
- 第10回 文献リスト報告(Ⅲ)
- 第11回 修士論文・研究報告書序論報告(Ⅲ)
- 第12回 修士論文・研究報告書
- 第13回 修士論文・研究報告書第1稿報告(Ⅰ)
- 第14回 修士論文・研究報告書第1稿報告(Ⅱ)

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文内容の報告にあたっては入念にレジメを作成して授業に臨んでください。

教科書

履修者のテーマに応じて決めます。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%+授業への参画度50%

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

科目ナンバー：(PE) POL612J			
理論系		備考	
科目名	国家論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：修士論文・研究報告書の作成指導を随時行う。ひとまとまり(章あるいは節)ごとに第2稿を事前提出させ、授業時に訂正箇所などを指示し、完成に向けた指導を行う。また、希望する学生には11月の政経学会の報告を準備させる。それ以降、第3稿、完成稿へと論文を仕上げていく。
- (2)到達目標：修士論文・研究報告書を完成させる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修士論文・研究報告書第2稿報告(Ⅰ)
- 第3回 修士論文・研究報告書第2稿報告(Ⅱ)
- 第4回 修士論文・研究報告書第2稿報告(Ⅲ)
- 第5回 修士論文・研究報告書第2稿報告(Ⅳ)
- 第6回 修士論文・研究報告書第2稿報告(Ⅴ)
- 第7回 政経学会報告予行(Ⅰ)(報告希望者がいない場合は、文献リスト・注記作成指導)
- 第8回 政経学会報告予行(Ⅱ)(同上)
- 第9回 修士論文・研究報告書第3稿報告(Ⅰ)
- 第10回 修士論文・研究報告書第3稿報告(Ⅱ)
- 第11回 修士論文・研究報告書第3稿報告(Ⅲ)
- 第12回 修士論文・研究報告書第3稿報告(Ⅳ)
- 第13回 修士論文・研究報告書完成稿報告(Ⅰ)
- 第14回 修士論文・研究報告書完成稿報告(Ⅱ)

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文内容の報告にあたっては入念にレジメを作成して授業に臨んでください。

教科書

履修者のテーマに応じて決めます。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%+授業への参画度50%

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL532J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 伊藤 剛		

授業の概要・到達目標

概要

私の指導の下にある前期課程学生が然るべきタイミングで修士学位論文(研究報告書)を執筆・提出できるように指導する。具体的には、学生の研究テーマの設定や、そのテーマに関する研究の進捗状況によって適宜指導を行う。これまでの経験上、研究指導は、(1) 学生が具体的な研究テーマを持ったとき、または幾つか研究テーマになり得るものを提示したとき、(2) その研究テーマを実際にリサーチしたとき、(3) 実際に論文を執筆するとき・したときに、大きな意義があるものとなる。よって、演習の回数・時間帯は、学生の要望に応じて臨機応変に対応するが、暫定的には以下のようなものを考えている。

到達目標

演習Ⅰという性格から、まずは研究テーマの設定が、必要文献の選択とともに、決定されることを到達目標とする。

備考

なお、受講者の希望により、本授業を英語で開講することも可能である。

授業内容

- 第1回 研究テーマ相談(1)
- 第2回 研究テーマ相談(2)
- 第3回 研究テーマ相談(3)
- 第4回 文献リスト作成・指導
- 第5回 基本資料講読(1)
- 第6回 基本資料講読(2)
- 第7回 基本資料講読(3)
- 第8回 基本資料講読(4)
- 第9回 基本資料講読(5)
- 第10回 基本資料講読(6)
- 第11回 研究作業の課題の確認
- 第12回 基本資料講読(7)
- 第13回 基本資料講読(8)
- 第14回 総括

履修上の注意

特に研究テーマも課題もないのに、指導教授と「談笑」するなら演習の意味はない。研究は自分で課題を見つけ出すものだが、その目的を受講者が持ったときは、積極的に関わりたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献等を読んでおくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

伊藤に関わった書籍・論文・エッセイ等を参照されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究テーマの設定に際して提出するメモ・ペーパー等による。

その他

科目ナンバー：(PE) POL532J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 伊藤 剛		

授業の概要・到達目標

概要

私の指導の下にある前期課程学生が然るべきタイミングで修士学位論文(研究報告書)を執筆・提出できるように指導する。具体的には、学生の研究テーマの設定や、そのテーマに関する研究の進捗状況によって適宜指導を行う。これまでの経験上、研究指導は、(1) 学生が具体的な研究テーマを持ったとき、または幾つか研究テーマになり得るものを提示したとき、(2) その研究テーマを実際にリサーチしたとき、(3) 実際に論文を執筆するとき・したときに、大きな意義があるものとなる。よって、演習の回数・時間帯は、学生の要望に応じて臨機応変に対応するが、暫定的には以下のようなものを考えている。

到達目標

演習Ⅱという性格から、まずは研究テーマの設定が、必要文献の選択とともに、決定されることを到達目標とする。

備考

なお、受講者の希望により、本授業を英語で開講することも可能である。

授業内容

- 第1回 研究テーマ相談(1)
- 第2回 研究テーマ相談(2)
- 第3回 文献の確認・指導(1)
- 第4回 文献リスト作成・指導
- 第5回 文献の確認・指導(2)
- 第6回 基本資料講読(1)
- 第7回 基本資料講読(2)
- 第8回 基本資料講読(3)
- 第9回 修士論文構想相談(1)
- 第10回 修士論文構想相談(2)
- 第11回 研究作業の課題の確認
- 第12回 修士論文のテーマの修正案の提示(1)
- 第13回 修士論文のテーマの修正案の提示(2)
- 第14回 総括

履修上の注意

特に研究テーマも課題もないのに、指導教授と「談笑」するなら演習の意味はない。研究は自分で課題を見つけ出すものだが、その目的を受講者が持ったときは、積極的に関わりたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献等を読んでおくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

伊藤に関わった書籍・論文・エッセイ等を参照されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究テーマの設定に際して提出するメモ・ペーパー等による。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL632J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 伊藤 剛		

授業の概要・到達目標

概要

私の指導の下にある前期課程学生が然るべきタイミングで修士学位論文(研究報告書)を執筆・提出できるように指導する。具体的には、学生の研究テーマの設定や、そのテーマに関する研究の進捗状況によって適宜指導を行う。これまでの経験上、研究指導は、(1) 学生が具体的な研究テーマを持ったとき、または幾つか研究テーマになり得るものを提示したとき、(2) その研究テーマを実際にリサーチしたとき、(3) 実際に論文を執筆するとき・したときに、大きな意義があるものとなる。よって、演習の回数・時間帯は、学生の要望に応じて臨機応変に対応するが、暫定的には以下のようなものを考えている。

到達目標

演習Ⅲという性格から、研究テーマに即して、文献について相談を行い、具体的な執筆作業に入る。

備考

なお、受講者の希望により、本授業を英語で開講することも可能である。

授業内容

- 第1回 修士論文のテーマの修正案の提示(1)
- 第2回 修士論文のテーマの修正案の提示(2)
- 第3回 修士論文のテーマの修正案の提示(3)
- 第4回 文献解説(1)
- 第5回 文献解説(2)
- 第6回 文献解説(3)
- 第7回 資料の確認(1)
- 第8回 資料の確認(2)
- 第9回 資料の確認(3)
- 第10回 資料の確認(4)
- 第11回 資料の確認(5)
- 第12回 資料の確認(6)
- 第13回 執筆前の構成確認(1)
- 第14回 執筆前の構成確認(2)

履修上の注意

特に研究テーマも課題もないのに、指導教授と「談笑」するなら演習の意味はない。研究は自分で課題を見つけ出すものだが、その目的を受講者が持ったときは、積極的に関わりたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献等を読んでおくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

伊藤に関わった書籍・論文・エッセイ等を参照されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究テーマの設定に際して提出するメモ・ペーパー等による。

その他

科目ナンバー：(PE) POL632J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 伊藤 剛		

授業の概要・到達目標

概要

私の指導の下にある前期課程学生が然るべきタイミングで修士学位論文(研究報告書)を執筆・提出できるように指導する。具体的には、学生の研究テーマの設定や、そのテーマに関する研究の進捗状況によって適宜指導を行う。これまでの経験上、研究指導は、(1) 学生が具体的な研究テーマを持ったとき、または幾つか研究テーマになり得るものを提示したとき、(2) その研究テーマを実際にリサーチしたとき、(3) 実際に論文を執筆するとき・したときに、大きな意義があるものとなる。よって、演習の回数・時間帯は、学生の要望に応じて臨機応変に対応するが、暫定的には以下のようなものを考えている。

到達目標

演習Ⅳという性格から、まずは研究テーマの設定が、必要文献の選択とともに、決定されることを到達目標とする。

備考

なお、受講者の希望により、本授業を英語で開講することも可能である。

授業内容

- 第1回 修士論文内容の再確認(1)
- 第2回 修士論文内容の再確認(2)
- 第3回 修士論文内容の再確認(3)
- 第4回 執筆前の最終チェック
- 第5回 原稿のチェック(1)
- 第6回 原稿のチェック(2)
- 第7回 原稿のチェック(3)
- 第8回 原稿のチェック(4)
- 第9回 原稿のチェック(5)
- 第10回 原稿のチェック(6)
- 第11回 原稿のチェック(7)
- 第12回 原稿のチェック(8)
- 第13回 原稿のチェック(9)
- 第14回 原稿のチェック(10)

履修上の注意

特に研究テーマも課題もないのに、指導教授と「談笑」するなら演習の意味はない。研究は自分で課題を見つけ出すものだが、その目的を受講者が持ったときは、積極的に関わりたい。なお、他人のアイデアや原稿をそのまま採用するのは、まったく奨励されない。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献等を読んでおくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

伊藤に関わった書籍・論文・エッセイ等を参照されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究テーマの設定に際して提出するメモ・ペーパー等による。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

東京の政治をまとめてみたい。具体的には、(できればここ30年くらいの)国政レベル・都政レベル・区市町村レベルの各種選挙結果のデータを収集して、各区市町村ごとの「政治の風景」を浮かび上がらせてみたい。世界有数の大都市のイメージそのままにオフィスビルの立ち並ぶ地域もあれば、のどやかで自然豊かな多摩・島嶼部もある東京。私たちは東京の政治をどのように浮かび上がらせることができるのだろうか。

授業内容

1 回目：イントロダクション
2 回目：区市町村調査結果報告 1
3 回目：区市町村調査結果報告 2
4 回目：区市町村調査結果報告 3
5 回目：区市町村調査結果報告 4
6 回目：区市町村調査結果報告 5
7 回目：区市町村調査結果報告 6
8 回目：区市町村調査結果報告 7
9 回目：区市町村調査結果報告 8
10 回目：区市町村調査結果報告 9
11 回目：区市町村調査結果報告 10
12 回目：区市町村調査結果報告 11
13 回目：区市町村調査結果報告 12
14 回目：区市町村調査結果報告 13

履修上の注意

フィールドワークを行うことがあるが、交通費などは私費負担となる。過剰な負担にならないようフィールドワーク先や参加コンテストは履修者と相談して決める。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当する区市町村のデータを収集する

教科書

特になし。

参考書

随時紹介。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告と議論への参加。

その他

特に無し。

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

春学期に続き、東京の政治をまとめてみたい。具体的には、(できればここ30年くらいの)国政レベル・都政レベル・区市町村レベルの各種選挙結果のデータを収集して、各区市町村ごとの「政治の風景」を浮かび上がらせてみたい。世界有数の大都市のイメージそのままにオフィスビルの立ち並ぶ地域もあれば、のどやかで自然豊かな多摩・島嶼部もある東京。私たちは東京の政治をどのように浮かび上がらせることができるのだろうか。
必要に応じて政治学の議論とも接続していきたい。

授業内容

1 回目：イントロダクション
2 回目：区市町村調査結果報告 1
3 回目：区市町村調査結果報告 2
4 回目：区市町村調査結果報告 3
5 回目：区市町村調査結果報告 4
6 回目：区市町村調査結果報告 5
7 回目：区市町村調査結果報告 6
8 回目：区市町村調査結果報告 7
9 回目：区市町村調査結果報告 8
10 回目：区市町村調査結果報告 9
11 回目：区市町村調査結果報告 10
12 回目：区市町村調査結果報告 11
13 回目：区市町村調査結果報告 12
14 回目：区市町村調査結果報告 13

履修上の注意

フィールドワークを行うことがあるが、交通費などは私費負担となる。過剰な負担にならないようフィールドワーク先や参加コンテストは履修者と相談して決める。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当する区市町村のデータを収集する

教科書

特になし。

参考書

随時紹介。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告と議論への参加。

その他

特に無し。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

「開発の政治経済学」(political economy of development)をテーマとし、戦後開発途上国の経済発展を支えた(あるいは阻害した)政治を、英語の文献を読みながら見てゆくこととする。開発における国家の役割、特に「開発主義国家」(developmental state)の概念とそのオリジナルモデルとなった日本のケースを中心に考えたい。

到達目標は、「開発の政治学」あるいは「開発の政治経済学」という分野について一般的な理解を得ることに加え、政治学の理論的論文を英語にて十分に読みこなせるようになること、その自信をつけることにある。

授業内容

- 第1回：イントロダクション(開発と貧困の現状)
- 第2回：「東アジアの奇跡」― 他地域との比較(1)
- 第3回：「東アジアの奇跡」― 他地域との比較(2)
- 第4回：経済発展の地域格差をもたらし要因
- 第5回：開発における国家の役割
- 第6回：開発主義国家developmental stateの概念(1)
- 第7回：開発主義国家developmental stateの概念(2)
- 第8回：開発主義国家developmental stateの概念(3)
- 第9回：日本モデル ― ジョンソンのMITI (1)
- 第10回：日本モデル ― ジョンソンのMITI (2)
- 第11回：日本モデル ― ジョンソンのMITI (3)
- 第12回：アジアの開発と日本モデル(1)
- 第13回：アジアの開発と日本モデル(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

この分野の研究には英語の文献が必須である。また、初歩的な経済学の知識も必要とされるので、不安のある者は、各自、入門書などにて自習することを期待する。

広く政治学の基本的概念や理論についても、極力カバーしたいと考えているが、知識の不足を認識した場合には、自ら積極的に補うべく勉強する態度を忘れないでほしい。

なお、受講生の研究興味に応じて扱う題材を多少変更することもありうるので、予め承知してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者でない場合にも、毎週の課題(リーディング)は必ず読んだ上で参加すること。目的は英語を一語一句精読することではなく、読んだ上でその内容を理解することである。問題は、英語文献の和訳ではない。結局のところ、その論点・主張はどういうことなのかを理解し、批判的にとらえることが必要である。

教科書

特に教科書の指定はしないが、第一回の授業で文献リストを配布し、受講者の知識と理解の程度、そして興味を確認したうえで、その中のいくつかの文献を取り上げることとする。

参考書

上記のとおり、第一回授業にてリストを配布する。その他にも、必要に応じて追加する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、講義への参画度30%、期末レポート40%

その他

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	比較政治論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

春学期の比較政治論研究Ⅰに引き続き、「開発主義国家」の概念をアジア以外の地域の経験に基づいて比較検討するとともに、いわゆるアジア危機をもたらしした要因、そして「その後」、21世紀の開発主義についても考える。

なお、特に後半には、受講者の興味に応じ、相談の上で、他のテーマをカバーすることとする可能性もある。政治学研究の方法論等を扱う可能性もある。

到達目標は、引き続き、政治学の理論的論文を十分に読みこなす力を養うことである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション(開発主義モデル)
- 第2回：開発主義モデルと韓国
- 第3回：開発主義モデルと台湾
- 第4回：開発主義国家とアフリカの略奪国家(1)
- 第5回：開発主義国家とアフリカの略奪国家(2)
- 第6回：ブラジルの経験(1)
- 第7回：ブラジルの経験(2)
- 第8回：インドの経験(1)
- 第9回：インドの経験(2)
- 第10回：アジア通貨危機と開発主義モデル(1)
- 第11回：アジア通貨危機と開発主義モデル(2)
- 第12回：21世紀の開発と国家の役割
- 第13回：開発の政治経済学
- 第14回：まとめ

履修上の注意

この分野の研究には英語の文献が必須である。また、初歩的な経済学の知識も必要となるので、不安のある者は、各自、入門書などにて自習することを期待する。

英語は多くの受講生にとって長年親しんできた外国語であるはずである。今になってさらに読解能力を高めようとするならば、それなりの努力が必要となることを覚悟して、積極的に取り組んでいただきたい。そうでないと効果は期待できない。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者でない場合にも、毎週の課題(リーディング)は必ず読んだ上で参加すること。目的は英語を一語一句精読することではなく、読んだ上でその内容を理解することである。英文を和訳することで満足することなく、いったい何が論じられているかを理解し、批判的に読むよう心がけることが必須である。

教科書

特に教科書の指定はしないが、第一回の授業で文献リストを配布し、その中のいくつかの文献を取り上げることとする。

参考書

上記のとおり、第一回授業にてリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%、講義への参画度30%、期末レポート40%

その他

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 外池 力		

授業の概要・到達目標

本講義では、人権やデモクラシーの理論や民主化を中心とした文献を読み、政治学を学ぶのに必要でかつ自分が関心ある領域を研究するのに有効な方法・理論を習得していきます。春学期では特に人権やデモクラシーに関する様々な論点や理論、民主化の実例を講義することで、問題意識を深めていきます。また各自の関心ある領域の発表も積極的に取り入れます。どのようなテーマでも人権に人権やデモクラシーに関わると言えますので、各自のテーマを最大限優先します。

私の教育目標は、以下の四つを身につけることです。
 1 知的誠実さ(オリジナリティある思考を育てます)
 2 健全な批判精神(他人の考えを安易に利用しないようにします)
 3 許す勇氣(自分と異なる意見も取り容れます)
 4 思想的自立(自分の立場を確立させます)
 また世界や日本の人権問題について事実を知り、世界の人権と日本の人権の関係を検討し、人権概念や理論が普遍的になりうるかについて考えます。

授業内容

*授業計画(講義と参加者の発表・討論を適宜混ぜて行う)：各自の関心あるテーマを尊重しながら人権やデモクラシーを考える。
 第1回：はじめに(イントロダクション)
 第2回：文献検索の方法と問題意識の設定(1)
 第3回：文献検索の方法と問題意識の設定(2)
 第4回：デモクラシー論の現状と問題点
 第5回：人権論の現状と問題点
 第6回：デモクラシーと人権
 第7回：民主化の理論
 第8回：デモクラシー批判と人権批判について
 第9回：人権侵害のケーススタディ (1)
 第10回：人権侵害のケーススタディ (2)
 第11回：研究報告と討論(1)
 第12回：研究報告と討論(2)
 第13回：研究報告と討論(3)
 第14回：まとめ・総括

履修上の注意

自分の研究テーマとのつながりを意識して人権やデモクラシーを考えていくことが望ましい。
 必ず、次週に取り上げる論文を全員に配るので、読んでおくこと。
 自分の報告の二週間前に、題材の論文を提出すること。
 *春学期と秋学期は基本的に同様な方法で評価します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし

参考書

論文の検索(参考)
<https://ndlopac.ndl.go.jp>
 人権状況の検索(参考)
<https://freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
<http://www.amnesty.org/>
<http://www.hrw.org/>
<http://www.hrw.org/resource.html>
 Varieties of Democracy (V-Dem)<https://www.v-dem.net/>
 人権侵害のビジュアル化
 Forensic-architecture
<https://forensic-architecture.org/>
 法務省人権擁護局
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/>
 外務省人権外交
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>
 UPR (普遍的・定期的レビュー)
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html
 国会図書館デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/>
 外交資料館検索
<https://www.da.mofa.go.jp/DAS/meta/default>
 人権ネット(人権資料・展示全国ネットワーク)
<http://e-jinken.net/index.htm>
<https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/page/0000000102.html>京都市：人権ゆかりの地マップ-Japanese

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(ディスカッションでの発言の積極性、適宜のレポートなど)(50%)と報告の内容(50%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治体制論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 外池 力		

授業の概要・到達目標

本講義では、デモクラシーの理論や民主化を中心とした文献を読み、政治学を学ぶのに必要でかつ自分が関心ある領域を研究するのに有効な方法・理論を習得していきます。秋学期では、人権とデモクラシーとの関連についてそれらへの批判的な理論意識しながら、参加者の関心ある領域を発表させることに重点を置き、随時デモクラシーや人権関連の議論を補っていきます。

どのようなテーマでも人権に人権やデモクラシーに関わると言えますので、各自のテーマを最大限優先します。
 人権・デモクラシーに関する自分の興味ある論文を批評できる力をつけるようにする。

授業内容

*授業計画(講義と参加者の発表・討論を適宜混ぜて行う)
 第1回：はじめに(イントロダクション)
 第2回：文献検索の方法と問題意識の設定
 第3回：人権論の現状と問題点
 第4回：デモクラシー論の現状と問題点
 第5回：デモクラシーと人権
 第6回：民主化の理論
 第7回：デモクラシー批判理論
 第8回：人権批判理論
 第9回：ビジネスと人権
 第10回：人権マップと人権フィールドワーク
 第11回：研究報告と討論(1)
 第12回：研究報告と討論(2)
 第13回：研究報告と討論(3)
 第14回：まとめ・総括

履修上の注意

必ず、次週に取り上げる論文を全員に配るので、読んでおくこと。
 自分の報告の二週間前に、題材の論文を提出すること。
 自分の研究テーマとのつながりを意識してデモクラシーや人権を考えていくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

なし

参考書

人権理論、人権侵害、民主主義論、民主化論など邦語文献
 たとえば、中村睦男ほか編『世界の人権保障』三省堂、2017年
 フリーマン(高橋宗瑠監訳)『コンセプトとしての人権』現代人文社、2016年
 日本弁護士連合会国際人権問題委員会編『ビジネスと人権』現代人文社、2022年など。
 人権状況の検索(参考)
 アムネスティ・インターナショナルHP
<http://www.amnesty.org/>
 フリーダムハウスHP
<http://www.freedomhouse.org/>
<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fofn&year=2022>
 ヒューマンライツウォッチHP
<http://www.hrw.org>
 国際人権法学会HPリンク集
<http://www.ihrla.org/links.shtml>
 外務省人権外交
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>
 国連人権理事会UPR (普遍的・定期的レビュー) 第三回日本への審査結果
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000346504.pdf>
 法務省人権擁護局
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/>
 国会図書館デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/>
 日本の古本屋
<https://www.kosho.or.jp/>
 日弁連HP
<https://www.nichibenren.or.jp/activity/human.html>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(適宜のレポートを含む)(50%)と報告(50%)で評価します。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治過程論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 Ph.D.in Political Science 加藤 言人		

授業の概要・到達目標

政治過程論の実証研究の各トピックに関して学術論文を読み込み、その理論的な重要性および発展の過程、および最新の研究動向について実践的な理解を深める。また、政治過程の実証分析（科学的な理論の構築と統計データ分析を用いた仮説検証）を行う基礎的スキルを身につける。

毎回の講義では、政治過程論の主要なトピックに関する3～4本の学術論文（主に英語）を読み、その内容についてディスカッションする。各論文には受講生から担当者を選ぶ。担当者は当該論文の内容を解説し、その後のディスカッションの司会を務める。担当者以外の受講生は、リーディングに対する疑問点を事前に準備し、積極的にディスカッションに参加することが求められる。春学期は、政治的意識の形成プロセス、投票・政治参加行動のメカニズム、および政治的知識の捉え方に注目する予定であるが、具体的なリーディングについては受講者の関心に応じて随時調整する。

各講義の一部は分析演習とする。春学期は、政治過程論分野で用いる計量データの構造・性質を理解し、適切な理論・仮説を構築した上で、2つの変数間の関係を捉えるための単純な図表の作成ができるようになることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：政治過程論とは何か
- 第2回 政治意識の形成（1）：生育環境・遺伝・性格
- 第3回 政治意識の形成（2）：情報処理
- 第4回 政治意識の形成（3）：イデオロギー
- 第5回 投票行動（1）：合理的選択／空間投票モデル
- 第6回 投票行動（2）：ミシガン・モデル
- 第7回 投票行動（3）：業績評価投票モデル
- 第8回 政治参加（1）：政治参加の理論
- 第9回 政治参加（2）：意見表出とデモ参加
- 第10回 政治参加（3）：利他性・社会的自尊心
- 第11回 政治知識（1）：教育
- 第12回 政治知識（2）：事実認識
- 第13回 政治知識（3）：誤認識／誤情報
- 第14回 期末プロジェクト・プレゼンテーション

履修上の注意

分析演習には統計ソフトRを用いる予定である。使うコードは講義内で紹介するので特に事前要件はないが、実証的・計量的な分析手法への関心・経験があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

各講義のリーディングを事前に読んで、疑問点などを言語化する（講義前に投稿してもらう）。

教科書

特になし。随時講義内でリーディングを配布。

参考書

随時講義内で参考書情報は提供する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックはウェブシステムを通じて行う。

成績評価の方法

文献担当（レジュメ・解説）30%、ディスカッション（疑問点の投稿）20%、期末プロジェクト40%、その他参加度（積極的な発言や質問など）10%

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治過程論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 Ph.D.in Political Science 加藤 言人		

授業の概要・到達目標

政治過程論の実証研究の各トピックに関して学術論文を読み込み、その理論的な重要性および発展の過程、および最新の研究動向について実践的な理解を深める。また、政治過程の実証分析（科学的な理論の構築と統計データ分析を用いた仮説検証）を行う基礎的スキルを身につける。

毎回の講義では、政治過程論の主要なトピックに関する3～4本の学術論文（主に英語）を読み、その内容についてディスカッションする。各論文には受講生から担当者を選ぶ。担当者は当該論文の内容を解説し、その後のディスカッションの司会を務める。担当者以外の受講生は、リーディングに対する疑問点を事前に準備し、積極的にディスカッションに参加することが求められる。秋学期は、認知、メディア・コミュニケーション、社会環境、心理的要因が政治意識・行動に与える影響、および政治意識・行動形成と民主主義の関連に注目する予定であるが、具体的なリーディングについては受講者の関心に応じて随時調整する。

各講義の一部は分析演習とする。秋学期は、より複雑な変数間の関係を捉えるための分析手法（重回帰分析）の実践とその可視化・解釈・考察ができるようになることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：政治を科学する
- 第2回 意思決定の「質」
- 第3回 意思決定の手がかり（1）ヒューリスティクス
- 第4回 意思決定の手がかり（2）エンドースメント
- 第5回 メディア効果（1）アジェンダ・セッティング（議題設定）／プライミング
- 第6回 メディア効果（2）フレーミング
- 第7回 有権者を取り巻く環境（1）ソーシャル・ネットワーク
- 第8回 有権者を取り巻く環境（2）社会情報
- 第9回 意識形成の心理要因（1）社会的アイデンティティ
- 第10回 意識形成の心理要因（2）動機づけされた推論（Motivated Reasoning）
- 第11回 民主的代表（1）記述的・実質的代表
- 第12回 民主的代表（2）動的代表
- 第13回 民主的アカウンタビリティ
- 第14回 期末プロジェクト・プレゼンテーション

履修上の注意

分析演習には統計ソフトRを用いる予定である。使うコードは講義内で紹介するので特に事前要件はないが、実証的・計量的な分析手法への関心・経験があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

各講義のリーディングを事前に読んで、疑問点などを言語化する（講義前に投稿してもらう）。

教科書

特になし。随時講義内でリーディングを配布。

参考書

随時講義内で参考書情報は提供する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックはウェブシステムを通じて行う。

成績評価の方法

文献担当（レジュメ・解説）30%、ディスカッション（疑問点の投稿）20%、期末プロジェクト40%、その他参加度（積極的な発言や質問など）10%

その他

特になし。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

いうまでもなく、現代民主主義社会においては、世論の重要性は大きい。ここでは政治行動論の展開、社会調査論、投票行動の基礎理論、政治的態度論の過去の主要理論を学習し、そのうえで日本の政治改革の帰結や政治の現状について学ぶ。本授業を通して実証的な政治学についてより深い理解力を身に着けることを目的とする。

授業内容

第1回目 a. イントロダクション
第2回目 政治学の展開
第3回目 大衆社会論
第4回目 世論調査の技法
第5回目 投票行動論
第6回目 選挙制度論
第7回目 日本の政治改革
第8回目 日本の選挙制度
第9回目 日本の政党システム
第10回目 国政選挙の動向
第11回目 通常国会と政党状況
第12回目 地方選挙の分析
第13回目 日本人の世論
第14回目 まとめ

履修上の注意

毎回、割り当てられた箇所を発表する。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自にテキストの部分を割り当て、発表してもらう。割りあて部分以外についても事前にテキストを読んでおくこと。

教科書

井田正道(2025)『日本の選挙と有権者』北樹出版

参考書

加藤秀治郎他(2024)『名著で学ぶ政治学』一藝社
井田正道(2013)『世論調査を読む』明治大学出版会

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度(60%)
レポート(40%)

その他

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	政治行動論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

本授業では、選挙や政治意識における計量分析に関する知識とスキルを習得することを目的とする。まず講義形式で統計解析の手法について講義し、次に具体的な分析事例を紹介する。そして最後に実習形式で統計解析のスキルを身に着ける。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：統計解析の手法(1)
第3回：統計解析の手法(2)
第4回：統計解析の手法(3)
第5回：政治意識の分析(1)
第6回：政治意識の分析(2)
第7回：政治意識の分析(3)
第8回：選挙分析(1)
第9回：選挙分析(2)
第10回：データ分析実習(1)
第11回：データ分析実習(2)
第12回：データ分析実習(3)
第13回：データ分析実習(4)
第14回：まとめ

履修上の注意

授業中に質疑応答の時間を設けるので積極的に発言すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習をしてくること。

教科書

井田正道(2025)『日本の選挙と有権者』北樹出版

参考書

藤江昌嗣(2021)『ビッグデータ時代の統計学入門』学文社

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業への参加度(60%)
レポート(40%)

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	国家論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：現代の国家論に関する英語文献を講読する。進め方は精読に徹し、英文を正確に読解し内容をきちんと理解することを目指す。綿密に予習してくることが出席の前提となる。
- (2)到達目標：背伸びをせず、大学院学生としての基礎学力固めを愚直に行う。

授業内容

上述のとおり、現代の国家論に関する英語文献を講読する。テキストは履修者の問題関心を確認した上で決めるが、できるだけ新しいものを選ぶつもりである。毎回数頁ずつ訳読して、内容について議論する。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅰ)
- 第3回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅱ)
- 第4回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅲ)
- 第5回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅳ)
- 第6回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅴ)
- 第7回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅵ)
- 第8回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅶ)
- 第9回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅷ)
- 第10回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅸ)
- 第11回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅹ)
- 第12回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅺ)
- 第13回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅻ)
- 第14回 総括

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次回の予習範囲を指示するので、事前に十分に訳文を検討してください。

教科書

上記「授業の概要」に記載のとおりです。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性（十分な予習を含む）50%、および授業への参画度50%。

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

科目ナンバー：(PE) POL511J			
理論系		備考	
科目名	国家論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：現代の国家論に関する英語文献を講読する。進め方は精読に徹し、英文を正確に読解し内容をきちんと理解することを目指す。綿密に予習してくることが出席の前提となる。
- (2)到達目標：背伸びをせず、大学院学生としての基礎学力固めを愚直に行う。

授業内容

上述のとおり、現代の国家論に関する英語文献を講読する。テキストは履修者の問題関心を確認した上で決めるが、できるだけ新しいものを選ぶつもりである。毎回数頁ずつ訳読して、内容について議論する。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅰ)
- 第3回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅱ)
- 第4回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅲ)
- 第5回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅳ)
- 第6回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅴ)
- 第7回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅵ)
- 第8回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅶ)
- 第9回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅷ)
- 第10回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅸ)
- 第11回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅹ)
- 第12回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅺ)
- 第13回 テキスト訳読と内容に関する議論(Ⅻ)
- 第14回 総括

履修上の注意

時間を厳守してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次回の予習範囲を指示するので、事前に十分に訳文を検討してください。

教科書

上記「授業の概要」に記載のとおりです。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性（十分な予習を含む）50%、および授業への参画度50%。

その他

小さなことを積み重ねるしか、大きな成果を上げる道はありません。些事をおろそかにしない心構えで研究に取り組んでほしいと思います。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	伊藤 剛	

授業の概要・到達目標

国際政治学とは、我々の身の回りに起こるグローバルな国際問題を政治学の手法を用いて分析する社会科学の一分野である。そこでは、20世紀初頭（古くは、主権国家システムが成立した17世紀半ば）以降の欧米で徐々に形成されてきた国際政治の理論的英知と、今現在に展開されている国際現象の理解との双方が有機的に関連付けられる必要がある。

一例として、過去に招聘したジョン・ミアシャイマーのテキストを中心に、かつ手始めとして国際政治学におけるリアリズム理論について考えてみたい。具体的には、ミアシャイマーのほか、モーゲンソー、ニューバー、カー、シューマン、キッシンジャー、ウォルツ、ウォルトらの主要著作を部分的に抜粋しながら、「パワー」・「利益」・「秩序」等について考えてみたい。英文と邦文とを適度に組み合わせる。

受講生が国際政治学の基本概念に慣れ親しむことを到達目標とする。

授業内容

具体的な内容は、相談による。

- 第1回：ミアシャイマー（『大国政治の悲劇』を中心に）
- 第2回：同上
- 第3回：同上
- 第4回：同上
- 第5回：ニューバー（Moral Man and Immoral Societyを中心に）
- 第6回：同上
- 第7回：シューマン（『国際政治』を中心に）
- 第8回：同上
- 第9回：モーゲンソー（Politics among Nationsを中心に）
- 第10回：同上
- 第11回：キッシンジャー（『外交』を中心に）
- 第12回：同上
- 第13回：カー（Twenty Years' Crisisを中心に）
- 第14回：同上

履修上の注意

本講義は、春学期集中の予定で行う。リアリズムに関する文献は、かなり邦訳が出ているが、新しいものは英語に頼らざるを得ない。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献を読んでおくこと。

教科書

とくに定めない。

参考書

伊藤が関わっているものを挙げておく。

- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店、2004年。
- ② アルフレード・ヴァラダン（伊藤ほか訳）『自由の帝国』NTT出版、2000年。
- ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂、2002年。
- ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
- ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂、2006年。
- ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房、2007年。
- ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
- ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U.K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポートを1:1とする。

その他

受講者の要望を最初に聞いて、実際の講義内容を定める。

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学研究Ⅱ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	伊藤 剛	

授業の概要・到達目標

国際政治学とは、我々の身の回りに起こるグローバルな国際問題を政治学の手法を用いて分析する社会科学の一分野である。そこでは、20世紀初頭（古くは、主権国家システムが成立した17世紀半ば）以降の欧米で徐々に形成されてきた国際政治の理論的英知と、今現在に展開されている国際現象の理解との双方が有機的に関連付けられる必要がある。

一例として、過去に招聘したジョン・ミアシャイマーのテキストを中心に、かつ手始めとして国際政治学におけるリアリズム理論について考えてみたい。具体的には、ミアシャイマーのほか、モーゲンソー、ニューバー、カー、シューマン、キッシンジャー、ウォルツ、ウォルトらの主要著作を部分的に抜粋しながら、「パワー」・「利益」・「秩序」等について考えてみたい。英文と邦文とを適度に組み合わせる。

受講生が国際政治学の基本概念に慣れ親しむことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：ウォルツ（『国政政治の理論』）
- 第2回：同上
- 第3回：同上
- 第4回：同上
- 第5回：ウォルトの同盟論
- 第6回：同上
- 第7回：同上
- 第8回：同上
- 第9回：ケナンのリアリズム
- 第10回：同上
- 第11回：同上
- 第12回：同上
- 第13回：リアリストとリベラリスト
- 第14回：同上

履修上の注意

集中授業で行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め関連文献を読んでおくこと。

教科書

とくに定めない。

参考書

伊藤が関わっているものを挙げておく。

- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店、2004年。
- ② アルフレード・ヴァラダン（伊藤ほか訳）『自由の帝国』NTT出版、2000年。
- ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂、2002年。
- ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
- ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂、2006年。
- ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房、2007年。
- ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
- ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U.K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポートによる。1:1である。

その他

最初に相談する。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 諏訪 一幸		

授業の概要・到達目標

国交正常化以降の日中関係を政治史に焦点をあてて学ぶ。中ソ対立激化の中で進んだ米中関係改善の流れに乗り、日中両国は1972年、国交正常化を実現した。当初は友好が謳われた関係だったが、その後、中ソ和解、中国の改革開放、64天安門事件と冷戦終焉、日本経済の凋落、中国の大国化等を経て、両国関係の様相は著しく変わってきた。また、関係正常化が様々な問題を残したまま電撃的に実現したため、正常化の際に解決すべき未解決の問題がしばしば表面化し、両国関係に深刻な影響を与えるようになった。

50年に及ぶ日中(政治)関係を大局的、帰納的、理性的に理解する眼を養う。

授業内容

- 第1回 事前に提出されたレポートを基に、日中関係に対する各履修者の認識を確認する。次回以降の報告者を決定する。
- 第2回 教科書 第1章 1945-71年 第2章 1972年
- 第3回 第3章 1973-75年 第4章 1974-79年
- 第4回 第5章 1979-82年 第6章 1983-86年
- 第5回 第7章 1987-88年 第8章 1989-91年
- 第6回 第9章 1991-92年 第10章 1993-95年
- 第7回 第11章 1997-98年 第12章 1999-2000年
- 第8回 第13章 2001-02年 第14章 2002-05年
- 第9回 第15章 2006-08年 第16章 2009-12年
(執筆者:伊藤剛教授)
- 第10回 靖国参拝問題
- 第11回 尖閣諸島問題
- 第12回 台湾問題
- 第13回 経済的威圧問題
- 第14回 現下の国際情勢と日中関係

履修上の注意

報告者以外の履修者は、当該部分を事前に熟読した上で、授業ではコメント、質問する。

準備学習(予習・復習等)の内容

- 履修者は、第1回授業前々日までに、「日中関係の現状に対する私の認識」をテーマに、1500-2000字のレポートを講師にメール送付する(zfyzfzg@ybb.ne.jp)
- 第2回以降は教科書輪読。報告者は、下記の参考書などを使い、レジュメを作成し、発表する。

教科書

高原明生・服部龍二編『日中関係史 1972-2012 I 政治』東京大学出版会、2012年

参考書

- 高原明生・園田茂人・丸川和雄・川島真編『日中関係 2001-2022』東京大学出版会、2023年
- 国分良成『中国政治からみた日中関係』岩波書店、2017年

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業中に口頭で行い、必要に応じてメールでやりとりする。

成績評価の方法

平常点とレポートを1:1とする。

その他

科目ナンバー：(PE) POL531J			
理論系		備考	
科目名	国際政治学研究Ⅱ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 諏訪 一幸		

授業の概要・到達目標

中国共産党のガバナンスについて、党内制度と党国体制という2分野から学ぶ。第一に、中国共産党は極めてシステムティックな政党である。党規約からも分かるように、総書記をトップに、中央(政治局常務委員会、中央政治局、中央委員会)、地方、基層へと、厳格なピラミッド型のヒエラルキーが確立されている。第二に、中国共産党は、政府や議会以下、あらゆる分野と領域に党組織を設けるなどして、国家(中華人民共和国)をコントロールしている。現指導部は、これまで以上に党と指導部に権力を集中させることで、この党国体制の強化を図っている。

中国共産党が構築する党国体制の強靱性と脆弱性に関する理解を深める。

授業内容

- 第1回 事前に提出されたレポートを基に、中国共産党のガバナンスに対する各履修者の認識を確認する。次回以降の報告者を決定する。
- 第2回 教科書 第1章 毛沢東時代の政治プロセスと毛型リーダーシップ
- 第3回 第2章 鄧小平時代の政治プロセス-脱社会主義の道
- 第4回 第3章 ポスト鄧小平時代の政治プロセス-資本主義への道
- 第5回 第4章 国家の制度とその機能
- 第6回 第5章 党・国家・軍三位一体のなかの共産党
- 第7回 第6章 政治的軍隊-人民解放軍
- 第8回 第7章 党と国家の政策形成メカニズム
- 第9回 第8章 大変身する共産党-エリートの党へ
- 第10回 第10章 比較のなかの中国政治
- 第11回 習近平時代のガバナンス 1 (2012-2017年)
- 第12回 同上 2 (2017-2022年)
- 第13回 同上 3 (2022年-現在)
- 第14回 米中関係

履修上の注意

報告者以外の履修者は、当該部分を事前に熟読した上で、授業ではコメント、質問する。

準備学習(予習・復習等)の内容

- 履修者は、第1回授業前々日までに、「中国共産党のガバナンス(党国体制)に対する私の認識」をテーマに、1500-2000字のレポートを講師にメール送付する(zfyzfzg@ybb.ne.jp)
- 第2回以降は教科書輪読。報告者は、下記の参考書などを使い、レジュメを作成し、発表する。

教科書

毛里和子『現代中国政治 [第3版] グローバル・パワーの肖像』名古屋大学出版会、2012年

参考書

- 桃井裕理+日本経済新聞社データビジュアルセンター『習近平政権の権力構造』日本経済新聞出版、2023年
- 鈴木隆『習近平研究』東京大学出版会、2025年

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業中に口頭で行い、必要に応じてメールでやりとりする。

成績評価の方法

平常点とレポートを1:1とする。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
理論系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（理論系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)		木寺 元

授業の概要・到達目標

この授業では、いまの政治に関する重要なテーマに関するできる限り新しい政治学の英文論文を読む。そのことを通じ、いま政治学は何を議論し、何を明らかにしようとしているかの動向を理解し、できればそこで得られた知見を日本政治を見つめる際にどのように適用することが可能かを検討する。

授業内容

Week 1: Introduction
Week 2: Electoral Systems and Political Representation
Week 3: Voting Behavior : Dealignment and Realignment
Week 4: Political Parties: Organizations, Members, and Leaders
Week 5: Party Systems and Competition: Fragmentation and Polarization
Week 6: The Populist Challenge: Parties and Constituencies
Week 7: Governments and Executives: Coalition Formation and Stability
Week 8: Legislative Politics: Behavior, Speech, and Text Analysis
Week 9: Judicial Politics: The Rule of Law and Courts
Week 10: Civil Society, Social Movements, and Protest Politics
Week 11: Identity Politics: Nationalism, Regionalism, and Gender
Week 12: The Domestic Politics and Region
Week 13: Democratic Backsliding and Illiberalism
Week 14: Future Challenges

履修上の注意

各回のテーマは変更される可能性がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、担当者は投影用のプレゼン資料、それが用意できない場合は配布する紙のレジュメを用意すること。細かい方法論や分析の手法は理解できなくてよい。最低限、その論文は何を問いに立て、それに対してどう答えたのかを明らかにすること。他の参加者は、可能な限り目を通し、日本政治を分析するとしたらどう言う議論が可能か、を考えておくこと。

教科書

教科書は使用しない。各回のテーマに関わる論文を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
理論系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（理論系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	水野 剛也	

授業の概要・到達目標

本講の目的は、広くマス・メディア、ジャーナリズムに関する本格的で高度な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることである。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目指す共同作業を意味する。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、多量の文献課題を要求する。当然、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最後に、担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

授業内容

受講者数によるが、現時点では、教員が指定する英語の文献・学術論文を全員が精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。

第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
第2回 研究テーマなど受講者による自己プレゼンテーション
第3回 文献の精読
第4回 文献の要約・所感発表とディスカッション 1
第5回 文献の精読
第6回 文献の要約・所感発表とディスカッション 2
第7回 文献の精読
第8回 文献の要約・所感発表とディスカッション 3
第9回 文献の精読
第10回 文献の要約・所感発表とディスカッション 4
第11回 文献の精読
第12回 文献の要約・所感発表とディスカッション 5
第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
第14回 総括

履修上の注意

担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が精読した英語の文献・学術論文の要約・所感発表とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後にわたり、文献・学術論文の入念な精読、追加的な調査、精緻な発表、ハイレベルなディスカッション、それらすべての再検討が求められる。精読すべき文献以外にも、関連する資料・文献を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献・学術論文の要約・所感発表＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。文献・学術論文を精読し、追加的な調査をおこなったうえで精緻な発表をすることはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、Alexis de Tocqueville, *The Ancien Regime and the Revolution*を輪読することで、「民主的専制」としての行政権力の集中がフランス革命以前(アンシャン・レジーム期)にいかんして起こったのか、またそれがいかなる特徴を持つに至ったのかを検討する。それは、現代政治の「ポピュリズム」と呼ばれる現象を理解するうえでも資するところがあるはずである。

また同時に、現代中国で同書が何故に注目されているのか、あるいは革命が起こりうる社会を分析するうえで何故に有益とされるのかを、その社会心理学的考察にも光を当てながらじっくり考えてみたい。

最終的に、政治思想の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
 - 第2回 *The Ancien Regime and the Revolution*の解説
 - 第3回 第1部読解
 - 第4回 第2部読解(1)
 - 第5回 第2部読解(2)
 - 第6回 第2部読解(3)
 - 第7回 第2部読解(4)
 - 第8回 第2部読解(5)
 - 第9回 第3部読解(1)
 - 第10回 第3部読解(2)
 - 第11回 第3部読解(3)
 - 第12回 第3部読解(4)
 - 第13回 第3部読解(5)
 - 第14回 まとめ
- ※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 1, 「政治思想史」(学部授業) レヴェルの知識は最低限身につけていること。
- 2, Tocquevilleの政治思想に関する著書を一冊でも読んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキスト *The Ancien Regime and the Revolution*の報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくること。

教科書

Tocqueville, *The Ancien Regime and the French Revolution (Cambridge Texts in the History of Political Thought)* by Jon Elster (Editor) and Arthur Goldhammer (Translator), (Cambridge University Press, 2011), or *L'Ancien regime et la Revolution* (Folio, 1985).

参考書

Alexis de Tocqueville, *The Old Regime and the Revolution, Volume I: The Complete Text (Volume 1)*, by Francois Furet (Editor), Françoise Melonio (Editor), Alan S. Kahan (Translator), (University Of Chicago Press, 2003).
Robert T. Gannett Jr., *Tocqueville Unveiled: The Historian and His Sources for The Old Regime and the Revolution* (University Of Chicago Press, 2003).
トクヴィル『旧体制と大革命』(小山勉訳, ちくま学芸文庫, 1998年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、現代の全体主義や民主主義の諸問題を論じた研究を講読する。例えば、Juan J. Linz, *The Breakdown of Democratic Regimes: Crisis, Breakdown and Reequilibration. An Introduction*やSamuel P. Huntington, *The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century*, 比較的新しいCass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences*などを扱う。

また、Hannah Arendtの*The Human Condition: Second Edition*や*The Origins of Totalitarianism*など、20世紀の政治理論家のテキストでもできれば紹介し、ファシズム後の「民主的専制」について広く深く検討する。

最終的に、現代の政治理論の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
 - 第2回 *Conformity: The Power of Social Influences*の序章読解
 - 第3回 第1章読解(1)
 - 第4回 第1章読解(2)
 - 第5回 第1章読解(3)
 - 第6回 第2章読解(1)
 - 第7回 第2章読解(2)
 - 第8回 第2章読解(3)
 - 第9回 第3章読解(1)
 - 第10回 第3章読解(2)
 - 第11回 第3章読解(3)
 - 第12回 第4章読解(1)
 - 第13回 第4章読解(2)
 - 第14回 結論読解
- ※この授業内容は一例で、受講者を見て、テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 1, 政治学説史研究Ⅰを履修していること。
- 2, 「政治思想史」(学部授業) レヴェルの知識は最低限身につけていること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキストの報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくること。

教科書

Cass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences* (NYU Press, 2019).
Timothy Snyder, *The Road to Unfreedom: Russia, Europe, America* (Tim Duggan Books, 2018).
Hannah Arendt, *The Human Condition: Second Edition* (University of Chicago Press, 2019).
Hannah Arendt, *The Origins of Totalitarianism* (Penguin Classics, 2017).
Hannah Arendt, *Between Past and Future*, Revised edition (Penguin Classics, 2006).
Juergen Habermas, *Legitimation Crisis* (Beacon Press, 1975).

参考書

アーレント『新版 全体主義の起源』(みすず書房)。
アーレント『過去と未来の間』(みすず書房)。
アーレント『人間の条件』(ちくま学芸文庫)。
ハーバーマス『後期資本主義における正統化の諸問題』(岩波文庫)。
サミュエル・P・ハンティントン『第三の波：二〇世紀後半の民主化』(白水社)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、Alexis de Tocqueville, *The Ancien Regime and the Revolution*を輪読することで、「民主的専制」としての行政権力の集中がフランス革命以前(アンシャン・レジーム期)にいかんして起こったのか、またそれがいかなる特徴を持つに至ったのかを検討する。それは、現代政治の「ポピュリズム」と呼ばれる現象を理解するうえでも資するところがあるはずである。

また同時に、現代中国で同書が何故に注目されているのか、あるいは革命が起こりうる社会を分析するうえで何故に有益とされるのかを、その社会心理学的考察にも光を当てながらじっくり考えてみたい。

最終的に、政治思想の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
- 第2回 *The Ancien Regime and the Revolution*の解説
- 第3回 第1部読解
- 第4回 第2部読解(1)
- 第5回 第2部読解(2)
- 第6回 第2部読解(3)
- 第7回 第2部読解(4)
- 第8回 第2部読解(5)
- 第9回 第3部読解(1)
- 第10回 第3部読解(2)
- 第11回 第3部読解(3)
- 第12回 第3部読解(4)
- 第13回 第3部読解(5)
- 第14回 まとめ

※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 「政治思想史」(学部授業)レヴェルの知識は最低限身につけていること。
- Tocquevilleの政治思想に関する著書を一冊でも読んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキスト *The Ancien Regime and the Revolution*の報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。

教科書

Tocqueville, *The Ancien Regime and the French Revolution* (Cambridge Texts in the History of Political Thought) by Jon Elster (Editor), Francoise Melonio (Editor), Alan S. Kahan (Translator), (University Of Chicago Press, 2003), or *L'Ancien regime et la Revolution* (Folio, 1985).

参考書

Alexis de Tocqueville, *The Old Regime and the Revolution, Volume I: The Complete Text (Volume 1)*, by Francois Furet (Editor), Francoise Melonio (Editor), Alan S. Kahan (Translator), (University Of Chicago Press, 2003).
Robert T. Gannett Jr., *Tocqueville Unveiled: The Historian and His Sources for The Old Regime and the Revolution* (University Of Chicago Press, 2003).
トクヴィル『旧体制と大革命』(小山勉訳、ちくま学芸文庫、1998年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、現代の全体主義や民主主義の諸問題を論じた研究を講読する。例えば、Juan J. Linz, *The Breakdown of Democratic Regimes: Crisis, Breakdown and Reequilibration. An Introduction*やSamuel P. Huntington, *The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century*, 比較的新しいCass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences*などを扱う。

また、Hannah Arendtの*The Human Condition: Second Edition*や*The Origins of Totalitarianism*など、20世紀の政治理論家のテキストでもできれば紹介し、ファシズム後の「民主的専制」について広く深く検討する。

最終的に、現代の政治理論の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
- 第2回 *Conformity: The Power of Social Influences*の序章読解
- 第3回 第1章読解(1)
- 第4回 第1章読解(2)
- 第5回 第1章読解(3)
- 第6回 第2章読解(1)
- 第7回 第2章読解(2)
- 第8回 第2章読解(3)
- 第9回 第3章読解(1)
- 第10回 第3章読解(2)
- 第11回 第3章読解(3)
- 第12回 第4章読解(1)
- 第13回 第4章読解(2)
- 第14回 結論読解

※この授業内容は一例で、受講者を見て、テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 政治学説史研究Ⅰを履修していること。
- 「政治思想史」(学部授業)レヴェルの知識は最低限身につけていること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキストの報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。

教科書

Cass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences* (NYU Press, 2019).
Timothy Snyder, *The Road to Unfreedom: Russia, Europe, America* (Tim Duggan Books, 2018).
Hannah Arendt, *The Human Condition: Second Edition* (University of Chicago Press, 2019).
Hannah Arendt, *The Origins of Totalitarianism* (Penguin Classics, 2017).
Hannah Arendt, *Between Past and Future*, Revised edition (Penguin Classics, 2006).
Juergen Habermas, *Legitimation Crisis* (Beacon Press, 1975).

参考書

アーレント『新版 全体主義の起源』(みすず書房)。
アーレント『過去と未来の間』(みすず書房)。
アーレント『人間の条件』(ちくま学芸文庫)。
ハーバーマス『後期資本主義における正統化の諸問題』(岩波文庫)。
サミュエル・P・ハンティントン『第三の波：二〇世紀後半の民主化』(白水社)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋政治史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

本講義前半では、まず、ジェンダー史研究のための基本書であるジョーン・W・スコットの『ジェンダーと歴史学』を読む。そのうえで、ドイツ・ジェンダー史について学ぶ。具体的には、ドイツ・ヴィルヘルム時代(1890-1914年)に、主に市民社会で展開された性道徳をめぐる論争から、国家・社会における性道徳の形成プロセスを明らかにし、さらには個人の身体的・心性的なセクシュアリティに歴史的にアプローチすることにより、セクシュアリティと政治社会との関係性を探る。

後半では、大衆消費社会の萌芽期であるヴァイマル時代からナチ時代(1933-1945)にかけて、政治・経済・社会状況の変化にともない、産児制限や性道徳をめぐる議論や政策・制度がどのように変化したのかについて考察する。その際、ヴィルヘルム時代、ヴァイマル時代、ナチ時代の連続性・非連続性、また国家・社会・家族・個人の相互の関係性についても考究する。さらに、ヨーロッパ諸国間との比較・日独比較も試みたい。

授業で取りあげる文献は次の通りである：(1)『ジェンダーと歴史学』、(2)『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治』、(3)『愛と欲望のナチズム』到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：本授業で取り上げる文献(1)～(3)の紹介
(1)『ジェンダーと歴史学』ジョーン・W・スコット(荻野美穂訳)(平凡社)2022年。
(2)『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治：性道徳をめぐる葛藤と挑戦』水戸部由枝(昭和堂)2022年。
(3)『愛と欲望のナチズム』田野大輔(講談社学術文庫)2024年。
- 第2回 (1)序論、第Ⅰ部 フェミニズム歴史学に向けて
第3回 (1)第Ⅱ部 ジェンダーと階級
第4回 (1)第Ⅲ部 歴史のなかのジェンダー(第5章・第6章)
第5回 (1)第Ⅲ部(第7章)
第6回 (1)第Ⅳ部 平等と差異
第7回 (2)序章、第1部 新しい性道徳の波紋(第1章)
第8回 (2)第1部(第2章～第4章、補論1～2)
第9回 (2)第Ⅱ部 性の二重道徳と法の支配：バーデン大公国を例に
第10回 (3)第1章 市民道徳への反発
第11回 (3)第2章 健全な性生活
第12回 (3)第3章 男たちの憤り
第13回 (3)第4章 美しく純粋な裸体
第14回 (3)第5章 欲望の動員

履修上の注意

授業内容をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
希望があれば、英語・ドイツ語文献を読むことも可能である。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。
参加者全員が毎回テキストを読んでくこと。

教科書

- (1)ジョーン・W・スコット(荻野美穂訳)『ジェンダーと歴史学』平凡社、2022年。
(2)水戸部由枝『近代ドイツにみるセクシュアリティと政治：性道徳をめぐる葛藤と挑戦』昭和堂、2022年。
(3)田野大輔『愛と欲望のナチズム』講談社学術文庫、2024年。(初版、講談社メチエ、2012年)

参考書

『生殖の政治学：フェミニズムとパースコントロール』荻野美穂(山川出版社)1994年。
『中絶論争とアメリカ社会：身体をめぐる戦争』荻野美穂(岩波書店)2012年。(初版：2001年)
『「家族計画」への道：近代日本の生殖をめぐる政治』荻野美穂(岩波書店)2008年。
『家のからだ：フェミニズム以後』荻野美穂(岩波新書)2014年。
『ナチス機関誌「女性展望」を読む：女性表象、日常生活、戦時動員』桑原ヒサ子(青弓社)2020年。
『ナチス・ドイツのクリスマス：ナチス機関誌「女性展望」にみる祝祭のプロパガンダ』桑原ヒサ子(青弓社)2024年。
他、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋政治史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

本講義では、ナチ期末期および戦後ドイツにおけるセクシュアリティの統制と解放について考察する。第二次世界大戦中のドイツ占領地域およびベルリン陥落以降、主にソ連・アメリカ占領地域で生じた性暴力をはじめとする性にかかわる問題を解決するため、西ドイツは1949年の建国当初、核家族、性別役割分業の推奨、男性単独稼得者モデルなどの特徴をもつ近代家族の再建を理念とした。しかし1960年代に入ると、法律、伝統的な性道徳やイデオロギーを通じては、結婚・子育てからの逸脱、家族の多様化、若者たちの「性の解放」を堰き止められなくなる。では、結婚・子育て・家族・性道徳に関する見解はいつ頃からどのように変容したのか。そして公権力側はどのような対応に迫られたのか。

本講義では、文献(1)『戦場の性』と(2)『セックスとナチズムの記憶』をもとに、東西ドイツ比較ならびに国際比較を試みながら、これらの問いについて考察する。

到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：「戦後ドイツのセクシュアリティ」の概説と本授業で取り上げる文献(1)(2)の紹介
(1)『戦場の性：独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』レギーナ・ミュールホイザー(姫岡とし子監訳)(岩波書店)2015年。
(2)『セックスとナチズムの記憶：20世紀ドイツにおける性の政治化』ダグマー・ヘルツォーク(川越修他訳)(岩波書店)2012年。
- 第2回 アデナウアー時代の大衆文化/世代間闘争としての「68年運動」
第3回 (1)第1章 本書の視角
第4回 (1)第2章 性暴力
第5回 (1)第3章 取引としての性
第6回 (1)第4章 合意の上での関係
第7回 (1)第5章 占領下ドイツの子どもたち
第8回 (2)第1章 セックスと第三帝国
第9回 (2)第2章 異性愛のもろさ
第10回 (2)第3章 正常化への執念
第11回 (2)第4章 快楽という道徳
第12回 (2)第5章 社会主義のロマンス
第13回 (2)第6章 反ファシズムの身体
第14回 「戦後ドイツのセクシュアリティ」をめぐる政治
※毎回、修士論文の進捗状況の確認と指導を行う。

履修上の注意

授業内容をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
希望があれば、英語・ドイツ語文献を読むことも可能である。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。
参加者全員が毎回テキストを読んでくこと。

教科書

- (1)『戦場の性：独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』レギーナ・ミュールホイザー(姫岡とし子監訳)(岩波書店)2015年。
(2)『セックスとナチズムの記憶：20世紀ドイツにおける性の政治化』ダグマー・ヘルツォーク(川越修他訳)(岩波書店)2012年。

参考書

『ジェンダーで学ぶ歴史学』弓削尚子・兼子歩編(世界思想社)2026年。
『ドイツ文化史入門：16世紀から現代まで』若尾祐司・井上茂子編(昭和堂)2011年。
『消費生活と女性：ドイツ社会史(1920～70年)の一側面』斎藤哲(日本経済評論社)2007年。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備 考	
科 目 名	西洋政治史演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

「戦後ドイツのセクシュアリティと政治」

本授業では、戦後復興期のドイツにおける近代家族の再建とセクシュアリティの統制、東西ドイツにみるライフコース・家族・性道德の変容という二つのテーマを設定し、前者では、西側の占領軍兵士とドイツ人女性たちの問題への国家の取り組みについて、後者では、ライフコースの変容、若者たちの性意識・性行動の変化、公権力側の対応(性教育・啓蒙活動)について考察する。

占領期から50年代にかけての西ドイツでは、セクシュアリティや身体を厳しく管理することで、近代家族(標準的家族)形態にもとづく家族の再建をある程度成し遂げられた。しかし60年代以降は社会運動を通じて、セクシュアリティは権力・自己決定権の問題として捉えられ、私的領域での過剰な統制への若者たちの抵抗に対して国家は有効な政策・制度を打ち出せない状態へと陥った。また一党独裁のもと、社会運動を展開できなかった東ドイツでもこの傾向は垣間見られ、最終的にセクシュアリティは社会的なものではなく個人的なものであり続けた。

こうした歴史のなかに「セクシュアリティと政治」の関係性はどのようにみえてくるのか。本講義ではこの関係性について、ドイツ語テキストVolkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft* を読みながら考察する。なお本講義では、国際比較の視点から、日本のケースについても確認する。
到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション:授業内容の説明と本授業で取り上げる文献の解説
Volkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft*, Frankfurt am Main/New York.
(1) Kontinuität und Diskontinuität: Die Deutsche Gesellschaft für Sexualforschung (19. Kapitel, S.422 - 429)
(2) Sexualforschung in den letzten Jahrzehnten des 20. Jahrhunderts (23. Kapitel, S.487 - 509)
(1) Licht und Schatten (S.422, Z.32 - 424)の訳
第2回 (1) Die deutsche Gesellschaft für Sexualforschung (S.425 - 429)
第3回 (2) Die schwierigen Jahre des Beginns (S.487 - 489, Z.15)
第4回 (2) (S.489, Z.16 - 491, Z.32)
第5回 (2) (S.491, Z.33 - 493, Z.12)
第6回 (2) Sexuologie zwischen Repression und Anpassung (S.493, Z.13 - 495, Z.9)
第7回 (2) (S.495, Z.10 - 496, Z.42)
第8回 (2) (S.496, Z.43 - 498, Z.37)
第9回 (2) Wandel durch Empirie (S.498, Z.38 - 501, Z.32)
第10回 (2) Sexualwissenschaft in den siebziger und achtziger Jahren (S.501, Z.33 - 504, Z.38)
第11回 (2) Homosexualität und DDR-Sexualwissenschaft (S.504, Z.39 - 506, Z.25)
第12回 (2) (S.506, Z.26 - 509)
第13回 論文(1)と(2)に関するディスカッション
第14回 修士論文発表会

履修上の注意

- 1)本講義では、基本的にドイツ語テキストを取り上げるので、ドイツ語文法を事前に習得しておくこと。
2)テキストは、教員が用意する。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者にはドイツ語文章を全訳したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。
参加者全員が毎回テキストを読んでくこと。

教科書

Volkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft: Mit 210 Abbildungen und einem Beitrag von Günter Grau*, Frankfurt am Main/New York.

参考書

『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治：性道德をめぐる葛藤と挑戦』水戸部由枝(昭和堂) 2022年。
『生殖の政治学：フェミニズムとパースコントロール』荻野美穂(山川出版社) 1994年。
『中絶論争とアメリカ社会：身体をめぐる戦争』荻野美穂(岩波書店)2012年。(初版：2001年)
『「家族計画」への道：近代日本の生殖をめぐる政治』荻野美穂(岩波書店) 2008年。
『女のからだ：フェミニズム以後』荻野美穂(岩波新書) 2014年。
他、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起（3、4点）については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度（報告・出席など、70%）、授業への貢献度（30%）を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備 考	
科 目 名	西洋政治史演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

「戦後ドイツのセクシュアリティと政治」

本授業では、戦後復興期のドイツにおける近代家族の再建とセクシュアリティの統制、東西ドイツにみるライフコース・家族・性道德の変容という二つのテーマを設定し、前者では、西側の占領軍兵士とドイツ人女性たちの問題への国家の取り組みについて、後者では、ライフコースの変容、若者たちの性意識・性行動の変化、公権力側の対応(性教育・啓蒙活動)について考察する。

占領期から50年代にかけての西ドイツでは、セクシュアリティや身体を厳しく管理することで、近代家族(標準的家族)形態にもとづく家族の再建をある程度成し遂げられた。しかし60年代以降は社会運動を通じて、セクシュアリティは権力・自己決定権の問題として捉えられ、私的領域での過剰な統制への若者たちの抵抗に対して国家は有効な政策・制度を打ち出せない状態へと陥った。また一党独裁のもと、社会運動を展開できなかった東ドイツでもこの傾向は垣間見られ、最終的にセクシュアリティは社会的なものではなく個人的なものであり続けた。

こうした歴史のなかに「セクシュアリティと政治」の関係性はどのようにみえてくるのか。本講義ではこの関係性について、ドイツ語テキストVolkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft* を読みながら考察する。なお本講義では、国際比較の視点から、日本のケースについても確認する。
到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション:本講義で取り上げる文献の紹介と講読
Volkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft*, Frankfurt am Main/New York.
(1) Vom verspäteten Kinsey bis zum Einbruch von Aids (20. Kapitel, S.430-458):
(2) Einmaleins der Lust? (21. Kapitel, S.459 - 477)
(1) Die Wende zur Empirie (S.430 - 433, Z.18)の訳
第2回 (1) Frankfurter Institut für Sexualwissenschaft (S.433, Z.19 - 439)
第3回 (1) Zur Lage der Sitten in den 1970er und 1980er Jahren (S.440 - 443, Z.13)
第4回 (1) Rolf Gindorfs andere Gesellschaft für sozialwissenschaftliche Sexualforschung (S.443, Z.14 - 447, Z.3)
第5回 (1) Magnus-Hirschfeld-Renaissance (S.447, Z.4 - 450, Z.13)
第6回 (1) (S.450, Z.14 - 455, Z.12)
第7回 (1) Zeitschrift für Sexualforschung (S.455, Z.13 - 458)
第8回 (2) Erste Thesen und Studien (S.459 - 462, Z.28)
第9回 (2) Erste Disziplinierungen (S.462, Z.29 - 464, Z.23)
第10回 (2) Lauter Premieren (S.464, Z.24 - 467, Z.38)
第11回 (2) Auf dem Weg zu Standards (S.467, Z.39 - 469, Z.18)
第12回 (2) Therapistische Brüche im Westen (S.469, Z.19 - 471, Z.29)
第13回 (2) Betrachtungsweise oder Disziplin? (S.471, Z.30 - 474, Z.14)
第14回 (2) Eine traurige Bilanz (S.474, Z.15 - 477)

履修上の注意

- 1)本講義では、基本的にドイツ語テキストを取り上げるので、ドイツ語文法を事前に習得しておくこと。
2)テキストは、教員が用意する。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者にはドイツ語文章を全訳したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。
参加者全員が毎回テキストを読んでくこと。

教科書

Volkmar Sigusch (2008), *Geschichte der Sexualwissenschaft: Mit 210 Abbildungen und einem Beitrag von Günter Grau*, Frankfurt am Main/New York.

参考書

『近代ドイツ史にみるセクシュアリティと政治：性道德をめぐる葛藤と挑戦』水戸部由枝(昭和堂) 2022年。
『生殖の政治学：フェミニズムとパースコントロール』荻野美穂(山川出版社) 1994年。
『中絶論争とアメリカ社会：身体をめぐる戦争』荻野美穂(岩波書店)2012年。(初版：2001年)
『「家族計画」への道：近代日本の生殖をめぐる政治』荻野美穂(岩波書店) 2008年。
『女のからだ：フェミニズム以後』荻野美穂(岩波新書) 2014年。
他、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起（3、4点）については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度（報告・出席など、70%）、授業への貢献度（30%）を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL532J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

本演習は、外交史に関する研究論文を執筆するための作業日程を確定し、その能力を養成するものである。具体的には、作業工程の把握と確定、史料読解、先行研究との関わりなどを考えながら論文完成へと至るチュートリアルを行う。

到達目標：

研究論文の先行研究内容を把握し、論文の骨格を確定すること。

授業内容

近現代外交史研究のヒストリオグラフィーを熟知し、方法的に外交史研究の進め方を学ぶ

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 先行研究リサーチの方法
- 第3回 先行研究リサーチの方法(続)
- 第4回 近現代外交史の展開
- 第5回 近現代外交史の展開(続)
- 第6回 ヨーロッパ統合史の研究動向(総論)
- 第7回 ヨーロッパ統合史の研究動向(20世紀以前)
- 第8回 ヨーロッパ統合史の研究動向(戦間期)
- 第9回 ヨーロッパ統合史の研究動向(40年代)
- 第10回 ヨーロッパ統合史の研究動向(50年代)
- 第11回 ヨーロッパ統合史の研究動向(60年代)
- 第12回 ヨーロッパ統合史の研究動向(70年代)
- 第13回 ヨーロッパ統合史の研究動向(80年代)
- 第14回 研究構想報告

履修上の注意

履修希望者は出来るだけ早くに教員とコンタクトを取り、常に準備を怠らないこと。本演習内容に関する疑問を自分の中に抱え込まず、些細なことで構わないので、教員とコンタクトを絶やさないこと。そのうえで、今回の授業範囲について、事前に参考書等を調べ、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

演習開始時に指示する。

参考書

演習開始時に指示するが、以下については目を通しておいてほしい。

遠藤乾(編)『ヨーロッパ統合史』(名古屋大学出版会)
佐々木雄太『国際政治史』(名古屋大学出版会)

課題に対するフィードバックの方法

課された課題へのフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な内容は議事録として書面に残して後日相互に確認できるようにする。

成績評価の方法

受講者が授業時間内に行った報告や討論、執筆された論文などを総合的に勘案して行う。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。

科目ナンバー：(PE) POL532J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

本演習は、外交史に関する研究論文を執筆するための作業日程を確定し、その能力を養成するものである。具体的には、作業工程の把握と確定、史料読解、先行研究との関わりなどを考えながら論文完成へと至るチュートリアルを行う。

到達目標：

外交史に関する研究論文の執筆に必要な研究能力、例えば史料の批判的読解能力、先行研究との位置づけ、歴史学方法論などの能力を養成すること。

授業内容

アメリカ国務省が発行するアメリカ外交史史料(FRUS)およびイギリス外交史料(DBPO)を読解し、一次史料から如何にして研究論文につなげていくのかを学ぶ。なお、受講者が仏語を解す場合はフランス外交史史料を読む。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 問題設定と問題意識
- 第3回 作業仮説とリサーチクエスチョン
- 第4回 外交史料の扱い方
- 第5回 外交史料の扱い方(続)
- 第6回 アメリカ外交史史料(FRUS)読解(1)
- 第7回 アメリカ外交史史料(FRUS)読解(2)
- 第8回 アメリカ外交史史料(FRUS)読解(3)
- 第9回 アメリカ外交史史料(FRUS)読解(4)
- 第10回 イギリス外交史史料(DBPO)読解(1)
- 第11回 イギリス外交史史料(DBPO)読解(2)
- 第12回 イギリス外交史史料(DBPO)読解(3)
- 第13回 イギリス外交史史料(DBPO)読解(4)
- 第14回 研究構想報告

履修上の注意

史料に基づいて研究論文を執筆する人を対象とした演習である。今回の授業範囲について、事前に教科書や参考書等で調べたうえで、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な項目については書面として議事録として残し、後日相互に確認できるようにする。

成績評価の方法

履修者が演習時においてなされた報告や討論への参加具合などを総合的に勘案して行う。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL632J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

本演習は、外交史に関する研究論文を執筆するための作業日程を確定し、その能力を養成するものである。具体的には、作業工程の把握と確定、史料読解、先行研究との関わりなどを考えながら論文完成へと至るチュートリアルを行う。

到達目標：

自分が執筆する研究テーマに関連する史料を、自ら主体的に読解・解読できるようになること。

授業内容

先行研究に当たる論文を読み、研究遂行に有用な史料を読解する。

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 先行研究論文調査(1)
- 第3回 先行研究論文調査(2)
- 第4回 先行研究論文調査(3)
- 第5回 先行研究の特徴調査(1)
- 第6回 先行研究の特徴調査(2)
- 第7回 先行研究の特徴調査(3)
- 第8回 関連史料読解(1)
- 第9回 関連史料読解(2)
- 第10回 関連史料読解(3)
- 第11回 関連史料読解(4)
- 第12回 関連史料読解(5)
- 第13回 関連史料読解(6)
- 第14回 関連史料読解(7)

履修上の注意

指示された次回の内容について、かならず準備したうえで、事前に教科書や参考書等で調べておくこと。授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

回次の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な点は書面で議事録に残し、後日お互い確認できるようにする。

成績評価の方法

履修者が演習において行った報告や討論への参加具合などを総合的に勘案して行う。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。

科目ナンバー：(PE) POL632J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

本演習は、外交史に関する研究論文を執筆するための作業日程を確定し、その能力を養成するものである。具体的には、作業工程の把握と確定、史料読解、先行研究との関わりなどを考えながら論文完成へと至るチュートリアルを行う。

到達目標：

論文の執筆に必要な史料を読解し、論文を定められた期限内に執筆・完成すること。

授業内容

以下の計画に従って、受講者が研究論文を完成させるように研究をすすめる。

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 関連史料読解(1)
- 第3回 関連史料読解(2)
- 第4回 関連史料読解(3)
- 第5回 関連史料読解(4)
- 第6回 研究の射程の確認(1)
- 第7回 研究の射程の確認(2)
- 第8回 問題設定の確認(1)
- 第9回 問題設定の確認(2)
- 第10回 史料実証の確認(1)
- 第11回 史料実証の確認(2)
- 第12回 史料実証の確認(3)
- 第13回 仮説と結論の確認(1)
- 第14回 仮説と結論の確認(2)

履修上の注意

回次の予習を必ず行い、回次の授業範囲について、事前に教科書や参考書等で調べておくこと。授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

締め切りを守ること。

準備学習（予習・復習等）の内容

回次の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な点は書面で議事録に残し、後日お互い確認できるようにする。

成績評価の方法

履修者が演習時において行った報告や討論への参加具合、作成された論文の完成度などを総合的に勘案して行う。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

外国人によって書かれた英文による日本政治の研究を通して、歴史的事実の確認と分析視点の重要性を認識する。
またそれらを受講生相互で意見交換をすることによって、各人が自分なりの歴史観と分析視座を獲得する。

授業内容

- Ⅰ 外国人の眼を通した日本政治(史)を手がかりに、日本政治がたどった「事実」(軌跡)を見る。
- 第1週:イントロダクションー本授業の狙いとアプローチ手法について
- 第2週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(1)
- 第3週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(2)
- 第4週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(3)
- 第5週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(4)
- 第6週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(5)
- 第7週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(6)
- 第8週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(7)
- 第9週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(8)
- 第10週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(9)
- 第11週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(10)
- 第12週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(11)
- 第13週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(12)
- 第14週:総括

履修上の注意

当該範囲に関する事項について、事前に基礎的事項を確認しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

主として現代政治に関わることを対象とするため、政治学の基礎を身につけておくことを心がけておくとともに、テキストをしっかり読みこんでおくこと。

教科書

4月の第1回目の授業の際に指定します。

参考書

特定のものは使用しません。必要に応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)で判断します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

外国人によって書かれた英文による日本政治の研究を通して、歴史的事実の確認と分析視点の重要性を認識する。
またそれらを受講生相互で意見交換をすることによって、各人が自分なりの歴史観と分析視座を獲得する。

授業内容

- Ⅱ 外国人の眼を通した日本政治(史)を手がかりに、日本政治がたどった「事実」(軌跡)を見る。
- 第1週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(1)
- 第2週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(2)
- 第3週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(3)
- 第4週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(4)
- 第5週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(5)
- 第6週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(6)
- 第7週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(7)
- 第8週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(8)
- 第9週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(9)
- 第10週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(10)
- 第11週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(11)
- 第12週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(12)
- 第13週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(13)
- 第14週:総括

履修上の注意

当該箇所に関する基礎的事項を事前に調べておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

主として戦後政治に関わることをテーマとするので、テキストをしっかり読みこむとともに、現代政治に関する基礎知識をマスターするよう心がけること。

教科書

日本政治史演習Ⅰと同じテキストを使用します。

参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)で判断します。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		小西 徳應

授業の概要・到達目標

外国人によって書かれた英文による日本政治の研究を通して、歴史的事実の確認と分析視点の重要性を認識する。
またそれらを受講生相互で意見交換をすることによって、各人が自分なりの歴史観と分析視座を獲得する。

授業内容

Ⅲ 外国人の眼を通した日本政治(史)を手がかりに、日本政治がたどった「事実」(軌跡)を見る。

- 第1週:イントロダクションー本科目の狙いとアプローチ手法について
第2週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(1)
第3週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(2)
第4週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(3)
第5週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(4)
第6週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(5)
第7週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(6)
第8週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(7)
第9週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(8)
第10週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(9)
第11週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(10)
第12週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(11)
第13週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(12)
第14週:総括

履修上の注意

当該箇所に関する基礎的事項を事前に調べておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

主として戦後政治に関わることをテーマとするので、テキストをしっかりと読みこむとともに、現代政治学の基礎をマスターするよう心がけること。

教科書

第1回目の授業で指定します。

参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)で判断します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		小西 徳應

授業の概要・到達目標

外国人によって書かれた英文による日本政治の研究を通して、歴史的事実の確認と分析視点の重要性を認識する。
またそれらを受講生相互で意見交換をすることによって、各人が自分なりの歴史観と分析視座を獲得する。

授業内容

Ⅳ 外国人の眼を通した日本政治(史)を手がかりに、日本政治がたどった「事実」(軌跡)を見る。

- 第1週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(1)
第2週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(2)
第3週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(3)
第4週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(4)
第5週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(5)
第6週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(6)
第7週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(7)
第8週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(8)
第9週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(9)
第10週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(10)
第11週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(11)
第12週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(12)
第13週:テキストの翻訳と討論を通し、日本人が気付かない気づいてこなかった事柄に対し認識を深める(13)
第14週:総括

履修上の注意

当該箇所に関する基礎的事項を事前に調べておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

主として戦後政治に関わることをテーマとするので、テキストをしっかりと読みこむとともに、現代政治学の基礎をマスターするよう心がけること。

教科書

日本政治史演習Ⅲと同じテキストを使用します。

参考書

必要に応じて、授業の中で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)で判断します。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けた文献の探し方、読み方、テーマの発見方法、そして文章をどのように構成するかについて、課題を設けて実際にそれに取り組みながら指導する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション 講読文献の決定
- 第2回 基本文献の輪読(1)
文献の探し方、集め方の基本として、論文註のどこに注目すべきかを理解してもらう。必要な資料や文献とそうでないものの見分け方を知る。
- 第3回 基本文献の輪読(2)
- 第4回 基本文献の輪読(3)
- 第5回 基本文献の輪読(4)
- 第6回 外国語文献の読み方(1)
修士論文に関連しそうな外国語文献の読み方を指導し、レジュメづくりを行なう。
- 第7回 外国語文献の読み方(2)
- 第8回 外国語文献の読み方(3)
- 第9回 外国語文献の読み方(4)
- 第10回 修士論文テーマについての報告
修士論文作成のためのテーマの絞り込みを促す。先行研究や関連文献のどこに注目し、論点を摘出すべきかについて、そのテーマについての最近の研究動向をにらみながら考えてもらう。
- 第11回 修士論文テーマについての検討
- 第12回 修士論文テーマに即した文献講読(1)
- 第13回 修士論文テーマに即した文献講読(2)
- 第14回 修士論文テーマについての再検討

履修上の注意

- 読みたい文献を考えておくこと。
- 遅刻しないこと。
- 英語の基礎学力をつけておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 授業用にレジュメの準備をすること。
- 必要に応じて指定する文献を読んでくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

科目ナンバー：(PE) POL592J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

修士論文作成の手順について、春学期に引き続き演習形式で学ぶ。

授業内容

- 第1回 イントロダクション、夏休みの成果確認
- 第2回 修士論文章立て発表
- 第3回 関連する文献の講読をもとにした報告(1)
- 第4回 関連する文献の講読をもとにした報告(2)
- 第5回 修士論文章立ての再検討
- 第6回 修士論文本文の一部を検討(1)
- 第7回 修士論文本文の一部を検討(2)
- 第8回 修士論文本文の一部を検討(3)
- 第9回 関連する文献との突き合わせ、報告(1)
- 第10回 関連する文献との突き合わせ、報告(2)
- 第11回 修士論文本文の一部を検討(4)
- 第12回 全体の検討
- 第13回 最終確認
- 第14回 年度のまとめ

履修上の注意

- 読みたい文献を考えておくこと。
- 遅刻しないこと。
- 英語の基礎学力をつけておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 授業用にレジュメの準備をすること。
- 必要に応じて指定する文献を読んでくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けた文献の探し方、読み方、テーマの発見方法、そして文章をどのように構成するかについて、課題を設けて実際にそれに取り組みながら指導する。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定
- 第2回 基本文献の輪読(1)
文献の探し方、集め方の基本として、論文註のどこに注目すべきかを理解してもらう。必要な資料や文献とそうでないものの見分け方を知る。
- 第3回 基本文献の輪読(2)
- 第4回 基本文献の輪読(3)
- 第5回 基本文献の輪読(4)
- 第6回 外国語文献の読み方(1)
修士論文に関連しそうな外国語文献の読み方を指導し、レジュメづくりを行なう。
- 第7回 外国語文献の読み方(2)
- 第8回 外国語文献の読み方(3)
- 第9回 修士論文テーマについての報告
修士論文作成のためのテーマの絞込みを促す。先行研究や関連文献のどこに注目し、論点を摘出すべきかについて、そのテーマについての最近の研究動向をにらみながら考えてもらう。
- 第10回 修士論文テーマについての検討
- 第11回 修士論文テーマに即した文献講読(1)
- 第12回 修士論文テーマに即した文献講読(2)
- 第13回 修士論文テーマについての再検討
- 第14回 まとめ

履修上の注意

読みたい文献を考えておくこと。
遅刻しないこと。
英語の基礎学力をつけておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用にレジュメの準備をすること。
必要に応じて指定する文献を読んでくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

科目ナンバー：(PE) POL692J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

修士論文作成の手順について、春学期に引き続き演習形式で学ぶ。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション、夏休みの成果確認
- 第2回 修士論文章立て発表
- 第3回 関連する文献の講読をもとにした報告(1)
- 第4回 関連する文献の講読をもとにした報告(2)
- 第5回 修士論文章立ての再検討
- 第6回 修士論文本文の一部を検討(1)
- 第7回 修士論文本文の一部を検討(2)
- 第8回 修士論文本文の一部を検討(3)
- 第9回 修士論文本文の一部を検討(4)
- 第10回 関連する文献との突き合わせ、報告(1)
- 第11回 関連する文献との突き合わせ、報告(2)
- 第12回 修士論文本文の一部を検討(5)
- 第13回 全体の検討
- 第14回 最終確認

履修上の注意

読みたい文献を考えておくこと。
遅刻しないこと。
英語の基礎学力をつけておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

レジュメの作成と、指定する文献を読んで準備してくること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治学説史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、Alexis de Tocqueville, *The Ancien Regime and the Revolution*を輪読することで、「民主的専制」としての行政権力の集中がフランス革命以前(アンシャン・レジーム期)にいかんして起こったのか、またそれがいかなる特徴を持つに至ったのかを検討する。それは、現代政治の「ポピュリズム」と呼ばれる現象を理解するうえでも資するところがあるはずである。

また同時に、現代中国で同書が何故に注目されているのか、あるいは革命が起こりうる社会を分析するうえで何故に有益とされるのかを、その社会心理学的考察にも光を当てながらじっくり考えてみたい。

最終的に、政治思想の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イン트로
 - 第2回 *The Ancien Regime and the Revolution*の解説
 - 第3回 第1部読解
 - 第4回 第2部読解(1)
 - 第5回 第2部読解(2)
 - 第6回 第2部読解(3)
 - 第7回 第2部読解(4)
 - 第8回 第2部読解(5)
 - 第9回 第3部読解(1)
 - 第10回 第3部読解(2)
 - 第11回 第3部読解(3)
 - 第12回 第3部読解(4)
 - 第13回 第3部読解(5)
 - 第14回 まとめ
- ※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 「政治思想史」(学部講義) レヴェルの知識は最低限身につけていること。
- Tocquevilleの政治思想に関する著書を一冊でも読んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキスト *The Ancien Regime and the Revolution*の報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくること。

教科書

Tocqueville, *The Ancien Regime and the French Revolution (Cambridge Texts in the History of Political Thought)* by Jon Elster (Editor) and Arthur Goldhammer (Translator), (Cambridge University Press, 2011), or *L'Ancien regime et la Revolution* (Folio, 1985).

参考書

Alexis de Tocqueville, *The Old Regime and the Revolution, Volume I: The Complete Text (Volume 1)*, by Francois Furet (Editor), Françoise Melonio (Editor), Alan S. Kahan (Translator), (University Of Chicago Press, 2003).
Robert T. Gannett Jr., *Tocqueville Unveiled: The Historian and His Sources for The Old Regime and the Revolution* (University Of Chicago Press, 2003).
トクヴィル『旧体制と大革命』(小山勉訳、ちくま学芸文庫、1998年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治学説史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、現代の全体主義や民主主義の諸問題を論じた古典を講読する。例えば、Hannah Arendtの*The Human Condition: Second Edition*や*The Origins of Totalitarianism*など、20世紀の政治理論家のテキストの読解を通じて、ファシズム後の「民主的専制」について広く深く検討する。

最終的に、現代の政治理論の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イン트로
 - 第2回 *The Human Condition*の序章読解
 - 第3回 第1章読解(1)
 - 第4回 第1章読解(2)
 - 第5回 第2章読解(1)
 - 第6回 第2章読解(2)
 - 第7回 第3章読解(1)
 - 第8回 第3章読解(2)
 - 第9回 第4章読解(1)
 - 第10回 第4章読解(2)
 - 第11回 第5章読解(1)
 - 第12回 第5章読解(2)
 - 第13回 第6章読解(1)
 - 第14回 第6章読解(2)
- ※この授業内容は一例で、受講者を見て、テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 政治学説史研究Ⅰを履修していること。
- 「政治思想史」(学部授業) レヴェルの知識は最低限身につけていること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキストの報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくること。

教科書

Cass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences* (NYU Press, 2019).
Timothy Snyder, *The Road to Unfreedom: Russia, Europe, America* (Tim Duggan Books, 2018).
Hannah Arendt, *The Human Condition: Second Edition* (University of Chicago Press, 2019).
Hannah Arendt, *The Origins of Totalitarianism* (Penguin Classics, 2017).
Hannah Arendt, *Between Past and Future*, Revised edition (Penguin Classics, 2006).
Juergen Habermas, *Legitimation Crisis* (Beacon Press, 1975).

参考書

アーレント『新版 全体主義の起源』(みすず書房)。
アーレント『過去と未来の間』(みすず書房)。
アーレント『人間の条件』(ちくま学芸文庫)。
ハーバーマース『後期資本主義における正統化の諸問題』(岩波文庫)。
サミュエル・P・ハンティントン『第三の波：二〇世紀後半の民主化』(白水社)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋政治史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

本講義では、「下からの社会史」に関する数々の著書を発表してきた歴史家リチャード・J・エヴァンズの大著(1)『ヨーロッパ史1815-1914：力の追求下』所収の「帝国の代償」、およびナチズム研究の世界的権威である歴史家イアン・カーショの大著(2)『ヨーロッパ史1914-1949：地獄の淵から』を輪読しながら、ブルジョワ階級と労働者階級の対立、ナショナリズムの高揚、植民地主義・帝国主義の広がりといった特徴をもつ19世紀後半から20世紀半ばにかけての、政治・経済・社会・文化にみる歴史的連続性・非連続性(過去と現在との共通点・相違点)、社会現象の因果関係などについて考察する。

到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え直すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

第1回 イントロダクション：授業内容の説明と本授業で取り上げる文献の紹介

第2回 (1)第8章 帝国の代償(321-365頁)

第3回 (1)第8章 帝国の代償(365-428頁)

第4回 (2)第1章 瀬戸際で(21-54頁)

第5回 (2)第2章 大惨事(55-98頁)

第6回 (2)第3章 不穏な平和(99-147頁)

第7回 (2)第4章 火山の上で踊る(147-188頁)

第8回 (2)第5章 迫りくる暗雲(189-232頁)

第9回 (2)第6章 危険地帯(233-274頁)

第10回 (2)第7章 奈落へ(275-318頁)

第11回 (2)第8章 生き地獄(319-374頁)

第12回 (2)第9章 暗い数十年の静かな変化(375-428頁)

第13回 (2)第10章 灰の中から(429-474頁)

第14回 内容全体のまとめ・ディスカッション

履修上の注意

- 1) 授業内容の理解をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
- 2) 「西洋政治史研究Ⅰ」と「西洋政治史研究Ⅱ」は連続した内容であることから、セット履修することが望ましい。
- 3) 希望があれば、英語、ドイツ語文献を読むことも可能である。
- 4) 履修者全員の希望により、文献を変更する場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。参加者全員が毎回テキストを読んでもらうこと。

教科書

『ヨーロッパ史1914-1949：地獄の淵から(近現代ヨーロッパ200年史全4巻)』イアン・カーショー(白水社)2017年。
 (『ヨーロッパ史1815-1914：力の追求下』所収「帝国の代償」については、コピーを配布する予定)

参考書

『20世紀の歴史 上・下：両極端の時代』エリック・ホブズボーム(大井由紀訳)(筑摩書房)2018年。
 『灰燼のなかから：20世紀ヨーロッパ史の試み 上・下』コンラート・ヤーラオシュ(橋本伸也訳)(人文書院)2022年。
 他、授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋政治史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

本講義では、ナチズム研究の世界的権威である歴史家イアン・カーショーの大著『ヨーロッパ史1950-2017：分断と統合への試練』を輪読しながら、20世紀半ばから現代にかけての政治・経済・社会・文化にみる歴史的連続性・非連続性(過去と現在との共通点・相違点)、社会現象の因果関係などについて考察する。

到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え直すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方について考える力をつけること。

授業内容

第1回 イントロダクションと本授業で取り上げる文献の紹介

第2回 第1章 緊張下の大陸分断(21-52頁)

第3回 第2章 「西欧」の誕生(53-95頁)

第4回 第3章 鉄のたが(97-138頁)

第5回 第4章 良き時代(139-172頁)

第6回 第5章 破局のあとの文化(173-215頁)

第7回 第6章 異議申し立て(217-257頁)

第8回 第7章 転換(259-303頁)

第9回 第8章 変化の東風(305-342頁)

第10回 第9章 民衆パワー(343-381頁)

第11回 第10章 再スタート(383-423頁)

第12回 第11章 危険にさらされる世界(425-465頁)

第13回 第12章 危機の歳月(467-512頁)

第14回 内容全体のまとめ・ディスカッション

履修上の注意

- 1) 授業内容の理解をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
- 2) 「西洋政治史研究Ⅰ」と「西洋政治史研究Ⅱ」は連続した内容であることから、セット履修することが望ましい。
- 3) 希望があれば、英語、ドイツ語文献を読むことも可能である。
- 4) 履修者全員の希望により、文献を変更する場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを作成してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。参加者全員が毎回テキストを読んでもらうこと。

教科書

『ヨーロッパ史1950-2017：分断と統合への試練(近現代ヨーロッパ200年史全4巻)』イアン・カーショー(白水社)2019年。

参考書

『20世紀の歴史 上・下：両極端の時代』エリック・ホブズボーム(大井由紀訳)(筑摩書房)2018年。
 『灰燼のなかから：20世紀ヨーロッパ史の試み 上・下』コンラート・ヤーラオシュ(橋本伸也訳)(人文書院)2022年。
 他、授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿った形で授業内容を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL531J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

ウクライナ戦争が勃発し、冷戦終焉(Post Cold War)という時代自体が終わりを告げている、と言われている。

では、冷戦後の国際関係はどのように理解すべきだろうか。今この問題をめぐって様々な議論がなされているが、そのために、「この本／この論文を読めば冷戦後の国際秩序／国際関係が分かる」というものはまだ登場していない。では、どのように接近すべきか。

この授業では、冷戦後に登場したヨーロッパ安全保障を理解する論稿を読み、その時々で提示されたその読みにどの程度のレバンスーがあり、どの程度示唆的で、どの程度の外れなものだったのか、という点を考えたい。そのことを通じて、冷戦後のヨーロッパ国際関係が何を打ち立て、どのような秩序を作り上げていったのか(もしくは作り上げられなかったのか)を明らかにしたい。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：O Wæver, "European security identities", *Journal of common market studies*, 1996

第3回：M Mastanduno, "Preserving the unipolar moment: Realist theories and US grand strategy after the Cold War", *International security*, 1997

第4回：GJ Ikenberry, "Institutions, strategic restraint, and the persistence of American postwar order", *International security*, 1998

第5回：E Adler, "The spread of security communities: communities of practice, self-restraint, and NATO's Post—Cold War Transformation", *European journal of international relations*, 2008

第6回：PC Wood, "France and the post cold war order: The case of Yugoslavia", - *European Security*, 1994

第7回：Dirk Peters, "The debate about a new German foreign policy since unification"

第8回：German security policy within NATO - Rainer Baumann

第9回：German EU constitutional foreign policy - Wolfgang Wagner

第10回：German foreign policy since unification - Theory meets reality - Volker Rittberger & Wolfgang Wagner.

第11回：ME Sarotte, "Broken Promise"

第12回：B. Schwartz, "Cold War Continuities"

第13回：Gowan, "The NATO Powers and Balkan Tragedies"

第14回：総括と振り返り

履修上の注意

本書の内容をレジュメにして発表するだけでなく、担当範囲で触れられる政治学・社会科学上のトピックも含めて報告を行う。

それゆえ、今回の授業範囲について、事前に参考文献等で入念な準備が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

テキストとして取り上げる予定のものは以下の通り。コピーを配布する
O Wæver, "European security identities", *Journal of common market studies*, 1996

M Mastanduno, "Preserving the unipolar moment: Realist theories and US grand strategy after the Cold War", *International security*, 1997

GJ Ikenberry, "Institutions, strategic restraint, and the persistence of American postwar order", *International security*, 1998

E Adler, "The spread of security communities: communities of practice, self-restraint, and NATO's Post—Cold War Transformation", *European journal of international relations*, 2008

PC Wood, "France and the post cold war order: The case of Yugoslavia", - *European Security*, 1994

Volker Rittberger, ed., *German foreign policy since unification : theories and case studies*, Manchester University Press ; New York, 2001.

Grey Anderson, ed., *Natopolitanism. The Atlantic Alliance Since the Cold War*, Verso, 2023.

参考書

必要な書籍は開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な点は書面で議事録に残し、後日お互い確認できるようにする。

成績評価の方法

履修者が行う、授業への参画度・報告・発言・討論などの授業に対するコミットメントと内容理解を総合的に勘案して評価する。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。

受講者には、必要に応じて、テキストのコピーを用意する可能性がある。

科目ナンバー：(PE) POL531J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外交史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

概要：

日本語で書かれた外交史・国際関係史に関する重要な専門書を輪読する。

2022年以降戦争が各地で勃発する事態となり、これに関連する書籍が数多く登場した。そこで、戦争論およびロシア、アメリカに関する書籍を講読する。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：『戦争と人類』(1)

第3回：『戦争と人類』(2)

第4回：『戦争と交渉の経済学』(1)

第5回：『戦争と交渉の経済学』(2)

第6回：『戦争と交渉の経済学』(3)

第7回：『ブーチン』(1)

第8回：『ブーチン』(2)

第9回：『ブーチン』(3)

第10回：『ブーチン』(4)

第11回：『アメリカ・イン・ザ・ワールド』(1)

第12回：『アメリカ・イン・ザ・ワールド』(2)

第13回：『アメリカ・イン・ザ・ワールド』(3)

第14回：『アメリカ・イン・ザ・ワールド』(4)

履修上の注意

本書の内容をレジュメにして発表するだけでなく、担当範囲で触れられる政治学・社会科学上のトピックも含めて報告を行う。

それゆえ、今回の授業範囲について、事前に参考文献等で入念な準備が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

今回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。

教科書

グウィン・ダイヤー『戦争と人類』ハヤカワ新書、2023年。
クリストファー・ブラットマン『戦争と交渉の経済学』草思社、2023年。

フィリップ・ショート『ブーチン』、白水社、2023年。

ロバート・B・ゼーリッ『アメリカ・イン・ザ・ワールド：合衆国の外交と対外政策の歴史(上)(下)』日経BP、2023年。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業時間内に教員より口頭で行い、重要な点は書面で議事録に残し、後日お互い確認できるようにする。

成績評価の方法

履修者が行う、授業への参画度・報告・発言・討論などの授業に対するコミットメントと内容理解を総合的に勘案して評価する。

その他

内容は、出席者の問題関心に応じて変更する可能性がある。
受講者には、テキストのコピーを用意する。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治思想史研究Ⅰ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(政治学) 大久保 健晴		

授業の概要・到達目標

本授業では、近代日本の出発点に遡り、開国、明治維新を経て、日本の学者や政治家たちが、西洋のいかなる政治思想に触れながら国家建設に取り組んだのか、そしてまたアジア世界にどのような眼差しを向けたのか、検討します。

具体的には、福沢諭吉や中江兆民、陸奥宗光など、幕末明治期に活躍した知識人や政治家、外交官らを中心に、近代日本政治思想史に関する作品を取り上げ、輪読します。

授業では、毎回、担当者が報告した上で、全体でのディスカッションを行っていきます。文献の読み方、分析の仕方を学ぶとともに、東アジア及び西洋政治思想史の知識を習得し、現代の様々な政治課題を歴史的な視座から検討するスキルを身につけることが、授業の到達目標です。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 近世・近代日本の政治思想に関する資料調査の方法
- 第3回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(1)
- 第4回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(2)
- 第5回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(3)
- 第6回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(4)
- 第7回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(5)
- 第8回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(6)
- 第9回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(7)
- 第10回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(8)
- 第11回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(9)
- 第12回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(10)
- 第13回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(11)
- 第14回 総括

履修上の注意

授業の進め方などの詳細は、初回の授業でお話しします。履修予定者は、必ず初回授業に出席してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献は、必ず事前に読んできていただくことになります。また担当者になった回は、文献の内容を中心に、レジュメを作成し、報告していただくことになります。

教科書

詳細については初回の授業で、参加者と相談の上、確定しますので、あらかじめ文献を入手・購入する必要はありません。

参考書

大久保健晴『増補新装版 近代日本の政治構想とオランダ』（東京大学出版会、2022年）。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容80％、授業への貢献度20％

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治思想史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(政治学) 大久保 健晴		

授業の概要・到達目標

本授業では、西洋世界との文化接触に注目しながら、近代日本における外交思想の形成や対外認識の変容について検討します。今日の東アジア世界には、様々な課題が山積しています。この授業ではこれらの課題を念頭に、今一度、歴史を遡り、近世・近代東アジアの外交関係について、世界的な視座から学問的に解明します。

具体的には、上記の課題に関わる研究文献や一次史料を取り上げ、毎回、担当者が報告した上で、全体でのディスカッションを行っていきます。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 近世・近代東アジアの国際秩序を巡る問題視角
- 第3回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(1)
- 第4回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(2)
- 第5回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(3)
- 第6回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(4)
- 第7回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(5)
- 第8回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(6)
- 第9回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(7)
- 第10回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(8)
- 第11回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(9)
- 第12回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(10)
- 第13回 文献の輪読・報告と、全体でのディスカッション(11)
- 第14回 総括

履修上の注意

授業の進め方などの詳細は、初回の授業でお話しします。履修予定者は、必ず初回授業に出席してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献は、必ず事前に読んできていただくことになります。また担当者になった回は、文献の内容を中心に、レジュメを作成し、報告していただくことになります。

教科書

詳細については初回の授業にて、参加者と相談しながら確定しますので、あらかじめ文献を入手・購入する必要はありません。

参考書

大久保健晴『増補新装版 近代日本の政治構想とオランダ』（東京大学出版会、2022年）。

大久保健晴『今を生きる思想 福沢諭吉 最後の蘭学者』（講談社現代新書、2023年）。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容80％、授業への貢献度20％

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

発表担当学生がテキストの中からあらかじめ選んだテーマをもとに、テキストのサマリーと自身のアプローチによって明らかになったことを発表し、全員でその発表、およびテキスト内容に関する討論を行う。

これによって、日本の政治・社会の変遷を様々な視点から見るとともに、文献の「読み方」を会得することを目的としている。すなわち、テキストのサマリーを行う際にも、どこに、いかに着目するかは、本人の問題関心によるものである。同時にそのことは、まったく別の「読み方」が存在することを意味する。

そこで多様な「読み方」があることを自覚し、同時に「スタンダード」が何か、自分の問題関心をより明確にするにはどのようなアプローチが必要なのかを自覚できるようにする。

授業内容

第1回：イントロダクションー日本政治史を学ぶとはどういうことか

第2回：テキストに基づく発表と討論(1)

第3回：テキストに基づく発表と討論(2)

第4回：テキストに基づく発表と討論(3)

第5回：テキストに基づく発表と討論(4)

第6回：テキストに基づく発表と討論(5)

第7回：テキストに基づく発表と討論(6)

第8回：テキストに基づく発表と討論(7)

第9回：テキストに基づく発表と討論(8)

第10回：テキストに基づく発表と討論(9)

第11回：テキストに基づく発表と討論(10)

第12回：テキストに基づく発表と討論(11)

第13回：テキストに基づく発表と討論(12)

第14回：テキストに基づく発表と討論(13)

履修上の注意

近代・現代を限定することなく、歴史に視点を置いた授業に参加する院生の研究発表を基にして、議論・理解を深める。講義は参加院生の問題関心に沿って行われるものであり、担当教員が一方的に講義をおこなうものではないので、自分の問題意識を深めるとともに、広げるよう普段から意識しておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

1週前に他の報告者のテーマが発表されるので、テキストを読み、事前に予備知識を得て参加ください。

教科書

『戦後日本政治の変遷 史料と基礎知識』（小西徳應・竹内桂・松岡信之の編著）北樹出版、2020年を使用します。

参考書

必要に応じて、講義の中で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)に基づいて判断します。

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本政治史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

受講者一人ひとりが自己の研究テーマについて発表し、参加者全員で討議する。

この作業により、発表者は明確な問題意識をもってテーマの整理を行い、論文執筆に取り組めるようにするとともに、他の受講者は自分とは異なったテーマ・分析手法があることを認識し、自己の研究に幅を持たせることができるようになる。

授業内容

第1週：研究テーマに即した報告と討論(1)

第2週：研究テーマに即した報告と討論(2)

第3週：研究テーマに即した報告と討論(3)

第4週：研究テーマに即した報告と討論(4)

第5週：研究テーマに即した報告と討論(5)

第6週：研究テーマに即した報告と討論(6)

第7週：研究テーマに即した報告と討論(7)

第8週：研究テーマに即した報告と討論(8)

第9週：研究テーマに即した報告と討論(9)

第10週：研究テーマに即した報告と討論(10)

第11週：研究テーマに即した報告と討論(11)

第12週：研究テーマに即した報告と討論(12)

第13週：研究テーマに即した報告と討論(13)

第14週：研究テーマに即した報告と討論(14)

履修上の注意

近代・現代、国やテーマを限定することなく、参加する院生の研究テーマに即した発表を基にして、議論・理解を深める。講義は参加院生の問題関心に沿って行われ、担当教員が一方的に講義をおこなうものではないので、自分の問題意識を深めるとともに、広げることを普段から行ってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

1週前に他の報告者のテーマが発表されるので、事前に予備知識を得て参加ください。

教科書

各自の研究テーマに沿った授業であるため特定のテキストは用いません。

参考書

各自の研究テーマに沿った授業であるため特定の参考書は用いません。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によって行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)に基づき判断します。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

春学期は、富永茂樹 編監訳『トクヴィル選集』を読む。

授業内容

- 第1回 イントロダクション トクヴィルという思想家
第2回 1789年以前および以後におけるフランスの政治的社会的状態1
第3回 2
第4回 共和国はいかにして一人の主人を受け容れる用意ができたのか1
第5回 2
第6回 共和国でなくなりつつあった国民はどのようにして革命的なままとどまったのか1
第7回 2
第8回 貧困問題に関する覚書1
第9回 2
第10回 貧困問題に関する第二論文1
第11回 2
第12回 「合衆国における監獄鮮度とそのフランスでの適用」第二版序論
第13回 2
第14回 まとめ回第1回 日本におけるシュミット研究と本書

履修上の注意

予定より進みが遅くなる可能性があります。
参加者が時事問題や現代思想に興味を持っており、それについての討論の時間が長くなるからです。また、テキストから派生する講師の思想的注釈も長くなりがちです。
そのことをご承知おきください。

準備学習（予習・復習等）の内容

トクヴィル『アンシャンレジームと革命』を読むとトクヴィルの考えを知れるが内容が難しい。

教科書

富永茂樹編監訳『トクヴィル選集』

参考書

授業の中でその都度指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業中の発言、授業への貢献度

その他

初回は教科書なしで参加してもかまいません。

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	政治思想研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

秋学期は、松本彩花『独裁と喝采 カール・シュミット〈民主主義〉論の成立』（慶應義塾大学出版会、2025）を読む。

授業内容

- 第1回 イントロダクション 日本におけるシュミット研究
第2回 第一章 国家・個人__法学方法論
第3回 第一章つづき
第4回 第二章 独裁と民主主義
第5回 第二章つづき
第6回 第三章 政治神学・人民主権・主権独裁
第7回 第三章つづき
第8回 第四章 主権独裁と民主主義
第9回 第四章つづき
第10回 第五章 人民投票モデル・喝采・カリスマ概念の継承
第11回 第五章つづき
第12回 第六章 『憲法論』における民主主義的同一性原理
第13回 第六章つづき
第14回 まとめ回

履修上の注意

注意点は春学期同様、進みが遅いということ。例年参加者の発言意欲は高く、思想史から現代まで、様々な問題に関して、具体的な事例と一般的・理論的考察や思想的知見を往復しながら脳の運動を行うイメージ。

準備学習（予習・復習等）の内容

シュミットの著作を読んでみることを勧める。
慈学社から出ている著作集は、短い論考も入っていておすすめ。
本書と関係ある書籍としては
『憲法論』
『独裁』
などがあるが、とても難しい。

教科書

松本彩花『独裁と喝采 カール・シュミット〈民主主義〉論の成立』（慶應義塾大学出版会、2025）

参考書

授業内で適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業時の発言、授業への貢献度

その他

初回は教科書なしで参加しても構いません。高価な教科書なので希望者には該当箇所のコピーを配布予定。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（歴史・思想史系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 木寺 元		

授業の概要・到達目標

この授業では、いまの政治に関する重要なテーマに関するできる限り新しい政治学の英文論文を読む。そのことを通じ、いま政治学は何を議論し、何を明らかにしようとしているかの動向を理解し、できればそこで得られた知見を日本政治を見つめる際にどのように適用することが可能かを検討する。

授業内容

- Week 1: Introduction
 Week 2: Electoral Systems and Political Representation
 Week 3: Voting Behavior : Dealignment and Realignment
 Week 4: Political Parties: Organizations, Members, and Leaders
 Week 5: Party Systems and Competition: Fragmentation and Polarization
 Week 6: The Populist Challenge: Parties and Constituencies
 Week 7: Governments and Executives: Coalition Formation and Stability
 Week 8: Legislative Politics: Behavior, Speech, and Text Analysis
 Week 9: Judicial Politics: The Rule of Law and Courts
 Week 10: Civil Society, Social Movements, and Protest Politics
 Week 11: Identity Politics: Nationalism, Regionalism, and Gender
 Week 12: The Domestic Politics and Region
 Week 13: Democratic Backsliding and Illiberalism
 Week 14: Future Challenges

履修上の注意

各回のテーマは変更される可能性がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、担当者は投影用のプレゼン資料、それが用意できない場合は配布する紙のレジュメを用意すること。細かい方法論や分析の手法は理解できなくてよい。最低限、その論文は何を問いに立て、それに対してどう答えたのかを明らかにすること。他の参加者は、可能な限り目を通し、日本政治を分析するとしたらどう言う議論が可能か、を考えておくこと。

教科書

教科書は使用しない。各回のテーマに関わる論文を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（歴史・思想史系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本講の目的は、広くマス・メディア、ジャーナリズムに関する本格的で高度な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることである。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目指す共同作業を意味する。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、多量の文献課題を要求する。当然、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最後に、担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

授業内容

受講者数によるが、現時点では、教員が指定する英語の文献・学術論文を全員が精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
 第2回 研究テーマなど受講者による自己プレゼンテーション
 第3回 文献の精読
 第4回 文献の要約・所感発表とディスカッション 1
 第5回 文献の精読
 第6回 文献の要約・所感発表とディスカッション 2
 第7回 文献の精読
 第8回 文献の要約・所感発表とディスカッション 3
 第9回 文献の精読
 第10回 文献の要約・所感発表とディスカッション 4
 第11回 文献の精読
 第12回 文献の要約・所感発表とディスカッション 5
 第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
 第14回 総括

履修上の注意

担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が精読した英語の文献・学術論文の要約・所感発表とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後にわたり、文献・学術論文の入念な精読、追加的な調査、精緻な発表、ハイレベルなディスカッション、それらすべての再検討が求められる。精読すべき文献以外にも、関連する資料・文献を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献・学術論文の要約・所感発表=50%、ディスカッション=50%
 日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。文献・学術論文を精読し、追加的な調査をおこなったうえで精緻な発表をすることはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備 考	
科 目 名	行政学演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に必要な基本的な方法を学ぶことを目標に置く。

1年間で最低1本以上、「習作」として論文を執筆すること（もしくははその準備を着実に進めること）を単位の認定要件とする。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究上必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに演習Ⅰでは、「習作」論文に関する先行研究の把握とリサーチデザイン、研究計画の立案に重点をおく。

授業内容

第1講 修士論文および「習作」論文の研究課題について1
第2講 修士論文および「習作」論文の研究課題について2
第3講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討1
第4講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討2
第5講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討3
第6講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討4
第7講 先行研究のレビュー、研究計画の添削1
第8講 先行研究のレビュー、研究計画の添削2
第9講 先行研究のレビュー、研究計画の添削3
第10講 先行研究のレビュー、研究計画の添削4
第11講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
第12講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
第13講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
第14講 調査結果の中間報告、夏季休業中の進め方について

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に研究についての進捗を求め、その際に留意点等について指摘する。また、適宜オンラインでの指導を実施する。

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備 考	
科 目 名	行政学演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に必要な基本的な方法を学ぶことを目標に置く。

1年間で最低1本以上、「習作」として論文を執筆すること（もしくははその準備を着実に進めること）を単位の認定要件とする。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究上必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに演習Ⅱでは、先行研究の調査データの分析、得られた知見の整理と「習作」論文の執筆に重点をおく。

授業内容

第1講 夏季休暇中の成果報告、今後の進め方について
第2講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
第3講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
第4講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
第5講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告4
第6講 調査結果の整理、執筆状況の報告1
第7講 調査結果の整理、執筆状況の報告2
第8講 調査結果の整理、執筆状況の報告3
第9講 調査結果の整理、執筆状況の報告4
第10講 調査結果の整理、執筆状況の報告5
第11講 調査結果の整理、執筆状況の報告6
第12講 第1稿の提出と報告、修正方針の検討
第13講 修正稿の提出と確認
第14講 修士論文についての検討、春季休業中の進め方について

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に研究についての進捗を求め、その際に留意点等について指摘する。また、適宜オンラインでの指導を実施する。

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備 考	
科 目 名	行政学演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に必要な基本的な方法を学び、完成させることを目標に置く。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究に必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに演習Ⅲでは、修士論文に関する先行研究の把握とリサーチデザイン、研究計画の立案に重点をおく。

授業内容

- 第1講 修士論文の研究課題について1
- 第2講 修士論文の研究課題について2
- 第3講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討1
- 第4講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討2
- 第5講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討3
- 第6講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討4
- 第7講 先行研究のレビュー、研究計画の添削1
- 第8講 先行研究のレビュー、研究計画の添削2
- 第9講 先行研究のレビュー、研究計画の添削3
- 第10講 先行研究のレビュー、研究計画の添削4
- 第11講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
- 第12講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
- 第13講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
- 第14講 調査結果の中間報告、夏季休業中の進め方について

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備 考	
科 目 名	行政学演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に必要な基本的な方法を学び、完成させることを目標に置く。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究に必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに演習Ⅳでは、先行研究の調査データの分析、得られた知見の整理と修士論文の完成に重点をおく。

授業内容

- 第1講 夏季休暇中の成果報告、今後の進め方について
- 第2講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
- 第3講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
- 第4講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
- 第5講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告4
- 第6講 調査結果の整理、執筆状況の報告1
- 第7講 調査結果の整理、執筆状況の報告2
- 第8講 調査結果の整理、執筆状況の報告3
- 第9講 調査結果の整理、執筆状況の報告4
- 第10講 第1稿の提出と報告、修正方針の検討1
- 第11講 修正稿の提出と報告、修正方針の検討2
- 第12講 修正稿の提出と報告、修正方針の検討3
- 第13講 修正稿の提出と確認
- 第14講 まとめ

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に研究についての進捗を求め、その際に留意点等について指摘する。また、適宜オンラインでの指導を実施する。

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備 考	
科 目 名	地方自治論演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

Ⅰ 論文作成のための課題設定

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：文献検索の方法と問題意識の設定(1)
第3回：文献検索の方法と問題意識の設定(2)
第4回：資料の収集と先行研究のレビュー(1)
第5回：資料の収集と先行研究のレビュー(2)
第6回：資料の収集と先行研究のレビュー(3)
第7回：資料の収集と先行研究のレビュー(4)
第8回：先行研究のレビューと方法の検討(1)
第9回：先行研究のレビューと方法の検討(2)
第10回：研究報告と討論(1)
第11回：研究報告と討論(2)
第12回：研究報告と討論(3)
第13回：論文作成上の注意点
第14回：まとめ・総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点および論文の作成状況を踏まえて評価する

その他

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備 考	
科 目 名	地方自治論演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

Ⅱ 論文作成に向けた基本的な知識習得
(地方自治の基本的な知識の確認と論文への応用)

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：文献検索の方法と問題意識の設定(1)
第3回：文献検索の方法と問題意識の設定(2)
第4回：資料の収集と先行研究のレビュー(1)
第5回：資料の収集と先行研究のレビュー(2)
第6回：資料の収集と先行研究のレビュー(3)
第7回：資料の収集と先行研究のレビュー(4)
第8回：先行研究のレビューと方法の検討(1)
第9回：先行研究のレビューと方法の検討(2)
第10回：研究報告と討論(1)
第11回：研究報告と討論(2)
第12回：研究報告と討論(3)
第13回：論文作成上の注意点
第14回：まとめ・総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点および論文の作成状況を踏まえて評価する

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備考	
科目名	地方自治論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

Ⅲ 論文作成の進捗状況報告と内容指導

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：文献検索の方法と問題意識の設定(1)
 第3回：文献検索の方法と問題意識の設定(2)
 第4回：資料の収集と先行研究のレビュー(1)
 第5回：資料の収集と先行研究のレビュー(2)
 第6回：資料の収集と先行研究のレビュー(3)
 第7回：資料の収集と先行研究のレビュー(4)
 第8回：先行研究のレビューと方法の検討(1)
 第9回：先行研究のレビューと方法の検討(2)
 第10回：研究報告と討論(1)
 第11回：研究報告と討論(2)
 第12回：研究報告と討論(3)
 第13回：論文作成上の注意点
 第14回：まとめ・総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点および論文の作成状況を踏まえて評価する

その他

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備考	
科目名	地方自治論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

Ⅳ 論文完成に向けた内容についての討論と個別指導

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：論文構想の確認(1)
 第3回：論文構想の確認(2)
 第4回：関連研究のレビュー(1)
 第5回：関連研究のレビュー(2)
 第6回：論文発表と検討(1)
 第7回：論文発表と検討(2)
 第8回：論文発表と検討(3)
 第9回：論文発表と検討(4)
 第10回：論文発表と検討(5)
 第11回：論文の最終検討(1)
 第12回：論文の最終検討(2)
 第13回：論文の最終検討(3)
 第14回：まとめ・総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点および論文の作成状況を踏まえて評価する

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備考	
科目名	都市政策演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、研究計画の立案や研究のとりまとめに関連した既往文献調査のまとめ方や論文作成の基本的な手法を学び、授業でのディスカッションを通じて自らの研究テーマと研究計画を確立していく。

なお、研究活動や論文執筆を行うにあたり、予め心得おくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

研究テーマに関する検討や既往研究レビューといったプロセスを通じて、都市政策を取り巻く今日の課題の現状を知り、自らの問題意識の位置づけ・意義を整理することができる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマ案の提示
- 第3回：研究テーマ案に関する基礎知識
- 第4回：研究テーマ案に関する政策の現状
- 第5回：研究倫理に関する指導
- 第6回：文献リスト作成・指導
- 第7回：文献の確認・指導
- 第8回：既往研究レビューのまとめ
- 第9回：研究計画案の作成
- 第10回：研究計画の修正案の提示
- 第11回：既往研究からの位置づけの提示
- 第12回：調査・分析手法の指導
- 第13回：調査・分析手法の案の提示・検討
- 第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。

また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度(20%)、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などの総合的判断(80%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL522J			
行政学系		備考	
科目名	都市政策演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、研究計画の立案や研究のとりまとめに関連した具体的な調査・分析手法を学び、授業でのディスカッションを通じて自らの研究の取りまとめに向けた作業を深化させていく。

到達目標

学生自らが設定した都市政策に関わる研究をテーマに、具体的な調査・分析手法の検討といったプロセスを通じて、自らの調査・分析を構想する能力を修得できることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究計画の確認・指導
- 第3回：基本資料講読および討論
- 第4回：仮説の提示と調査・分析手法の検討
- 第5回：分析手法の提示・指導
- 第6回：調査・分析手法の具体化
- 第7回：調査・分析手法の指導・決定
- 第8回：調査・分析結果の提示
- 第9回：調査・分析結果に関する議論
- 第10回：追加調査・分析の検討
- 第11回：追加調査・分析の提示・具体化
- 第12回：追加調査・分析結果の提示
- 第13回：追加調査・分析結果に関する議論
- 第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。

また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。
適宜、研究テーマに即して提示する。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度(20%)、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などを総合的判断(80%)で評価する。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備 考	
科 目 名	都市政策演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、調査・分析結果に基づく成果をとりまとめる手法を学び、授業でのディスカッションを通じて論文執筆に向けた作業を深化させていく。

到達目標

学生自らが設定した都市政策に関わる研究をテーマに、論文の構成案に関する検討や具体的な調査・分析に基づく成果のとりまとめ手法の検討といったプロセスを通じて、自らの調査・分析をとりまとめる能力を修得できることを到達目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文作成に関する指導
第3回：論文構成案の提示・指導
第4回：論文構成の修正案の提示・指導
第5回：研究の背景・目的に関するディスカッション
第6回：調査・分析方法の妥当性に関するディスカッション
第7回：調査・分析結果の表現に関する指導・ディスカッション
第8回：調査・分析結果の整理
第9回：調査・分析結果に基づく成果の提示・ディスカッション
第10回：調査・分析結果に基づく成果の修正・ディスカッション
第11回：調査・分析結果に基づく成果の再修正・ディスカッション
第12回：論文構成案の再修正
第13回：論文執筆に向けた作業の確認
第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。
また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。
適宜、研究テーマに即して提示する。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度(20%)、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などを総合的判断(80%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL622J			
行政学系		備 考	
科 目 名	都市政策演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、研究成果のとりまとめや発表に関連した具体的な手法を学び、授業でのディスカッションを通じて自らの論文執筆・発表に向けた作業を深化させていく。

到達目標

学生自らが設定した都市政策に関わる研究をテーマに、論文としてのとりまとめ、要旨の作成、研究成果の発表に関する検討といったプロセスを通じて、学術論文として自らの研究成果を発表する能力を修得できることを到達目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文執筆に向けた作業確認
第3回：論文の章立ての検討・ディスカッション
第4回：論文の章立ての修正案とディスカッション
第5回：修士論文の内容確認・指導
第6回：修士論文修正版の確認・指導
第7回：修士論文の再修正版の確認・指導
第8回：結論部分の提示・ディスカッション
第9回：結論部分の再提示・ディスカッション
第10回：修士論文の要旨案の提示・指導
第11回：修士論文の要旨の修正案の提示・指導
第12回：修士論文の発表練習・指導
第13回：修士論文の最終発表・講評
第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。
また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。
適宜、研究テーマに即して提示する。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度(20%)、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などを総合的判断(80%)で評価する。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	行政学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

行政学は、まさに今われわれの社会に存在して活動している行政機関や公務員について詳細に把握することなくしては、まったく成立しない学問である。この講義では、受講者に毎回、小規模なレポート（ミニレポート、1,200～3,000字）を課す。この作業が、毎回の講義内容を深く理解するための事前学習となる。この講義の目標は、行政学における概念と理論について深く理解すること、および、行政の「いま」についての知識のみならず、そうした知識の集め方・調査法についての能力を高めることにある。

授業内容

第1講 どのように進めていくか
第2講 日本の官僚制1
第3講 日本の官僚制2
第4講 日本の官僚制3
第5講 内閣制度1
第6講 内閣制度2
第7講 内閣制度3
第8講 国の行政機構1
第9講 国の行政機構2
第10講 国の行政機構3
第11講 予算編成と財政1
第12講 予算編成と財政2
第13講 予算編成と財政3
第14講 行財政改革・まとめ

履修上の注意

毎回、受講者は事前に示されたキーワードに基づくミニレポートを作成し、授業当日に提出することが必須となる。ミニレポートのキーワードは、当日の講義内容と深く関連する用語・概念から選定するので、ミニレポートの作成が事前学習となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

この講義では、受講者に毎回、小規模なレポート（ミニレポート、1,200～3,000字）を課す。この作業が、毎回の講義内容を深く理解するための事前学習となる。

教科書

学期中において必要に応じて指定する。

参考書

学期中において必要に応じて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題等の発表を求め、その際に指導、留意点等について指摘を行う。

成績評価の方法

ミニレポートの成績(60%)、授業への積極性(40%)
無断欠席をした学生の成績はFとする。
正当な理由なく、ミニレポートを提出しなかった受講者の成績はFとする。

その他

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	行政学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

行政学は、まさに今われわれの社会に存在して活動している行政機関や公務員について詳細に把握することなくしては、まったく成立しない学問である。この講義では、受講者に毎回、小規模なレポート（ミニレポート、1,200～3,000字）を課す。この作業が、毎回の講義内容を深く理解するための事前学習となる。この講義の目標は、行政学における概念と理論について深く理解すること、および、行政の「いま」についての知識のみならず、そうした知識の集め方・調査法についての能力を高めることにある。

授業内容

第1講 どのように進めていくか
第2講 政官関係1
第3講 政官関係2
第4講 政官関係3
第5講 政官関係4
第6講 中央地方関係1
第7講 中央地方関係2
第8講 中央地方関係3
第9講 中央地方関係4
第10講 官民関係1
第11講 官民関係2
第12講 官民関係3
第13講 官民関係4
第14講 行政改革の論点・まとめ

履修上の注意

毎回、受講者は事前に示されたキーワードに基づくミニレポートを作成し、授業当日に提出することが必須となる。ミニレポートのキーワードは、当日の講義内容と深く関連する用語・概念から選定するので、ミニレポートの作成が事前学習となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

この講義では、受講者に毎回、小規模なレポート（ミニレポート、1,200～3,000字）を課す。この作業が、毎回の講義内容を深く理解するための事前学習となる。

教科書

学期中において必要に応じて指定する。

参考書

学期中において必要に応じて指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題等の発表を求め、その際に指導、留意点等について指摘を行う。

成績評価の方法

ミニレポートの成績(60%)、授業への積極性(40%)
無断欠席をした学生の成績はFとする。
正当な理由なく、ミニレポートを提出しなかった受講者の成績はFとする。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	地方自治論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

日本における地方分権改革の到達点と課題について検証し、地方自治の現状を考察する。

授業内容

- 第1回 研究の進め方についてのイントロダクション
- 第2回 講義で扱う内容についての討論
- 第3回 地方自治についての先行研究の確認①
- 第4回 地方自治についての先行研究の確認②
- 第5回 研究課題の設定
- 第6回 研究課題についての文献講読①
- 第7回 研究課題についての文献講読②
- 第8回 研究課題についての文献講読③
- 第9回 研究課題についての文献講読④
- 第10回 研究課題についての文献講読⑤
- 第11回 研究課題についての文献講読⑥
- 第12回 研究課題についての文献講読⑦
- 第13回 文献講読をふまえた研究課題についての内容確認
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

受講生と協議の上、決定する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	地方自治論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

地方分権改革をふまえた地域政治の現状と課題について検討する。

授業内容

- 第1回 研究の進め方についてのイントロダクション
- 第2回 設定した研究課題の検証
- 第3回 地方自治をめぐる現状と課題についての検討
- 第4回 地方自治に関する先行研究等の整理
- 第5回 地方自治論関係文献リストの作成
- 第6回 修士論文作成指導①
- 第7回 修士論文作成指導②
- 第8回 論文作成に向けた受講生の研究内容報告①
- 第9回 論文作成に向けた受講生の研究内容報告②
- 第10回 研究課題についての各受講生の論点の検証①
- 第11回 研究課題についての各受講生の論点の検証②
- 第12回 受講生の修士論文要旨・章立て等についての報告・議論
- 第13回 地方自治論についての研究の達成度の検証と評価
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

受講生と協議の上、決定する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	都市政策研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学)	野澤 千絵	

授業の概要・到達目標

授業の概要

住宅政策は、市民の暮らしや地域のまちづくりと共に、不動産・建設など様々な産業に大きな影響を与える。本講義では、各国の住宅政策、不動産税制や新たな住宅ビジネスの展開など最新の動きを、毎回、受講者全員が準備してきたプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行いながら、知識を深めていく。

なお、授業中に各自に調査・整理すべき内容を提示するので、各自、毎回、授業内での発表やディスカッションの準備を行っていくこと。

(授業を聞くだけではない演習型の授業とする)

到達目標

人々の安心・安全で健康・文化的な暮らしを支え、経済、ビジネスにも直結する住宅政策をテーマに、

- 1) 住宅政策に関する考え方・仕組み・手法に関する幅広い視野と専門知識を獲得する。
- 2) 住宅政策について時代の大きな方向性を読み取り、暮らしや経済・ビジネス等のあり方と関連づけながら問題構造を論じることができる。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：世界の住宅政策史・ディスカッション

第3回：大都市の住宅価格の高騰問題1・ディスカッション

第4回：データ分析に基づく大都市の住宅価格の高騰分析・ディスカッション

第5回：各国の都市計画法制度・ディスカッション

第6回：スプロール現象の進展・ディスカッション

第7回：居住のセーフティネット・ディスカッション

第8回：日本の空き家問題・ディスカッション

第9回：世界の空き家対策・ディスカッション

第10回：高齢年マンション問題・ディスカッション

第11回：リノベーションまちづくり・ディスカッション

第12回：新たな住宅ビジネスの展開・ディスカッション

第13回：密集市街地と災害リスク

第14回：振り返り・総括

履修上の注意

日本の住宅政策法制度について専門的な内容も含まれるため、授業による理解を深めるために、様々な文献・資料等を事前に読んでおき、あらかじめ疑問点や論点を整理して授業を受けること。

毎回、受講者全員からのプレゼンテーションに基づいて、ディスカッションを中心とした授業とするため、毎回、各自からの発表やディスカッションの準備が重要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に次のプレゼンテーションのテーマを割り振るため、各自、プレゼンテーションの準備を行うこと。

また、プレゼンテーション資料は、毎回、授業開始までにクラスウェブ上のディスカッション機能のところに各自、アップすること。(受講者全員が、プレゼン資料を見ることができるようにするため)

また、授業後の復習としては、講義で扱ったテーマに関する先達事例や動きを調べ、実態把握に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

関連する講義資料は事前に提供する。

参考書

『2030-2040年 日本の土地と住宅』、野澤千絵(中公新書ラクレ)
『老いた家 衰えぬ街―住まいを終活する』、野澤千絵(講談社現代新書)

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、授業時間内のディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

毎回のプレゼンテーションおよびディスカッションの内容に基づく授業への貢献度(100%)で評価する。

その他

毎回、全員からプレゼンテーションを求める演習型の授業となるため、やむを得ない事情以外の欠席・遅刻に気を付けること。

科目ナンバー：(PE) POL521J			
行政学系		備考	
科目名	都市政策研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学)	野澤 千絵	

授業の概要・到達目標

授業の概要

人口減少社会に向けた都市政策の一つとして、国内外でコンパクトシティ政策に取り組まれている。

本講義では、なぜコンパクトシティ政策が台頭してきたのかを都市計画の歴史から紐解くと共に、専門的視点として、主に土地利用コントロールや交通戦略、公共施設の再編・再生、災害リスクへの対応の現状や課題、最新の動きを、毎回、受講者全員が準備してきたプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行いながら、知識を深めていく。

なお、授業中に各自に調査・整理すべき内容を提示するので、各自、毎回、授業内での発表やディスカッションの準備を行っていくこと。(授業を聞くだけではない演習型の授業とする)

到達目標

- 1) 国内外のコンパクトシティ政策に関する考え方・手法・現状に関する専門知識を獲得する。
- 2) コンパクトシティ政策について、都市政策に関わる多様な分野と関連づけながら問題構造を論じることができる。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：日本の都市政策史・ディスカッション

第3回：世界の都市政策史・ディスカッション

第4回：都市のマスタープラン・ディスカッション

第5回：土地利用コントロールの枠組み・ディスカッション

第6回：諸外国の都市計画の潮流・ディスカッション

第7回：地方分権化と権限・ディスカッション

第8回：人口減少社会における都市問題・ディスカッション

第9回：世界のコンパクトシティ政策・ディスカッション

第10回：日本のコンパクトシティ政策・ディスカッション

第11回：コンパクトシティと公共施設の再編・再生・ディスカッション

第12回：コンパクトシティと交通戦略・ディスカッション

第13回：インフラ更新問題・ディスカッション

第14回：振り返り・総括

履修上の注意

日本の都市政策法制度についての専門的な内容も含まれるため、授業による理解を深めるために、資料等を事前に読んでおき、あらかじめ疑問点や論点を整理して授業を受けること。

毎回、受講者全員からのプレゼンテーションに基づいて、ディスカッションを中心とした授業とするため、毎回、各自からの発表やディスカッションの準備が重要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に次のプレゼンテーションのテーマを割り振るため、各自、プレゼンテーションの準備を行うこと。

また、プレゼンテーション資料は、毎回、授業開始までにクラスウェブ上のディスカッション機能のところに各自、アップすること。(受講者全員が、プレゼン資料を見ることができるようにするため)

また、授業後の復習としては、講義で扱ったテーマに関する先達事例や動きを調べ、実態把握に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

関連する講義資料は事前に提供する。

参考書

『2030-2040年 日本の土地と住宅』、野澤千絵(中公新書ラクレ)
『老いた家 崩れる街―住宅過剰社会の末路』、野澤千絵(講談社現代新書)
『都市計画とまちづくりがわかる本』、小林郁雄・野澤千絵ほか(彰国社)

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、授業時間内のディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

毎回のプレゼンテーションおよびディスカッションの内容に基づく授業への貢献度(100%)で評価する。

その他

毎回、全員からプレゼンテーションを求める演習型の授業となるため、やむを得ない事情以外の欠席・遅刻に気を付けること。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
行政学系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（行政学系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 木寺 元		

授業の概要・到達目標

この授業では、いまの政治に関する重要なテーマに関するできる限り新しい政治学の英文論文を読む。そのことを通じ、いま政治学は何を議論し、何を明らかにしようとしているかの動向を理解し、できればそこで得られた知見を日本政治を見つめる際にどのように適用することが可能かを検討する。

授業内容

- Week 1: Introduction
 Week 2: Electoral Systems and Political Representation
 Week 3: Voting Behavior : Dealignment and Realignment
 Week 4: Political Parties: Organizations, Members, and Leaders
 Week 5: Party Systems and Competition: Fragmentation and Polarization
 Week 6: The Populist Challenge: Parties and Constituencies
 Week 7: Governments and Executives: Coalition Formation and Stability
 Week 8: Legislative Politics: Behavior, Speech, and Text Analysis
 Week 9: Judicial Politics: The Rule of Law and Courts
 Week 10: Civil Society, Social Movements, and Protest Politics
 Week 11: Identity Politics: Nationalism, Regionalism, and Gender
 Week 12: The Domestic Politics and Region
 Week 13: Democratic Backsliding and Illiberalism
 Week 14: Future Challenges

履修上の注意

各回のテーマは変更される可能性がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、担当者は投影用のプレゼン資料、それが用意できない場合は配布する紙のレジュメを用意すること。細かい方法論や分析の手法は理解できなくてよい。最低限、その論文は何を問いに立て、それに対してどう答えたのかを明らかにすること。他の参加者は、可能な限り目を通し、日本政治を分析するとしてたらどう言う議論が可能か、を考えておくこと。

教科書

教科書は使用しない。各回のテーマに関わる論文を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
行政学系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（行政学系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本講の目的は、広くマス・メディア、ジャーナリズムに関する本格的で高度な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることである。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目指す共同作業を意味する。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、多量の文献課題を要求する。当然、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最後に、担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

授業内容

受講者数によるが、現時点では、教員が指定する英語の文献・学術論文を全員が精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
 第2回 研究テーマなど受講者による自己プレゼンテーション
 第3回 文献の精読
 第4回 文献の要約・所感発表とディスカッション 1
 第5回 文献の精読
 第6回 文献の要約・所感発表とディスカッション 2
 第7回 文献の精読
 第8回 文献の要約・所感発表とディスカッション 3
 第9回 文献の精読
 第10回 文献の要約・所感発表とディスカッション 4
 第11回 文献の精読
 第12回 文献の要約・所感発表とディスカッション 5
 第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
 第14回 総括

履修上の注意

担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義は一切しない。各自が精読した英語の文献・学術論文の要約・所感発表とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後にわたり、文献・学術論文の入念な精読、追加的な調査、精緻な発表、ハイレベルなディスカッション、それらすべての再検討が求められる。精読すべき文献以外にも、関連する資料・文献を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献・学術論文の要約・所感発表＝50%、ディスカッション＝50%
 日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。文献・学術論文を精読し、追加的な調査をおこなったうえで精緻な発表をすることはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC562J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 バイオカードの提出と自己プレゼンテーション
- 第3回 文献の報告とディスカッション 1(ジャーナリズム、マス・メディア全般)
- 第4回 文献の報告とディスカッション 2(歴史)
- 第5回 文献の報告とディスカッション 3(規範理論)
- 第6回 文献の報告とディスカッション 4(効果理論)
- 第7回 文献の報告とディスカッション 5(法律)
- 第8回 文献の報告とディスカッション 6(倫理)
- 第9回 文献の報告とディスカッション 7(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第10回 文献の報告とディスカッション 8(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第11回 文献の報告とディスカッション 9(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第12回 文献の報告とディスカッション 10(受講者の研究テーマ)
- 第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
- 第14回 総括

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC562J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 修士論文の計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第3回 修士論文の計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第4回 修士論文の計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第5回 修士論文の修正版計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第6回 修士論文の修正版計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第7回 修士論文の修正版計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第8回 修士論文のアウトライン発表 1(3分の1ずつ)
- 第9回 修士論文のアウトライン発表 2(3分の1ずつ)
- 第10回 修士論文のアウトライン発表 3(3分の1ずつ)
- 第11回 修士論文の知見発表 1(3分の1ずつ)
- 第12回 修士論文の知見発表 2(3分の1ずつ)
- 第13回 修士論文の知見発表 3(3分の1ずつ)
- 第14回 これまでの発表の総括、修士論文の最終調整

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC662J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 バイオカードの提出と自己プレゼンテーション
- 第3回 文献の報告とディスカッション 1(ジャーナリズム、マス・メディア全般)
- 第4回 文献の報告とディスカッション 2(歴史)
- 第5回 文献の報告とディスカッション 3(規範理論)
- 第6回 文献の報告とディスカッション 4(効果理論)
- 第7回 文献の報告とディスカッション 5(法律)
- 第8回 文献の報告とディスカッション 6(倫理)
- 第9回 文献の報告とディスカッション 7(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第10回 文献の報告とディスカッション 8(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第11回 文献の報告とディスカッション 9(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第12回 文献の報告とディスカッション 10(受講者の研究テーマ)
- 第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
- 第14回 総括

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのももちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC662J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 修士論文の計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第3回 修士論文の計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第4回 修士論文の計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第5回 修士論文の修正版計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第6回 修士論文の修正版計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第7回 修士論文の修正版計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第8回 修士論文のアウトライン発表 1(3分の1ずつ)
- 第9回 修士論文のアウトライン発表 2(3分の1ずつ)
- 第10回 修士論文のアウトライン発表 3(3分の1ずつ)
- 第11回 修士論文の知見発表 1(3分の1ずつ)
- 第12回 修士論文の知見発表 2(3分の1ずつ)
- 第13回 修士論文の知見発表 3(3分の1ずつ)
- 第14回 これまでの発表の総括、修士論文の最終調整

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのももちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC512J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

実証的な比較研究のための知識と方法を身につける。

Ⅰでは、基本文献の講読を通して、基礎的・理論的知識を習得するとともに分析方法を学習する。Ⅱでは、修士論文執筆に向けて具体的な「問い」を設定して、これを解くための文献研究を蓄積しながら、資料の収集と予備的な分析を進める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：問題関心の確認
第3回：基本文献講読(1)
第4回：分析方法の学習(1)
第5回：基本文献講読(2)
第6回：分析方法の学習(2)
第7回：基本文献講読(3)
第8回：分析方法の学習(3)
第9回：基本文献講読(4)
第10回：分析方法の学習(4)
第11回：基本文献講読(5)
第12回：分析方法の学習(5)
第13回：研究計画の練り直し
第14回：総括

履修上の注意

授業は基本的に受講者の発表を中心に進める。授業内容は、受講者の研究テーマと研究の進捗状況により適宜調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回大量の宿題を課すので、事前に十分な準備を行うこと。

教科書

受講者の研究テーマにもとづき、複数の基本文献を選定する。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田渕六郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC512J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

実証的な比較研究のための知識と方法を身につける。

Ⅰでは、基本文献の講読を通して、基礎的・理論的知識を習得するとともに分析方法を学習する。Ⅱでは、修士論文執筆に向けて具体的な「問い」を設定して、これを解くための文献研究を蓄積しながら、資料の収集と予備的な分析を進める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「問い」の設定(1)
第3回：「問い」の設定(2)
第4回：資料の選定と収集
第5回：文献研究(1)
第6回：文献研究(2)
第7回：文献研究(3)
第8回：文献研究(4)
第9回：修士論文概要書の作成
第10回：予備的分析(1)
第11回：予備的分析(2)
第12回：予備的分析(3)
第13回：予備的分析(4)
第14回：修士論文概要書の修正と総括

履修上の注意

授業は基本的に受講者の発表を中心に進める。授業内容は、受講者の研究テーマと研究の進捗状況により適宜調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回大量の宿題を課すので、事前に十分な準備を行うこと。

教科書

受講者の研究テーマにもとづき、複数の基本文献を選定する。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田渕六郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC612J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

修士論文/研究報告書を執筆する。
Ⅲでは、春季休業中に行った文献研究および資料の整理・分析をさらに発展させて、暫定的な結論を得る。Ⅳでは、夏季休業中に執筆した草稿を検討しつつ、さらに考察を進めて論文を完成させる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「問い」の再検討(1)
第3回：「問い」の再検討(2)
第4回：文献の検討(1)
第5回：文献の検討(2)
第6回：分析結果の検討(1)
第7回：分析結果の検討(2)
第8回：文献の検討(3)
第9回：文献の検討(4)
第10回：分析結果の検討(3)
第11回：分析結果の検討(4)
第12回：暫定的な結論(1)
第13回：暫定的な結論(2)
第14回：論文構成の検討と総括

履修上の注意

授業は基本的に受講者の発表を中心に進める。授業内容は、受講者の研究テーマと研究の進捗状況により適宜調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回大量の宿題を課すので、事前に十分な準備を行うこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田淵六郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.
その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC612J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

修士論文/研究報告書を執筆する。
Ⅲでは、春季休業中に行った文献研究および資料の整理・分析をさらに発展させて、暫定的な結論を得る。Ⅳでは、夏季休業中に執筆した草稿を検討しつつ、さらに考察を進めて論文を完成させる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：分析結果と結論の再確認(1)
第3回：分析結果と結論の再確認(2)
第4回：論理展開の検討と修正(1)
第5回：論理展開の検討と修正(2)
第6回：論理展開の検討と修正(3)
第7回：論理展開の検討と修正(4)
第8回：論理展開の検討と修正(5)
第9回：論理展開の検討と修正(6)
第10回：表現の推敲(1)
第11回：表現の推敲(2)
第12回：表現の推敲(3)
第13回：表現の推敲(4)
第14回：論文/報告書の完成

履修上の注意

授業は基本的に受講者の発表を中心に進める。授業内容は、受講者の研究テーマと研究の進捗状況により適宜調整する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回大量の宿題を課すので、事前に十分な準備を行うこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田淵六郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.
その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC592J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向け、各自の関心テーマに基づき、修士論文テーマに関連する文献の講読と研究方法の習得を中心に行う。

授業内容

第1回：イントロダクション 研究の進め方と論文の書き方
第2回：修士論文のプラン発表(1) テーマとサブテーマの確認
第3回：修士論文のプラン発表(2) 文献検索と文献精読の方法
第4回：修士論文テーマに関連する文献の講読(1) 文献を検索する
第5回：修士論文テーマに関連する文献の講読(2) 文献の概要をまとめる
第6回：修士論文テーマに関連する文献の講読(3) 文献の見取り図をつくる
第7回：修士論文テーマに関連する文献の講読(4) キーワードを抽出する
第8回：修士論文プランの修正
第9回：研究方法を知る(1) 定量調査
第10回：研究方法を知る(2) 定性調査
第11回：修士論文テーマに関連する文献の講読(5) 仮説を導出する
第12回：修士論文テーマに関連する文献の講読(6) 関連領域の文献を読む
第13回：修士論文構想発表(1) テーマとサブテーマの発表
第14回：修士論文構想発表(2) 先行研究と仮説の導出

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表前には発表準備を十分行うこと。

教科書

教科書は用いない。各自の研究テーマに応じて文献を指定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートへの添削等のフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC592J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

産業社会学演習Ⅰに引き続き、修士論文作成に向け各自の関心テーマに基づき、修士論文テーマに関連する文献の講読と研究計画の策定を行う。

授業内容

第1回：イントロダクション 研究の進め方と論文の書き方
第2回：修士論文のプラン発表(1) テーマとサブテーマの確認
第3回：修士論文のプラン発表(2) 文献検索と文献精読の方法
第4回：修士論文テーマに関連する文献の講読(1) 文献を検索する
第5回：修士論文テーマに関連する文献の講読(2) 文献の概要をまとめる
第6回：修士論文テーマに関連する文献の講読(3) 主要文献を選ぶ
第7回：修士論文テーマに関連する文献の講読(4) キーワードを抽出する
第8回：修士論文プランの修正
第9回：研究方法を知る(1) 定量調査
第10回：研究方法を知る(2) 定性調査
第11回：修士論文テーマに関連する文献の講読(5) 仮説を導出する
第12回：修士論文テーマに関連する文献の講読(6) 関連領域の文献を読む
第13回：修士論文構想発表(1) テーマとサブテーマの発表
第14回：修士論文構想発表(2) 先行研究と仮説の導出

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表準備を十分に行うこと。

教科書

テキストは用いない。研究テーマに応じて適宜文献を指定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートの添削を行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC692J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向け、より具体的な仮説の設定と研究遂行に向けた指導を行う。

授業内容

第1回：イントロダクション 参考となる修士論文の紹介
 第2回：修士論文の構成発表(1) テーマとサブテーマの確認
 第3回：修士論文の構成発表(2) 論文構成の確認
 第4回：修士論文テーマに関連する文献の講読(1) 文献を検索する
 第5回：修士論文テーマに関連する文献の講読(2) 文献の概要をまとめる
 第6回：修士論文テーマに関連する文献の講読(3) 主要文献を選ぶ
 第7回：修士論文テーマに関連する文献の講読(4) キーワードを抽出する
 第8回：仮説の導出
 第9回：研究計画の立案(1) 研究方法
 第10回：研究計画の立案(2) 調査計画
 第11回：修士論文テーマに関連する文献の講読(5) 仮説を導出する
 第12回：修士論文テーマに関連する文献の講読(6) 関連領域の文献を読む
 第13回：修士論文構想発表(1) テーマとサブテーマの発表
 第14回：修士論文構想発表(2) 論文構成の発表

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表前には発表準備を十分行うこと。

教科書

教科書は用いない。各自の研究テーマに応じて文献を指定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートへの添削等のフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC692J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

修士論文完成に向け、これまでに行った授業を踏まえ修士論文執筆の指導を行う。

授業内容

第1回：イントロダクション 参考となる修士論文の紹介
 第2回：修士論文の構成発表(1) テーマとサブテーマの確認
 第3回：修士論文の構成発表(2) 論文構成の確認
 第4回：修士論文テーマに関連する文献の講読(1) 文献を検索する
 第5回：修士論文テーマに関連する文献の講読(2) 文献の概要をまとめる
 第6回：修士論文テーマに関連する文献の講読(3) 主要文献を選ぶ
 第7回：修士論文テーマに関連する文献の講読(4) キーワードを抽出する
 第8回：仮説の導出
 第9回：研究計画の立案(1) 研究方法
 第10回：研究計画の立案(2) 調査計画
 第11回：修士論文テーマに関連する文献の講読(5) 仮説を導出する
 第12回：修士論文テーマに関連する文献の講読(6) 関連領域の文献を読む
 第13回：修士論文構想発表(1) テーマとサブテーマの発表
 第14回：修士論文構想発表(2) 論文構成の発表

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表準備を十分に行うこと。

教科書

テキストは用いない。研究テーマに応じて適宜文献を指定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートの添削を行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC542J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

社会福祉問題と社会福祉政策を社会的に分析する基礎的な能力と要約・分析の能力を身につけさせる。

授業内容

- 1 社会学の学術論文の類型と書き方(1)
- 2 社会学の学術論文の類型と書き方(2)
- 3 社会学の学術論文の類型と書き方(3)
- 4 社会学の学術論文の類型と書き方(4)
- 5 修士論文の構想発表(1)
- 6 修士論文の構想発表(2)
- 7 修士論文の構想発表(3)
- 8 基礎文献講読(1)
- 9 基礎文献講読(2)
- 10 基礎文献講読(3)
- 11 基礎文献講読(4)
- 12 修士論文の構想発表(4)
- 13 修士論文の構想発表(5)
- 14 修士論文の構想発表(6)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

『論文の書き方』清水幾太郎(岩波書店) 1959年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度20%、②討論への参加20%、③報告60%、によって評価を行う。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) SOC542J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

社会福祉問題と社会福祉政策に関する修士論文の執筆に関する指導を行う。

授業内容

- 1 基礎文献講読(1)
- 2 基礎文献講読(2)
- 3 基礎文献講読(3)
- 4 基礎文献講読(4)
- 5 基礎文献講読(5)
- 6 基礎文献講読(6)
- 7 修士論文の構想発表(1)
- 8 修士論文の構想発表(2)
- 9 修士論文の構想発表(3)
- 10 基礎文献講読(7)
- 11 基礎文献講読(8)
- 12 基礎文献講読(9)
- 13 修士論文の構想発表(4)
- 14 修士論文の構想発表(5)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度20%、②討論への参加20%、③報告60%、によって評価を行う。

その他

特になし

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC642J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

社会福祉問題と社会福祉政策に関する修士論文の完成を目指して、指導を行う。

授業内容

- 1 修士論文の構想発表(1)
- 2 修士論文の構想発表(2)
- 3 修士論文の構想発表(3)
- 4 修士論文の構想発表(4)
- 5 修士論文の構想発表(5)
- 6 基礎文献講読(1)
- 7 基礎文献講読(2)
- 8 基礎文献講読(3)
- 9 基礎文献講読(4)
- 10 基礎文献講読(5)
- 11 修士論文の初稿発表(1)
- 12 修士論文の初稿発表(2)
- 13 修士論文の初稿発表(3)
- 14 修士論文の初稿発表(4)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度20％，②討論への参加20％，③報告60％，によって評価を行う。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) SOC642J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

社会福祉問題と社会福祉政策に関する修士論文の最終段階での指導を行う。

授業内容

- 1 修士論文の二稿発表(1)
- 2 修士論文の二稿発表(2)
- 3 修士論文の二稿発表(3)
- 4 修士論文の二稿発表(4)
- 5 修士論文の二稿発表(5)
- 6 修士論文の三稿発表(1)
- 7 修士論文の三稿発表(2)
- 8 修士論文の三稿発表(3)
- 9 修士論文の三稿発表(4)
- 10 修士論文の三稿発表(5)
- 11 修士論文の最終原稿発表(1)
- 12 修士論文の最終原稿発表(2)
- 13 修士論文の最終原稿発表(3)
- 14 修士論文の最終原稿発表(4)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度20％，②討論への参加20％，③報告60％，によって評価を行う。

その他

特になし

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC561J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 バイオカードの提出と自己プレゼンテーション
- 第3回 文献の報告とディスカッション 1(ジャーナリズム、マス・メディア全般)
- 第4回 文献の報告とディスカッション 2(歴史)
- 第5回 文献の報告とディスカッション 3(規範理論)
- 第6回 文献の報告とディスカッション 4(効果理論)
- 第7回 文献の報告とディスカッション 5(法律)
- 第8回 文献の報告とディスカッション 6(倫理)
- 第9回 文献の報告とディスカッション 7(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第10回 文献の報告とディスカッション 8(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第11回 文献の報告とディスカッション 9(受講者の研究課題、3分の1ずつ)
- 第12回 文献の報告とディスカッション 10(受講者の研究テーマ)
- 第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
- 第14回 総括

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%

日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC561J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、その作業をとおして「プロの研究」を実体験することである。高度な文献を多く読むことは、自分自身の研究課題を見つける近道にもなるだろう。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最終的な到達目標は、学位論文の執筆に必須である学術研究の手続きを十分に理解すること、可能であれば、手続きを実践する能力を身につけることである。

授業内容

春学期・秋学期とも、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディアに関する主要な研究書、あるいは論文をできるだけ多く読み、それら文献の紹介とディスカッションをくりかえすと同時に、独創的な学位論文の執筆をすすめる。

- 第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
- 第2回 修士論文の計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第3回 修士論文の計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第4回 修士論文の計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第5回 修士論文の修正版計画発表 1(3分の1ずつ)
- 第6回 修士論文の修正版計画発表 2(3分の1ずつ)
- 第7回 修士論文の修正版計画発表 3(3分の1ずつ)
- 第8回 修士論文のアウトライン発表 1(3分の1ずつ)
- 第9回 修士論文のアウトライン発表 2(3分の1ずつ)
- 第10回 修士論文のアウトライン発表 3(3分の1ずつ)
- 第11回 修士論文の知見発表 1(3分の1ずつ)
- 第12回 修士論文の知見発表 2(3分の1ずつ)
- 第13回 修士論文の知見発表 3(3分の1ずつ)
- 第14回 これまでの発表の総括、修士論文の最終調整

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻なレジュメ執筆が求められる。紹介する書籍・論文以外にも、関連する文献等を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読とレジュメ＝50%、ディスカッション＝50%

日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席ただけで単位を与えることはない。文献を精読し、レジュメを提出するという最低限の活動をするのはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC561J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 海後 宗男		

授業の概要・到達目標

この授業では、マスコミュニケーション学やメディア学の研究方法に関する文献を輪読し、研究方法について学習する。マスコミュニケーション学やメディア学の実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。

マスコミュニケーション学やメディア学の専門的知識・研究方法について学習し、知の活用力、コミュニケーション能力に不可欠な思考する力を見につけて、履修者自身の問題意識を深め、マスコミュニケーション学やメディア学において論文執筆が可能な研究力を身につけることができることを到達目標とする。

授業内容

この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読し、メディア研究方法について学習する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 メディア産業、デジタル・ニュース・メディアのジャーナリズム
- 第3回 コミュニケーション研究への社会的アプローチ、大衆性、方法論
- 第4回 普及論、地方自治体の広報活動、地方政治とメディア
- 第5回 マス・コミュニケーション、情報化社会、文化とコミュニケーション
- 第6回 マス・コミュニケーションの社会学、大衆社会論的、プライバシー
- 第7回 利用満足研究、アメリカ初期プロパガンダ研究(メディア授業)
- 第8回 マス・メディアの議題設定機能、マス・メディアの地域的課題、オピニオン・リーダー (メディア授業)
- 第9回 海外ニュース、内容分析における語用論的視点、機能研究(メディア授業)
- 第10回 災害時のマス・メディア、市民運動、メディア論、
- 第11回 受講者側の研究課題
- 第12回 受講者側の研究課題
- 第13回 受講者側の研究課題
- 第14回 マスコミュニケーション学研究のまとめ

履修上の注意

授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施するため、授業の準備をすること。第7回目、第8回目、第9回目はオンラインで情報提供と交流をする予定。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員が毎回レジュメを作成しなければならない。オンライン課題がある場合は、課題を提出しなければならない。

教科書

『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』(1991) ウンベルト エーコ(谷口 勇 訳) 而立書房。

参考書

初回の授業で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくはOh-ol Meijiを活用して行う。

成績評価の方法

レジュメ及びオンライン課題50%、ディスカッション50%

その他

科目ナンバー：(PE) SOC561J			
社会学系		備考	
科目名	マス・コミュニケーション学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 海後 宗男		

授業の概要・到達目標

この授業では、マスコミュニケーション学やメディア学の研究方法に関する文献を輪読し、研究方法について学習する。マスコミュニケーション学やメディア学の実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。

マスコミュニケーション学やメディア学の専門的知識・研究方法について学習し、知の活用力、コミュニケーション能力に不可欠な思考する力を見につけて、履修者自身の問題意識を深め、マスコミュニケーション学やメディア学において論文執筆が可能な研究力を身につけることができることを到達目標とする。

授業内容

この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読し、メディア研究方法について学習する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化指標研究と涵養効果分析
- 第3回 多メディア時代におけるマス・コミュニケーション研究
- 第4回 政治コミュニケーションと文化、地域社会のネットワーク化
- 第5回 映像メディア、TVニュース映像と記憶、映像分析
- 第6回 修士論文の計画発表
- 第7回 修士論文の問題の設定(メディア授業)
- 第8回 修士論文の問題の設定(メディア授業)
- 第9回 修士論文の研究計画(メディア授業)
- 第10回 修士論文の研究計画
- 第11回 修士論文の研究計画
- 第12回 修士論文の研究計画
- 第13回 修士論文の研究計画
- 第14回 マスコミュニケーション学研究のまとめ

履修上の注意

授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施するため、授業の準備をすること。第7回目、第8回目、第9回目はオンラインで情報提供と交流をする予定。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員が毎回レジュメを作成しなければならない。オンライン課題がある場合は、課題を提出しなければならない。

教科書

『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版』(2020)浦上 昌則, 脇田 貴文 東京図書
『社会科学系論文の書き方』(2018)明石 芳彦(著)ミネルヴァ書房

参考書

初回の授業で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくはOh-ol Meijiを活用して行う。

成績評価の方法

レジュメ及びオンライン課題50%、ディスカッション50%

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC511J			
社会学系		備考	
科目名	社会学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 藤村 正之		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

社会学研究の両輪である、社会学理論と社会学方法論(社会調査論)の前者について、その概要を学び、修士論文の理論的観点の基礎づけができることをめざします。古典的 sociology 理論から現代の sociology 理論まで幅広く学習し、それらを通じて社会的思考の発想を身につけていきます。社会学理論を覚えることではなく、現代社会分析に使うことが重要ですので、そのような姿勢で学習に臨んでいくことを期待します。院生の報告、グループワークでのコメント、教員からの講義や解説、全員での討議という形で進出し、基本文献・応用文献の学習を通じて、研究の基礎を学んでいきます。

〔到達目標〕

- (1) 文献の報告などを通じて、理論的論文を読解し論点を整理する力、要点のまとめられたレジュメを作る力、わかりやすい発表をおこなう力を身につけていく。
- (2) 全員での討議を通じて、問題を発見する力、相互の議論を位置づけていく力、議論の流れをサポートする力を身につけていく。
- (3) 授業全体を通じて、社会学の理論と方法を自分の研究テーマに結びつけて、実践的に使えるような研究態度を身につけていく。

授業内容

1. イントロダクション(博士前期課程での勉強紹介、テーマの概況の紹介、今期の進行計画の確認)
2. 基礎文献の輪読(第1クール)
 - 1: 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』(始まり、マルクス)
3. 同上
 - 2: (デュルケム、ヴェーバー)
4. 同上
 - 3: (ジンメル、シカゴ学派)
5. 同上
 - 4: (パーソンズ、マートン)
6. 同上
 - 5: (アメリカへの亡命者たち)
7. 応用文献の輪読(第2クール)
 - 1: 奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』(シュッツ、ガーフィンケル)
8. 同上
 - 2: (ゴフマン)
9. 同上
 - 3: (フーコー)
10. 同上
 - 4: (ジェンダー研究)
11. 同上
 - 5: (周辺からの社会学)
12. 同上
 - 6: (ブルデュー)
13. 同上
 - 7: (ルーマン)
14. 社会学理論の論点整理

履修上の注意

文献を読了の上、授業での討議の素材となるよう、リアクションペーパーを毎週事前に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、授業で取り上げる文献について読了し、関連する論文やデータ・資料などについても調べたりする。報告担当者はレジュメの準備をする。また、受講者は当日の討議可能なように、自分の問題意識を確認しリアクションペーパーに整理しておく(2時間半程度)。復習として、授業中に紹介した文献について、できるだけ多く読了し、社会学の理論や方法論について理解を深める(1時間程度)。

教科書

奥村 隆『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣・2014年、同『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣・2023年

参考書

作田啓一・井上 俊編『命題コレクション社会学』ちくま学芸文庫・2011年

課題に対するフィードバックの方法

授業内においておこなう。

成績評価の方法

文献報告レポート(30.0%)、リアクションペーパー (30.0%)、授業の討議参加(40.0%)の要素を総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC511J			
社会学系		備考	
科目名	社会学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 藤村 正之		

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

社会学研究において、社会問題と社会政策という具体的対象の分析・検討をふまえ、社会学の視点・分析枠組・方法について理解を深め、各自の研究に応用していくことを課題目標とします。今学期は、社会問題の社会学的研究の一潮流としての構築主義に焦点をあて、その基礎論を学びつつ、社会現象がデータ化・言語化されること、その認識の妥当性などを理解するためのテキストを輪読していきたいと思います。社会現象がプロセスの中で生成していくという観点を具体的題材を通して習得し、社会的視野を深めていくことにトライしてみてください。院生の報告、グループワークでのコメント、教員からの講義や解説、全員での討議という形で基本的に進出し、基本文献・応用文献の学習を通じて、研究の基礎を学んでいきます。

〔到達目標〕

- (1) 文献の報告などを通じて、理論的論文を読解し論点を整理する力、要点のまとめられたレジュメを作る力、わかりやすい発表をおこなう力を身につけていく。
- (2) 全員での討議を通じて、問題を発見する力、相互の議論を位置づけていく力、議論の流れをサポートする力を身につけていく。
- (3) 授業全体を通じて、社会学の理論と方法を自分の研究テーマに結びつけて、実践的に使えるような研究態度を身につけていく。

授業内容

1. イントロダクション(博士前期課程での勉強の紹介、テーマの概況の紹介、今期の進行計画の確認)
2. 基礎文献の輪読(第1クール)
 - 1: J.ベスト『社会問題とは何か』(社会問題の過程)
3. 同上
 - 2: (活動家・専門家・メディア)
4. 同上
 - 3: (大衆の反応)
5. 同上
 - 4: (構築主義のスタンス)
6. 基礎文献の輪読(第2クール)
 - 1: H.S.ベッカー『完訳アウトサイダーズ』(逸脱の種類)
7. 同上
 - 2: (逸脱的職業集団)
8. 同上
 - 3: (ラベリング理論再考)
9. 応用文献の輪読A—1 (基礎)・院生との協議により確定
10. 同上
 - 2: (応用)
11. 同上
 - 3: (展開)
12. 応用文献の輪読B—1 (基礎)・院生との協議により確定
13. 同上
 - 2: (展開)
14. 社会問題の構築主義に関するまとめ

履修上の注意

文献を読了の上、授業での討議の素材となるよう、リアクションペーパーを毎週事前に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、授業で取り上げる文献について読了し、関連する論文やデータ・資料などについても調べたりする。報告担当者はレジュメの準備をする。また、受講者は当日の討議可能なように、自分の問題意識を確認しリアクションペーパーに整理しておく(2時間半程度)。復習として、授業中に紹介した文献について、できるだけ多く読了し、社会学の理論や方法論について理解を深める(1時間程度)。

教科書

J.ベスト『社会問題とは何か』筑摩書房・2020年
H.S.ベッカー『完訳アウトサイダーズ』現代人文社・2011年

参考書

赤川学『社会問題の社会学』弘文堂・2012年

課題に対するフィードバックの方法

授業内においておこなう。

成績評価の方法

文献報告レポート (30.0%)、リアクションペーパー (30.0%)、授業の討議参加(40.0%)の要素を総合的に判断する。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC511J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

本講義では、19世紀から21世紀初頭に至る日本社会の再生産システム(家族・人口・社会構造)の動態の全体像を、実証的データにもとづき客観的に描く。Ⅰでは、主に「変化と連続性」に焦点を当てるとともに、アジアとヨーロッパの諸文明・諸社会と比較することにより、日本社会の構造的メカニズムを明らかにする。

家族と共同体の再生産システムに関する最先端の研究を理解することが目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：家族システム(1)
- 第3回：家族システム(2)
- 第4回：家族システム(3)
- 第5回：性別分業の存立構造(1)
- 第6回：性別分業の存立構造(2)
- 第7回：結婚と離婚(1)
- 第8回：結婚と離婚(2)
- 第9回：夫婦出生力と家族の再生産(1)
- 第10回：夫婦出生力と家族の再生産(2)
- 第11回：国際比較(1)
- 第12回：国際比較(2)
- 第13回：国際比較(3)
- 第14回：総括

履修上の注意

授業内容は、受講者の問題関心に応じて、適宜組み替えながら進めていく。

準備学習(予習・復習等)の内容

レジュメ／リアクション・ペーパーの提出を求めるので、十分な準備を行うこと。

教科書

教科書は使用せず、毎回レジュメ・資料を配付する。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
 平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
 小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育――近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
 小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史――せめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
 小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係――子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
 石原邦雄・青柳涼子・田淵六郎編『現代中国家族の多面性――中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
 Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC511J			
社会学系		備考	
科目名	比較社会学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

本講義では、19世紀から21世紀初頭に至る日本社会の再生産システム(家族・人口・社会構造)の動態の全体像を、実証的データにもとづき客観的に描く。Ⅱでは、主に「地域性と長期持続」に焦点を当てるとともに、アジアとヨーロッパの諸文明・諸社会と比較することにより、日本社会の構造的メカニズムを明らかにする。

再生産システムの地域性と長期持続に関する最先端の研究を理解することが目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：日本社会の基層構造(1)
- 第3回：日本社会の基層構造(2)
- 第4回：家族世帯構造の地域性(1)
- 第5回：家族世帯構造の地域性(2)
- 第6回：性別分業と世代分業
- 第7回：結婚と離婚の地域性
- 第8回：出生行動の地域性(1)
- 第9回：出生行動の地域性(2)
- 第10回：無子化・人口減少の歴史的意味
- 第11回：国際比較(1)
- 第12回：国際比較(2)
- 第13回：国際比較(3)
- 第14回：総括

履修上の注意

授業内容は、受講者の問題関心に応じて、適宜組み替えながら進めていく。

準備学習(予習・復習等)の内容

レジュメ／リアクション・ペーパーの提出を求めるので、十分な準備を行うこと。

教科書

教科書は使用せず、毎回レジュメ・資料を配付する。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
 平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
 小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育――近代家族というアリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
 小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史――せめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
 小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係――子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
 石原邦雄・青柳涼子・田淵六郎編『現代中国家族の多面性――中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
 Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) PSY511J			
社会学系		備考	
科目名	社会心理学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 樋口 収		

授業の概要・到達目標

ヒトは社会的動物です。ヒトの社会性の基盤となっているのは、適応的な心の働きです。本講義では、どのように社会的手がかりがヒトの認知、感情、行動に影響を及ぼしているのかを考えながら、適応した心の働きについて学びます。本講義の目標は(1)社会心理学の用語を理解し、(2)社会心理学の研究データを分析し、(3)それらの用語を使ってヒトの心の働きを説明できるようになることです。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 心理学研究法①
- 第3回 心理学研究法②
- 第4回 心理学研究法③
- 第5回 進化社会心理学とは
- 第6回 女性の長期配偶戦略①
- 第7回 女性の長期配偶戦略②
- 第8回 男性の長期配偶戦略①
- 第9回 男性の長期配偶戦略②
- 第10回 女性の短期配偶戦略
- 第11回 男性の短期配偶戦略
- 第12回 育児の問題①
- 第13回 育児の問題②
- 第14回 総括

*受講生の関心によって内容が多少変更される可能性もあります。

履修上の注意

授業はテキスト、論文を輪読する形式でおこないます。受講生には提示された内容の中から興味のあるものを選び、発表をしていただきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自、提示されたテキスト、論文を熟読してくること。

教科書

特に指定しない。

参考書

Buss, D. (2025). Evolutionary Psychology: The new science of the mind. Routledge.
長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久 (2022). 進化と人間行動 第二版 東京大学出版会
ミラン, A. S. & カナザワ, S. (2019). 進化心理学から考えるホモサピエンス パンローリング

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に対する態度 50%
発表内容 50%

その他

科目ナンバー：(PE) PSY511J			
社会学系		備考	
科目名	社会心理学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 樋口 収		

授業の概要・到達目標

ヒトは社会的動物です。ヒトの社会性の基盤となっているのは、適応的な心の働きです。本講義では、どのように社会的手がかりがヒトの認知、感情、行動に影響を及ぼしているのかを考えながら、適応した心の働きについて学びます。本講義の目標は(1)社会心理学の用語を理解し、(2)社会心理学の研究データを分析し、(3)それらの用語を使ってヒトの心の働きを説明できるようになることです。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 利他行動①
- 第3回 利他行動②
- 第4回 攻撃と闘争①
- 第5回 攻撃と闘争②
- 第6回 性間葛藤①
- 第7回 性間葛藤②
- 第8回 地位、社会的支配性①
- 第9回 地位、社会的支配性②
- 第10回 生活史理論①
- 第11回 生活史理論②
- 第12回 心理学研究法④
- 第13回 心理学研究法⑤
- 第14回 総括

*受講生の関心によって内容が多少変更される可能性もあります。

履修上の注意

授業はテキスト、論文を輪読する形式でおこないます。受講生には提示された内容の中から興味のあるものを選び、発表をしていただきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自、提示されたテキスト、論文を熟読してくること。

教科書

特に指定しない。

参考書

Buss, D. (2025). Evolutionary Psychology: The new science of the mind. Routledge.
長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久 (2022). 進化と人間行動 第二版 東京大学出版会
ミラン, A. S. & カナザワ, S. (2019). 進化心理学から考えるホモサピエンス パンローリング

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に対する態度 50%
発表内容 50%

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC591J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

産業社会学は、産業社会や組織における人びとの仕事や働き方を幅広く取り扱う学問です。この授業では主に日本社会を対象とし、戦後日本の産業社会の変化とその中での組織における人々の仕事や働き方の変化について考えます。到達目標は、(1) 産業社会の諸概念を理解し自分の言葉で説明できること、(2) 戦後日本の産業社会の変化について自分なりの考察ができること、(3) 今後の日本の産業社会とその中での個人の仕事や働き方について考え、展望を持てるようになることです。

授業内容

授業は毎回次のようなテーマで進めます。

- 第1回 インTRODクシヨソ
 - 第2回 「日本の経営」の功罪
 - 第3回 人的資源管理(1)採用・雇用管理
 - 第4回 人的資源管理(2)人事評価・処遇
 - 第5回 キャリア開発と人材育成(1)キャリア開発
 - 第6回 キャリア開発と人材育成(2)職場での学習
 - 第7回 働きがいと働きやすさ
 - 第8回 働き方改革の行方(1)長時間労働はなぜ生まれるのか？
 - 第9回 働き方改革の行方(2)同一労働同一賃金は実現するか？
 - 第10回 働き方の多様化(1)若者と仕事
 - 第11回 働き方の多様化(2)女性労働
 - 第12回 働き方の多様化(3)高齢者雇用、外国人労働者
 - 第13回 職場のメンタルヘルス
 - 第14回 新しい産業社会のあり方と働き方を考える
- ※各回のテーマは履修者の興味関心に合わせて変更することもあり得ます。

履修上の注意

授業は論文やテキストの輪読をもとに議論を行います。論文やテキストはテーマに合わせたものを教員が選択し、配布します。興味のあるテーマについて担当を決め、受講生に発表をしていただきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定された論文やテキストの読み込みと発表準備。期末レポートの作成

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参画 30%
発表内容 70%

その他

科目ナンバー：(PE) SOC591J			
社会学系		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

産業社会学は、産業社会や組織における人びとの仕事や働き方を幅広く取り扱う学問です。最近では組織行動や産業組織心理学の領域における研究も活発に行われています。そこでこの授業では、産業社会を考える手がかりとするため、組織行動や産業組織心理学における諸理論や最新の研究動向について見ていきます。到達目標は、(1) 組織行動や産業組織心理学の諸概念を理解し自分の言葉で説明できること、(2) 諸理論を用いて自分の身近な産業社会について考察ができること、(3) 今後の仕事や働き方について考え、展望を持てるようになることです。

授業内容

授業は毎回次のようなテーマで進めます。

- 第1回 インTRODクシヨソ
 - 第2回 産業社会と組織行動
 - 第3回 仕事への動機づけ
 - 第4回 職場の人間関係と意思決定
 - 第5回 職場のリーダーシップ
 - 第6回 組織と個人
 - 第7回 マネジャーの仕事
 - 第8回 集団の持つ力 グループ・ダイナミクス
 - 第9回 組織における協力と葛藤
 - 第10回 組織アイデンティティ
 - 第11回 キャリア発達
 - 第12回 「意義ある仕事(meaningful work)」とは？
 - 第13回 天職(calling)とは？
 - 第14回 新しい時代の仕事と働き方
- ※各回のテーマは履修者の興味関心に合わせて変更することもあり得ます。

履修上の注意

授業は論文やテキストの輪読をもとに議論を行います。論文やテキストはテーマに合わせたものを教員が選択し、配布します。興味のあるテーマについて担当を決め、受講生に発表をしていただきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定された論文やテキストの読み込みと発表準備。期末レポートの作成

教科書

特に指定しません。

参考書

スティーブンP.ロビンズ（著）高木晴夫（訳）「【新版】組織行動のマネジメントー入門から実践へ」 ダイヤモンド社、2009年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参画 30%
発表内容 70%

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC541J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

本授業は①福祉社会学の課題と方法、②ケースワーカーの生態、③権利主体としての「老年」の形成、④老人福祉と利用者家族との関係、⑤住民運動による老人福祉への阻害、⑥障害児殺しの減刑反対運動などを中心に、現代日本の社会福祉の諸問題について、社会学の視点より探究する。本授業では、(a)社会学の視点から社会福祉をどう捉えるか、(b)福祉社会学によって社会の本質・人間像をどう分析するかなどを試み、福祉社会学の全体像を浮き彫りにする。また、本授業で取り上げられている社会福祉問題を例として、社会学論文のテーマの選び方、資料収集の方法、構成の手法などにかんして説明する。

授業内容

- 1 福祉社会学の課題と方法①
- 2 福祉社会学の課題と方法②
- 3 ケースワーカーの生態①
- 4 ケースワーカーの生態②
- 5 権利主体としての「老年」の形成①
- 6 権利主体としての「老年」の形成②
- 7 だれのための老人福祉か①
- 8 だれのための老人福祉か②
- 9 老人福祉は利用者の家族をどう扱っているか①
- 10 老人福祉は利用者の家族をどう扱っているか②
- 11 なぜ住民運動は老人福祉を阻害したのか①
- 12 なぜ住民運動は老人福祉を阻害したのか②
- 13 障害児殺しと減刑反対運動①
- 14 障害児殺しと減刑反対運動②

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読むこと。授業後、教科書の該当箇所を復習すること。

教科書

『福祉社会学宣言』副田義也(岩波書店) 2008年。

参考書

- ①『福祉社会学革命』副田義也(東信堂) 2022年。
 - ②『比較福祉国家』鎮目真人・近藤正基(ミネルヴァ書房) 2013年。
- ほかは授業中に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度(30%)、②討論への参加(30%)、③報告(40%)によって評価を行う。

その他

なし

科目ナンバー：(PE) SOC541J			
社会学系		備考	
科目名	福祉社会学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

本授業は①闘争と葛藤の福祉社会学、②貧困と公的扶助における闘争、③運動とケアにおける葛藤、④東アジア諸国の福祉と闘争などを中心に、生活保護、障害者運動、認知症ケア、緩和ケア、格差・不平等などの問題について、「闘争性の福祉社会学」の視点から探究する。本授業では日本、中国、北朝鮮などの社会福祉問題にかんする分析によって、東アジア人の老人観・障害者意識・死生観、東アジア社会の福祉の特質を研究し、福祉の創出と本質をドラマとしてとらえる可能性を探る。また、本授業で取り上げられている社会福祉の諸課題を例として、社会学論文のテーマの選定、資料収集の方法、構成の手法にかんして説明する。

授業内容

- 1 社会の闘争モデルによる福祉社会学・序説
- 2 「当事者」研究から「当事者研究」へ
- 3 市民社会のグローバル化
- 4 生活保護しかなかった
- 5 公的扶助訴訟の社会史
- 6 ケースワーカーとクライアントの葛藤関係
- 7 障害者運動における親と子の葛藤について
- 8 映像の中に見る認知症の人の「思い」
- 9 緩和ケア病棟で働くということ
- 10 中国における都市部と農村部の福祉格差
- 11 北朝鮮国民の生活実態
- 12 変化する社会の不平等
- 13 福祉社会学の研究対象
- 14 福祉社会学の特質と可能性

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読むこと。授業後、教科書の該当箇所を復習すること。

教科書

『闘争性の福祉社会学—ドラマトゥルギーとして』副田義也編(東京大学出版会) 2013年。

参考書

- ①『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著、岡沢憲英・宮本太郎訳(ミネルヴァ書房) 2001年。
- ②『福祉国家への視座』大山博ほか編(ミネルヴァ書房) 2000年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度(30%)、②討論への参加(30%)、③報告(40%)によって評価を行う。

その他

特になし

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
社会学系		備 考	
科 目 名	社会人類学研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(国際政治経済学) 比嘉 理麻		

授業の概要・到達目標

社会人類学研究Ⅰでは、アナキズム人類学を中心に学びながら、支配されずに生きるための思想と実践を手に入れることを目指す。

春学期の到達目標は、自らの暮らしの中での支配状況に気づき、支配から逃れる道筋を具体的に想像できるようになることである。

授業内容

第1回目	イントロダクション
第2回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第3回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第4回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第5回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第6回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第7回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第8回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第9回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第10回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第11回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第12回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第13回目	アナキズム人類学の基礎と議論
第14回目	総括

履修上の注意

無断欠席・遅刻禁止

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示した文献を精読すること。

教科書

履修者と相談し決定する。

参考書

授業中に適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中とメール等で適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(40%)、ディスカッションへの貢献度(30%)、課題(30%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) POL591J			
社会学系		備 考	
科 目 名	社会人類学研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(国際政治経済学) 比嘉 理麻		

授業の概要・到達目標

社会人類学研究Ⅱでは、アナキズム人類学の思想と実践を深く理解し、現代社会の中で脱支配を実現するにはどうしたらいいか、自ら思考できるようになることを目指す。

秋学期の到達目標は、脱支配を実現した社会とはどのような社会か、具体的に構想・考案できるようになることである。

授業内容

第1回目	イントロダクション
第2回目	アナキズム人類学の応用と議論
第3回目	アナキズム人類学の応用と議論
第4回目	アナキズム人類学の応用と議論
第5回目	アナキズム人類学の応用と議論
第6回目	アナキズム人類学の応用と議論
第7回目	アナキズム人類学の応用と議論
第8回目	アナキズム人類学の応用と議論
第9回目	アナキズム人類学の応用と議論
第10回目	アナキズム人類学の応用と議論
第11回目	アナキズム人類学の応用と議論
第12回目	アナキズム人類学の応用と議論
第13回目	アナキズム人類学の応用と議論
第14回目	総括

履修上の注意

無断欠席・遅刻禁止

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示した文献を精読すること。

教科書

履修者と相談し決定する。

参考書

授業中に適宜、指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中とメール等で適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(40%)、ディスカッションへの貢献度(30%)、課題(30%)

その他

特になし。

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL591J			
社会学系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ(社会学系)		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 木寺 元		

授業の概要・到達目標

この授業では、いまの政治に関する重要なテーマに関するできる限り新しい政治学の英文論文を読む。そのことを通じ、いま政治学は何を議論し、何を明らかにしようとしているかの動向を理解し、できればそこで得られた知見を日本政治を見つめる際にどのように適用することが可能かを検討する。

授業内容

Week 1: Introduction
Week 2: Electoral Systems and Political Representation
Week 3: Voting Behavior : Dealignment and Realignment
Week 4: Political Parties: Organizations, Members, and Leaders
Week 5: Party Systems and Competition: Fragmentation and Polarization
Week 6: The Populist Challenge: Parties and Constituencies
Week 7: Governments and Executives: Coalition Formation and Stability
Week 8: Legislative Politics: Behavior, Speech, and Text Analysis
Week 9: Judicial Politics: The Rule of Law and Courts
Week 10: Civil Society, Social Movements, and Protest Politics
Week 11: Identity Politics: Nationalism, Regionalism, and Gender
Week 12: The Domestic Politics and Region
Week 13: Democratic Backsliding and Illiberalism
Week 14: Future Challenges

履修上の注意

各回のテーマは変更される可能性がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、担当者は投影用のプレゼン資料、それが用意できない場合は配布する紙のレジュメを用意すること。細かい方法論や分析の手法は理解できなくてよい。最低限、その論文は何を問いに立て、それに対してどう答えたのかを明らかにすること。他の参加者は、可能な限り目を通し、日本政治を分析するとしたらどう言う議論が可能か、を考えておくこと。

教科書

教科書は使用しない。各回のテーマに関わる論文を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL591J			
社会学系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ(社会学系)		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 水野 剛也		

授業の概要・到達目標

本講の目的は、広くマス・メディア、ジャーナリズムに関する本格的で高度な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることである。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目指す共同作業を意味する。

大学院生は、単なる学生ではなく、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、多量の文献課題を要求する。当然、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。

最後に、担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

授業内容

受講者数によるが、現時点では、教員が指定する英語の文献・学術論文を全員が精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。

第1回 イントロダクション(全体的な方針の説明など)
第2回 研究テーマなど受講者による自己プレゼンテーション
第3回 文献の精読
第4回 文献の要約・所感発表とディスカッション 1
第5回 文献の精読
第6回 文献の要約・所感発表とディスカッション 2
第7回 文献の精読
第8回 文献の要約・所感発表とディスカッション 3
第9回 文献の精読
第10回 文献の要約・所感発表とディスカッション 4
第11回 文献の精読
第12回 文献の要約・所感発表とディスカッション 5
第13回 これまで読んだ文献全体に関するディスカッション
第14回 総括

履修上の注意

担当教員が昨年度とは異なることに留意すること。

小規模となることが予想されるので、教員による一方向的な講義は一切しない。各自が精読した英語の文献・学術論文の要約・所感発表とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、研究者としての能力を相互に高めあいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後にわたり、文献・学術論文の入念な精読、追加的な調査、精緻な発表、ハイレベルなディスカッション、それらすべての再検討が求められる。精読すべき文献以外にも、関連する資料・文献を広く渉猟することが期待される。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書

初回の講義で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献・学術論文の要約・所感発表＝50%、ディスカッション＝50%
日常的な継続的努力がもっとも重要である。したがって、欠席が大きな失点となることは当然であるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。文献・学術論文を精読し、追加的な調査をおこなったうえで精緻な発表をすることはもちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備考	
科目名	政治学特殊講義Ⅰ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.		伊藤 剛

授業の概要・到達目標

This graduate level introduction to international relations is intended for international students (Japanese students as well, if they like) to acquire basic concepts of the field. We obviously cannot cover all issues in the short period, but our strong point is to conduct the class in English so that both international and Japanese students could create a common academic ground. Thus, this course is designed to introduce students to some of the major subfields which fall under the increasingly broad umbrella of international studies including security studies and international political economy. By presenting some of the most important issues across the spectrum of the field, students should be better able to identify those areas which they wish to pursue in depth.

Therefore, the substance of this course will be decided depending on students' expertise as well as their interest. In our first meeting, the instructor will discuss the seminar's topics with students.

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Consultations on Reading Materials
- 第3回 Readings and Discussions (1)
- 第4回 Readings and Discussions (2)
- 第5回 Readings and Discussions (3)
- 第6回 Readings and Discussions (4)
- 第7回 Readings and Discussions (5)
- 第8回 Readings and Discussions (6)
- 第9回 Mid-term Consultations
- 第10回 Readings and Discussions (7)
- 第11回 Readings and Discussions (8)
- 第12回 Readings and Discussions (9)
- 第13回 Readings and Discussions (10)
- 第14回 Final Discussions

履修上の注意

This class will be conducted in English. Prospective participants are urged to have their own topics for study.

準備学習（予習・復習等）の内容

None

教科書

Upon consultations with students

参考書

- You may find the following books written by the instructor.
- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店、2004年。
 - ② アルフレード・ヴァラダン（伊藤ほか訳）『自由の帝国』NTT出版、2000年。
 - ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂、2002年。
 - ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
 - ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂、2006年。
 - ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房、2007年。
 - ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
 - ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U.K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Paper + Class Participation, but things will be decided as the class goes on.

その他

This class will be conducted intensively in the fall semester.

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備考	
科目名	政治学特殊講義Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.		伊藤 剛

授業の概要・到達目標

This graduate level introduction to international relations is intended for international students (Japanese students as well, if they like) to acquire basic concepts of the field. We obviously cannot cover all issues in the short period, but our strong point is to conduct the class in English so that both international and Japanese students could create a common academic ground. Thus, this course is designed to introduce students to some of the major subfields which fall under the increasingly broad umbrella of international studies including security studies and international political economy. By presenting some of the most important issues across the spectrum of the field, students should be better able to identify those areas which they wish to pursue in depth.

Therefore, the substance of this course will be decided depending on students' expertise as well as their interest. In our first meeting, the instructor will discuss the seminar's topics with students.

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Consultations on Reading Materials
- 第3回 Readings and Discussions (1)
- 第4回 Readings and Discussions (2)
- 第5回 Readings and Discussions (3)
- 第6回 Readings and Discussions (4)
- 第7回 Readings and Discussions (5)
- 第8回 Readings and Discussions (6)
- 第9回 Mid-term Consultations
- 第10回 Readings and Discussions (7)
- 第11回 Readings and Discussions (8)
- 第12回 Readings and Discussions (9)
- 第13回 Readings and Discussions (10)
- 第14回 Final Discussions

履修上の注意

This class will be conducted in English. Prospective participants are urged to have their own topics for study.

準備学習（予習・復習等）の内容

None

教科書

Upon consultations with students

参考書

- You may find the following books written by the instructor.
- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店、2004年。
 - ② アルフレード・ヴァラダン（伊藤ほか訳）『自由の帝国』NTT出版、2000年。
 - ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂、2002年。
 - ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
 - ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂、2006年。
 - ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房、2007年。
 - ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
 - ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U.K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Paper + Class Participation, but things will be decided as the class goes on.

その他

Come see me if you have any questions.

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備考	
科目名	政治学特殊講義Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.		堀金 由美

授業の概要・到達目標

Development has been one of the most critical issues and largest challenges that most of the post-war newly independent states had to face. Having been understood to be an issue of economic growth, however, the task to tackle this initially went predominantly to economists. However, the process in fact was very political. This course looks at such a process of social and economic development from political economy perspective. It is an introduction to the studies of comparative political economy of development with a focus on the role of the state.

授業内容

1. Introduction
2. Development in the post-war international politics and economy
3. "Political economy" approach
4. Role of the state vs. market in development (1)
5. Role of the state vs. market in development (2)
6. State capacity and development (1)
7. State capacity and development (2)
8. State capacity and development (3)
9. Effectiveness of the state
10. Discussions on the industrial policy
11. State building (1)
12. State building (2)
13. State building (3)
14. Paper presentations by the students and wrapping up

履修上の注意

The class will be operated in a very participatory manner. Your active participation will be highly expected.

In addition, each student will be required to write an essay on a related theme and present it to the class toward the end of the course.

準備学習（予習・復習等）の内容

Rather than merely attending and listening to the lecture, students are expected to read the papers, chapters or articles on the reading list in advance every time, and participate in the discussion in the class.

教科書

A reading list will be provided on the first day from which the text books and/or articles will be chosen depending on the interests of the participants.

参考書

A reading list will be provided on the first day.

課題に対するフィードバックの方法

Any necessary comments and/or feedback to the students will be given in the class.

成績評価の方法

Attendance and active participation in the class (30%)
Presentations (30%)
Final presentation or the student's own research case and the term paper (40%)

その他

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備考	
科目名	政治学特殊講義Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.		堀金 由美

授業の概要・到達目標

This is a course on the political economy of development with a focus on the concept of the developmental state. Following the discussion on the basic concept and the original model, this course looks at the political economy of East Asian development in comparative historical perspective. After working on East Asian cases, we would move onto authoritarian regimes in other regions, and would also deal with other issues such as democratic transition and state capacity.

授業内容

1. Introduction
2. The developmental state: the concept
3. The developmental state: the keys
4. The original model: Japan and the MITI
5. The East Asian developmental state (1) South Korea as Asia's Next Giant
6. The East Asian developmental state (2) Taiwan: Governing the Market?
7. The developmental state in comparative perspective (1)
8. The developmental state in comparative perspective (2)
9. State capacity and development
10. Corruption and development
11. Authoritarianism and democratic transition
12. Competitive authoritarianism
13. Case presentations by the students
14. Wrapping up

履修上の注意

The class will be operated in a very participatory manner. Your active participation will be highly expected.

In addition, each student will be required to write an essay on a related theme and present it to the class toward the end of the course.

準備学習（予習・復習等）の内容

Rather than merely attending and listening to the lecture, students are expected to read the papers, chapters or articles on the reading list in advance every week and participate in the discussion in the class.

教科書

A reading list will be provided on the first day, from which the text books and/or articles will be chosen depending on the interests of the participants.

参考書

A list will be provided on the first day.

課題に対するフィードバックの方法

Any necessary comments and/or feedback to the students will be given in the class.

成績評価の方法

Attendance and active participation in the class (30%)
Presentations (30%)
Final presentation or the student's own research case and the term paper (40%)

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備 考	
科 目 名	政治学特殊講義Ⅰ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 Ph.D.		松浦 正浩

授業の概要・到達目標

This course provides an introduction to theoretical frameworks for analyzing policy processes. It starts with an overview of canonical theories on policy processes, such as problem definition, incrementalism, agenda setting, implementation, and bureaucracy. We will also discuss the influence of cultural and institutional contexts and the role of knowledge in the policy process. This course will also cover recent trends, such as policy networks, advocacy coalition, policy transfer, and deliberative democracy. The course will discuss the practice of policy-making in Japan as well. The course is structured around pre-class readings and in-class discussions. Students are asked to present a synthesized summary of their assigned readings in the class.

授業内容

Week 1
Introduction
Week 2
Incrementalism and implementation
Lindblom, C. (1959). "The Science of 'Muddling Through,'" Public Administration Review, 19 (2), pp. 79-88
Lipsky, M. (1980). Street-Level Bureaucracy. Russel Sage Fdn. Chapter 2
Week 3
Agenda setting
Kingdon, J. (1995). Agendas, Alternatives, and Public Policies (2nd Ed). New York, NY: Addison-Wesley. Chapter 9
Baumgartner, F. and Jones, B. (1993). Agendas and Instability in American Politics. Univ. of Chicago Press. Chapter 12
Week 4
Path dependence and issue-attention cycle
David, P. (1985) "Clio and the Economics of QWERTY." American Economic Review, 75(2), pp. 332-337.
Downs, A. (1972) "Up and Down with Ecology: The 'Issue-Attention' cycle," Public Interest, 28, pp. 38-50.
Week 5
Problem definition and advocacy coalition
Stone, D. (1988). Policy Paradox: the art of political decision making. New York, NY: W.W. Norton. Chapter 6.
Jenkins-Smith, H. and Sabatier, P. (1994). "Evaluating the Advocacy Coalition Framework." Journal of Public Policy, 14(2) . pp. 175-203.
Week 6
Behavioral economics
Kahneman, D. (2011). Thinking Fast and Slow. New York, NY: Allen Lane. Chapters 1 and 3.
Thaler, R. and Sunstein, C. (2009). Nudge: Improving decisions about health, wealth, and happiness. Introduction Chapter.
Week 7
Institutions (1)
Argyris, C. (1992). On Organizational Learning. Cambridge, MA: Blackwell. Chapter 1.
DiMaggio, P. and Powell, W. (1983). "The Iron Cage Revisited: Institutional Isomorphism and Collective Rationality in Organizational Fields," American Sociological Rev., 48, pp. 147-160.
Week 8
Institutions (2)
Ostrom, E. (1990). Governing the Commons. New York, NY: Univ. of Cambridge. Chapter 3.
Olson, M. (1971). The Logic of Collective Action (2nd ed.) Cambridge, Mass: Harvard University Press. Chapter Ch. 1 (pp. 5-16, 33-52)
Week 9
Policy transfer and lesson drawing
Rose, R. (1991). "What is Lesson-Drawing," Journal of Public Policy, 11, pp. 3-30.
Westney, E. (1987). Imitation and Innovation: The transfer of Western organizational patterns to Meiji Japan. Cambridge, MA: Harvard University Press. Chapter 1
Week 10
Scientific advice
Stirling, A. (2010). "Keep it complex," Nature, 468, pp. 1029?1031.
Pielke, R. (2007). The Honest Broker: Making sense of science in policy and politics. Cambridge, UK: Cambridge University Press. Chapter 2.
Week 11
Japanese policy processes
Freeman, L. A. (2000). Closing the Shop: Information cartels and Japan's mass media. Princeton, NJ: Princeton Univ. Press. Chapter 3.
Schwartz, F. and Pharr, S. (eds.) (2003). The State of Civil Society in Japan. Cambridge, UK: Cambridge University Press. Introduction.
Week 12
Public participation and collaborative governance
Arnstein, S (1969). "A Ladder of Citizen Participation," Journal of the American Institute of Planners, 35, pp.216-224.
Carpenter, S. L., & Kennedy, W. J. D. (1988). Managing Public Disputes. San Francisco, CA: Jossey-Bass. Chapter 2 [before case study part]
Week 13
Deliberative democracy
Guttman, A. and Thompson, D. (1996). Democracy and Disagreement. Cambridge, MA: Belknap. Chapter 2.
Reich, R. (ed.) (1988). The Power of Public Ideas. Cambridge, MA: Harvard Univ. Chapter 6.
Week 14
Wrap-up

履修上の注意

None.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each student should read these reading materials before the class and be able to discuss their lessons from reading them. The instructor will administer a short quiz with a few multiple-choice questions about In each class, two students will be asked to provide reviews of articles. Each will be asked to provide a short summary of an article (in approximately 10 minutes), present an instance of policy-making in recent years, and discuss how the lessons from that article can be applied to analyzing the case (in approximately 20 minutes, including discussions)

教科書

Reading materials will be provided at the outset of the course.

参考書

None.

課題に対するフィードバックの方法

Instructor will provide commentaries to the in-class presentations. He will provide answer keys immediately after each quiz, and each student can assess his/her knowledge.

成績評価の方法

Class participation (including in-class presentation) 30% , Short quiz 50% , Final essay 20%
Each week, the instructor will administer a short quiz with a few multiple-choice questions about the reading materials for that week as well as the lessons from the previous week's lecture.
Final Essay Instruction: Choose TWO pieces of literature covered in the class and apply the lessons from them to an analysis of an actual case of policy-making or political controversy. Max. 3 pages, single spaced. Due in the mid-January on Oh-of Meiji.

その他

科目ナンバー：(PE) POL511E			
政治学専攻共通科目		備 考	
科 目 名	政治学特殊講義Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(政策研究) 田中 秀明		

授業の概要・到達目標

This course is intended to provide a framework for thinking about how governments can strengthen public governance and attain sound fiscal performance and to give guidance on the key elements of them, in particular Public Financial Management (PFM). PFM is concerned with the planning, management, control and accountability of public financial resources and typically includes budgeting, financial management, accounting and auditing. The course presents the theoretical and practical setting for the management of financial resources in the government sector. Students can learn best practices on PFM in the world.
Across the world, recent reforms have seen the transfer of management authority from central government to line agencies, and budget and accounting systems adopt more commercially focused models. It is so called, "New Public Management". The course will also examine the idea of NPM critically, and discuss the transformation of public sector and public governance in the wider sense. The course will focus on not only experiences in developed countries including Japan but also those in developing countries. Students will be encouraged to discuss and analyze issues and problems in their own countries.
This course is aimed at officials in the public sector and those who are interested in managing and improving government finances actually.
The first part (class No.1 - 2) introduces the framework of public financial management. The second part (class No.3-12) discusses specific issues on financial management, budgeting and accounting. The last part (class No.13 -14) covers wider issues of public sector reform. Those who take this course will be invited for a field trip to local areas in Japan, which aims to learn economic, social and regional developments in Japan.

授業内容

[Week 1]
Introduction
Objective and outline of course, Scope of government, Public financial management, budget and political institutions
[Week 2]
Political economy of public finance and budget system
Nature and problems of government finance including common pool problem, Budget and fiscal institutions, political institutions and electoral system, Determination of deficit and debt, Legal framework of budget, Budget systems, coverage and classification of budget Budget process, cash management.
[Week 3-5]
Evaluation and performance
Theories of evaluation and performance measurement, Logic model and short exercise, Strategic plan and management
[Week 6]
Performance budgeting
Theories and practices of performance budgeting
How to link evaluation and resource allocation
[Week 7]
State own enterprise and privatization
Nature and classification of goods and services, Pros and Cons of SOE and Government corporations, Development of privatization
[Week 8]
Agency, outsourcing and PFI/PPP
Unbundle of government services, Alternatives to provide public services, Private Finance Initiative (PFI) / Public Private Partnership (PPP)
[Week 9]
Procurement and corruption
Some countries have been reforming procurement system in terms of VFM. Privatization and decentralization are likely to cause corruption, so the importance of protecting public money should be strengthened.
[Week 10]
Public sector accounting and audit
Role of accounting, budgetary accounting and financial accounting, Activity-based cost management Accounting system and standard, cash and accrual accounting
[Week 11]
Fiscal policy and rules
Overall fiscal trend in OECD (general government balance and debt) Macroeconomic framework of government finance, Fiscal policy and roles of fiscal rules
[Week 12]
Medium-term fiscal framework
How to manage medium-term fiscal framework (MTFF)
[Week 13]
New public management and public sector governance
Theories and ideas of NPM, pros and cons of NPM, Understanding public administration and civil service system, Relevance of other countries' reform to your countries, Public governance and accountability
[Week 14]
Conclusion
Summary and conclusion of the course

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Each class is basically organized as follows.
1. All of students are expected to read some of references before a class and are required to have short presentations on a few references from the list or other research questions except the first few classes.
2. The instructor makes comments on students' presentation and provides further information and knowledge, in particular actual examples and experiences. Students are expected to contribute to each session through discussing issues and problems on each topic.

教科書

No textbook, but the list of references is provided at the first class.

参考書

The list of references is provided at the first class, which includes the following as general references.
Richard Allen, Richard Hemmings and Barry H. Potter, 2013, The International Handbook of Public Financial Management, Palgrave Macmillan
Salvatore Schiavo-Campo, 2017, Government Budgeting and Expenditure Management: Principles and International Practice, Routledge
OECD 2019, Budgeting and Public Expenditures in OECD Countries 2019
OECD 2019, Government at a Glance Southeast Asia
IMF 2022, PIMA Handbook: Public Investment Management Assessment

課題に対するフィードバックの方法

The lecture explains how to write a term paper about one month before the final class. If a student writes an outline of his or her term paper, suggestions and advices on it are provided. Comments on a term paper is also provided by the beginning of the next term through Oh-of Meiji.

成績評価の方法

Class attendance: 30%, Presentation at class: 30%, Term paper: 40%
A presentation shows the content of references above in which a student is interested.
They can also choose other references based on the lecturer's approval. Score of a presentation depends on the following criteria.
(1) Are major points summarized clearly?
(2) A longer presentation may lose points for score. It should be completed within 20 minutes in principle.
A student is suggested to choose a theme from the following examples. He or she can choose other topic which is relevant to the lectures based on lecturer's approval.
(1) To assess PFM, fiscal transparency and other fiscal or budget institution of your country with a standard which international organizations provided.
(2) To describe the nature and characteristics of one or a few of following areas in your country and analyze major problems of it; budgeting, resource allocation, accounting, audit, financial management, privatization and outsourcing.
(3) To describe a NPM-type reform in your country and assess it critically.
(4) To compare your country's budgeting and financial management with Japanese or other countries' one.
Score of a term paper depends on the following criteria.
(1) Are an objective and theme clearly addressed?
(2) Are issues and problems explained and analyzed with a theoretical framework?
(3) Is what you learned at classes referred?
(4) Is a conclusion consistent to main explanations and analysis?
(5) Are references quoted precisely?

その他

博士前期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL516J			
政治学専攻共通科目		備 考	メディア授業科目
科 目 名	政治学特殊講義Ⅳ〔M〕		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師	博士(学術)	小林 良樹

授業の概要・到達目標

○本講義「犯罪対策とガバナンス」は「オンラインのみ授業です」。

【授業の目的】本講義「犯罪対策とガバナンス」の目的は、各履修生が、現代の犯罪情勢及び犯罪対策に関する実践的な諸課題を、犯罪社会学・公共政策学等の学術理論を踏まつつ、主に私的アクター（犯罪者、NPO、地域行政、個人等）の視点から主体的に考察できるようにすることです。言い換えると、各履修生が、犯罪情勢と犯罪対策に関する「問題意識」を形成する能力を養成することです。すなわち、ガバナンス精神の核となる「テクノロジー」である「公共政策の理論」に基づき、多様・多様な技法を駆使し、論理的・実践的な能力を修得することに関連するものです。

http://www.meiji.ac.jp/mugs2/outline/professional_dp.html

【授業概要】近年の我が国における犯罪情勢は、いわゆる特殊犯罪の問題、犯罪のグローバル化、再犯の問題、犯罪被害者支援の問題等以前にも増して複雑な課題に直面しています。こうした問題をより一層深く理解するためには、関連する学術的な諸論を踏まえるとともに、犯罪の背景にある実際の社会情勢（グローバル化、高齢化、デジタル化等）を理解する必要があります。一方、こうした状況への対応に当たっては、政府・地方自治体等の公的アクターのみなならず、市民等（犯罪者、NPO、地域行政、個人等）の視点から主体的に考察することが必要となります。さらに、実際の各々の施策の検討に当たっては、ガバナンス論的な視点、すなわち、各アクター間の利害調整（適切な役割分担、コスト負担の調整等）を具体的に検討することが求められています。

【到達目標】

- 犯罪対策に関する学術理論の基本的な概念を理解し、説明することができる。
- 犯罪対策に関する学術理論上の基本的な論点の所在を理解し、説明することができる。
- 犯罪の発生と犯罪対策に関する犯罪関連諸事象の背景事情を、学術理論に基づき理解し、説明することができる。
- 犯罪対策に関して、学術理論に基づき適切な学術的・主体的に立案し、説明することができる。

【講義手法】本講義は、教員による解説と受講生によるクラス討論を併用します。

【その他の事項】本講義の問題は、ガバナンス研究、公共政策研究全般に共通する様々な要素（対応する異なる様々な価値観の調整の問題、公的アクターと私的アクターの協働の問題、各アクター間のコスト配分の問題、安全と権利自由のバランスの問題、市民の政府参画の問題等）を多く含みます。犯罪学に関する細かい知識を取得することのみならず、ガバナンス概念、公共政策研究全般に関する基礎的な思考法の理解と修得を図ること本講義の目標です。

授業内容

【イントロダクション】

- イントロダクション（教科書：1章）
・インフラ系犯罪：技術者、被害者、加害者の、全体のスケジュール、評価方法等に関して説明をします。
・イントロダクションとして、特殊詐欺をめぐる状況とその対策、社会安全政策論の概要について概観します。

【犯罪情勢総論】

- (01) 日本の犯罪情勢（教科書：第3章1～4）
・冒頭に、前回の内容の確認テストを実施します。
・戦後の日本の犯罪情勢を様々な観点から概観します。
・客観治安と体感治安、時系列的変化と各国比較等の観点を取り上げます。
- (02) 犯罪学の歴史「犯罪はなぜ起るのか？」（教科書：第2章）
・冒頭に、前回の内容の確認テストを実施します。
・犯罪に関する学術的な諸研究の歴史を概観します。
・犯罪原因論、犯罪機会論などを取り上げます。
- (03) 政府の犯罪対策と諸問題（教科書：第3章5、第4章）
・冒頭に、前回の内容の確認テストを実施します。
・早期検中後以降の政府による犯罪被害の特徴を概観します。
・上記を踏まえて、犯罪対策をめぐる最近の考え方（社会安全政策論）について概観します。
- (04) 新しい課題－犯罪被害者等支援、犯罪者の再犯防止（教科書：第9章）
・冒頭に、前回の内容の確認テストを実施します。
・犯罪対策をめぐる最近の比較的新しい課題である犯罪被害者等支援、犯罪者の再犯防止の問題を概観します。
・犯罪と両者の関係が問題となります。
- (05) 警察組織と民衆の統制（教科書：第8章）
・冒頭に、前回の内容の確認テストを実施します。
・犯罪対策の主要なアクターの一つである警察の制度や特徴について概観します。
・社会安全政策論の重要な要素の一つである警察に対する民主的な統制の問題にも触れます。

【中間課題】

- 第1～6回の内容の理解を確認するため、中間試験（選択式）を実施します（20:30前を予定）。
・試験に当たっては、教科書、授業資料、インターネット等例を参照しても結構です（生成系AIの使用は禁止）。
・その他の詳細に関しては別途説明します。

(06)

- 事前演習①（教科書：第10章）
・これまでの内容を踏まえ、教科書第10章の事例検討（グループワーク）を実施します。

- (07) 少年の非行、少年の犯罪被害（教科書：第5章）
・冒頭に、時事問題に関する討論を実施します。
・少年の非行、少年の犯罪被害者の問題について、社会安全政策論の視点から概観します。

- (08) 犯罪のグローバル化（教科書：第6章）
・冒頭に、時事問題に関する討論を実施します。
・犯罪のグローバル化の問題について、社会安全政策論の視点から概観します。

- (09) サイバー犯罪等（教科書：第7章）
・冒頭に、時事問題に関する討論を実施します。
・サイバー犯罪等について、社会安全政策論の視点から概観します。

- (10) ティ
・冒頭に、時事問題に関する討論を実施します。
・テロとテロ対策について、社会安全政策論の視点から概観します。

【総括・期末課題】

- (11) 事前演習②
・これまでの内容を踏まえ、事例検討（グループワーク）を実施します。
- (12) 事例検討③
・これまでの内容を踏まえ、事例検討（グループワーク）を実施します。

- (13) 期末課題
・個人でのレポートの作成・提出・発表あるいは授業時間内での筆記試験（事例式）を予定しています。

履修上の注意

・特にありません。授業では、犯罪社会学、公共政策学等の学術理論にも及及しますが、事前知識等は特段不要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

【確認テスト】

- 第2、6回の授業の演習、前回授業の内容に関し、確認テスト（3～5分間、選択式：3～5問程度）を実施します（※下記のとおり、成績評価の対象となります）。

【時事問題に関する討論】

- 第9、12回の授業の授業時間10:15分間、犯罪に関連する最近の時事問題に関して討論を行います。

・各回の参加者と第一回参加者は、事前演習①、事前演習②、事例検討③、事例検討④、事例検討⑤、事例検討⑥、事例検討⑦、事例検討⑧、事例検討⑨、事例検討⑩、事例検討⑪、事例検討⑫、事例検討⑬、事例検討⑭、事例検討⑮、事例検討⑯、事例検討⑰、事例検討⑱、事例検討⑲、事例検討⑳、事例検討㉑、事例検討㉒、事例検討㉓、事例検討㉔、事例検討㉕、事例検討㉖、事例検討㉗、事例検討㉘、事例検討㉙、事例検討㉚、事例検討㉛、事例検討㉜、事例検討㉝、事例検討㉞、事例検討㉟、事例検討㊱、事例検討㊲、事例検討㊳、事例検討㊴、事例検討㊵、事例検討㊶、事例検討㊷、事例検討㊸、事例検討㊹、事例検討㊺、事例検討㊻、事例検討㊼、事例検討㊽、事例検討㊾、事例検討㊿、事例検討1、事例検討2、事例検討3、事例検討4、事例検討5、事例検討6、事例検討7、事例検討8、事例検討9、事例検討10、事例検討11、事例検討12、事例検討13、事例検討14、事例検討15、事例検討16、事例検討17、事例検討18、事例検討19、事例検討20、事例検討21、事例検討22、事例検討23、事例検討24、事例検討25、事例検討26、事例検討27、事例検討28、事例検討29、事例検討30、事例検討31、事例検討32、事例検討33、事例検討34、事例検討35、事例検討36、事例検討37、事例検討38、事例検討39、事例検討40、事例検討41、事例検討42、事例検討43、事例検討44、事例検討45、事例検討46、事例検討47、事例検討48、事例検討49、事例検討50、事例検討51、事例検討52、事例検討53、事例検討54、事例検討55、事例検討56、事例検討57、事例検討58、事例検討59、事例検討60、事例検討61、事例検討62、事例検討63、事例検討64、事例検討65、事例検討66、事例検討67、事例検討68、事例検討69、事例検討70、事例検討71、事例検討72、事例検討73、事例検討74、事例検討75、事例検討76、事例検討77、事例検討78、事例検討79、事例検討80、事例検討81、事例検討82、事例検討83、事例検討84、事例検討85、事例検討86、事例検討87、事例検討88、事例検討89、事例検討90、事例検討91、事例検討92、事例検討93、事例検討94、事例検討95、事例検討96、事例検討97、事例検討98、事例検討99、事例検討100、事例検討101、事例検討102、事例検討103、事例検討104、事例検討105、事例検討106、事例検討107、事例検討108、事例検討109、事例検討110、事例検討111、事例検討112、事例検討113、事例検討114、事例検討115、事例検討116、事例検討117、事例検討118、事例検討119、事例検討120、事例検討121、事例検討122、事例検討123、事例検討124、事例検討125、事例検討126、事例検討127、事例検討128、事例検討129、事例検討130、事例検討131、事例検討132、事例検討133、事例検討134、事例検討135、事例検討136、事例検討137、事例検討138、事例検討139、事例検討140、事例検討141、事例検討142、事例検討143、事例検討144、事例検討145、事例検討146、事例検討147、事例検討148、事例検討149、事例検討150、事例検討151、事例検討152、事例検討153、事例検討154、事例検討155、事例検討156、事例検討157、事例検討158、事例検討159、事例検討160、事例検討161、事例検討162、事例検討163、事例検討164、事例検討165、事例検討166、事例検討167、事例検討168、事例検討169、事例検討170、事例検討171、事例検討172、事例検討173、事例検討174、事例検討175、事例検討176、事例検討177、事例検討178、事例検討179、事例検討180、事例検討181、事例検討182、事例検討183、事例検討184、事例検討185、事例検討186、事例検討187、事例検討188、事例検討189、事例検討190、事例検討191、事例検討192、事例検討193、事例検討194、事例検討195、事例検討196、事例検討197、事例検討198、事例検討199、事例検討200、事例検討201、事例検討202、事例検討203、事例検討204、事例検討205、事例検討206、事例検討207、事例検討208、事例検討209、事例検討210、事例検討211、事例検討212、事例検討213、事例検討214、事例検討215、事例検討216、事例検討217、事例検討218、事例検討219、事例検討220、事例検討221、事例検討222、事例検討223、事例検討224、事例検討225、事例検討226、事例検討227、事例検討228、事例検討229、事例検討230、事例検討231、事例検討232、事例検討233、事例検討234、事例検討235、事例検討236、事例検討237、事例検討238、事例検討239、事例検討240、事例検討241、事例検討242、事例検討243、事例検討244、事例検討245、事例検討246、事例検討247、事例検討248、事例検討249、事例検討250、事例検討251、事例検討252、事例検討253、事例検討254、事例検討255、事例検討256、事例検討257、事例検討258、事例検討259、事例検討260、事例検討261、事例検討262、事例検討263、事例検討264、事例検討265、事例検討266、事例検討267、事例検討268、事例検討269、事例検討270、事例検討271、事例検討272、事例検討273、事例検討274、事例検討275、事例検討276、事例検討277、事例検討278、事例検討279、事例検討280、事例検討281、事例検討282、事例検討283、事例検討284、事例検討285、事例検討286、事例検討287、事例検討288、事例検討289、事例検討290、事例検討291、事例検討292、事例検討293、事例検討294、事例検討295、事例検討296、事例検討297、事例検討298、事例検討299、事例検討300、事例検討301、事例検討302、事例検討303、事例検討304、事例検討305、事例検討306、事例検討307、事例検討308、事例検討309、事例検討310、事例検討311、事例検討312、事例検討313、事例検討314、事例検討315、事例検討316、事例検討317、事例検討318、事例検討319、事例検討320、事例検討321、事例検討322、事例検討323、事例検討324、事例検討325、事例検討326、事例検討327、事例検討328、事例検討329、事例検討330、事例検討331、事例検討332、事例検討333、事例検討334、事例検討335、事例検討336、事例検討337、事例検討338、事例検討339、事例検討340、事例検討341、事例検討342、事例検討343、事例検討344、事例検討345、事例検討346、事例検討347、事例検討348、事例検討349、事例検討350、事例検討351、事例検討352、事例検討353、事例検討354、事例検討355、事例検討356、事例検討357、事例検討358、事例検討359、事例検討360、事例検討361、事例検討362、事例検討363、事例検討364、事例検討365、事例検討366、事例検討367、事例検討368、事例検討369、事例検討370、事例検討371、事例検討372、事例検討373、事例検討374、事例検討375、事例検討376、事例検討377、事例検討378、事例検討379、事例検討380、事例検討381、事例検討382、事例検討383、事例検討384、事例検討385、事例検討386、事例検討387、事例検討388、事例検討389、事例検討390、事例検討391、事例検討392、事例検討393、事例検討394、事例検討395、事例検討396、事例検討397、事例検討398、事例検討399、事例検討400、事例検討401、事例検討402、事例検討403、事例検討404、事例検討405、事例検討406、事例検討407、事例検討408、事例検討409、事例検討410、事例検討411、事例検討412、事例検討413、事例検討414、事例検討415、事例検討416、事例検討417、事例検討418、事例検討419、事例検討420、事例検討421、事例検討422、事例検討423、事例検討424、事例検討425、事例検討426、事例検討427、事例検討428、事例検討429、事例検討430、事例検討431、事例検討432、事例検討433、事例検討434、事例検討435、事例検討436、事例検討437、事例検討438、事例検討439、事例検討440、事例検討441、事例検討442、事例検討443、事例検討444、事例検討445、事例検討446、事例検討447、事例検討448、事例検討449、事例検討450、事例検討451、事例検討452、事例検討453、事例検討454、事例検討455、事例検討456、事例検討457、事例検討458、事例検討459、事例検討460、事例検討461、事例検討462、事例検討463、事例検討464、事例検討465、事例検討466、事例検討467、事例検討468、事例検討469、事例検討470、事例検討471、事例検討472、事例検討473、事例検討474、事例検討475、事例検討476、事例検討477、事例検討478、事例検討479、事例検討480、事例検討481、事例検討482、事例検討483、事例検討484、事例検討485、事例検討486、事例検討487、事例検討488、事例検討489、事例検討490、事例検討491、事例検討492、事例検討493、事例検討494、事例検討495、事例検討496、事例検討497、事例検討498、事例検討499、事例検討500、事例検討501、事例検討502、事例検討503、事例検討504、事例検討505、事例検討506、事例検討507、事例検討508、事例検討509、事例検討510、事例検討511、事例検討512、事例検討513、事例検討514、事例検討515、事例検討516、事例検討517、事例検討518、事例検討519、事例検討520、事例検討521、事例検討522、事例検討523、事例検討524、事例検討525、事例検討526、事例検討527、事例検討528、事例検討529、事例検討530、事例検討531、事例検討532、事例検討533、事例検討534、事例検討535、事例検討536、事例検討537、事例検討538、事例検討539、事例検討540、事例検討541、事例検討542、事例検討543、事例検討544、事例検討545、事例検討546、事例検討547、事例検討548、事例検討549、事例検討550、事例検討551、事例検討552、事例検討553、事例検討554、事例検討555、事例検討556、事例検討557、事例検討558、事例検討559、事例検討560、事例検討561、事例検討562、事例検討563、事例検討564、事例検討565、事例検討566、事例検討567、事例検討568、事例検討569、事例検討570、事例検討571、事例検討572、事例検討573、事例検討574、事例検討575、事例検討576、事例検討577、事例検討578、事例検討579、事例検討580、事例検討581、事例検討582、事例検討583、事例検討584、事例検討585、事例検討586、事例検討587、事例検討588、事例検討589、事例検討590、事例検討591、事例検討592、事例検討593、事例検討594、事例検討595、事例検討596、事例検討597、事例検討598、事例検討599、事例検討600、事例検討601、事例検討602、事例検討603、事例検討604、事例検討605、事例検討606、事例検討607、事例検討608、事例検討609、事例検討610、事例検討611、事例検討612、事例検討613、事例検討614、事例検討615、事例検討616、事例検討617、事例検討618、事例検討619、事例検討620、事例検討621、事例検討622、事例検討623、事例検討624、事例検討625、事例検討626、事例検討627、事例検討628、事例検討629、事例検討630、事例検討631、事例検討632、事例検討633、事例検討634、事例検討635、事例検討636、事例検討637、事例検討638、事例検討639、事例検討640、事例検討641、事例検討642、事例検討643、事例検討644、事例検討645、事例検討646、事例検討647、事例検討648、事例検討649、事例検討650、事例検討651、事例検討652、事例検討653、事例検討654、事例検討655、事例検討656、事例検討657、事例検討658、事例検討659、事例検討660、事例検討661、事例検討662、事例検討663、事例検討664、事例検討665、事例検討666、事例検討667、事例検討668、事例検討669、事例検討670、事例検討671、事例検討672、事例検討673、事例検討674、事例検討675、事例検討676、事例検討677、事例検討678、事例検討679、事例検討680、事例検討681、事例検討682、事例検討683、事例検討684、事例検討685、事例検討686、事例検討687、事例検討688、事例検討689、事例検討690、事例検討691、事例検討692、事例検討693、事例検討694、事例検討695、事例検討696、事例検討697、事例検討698、事例検討699、事例検討700、事例検討701、事例検討702、事例検討703、事例検討704、事例検討705、事例検討706、事例検討707、事例検討708、事例検討709、事例検討710、事例検討711、事例検討712、事例検討713、事例検討714、事例検討715、事例検討716、事例検討717、事例検討718、事例検討719、事例検討720、事例検討721、事例検討722、事例検討723、事例検討724、事例検討725、事例検討726、事例検討727、事例検討728、事例検討729、事例検討730、事例検討731、事例検討732、事例検討733、事例検討734、事例検討735、事例検討736、事例検討737、事例検討738、事例検討739、事例検討740、事例検討741、事例検討742、事例検討743、事例検討744、事例検討745、事例検討746、事例検討747、事例検討748、事例検討749、事例検討750、事例検討751、事例検討752、事例検討753、事例検討754、事例検討755、事例検討756、事例検討757、事例検討758、事例検討759、事例検討760、事例検討761、事例検討762、事例検討763、事例検討764、事例検討765、事例検討766、事例検討767、事例検討768、事例検討769、事例検討770、事例検討771、事例検討772、事例検討773、事例検討774、事例検討775、事例検討776、事例検討777、事例検討778、事例検討779、事例検討780、事例検討781、事例検討782、事例検討783、事例検討784、事例検討785、事例検討786、事例検討787、事例検討788、事例検討789、事例検討790、事例検討791、事例検討792、事例検討793、事例検討794、事例検討795、事例検討796、事例検討797、事例検討798、事例検討799、事例検討800、事例検討801、事例検討802、事例検討803、事例検討804、事例検討805、事例検討806、事例検討807、事例検討808、事例検討809、事例検討810、事例検討811、事例検討812、事例検討813、事例検討814、事例検討815、事例検討816、事例検討817、事例検討818、事例検討819、事例検討820、事例検討821、事例検討822、事例検討823、事例検討824、事例検討825、事例検討826、事例検討827、事例検討828、事例検討829、事例検討830、事例検討831、事例検討832、事例検討833、事例検討834、事例検討835、事例検討836、事例検討837、事例検討838、事例検討839、事例検討840、事例検討841、事例検討842、事例検討843、事例検討844、事例検討845、事例検討846、事例検討847、事例検討848、事例検討849、事例検討850、事例検討851、事例検討852、事例検討853、事例検討854、事例検討855、事例検討856、事例検討857、事例検討858、事例検討859、事例検討860、事例検討861、事例検討862、事例検討863、事例検討864、事例検討865、事例検討866、事例検討867、事例検討868、事例検討869、事例検討870、事例検討871、事例検討872、事例検討873、事例検討874、事例検討875、事例検討876、事例検討877、事例検討878、事例検討879、事例検討880、事例検討881、事例検討882、事例検討883、事例検討884、事例検討885、事例検討886、事例検討887、事例検討888、事例検討889、事例検討890、事例検討891、事例検討892、事例検討893、事例検討894、事例検討895、事例検討896、事例検討897、事例検討898、事例検討899、事例検討900、事例検討901、事例検討902、事例検討903、事例検討904、事例検討905、事例検討906、事例検討907、事例検討908、事例検討909、事例検討910、事例検討911、事例検討912、事例検討913、事例検討914、事例検討915、事例検討916、事例検討917、事例検討918、事例検討919、事例検討920、事例検討921、事例検討922、事例検討923、事例検討924、事例検討925、事例検討926、事例検討927、事例検討928、事例検討929、事例検討930、事例検討931、事例検討932、事例検討933、事例検討934、事例検討935、事例検討936、事例検討937、事例検討938、事例検討939、事例検討940、事例検討941、事例検討942、事例検討943、事例検討944、事例検討945、事例検討946、事例検討947、事例検討948、事例検討949、事例検討950、事例検討951、事例検討952、事例検討953、事例検討954、事例検討955、事例検討956、事例検討957、事例検討958、事例検討959、事例検討960、事例検討961、事例検討962、事例検討963、事例検討964、事例検討965、事例検討966、事例検討967、事例検討968、事例検討969、事例検討970、事例検討971、事例検討972、事例検討973、事例検討974、事例検討975、事例検討976、事例検討977、事例検討978、事例検討979、事例検討980、事例検討981、事例検討982、事例検討983、事例検討984、事例検討985、事例検討986、事例検討987、事例検討988、事例検討989、事例検討990、事例検討991、事例検討992、事例検討993、事例検討994、事例検討995、事例検討996、事例検討997、事例検討998、事例検討999、事例検討1000、事例検討1001、事例検討1002、事例検討1003、事例検討1004、事例検討1005、事例検討1006、事例検討1007、事例検討1008、事例検討1009、事例検討1010、事例検討1011、事例検討1012、事例検討1013、事例検討1014、事例検討1015、事例検討1016、事例検討1017、事例検討1018、事例検討1019、事例検討1020、事例検討1021、事例検討1022、事例検討1023、事例検討1024、事例検討1025、事例検討1026、事例検討1027、事例検討1028、事例検討1029、事例検討1030、事例検討1031、事例検討1032、事例検討1033、事例検討1034、事例検討1035、事例検討1036、事例検討1037、事例検討1038、事例検討1039、事例検討1040、事例検討1041、事例検討1042、事例検討1043、事例検討1044、事例検討1045、事例検討1046、事例検討1047、事例検討1048、事例検討1049、事例検討1050、事例検討1051、事例検討1052、事例検討1053、事例検討1054、事例検討1055、事例検討1056、事例検討1057、事例検討1058、事例検討1059、事例検討1060、事例検討1061、事例検討1062、事例検討1063、事例検討1064、事例検討1065、事例検討1066、事例検討1067、事例検討1068、事例検討1069、事例検討1070、事例検討1071、事例検討1072、事例検討1073、事例検討1074、事例検討1075、事例検討1076、事例検討1077、事例検討1078、事例検討1079、事例検討1080、事例検討1081、事例検討1082、事例検討1083、事例検討1084、事例検討1085、事例検討1086、事例検討1087、事例検討1088、事例検討1089、事例検討1090、事例検討1091、事例検討1092、事例検討1093、事例検討1094、事例検討1095、事例検討1096、事例検討1097、事例検討1098、事例検討1099、事例検討1100、事例検討1101、事例検討1102、事例検討1103、事例検討1104、事例検討1105、事例検討1106、事例検討1107、事例検討1108、事例検討1109、事例検討1110、事例検討1111、事例検討1112、事例検討1113、事例検討1114、事例検討1115、事例検討1116、事例検討1117、事例検討1118、事例検討1119、事例検討1120、事例検討1121、事例検討1122、事例検討1123、事例検討1124、事例検討1125、事例検討1126、事例検討1127、事例検討1128、事例検討1129、事例検討1130、事例検討1131、事例検討1132、事例検討1133、事例検討1134、事例検討1135、事例検討1136、事例検討1137、事例検討1138、事例検討1139、事例検討1140、事例検討1141、事例検討1142、事例検討1143、事例検討1144、事例検討1145、事例検討1146、事例検討1147、事例検討1148、事例検討1149、事例検討1150、事例検討1151、事例検討1152、事例検討1153、事例検討1154、事例検討1155、事例検討1156、事例検討1157、事例検討1158、事例検討1159、事例検討1160、事例検討1161、事例検討1162、事例検討1163、事例検討1164、事例検討1165、事例検討1166、事例検討1167、事例検討1168、事例検討1169、事例検討1170、事例検討1171、事例検討1172、事例検討1173、事例検討1174、事例検討1175、事例検討1176、事例検討1177、事例検討1178、事例検討1179、事例検討1180、事例検討1181、事例検討1182、事例検討1183、事例検討1184、事例検討1185、事例検討1186、事例検討1187、事例検討1188、事例検討1189、事例検討1190、事例検討1191、事例検討1192、事例検討1193、事例検討1194、事例検討1195、事例検討1196、事例検討1197、事例検討1198、事例検討1199、事例検討1200、事例検討1201、事例検討1202、事例検討1203、事例検討1204、事例検討1205、事例検討1206、事例検討1207、事例検討1208、事例検討1209、事例検討1210、事例検討1211、事例検討1212、事例検討1213、事例検討1214、事例検討1215、事例検討1216、事例検討1217、事例検討1218、事例検討1219、事例検討1220、事例検討1221、事例検討1222、事例検討1223、事例検討1224、事例検討1225、事例検討1226、事例検討1227、事例検討1228、事例検討1229、事例検討1230、事例検討1231、事例検討1232、事例検討1233、事例検討1234、事例検討1235、事例検討1236、事例検討1237、事例検討1238、事例検討1239、事例検討1240、事例検討1241、事例検討1242、事例検討1243、事例検討1244、事例検討1245、事例検討1246、事例検討1247、事例検討1248、事例検討1249、事例検討1250、事例検討1251、事例検討1252、事例検討1253、事例検討1254、事例検討1255、事例検討1256、事例検討1257、事例検討1258、事例検討1259、事例検討1260、事例検討1261、事例検討1262、事例検討1263、事例検討1264、事例検討1265、事例検討1266、事例検討1267、事例検討1268、事例検討1269、事例検討1270、事例検討1271、事例検討1272、事例検討1273、事例検討1274、事例検討1275、事例検討1276、事例検討1277、事例検討1278、事例検討1279、事例検討1280、事例検討1281、事例検討1282、事例検討1283、事例検討1284、事例検討1285、事例検討1286、事例検討1287、事例検討1288、事例検討1289、事例検討1290、事例検討1291、事例検討1292、事例検討1293、事例検討1294、事例検討1295、事例検討1296、事例検討1297、事例検討1298、事例検討1299、事例検討1300、事例検討1301、事例検討1302、事例検討1303、事例検討1304、事例検討1305、事例検討1306、事例検討1307、事例検討1308、事例検討1309、事例検討1310、事例検討1311、事例検討1312、事例検討1313、事例検討1314、事例検討1315、事例検討1316、事例検討1317、事例検討1318、事例検討1319、事例検討1320、事例検討1321、事例検討1322、事例検討1323、事例検討1324、事例検討1325、事例検討1326、事例検討1327、事例検討1328、事例検討1329、事例検討1330、事例検討1331、事例検討1332、事例検討1333、事例検討1334、事例検討1335、事例検討1336、事例検討1337、事例検討1338、事例検討1339、事例検討1340、事例検討1341、事例検討1342、事例検討1343、事例検討1344、事例検討1345、事例検討1346、事例検討1347、事例検討1348、事例検討1349、事例検討1350、事例検討1351、事例検討1352、事例検討1353、事例検討1354、事例検討1355、事例検討1356、事例検討1357、事例検討1358、事例検討1359、事例検討1360、事例検討1361、事例検討1362、事例検討1363、事例検討1364、事例検討1365、事例検討1366、事例検討1367、事例検討1368、事例検討1369、事例検討1370、事例検討1371、事例検討1372、事例検討1373、事例検討1374、事例検討1375、事例検討1376、事例検討1377、事例検討1378、事例検討1379、事例検討1380、事例検討1381、事例検討1382、事例検討1383、事例検討1384、事例検討1385、事例検討1386、事例検討1387、事例検討1388、事例検討1389、事例検討1390、事例検討1391、事例検討1392、事例検討1393、事例検討1394、事例検討1395、事例検討1396、事例検討1397、事例検討1398、事例検討1399、事例検討1400、事例検討1401、事例検討1402、事例検討1403、事例検討1404、事例検討1405、事例検討1406、事例検討1407、事例検討1408、事例検討1409、事例検討1410、事例検討1411、事例検討1412、事例検討1413、事例検討1414、事例検討1415、事例検討1416、事例検討1417、事例検討1418、事例検討1419、事例検討1420、事例検討1421、事例検討1422、事例検討1423、

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

この演習は、修士論文作成のための基礎の学習を目的とする。

授業内容

第1回：修士論文の構想発表(1)
 第2回：基本文献の講読・発表(1)
 第3回：基本文献の講読・発表(2)
 第4回：基本文献の講読・発表(3)
 第5回：基本文献の講読・発表(4)
 第6回：基本文献の講読・発表(5)
 第7回：基本文献の講読・発表(6)
 第8回：基本文献の講読・発表(7)
 第9回：基本文献の講読・発表(8)
 第10回：基本文献の講読・発表(9)
 第11回：修士論文の概要書の構想発表(2)
 第12回：修士論文構想発表と研究計画書作成
 第13回：リーディングリストの作成・検討
 第14回：修士論文構想の検討

履修上の注意

授業準備を十分に行って授業に積極的に参加するようにしてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。

教科書

授業中に指示します。

参考書

リーディングリスト・参考文献については、授業時に話すことにします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 1) 授業での報告 60%
- 2) レポート 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

演習Ⅱでは、修士論文作成のための準備を進めることを目的とする。履修者の関心に従った基本文献の講読を行う。

授業内容

第1回：修士論文の構想発表(1)
 第2回：基本文献の講読・発表(1)
 第3回：基本文献の講読・発表(2)
 第4回：基本文献の講読・発表(3)
 第5回：基本文献の講読・発表(4)
 第6回：基本文献の講読・発表(5)
 第7回：基本文献の講読・発表(6)
 第8回：基本文献の講読・発表(7)
 第9回：基本文献の講読・発表(8)
 第10回：基本文献の講読・発表(9)
 第11回：修士論文の概要書の構想発表(2)
 第12回：修士論文構想発表と研究計画書作成
 第13回：リーディングリストの作成・検討
 第14回：修士論文構想の検討

履修上の注意

修士論文に関連する基本文献のサーベイを十分に行うこと。研究指導のための準備を十分に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。

教科書

授業中に指示します。

参考書

リーディングリスト・参考文献については、授業時に話すことにします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 1) 授業での報告 60%
- 2) 修士研究計画書作成のための研究報告 40%

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

修士論文（または研究報告書）を作成するための指導を行います。履修者の研究テーマに関連する基本文献の理解度を確認しながら指導する予定です。

授業内容

第1回：修士論文の構想発表(1)
第2回：基本文献の講読・発表(1)
第3回：基本文献の講読・発表(2)
第4回：基本文献の講読・発表(3)
第5回：基本文献の講読・発表(4)
第6回：基本文献の講読・発表(5)
第7回：基本文献の講読・発表(6)
第8回：基本文献の講読・発表(7)
第9回：基本文献の講読・発表(8)
第10回：基本文献の講読・発表(9)
第11回：修士論文の構想発表(2)
第12回：修士論文構想発表と研究計画書作成
第13回：リーディングリストの作成・検討
第14回：修士論文構想の検討

履修上の注意

修士論文に関連する基本文献のサーベイを十分に行うこと。
研究指導のための準備を十分に行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。

教科書

修士論文に関連する基本文献

参考書

リーディングリスト・参考文献については、授業時に話すことにします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 1) 研究指導での報告40%
- 2) 修士論文作成のための報告60%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

修士論文（または研究報告書）を作成するための指導を行います。履修者の作成した草稿をもとに指導を行う予定です。

授業内容

第1回：修士論文初校に関する報告(1)
第2回：修士論文初校に関する報告(2)
第3回：修士論文初校に関する報告(3)
第4回：修士論文初校に関する報告(4)
第5回：政経学会報告準備(1)
第6回：政経学会報告準備(2)
第7回：修士論文再校に関する報告(1)
第8回：修士論文再校に関する報告(2)
第9回：修士論文再校に関する報告(3)
第10回：修士論文再校に関する報告(4)
第11回：修士論文最終原稿に関する報告(1)
第12回：修士論文最終原稿に関する報告(2)
第13回：修士論文最終原稿に関する報告(3)
第14回：修士論文面接準備・指導

履修上の注意

授業準備を十分に行って授業に積極的に参加するようにしてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。

教科書

修士論文に関連する基本文献

参考書

リーディングリスト・参考文献については、授業時に話すことにします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文の作成のための研究報告100%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学の一分野として確立されつつある「制度経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていくが、それに先立ち、理論経済学演習Ⅰではミクロ経済学、理論経済学演習Ⅱではマクロ経済学の理解を深めることを目標とする。どちらも米国の大学、大学院で使用されている英文の標準的な中級、上級のテキストを使用する予定。

到達目標は、経済研究者として必要な知識を獲得すること。

授業内容

下記教科書に沿って、毎回3章ほど進める予定。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：下記教科書に沿って、The Market, Budget Constraint, Preferences
- 第3回：Utility, Choice, Demand
- 第4回：Revealed Preference, Slutsky Equation, Buying and Selling
- 第5回：Intertemporal Choice, Asset Markets, Uncertainty
- 第6回：Risky Assets, Consumer's Surplus, Market Demand
- 第7回：Equilibrium, Auction, Technology
- 第8回：Profit Maximization, Cost Minimization, Cost Curves
- 第9回：Firm Supply, Industry Supply, Monopoly
- 第10回：Monopoly Behavior, Factor Markets, Oligopoly
- 第11回：Game Theory, Game Application, Behavioral Economics
- 第12回：Exchange, Production, Welfare
- 第13回：Externalities, Information Technology, Public Goods
- 第14回：Asymmetric Information 総括

履修上の注意

初級のミクロ経済学、マクロ経済学を既に履修している者が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示された文献を事前に読み、まとめ、報告に向けた準備を求める。

教科書

講義開始時までに確定するが、下記ミクロ経済学の中級レベルの教科書を予定。

Varian, R. Hal (2006) *Intermediate Microeconomics: A Modern Approach*, W. W. Norton.

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(70%)をもとに総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学の一分野として確立されつつある「制度経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていくが、それに先立ち、理論経済学演習Ⅰではミクロ経済学、理論経済学演習Ⅱではマクロ経済学の理解を深めることを目標とする。どちらも米国の大学、大学院で使用されている英文の標準的な中級、上級のテキストを使用する予定。

到達目標は、経済研究者として必要な知識を獲得すること。

授業内容

下記教科書に沿って、毎回2章ほど進める予定。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Introduction: The Policy and Practice of Macroeconomics
- 第3回：Macroeconomic Basics (1)
- 第4回：Macroeconomic Basics (2)
- 第5回：Long-run Economic Growth
- 第6回：Business Cycles: The Short Run (1)
- 第7回：Business Cycles: The Short Run (2)
- 第8回：Business Cycles: The Short Run (3)
- 第9回：Finance and Macroeconomy
- 第10回：Macroeconomic Policy
- 第11回：Microeconomic Foundations of Macroeconomics (1)
- 第12回：Microeconomic Foundations of Macroeconomics (2)
- 第13回：Modern Business Cycle Analysis and Macroeconomic Policy
- 第14回：総括

履修上の注意

初級のミクロ経済学、マクロ経済学を既に履修している者が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示された教科書、文献の指定箇所を事前に読み、まとめ、報告に向けた準備を求める。

教科書

講義開始時までに確定するが、下記マクロ経済学の中級レベルの教科書を予定。

Mishkin, Frederic S. (2012) *Macroeconomics: Policy and Practice*, Addison-Wesley.

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(70%)をもとに総合的に判断する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学演習Ⅰでのミクロ経済学、理論経済学演習Ⅱでのマクロ経済学の理解を踏まえて、「制度経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていく。

到達目標は修士論文の骨格を築き上げることである。

授業内容

修士論文の進行に合わせて指導を行う。下記は一例。

第1回：イントロダクション
第2回：修士論文構想発表(1)
第3回：修士論文構想発表(2)
第4回：文献リスト作成・指導
第5回：基本資料講読(1)
第6回：基本資料講読(2)
第7回：基本資料講読(3)
第8回：基本資料講読(4)
第9回：修士論文構想発表(3)
第10回：修士論文構想発表(4)
第11回：研究作業の課題の確認
第12回：修士論文のテーマの修正案の提示(1)
第13回：修士論文のテーマの修正案の提示(2)
第14回：総括

履修上の注意

毎回発表に充てる予定。

準備学習（予習・復習等）の内容

学習計画に基づいて指定された文献を読み、まとめ、報告に向けた準備を求める。

教科書

必要に応じて指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(70%)をもとに総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学演習Ⅰでのミクロ経済学、理論経済学演習Ⅱでのマクロ経済学の理解を踏まえて、「制度経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていく。

到達目標は修士論文の完成である。

授業内容

修士論文の完成に合わせて指導を行う。下記は一例。

第1回：修士論文初校発表(1)
第2回：修士論文初校発表(2)
第3回：修士論文指導(1)
第4回：修士論文指導(2)
第5回：修士論文再校発表(1)
第6回：修士論文再校発表(2)
第7回：修士論文指導(3)
第8回：修士論文指導(4)
第9回：学会報告準備・指導(1)
第10回：学会報告準備・指導(2)
第11回：修士論文三校発表(1)
第12回：修士論文三校発表(2)
第13回：修士論文最終原稿の発表
第14回：修士論文面接準備・指導

履修上の注意

毎回発表に充てる予定。

準備学習（予習・復習等）の内容

学習計画に基づいて指定された文献を読み、まとめ、報告に向けた準備を求める。

教科書

必要に応じて指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(70%)をもとに総合的に判断する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

動学マクロ経済学に関わる修士論文執筆への指導を進める。
そのため、理論経済学演習Ⅰでは最適成長モデルの理解を深めることを目標とする。英語論文や教科書の輪読を通して理解を深める。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 Solow (“A contribution to the theory of Economic growth” QJE 1956)前半部分輪読
- 第3回 Solow (1956)中間部分
- 第4回 Solow (1956)後半部分
- 第5回 Romer Ch1.前半部分
- 第6回 Romer Ch1.後半部分
- 第7回 Romer Ch2.前半部分
- 第8回 Romer Ch2.後半部分
- 第9回 Romer Ch3.前半部分
- 第10回 Romer Ch3.後半部分
- 第11回 Mankiw, Romer and Weil (“A contribution to the empirics of Economic growth” QJE 1989) 前半部分輪読
- 第12回 Mankiw, Romer and Weil (“A contribution to the empirics of Economic growth” QJE 1989) 後半部分輪読
- 第13回 修士論文構想発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

発表等を通し、演習に積極的に参加する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文・教科書担当箇所を丁寧に読みこなすこと。

教科書

動学マクロ経済学
二神 孝一 著
日本評論社 978-4-535-55673-7

参考書

David Romer, Advanced Macroeconomics. McGrawHill

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の事前準備を含む、議論への積極性と報告内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

本演習では、重複世代モデルの理解を深めることを目標とする。
また、春学期に輪読した内容をもとに、修士論文のテーマ選びを指導する。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 Diamond (QJE, 1965) 前半部分輪読を通した重複世代モデルの理解
- 第3回 Diamond (QJE, 1985)後半部分輪読
- 第4回 重複世代モデルにおける課題の検討
- 第5回 最適成長モデルとの比較検討
- 第6回 基本資料講読
- 第7回 基本資料講読(続き)
- 第8回 基本資料に関する議論
- 第9回 研究課題の確認
- 第10回 修士論文テーマ発表
- 第11回 研究計画書の発表・指導
- 第12回 リーディングリストの作成・検討
- 第13回 修士論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 総括・まとめ

履修上の注意

発表等を通し、演習に積極的に参加する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に十分な調査・検討を行うこと。

教科書

動学マクロ経済学
二神 孝一 著
日本評論社 978-4-535-55673-7

参考書

David Romer, Advanced Macroeconomics. McGrawHill

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文プロポーザルにより評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学演習Ⅰでの無期限期間モデル、理論経済学演習Ⅱでの重複世代モデルの理解を踏まえて、「動学的マクロ経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていく。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 修士論文のプランの説明(1)
第3回 修士論文のプランの説明(2)
第4回 修士論文プランの修正
第5回 参考論文の内容説明(1)
第6回 参考論文の内容説明(2)
第7回 参考論文の内容説明(3)
第8回 資料・統計の講読
第9回 修士論文構想発表(1)
第10回 修士論文構想発表(2)
第11回 今後の研究作業の課題の確認
第12回 修士論文のテーマの修正案の提示
第13回 修士論文のテーマの修正に基づく指導
第14回 まとめ

履修上の注意

発表等を通し、演習に積極的に参加する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に十分な調査・検討を行うこと。

教科書

授業中に指示します。

参考書

David Romer, Advanced Macroeconomics. McGrawHill

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の事前準備を含む、議論への積極性と報告内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

本演習では、理論経済学演習Ⅲに引き続き、「動学的マクロ経済学」に関わる修士論文に対する指導を進めていく。

授業内容

第1回 論文構成の確認
第2回 修士論文の初校発表(1)
第3回 修士論文の初校発表(2)
第4回 修士論文の修正指導
第5回 参考論文の二校発表(1)
第6回 参考論文の二校発表(2)
第7回 修士論文の修正指導
第8回 既存文献との位置づけの再検討
第9回 学会発表準備
第10回 論文テーマに関する関連文献の確認(1)
第11回 論文テーマに関する関連文献の確認(2)
第12回 修士論文最終原稿に基づく発表(1)
第13回 修士論文最終原稿に基づく発表(2)
第14回 修士論文面接準備

履修上の注意

発表等を通し、演習に積極的に参加する姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に十分な調査・検討を行うこと。

教科書

授業中に指示します。

参考書

David Romer, Advanced Macroeconomics. McGrawHill

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

議論への積極性と修士論文の内容によって評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けてマクロ経済学の基本的な文献を読み、必要な知識を備える。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 文献講読(1)
第3回 文献講読(2)
第4回 文献講読(3)
第5回 文献講読(4)
第6回 文献講読(5)
第7回 文献講読(6)
第8回 文献講読(7)
第9回 文献講読(8)
第10回 文献講読(9)
第11回 文献講読(10)
第12回 文献講読(11)
第13回 文献整理
第14回 修士論文の構想

履修上の注意

講読文献は原則としてすべて英文であるため、十分な英語力が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指示された文献を読み込み、発表レジュメを準備すること。また、授業後は文献の振り返りを必ず行なうこと。120分以上の予習と30分以上の復習が必要と見込まれる。

教科書

講読文献リストを適宜配布する。

参考書

講読文献リストを適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献講読の報告内容(80%)と修士論文の構想(20%)を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けてマクロ経済学の基本的な文献を読み、必要な知識を備える。

授業内容

第1回 修士論文の分野発表
第2回 文献講読(1)
第3回 文献講読(2)
第4回 文献講読(3)
第5回 文献講読(4)
第6回 文献講読(5)
第7回 文献講読(6)
第8回 文献講読(7)
第9回 文献講読(8)
第10回 文献講読(9)
第11回 文献講読(10)
第12回 文献整理
第13回 修士論文の構想
第14回 修士論文概要報告の準備

履修上の注意

講読文献は原則としてすべて英文であるため、十分な英語力が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指示された文献を読み込み、発表レジュメを準備すること。また、授業後は文献の振り返りを必ず行なうこと。120分以上の予習と30分以上の復習が必要と見込まれる。

教科書

講読文献リストを適宜配布する。

参考書

講読文献リストを適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献講読の報告内容(80%)と修士論文の構想(20%)を総合して評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

マクロ経済学に関する論文指導を行ない、修士論文の基本的な構成を決める。

授業内容

第1回 論文テーマの確認
第2回 分析内容の発表(1)
第3回 分析内容の発表(2)
第4回 修正指導(1)
第5回 分析内容の発表(3)
第6回 分析内容の発表(4)
第7回 修正指導(2)
第8回 既存文献との位置づけ(1)
第9回 既存文献との位置づけ(2)
第10回 論文構成の検討(1)
第11回 論文構成の検討(2)
第12回 分析内容のまとめ(1)
第13回 分析内容のまとめ(2)
第14回 修正指導(3)

履修上の注意

修士論文は原則として英語で執筆するため、十分な英語力が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

責任を持って発表準備を行ない、授業後は受けたコメントへの対応を真摯に検討すること。120分以上の予習と30分以上の復習が必要と見込まれる。

教科書

講読文献リストを適宜配布する。

参考書

講読文献リストを適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容(20%)と修士論文の内容(80%)を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN612J			
理論系		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

マクロ経済学に関する論文指導を行ない、修士論文を完成させる。

授業内容

第1回 論文構成の確認
第2回 修士論文の初校(1)
第3回 修士論文の初校(2)
第4回 修士論文の修正指導(1)
第5回 修士論文の再校(1)
第6回 修士論文の再校(2)
第7回 修士論文の修正指導(2)
第8回 既存文献との位置づけの再検討
第9回 学会発表準備
第10回 論文テーマに関する関連文献の確認(1)
第11回 論文テーマに関する関連文献の確認(2)
第12回 修士論文最終原稿に基づく発表(1)
第13回 修士論文最終原稿に基づく発表(2)
第14回 修士論文面接準備

履修上の注意

修士論文は原則として英語で執筆するため、十分な英語力が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

責任を持って発表準備を行ない、授業後は受けたコメントへの対応を真摯に検討すること。120分以上の予習と30分以上の復習が必要と見込まれる。

教科書

講読文献リストを適宜配布する。

参考書

講読文献リストを適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容(20%)と修士論文の内容(80%)を総合して評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN532J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

演習科目は、受講生の目標の設定・達成のために設置されている。

修了年限が限られている中で、いかに適切な目標を設定し、それに向けて必要な知識の理解に努め、応用力を養うかが肝心である。

授業内容

- [第1回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備①(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第2回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備②(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第3回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備③(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第4回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備④(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第5回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑤(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第6回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑥(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第7回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑦(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第8回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑧(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第9回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑨(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第10回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑩(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第11回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑪(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第12回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑫(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第13回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑬(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第14回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑭(具体的な内容は受講生と相談の上決定)

履修上の注意

自分専用のパソコンを所有していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に発表するレポートを作成することが中心となる。

教科書

学生の研究テーマに合わせて決定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表に対してその場でコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)および課題に対する取り組み姿勢(40%)と達成度(40%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN532J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

受講生の目標達成に必要なことを学習する。

授業内容

- [第1回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備①(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第2回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備②(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第3回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備③(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第4回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備④(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第5回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑤(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第6回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑥(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第7回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑦(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第8回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑧(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第9回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑨(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第10回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑩(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第11回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑪(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第12回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑫(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第13回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑬(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第14回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑭(具体的な内容は受講生と相談の上決定)

履修上の注意

自分専用のパソコンを所有していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業において発表するレポートを作成することが中心となる。

教科書

学生の研究テーマにより決定する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中における発表時にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)および課題に対する取り組み姿勢(40%)と達成度(40%)により評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN632J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

受講生の目標達成に必要なことを学習する。

授業内容

- [第1回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備①(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第2回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備②(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第3回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備③(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第4回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備④(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第5回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑤(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第6回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑥(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第7回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑦(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第8回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑧(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第9回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑨(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第10回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑩(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第11回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑪(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第12回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑫(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第13回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑬(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第14回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑭(具体的な内容は受講生と相談の上決定)

履修上の注意

自分専用のパソコンを所有していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

学生の予備知識による。

教科書

特に定めない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(20%)および課題に対する取り組み姿勢(40%)と達成度(40%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN632J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

受講生の目標達成に必要なことを学習する。

授業内容

- [第1回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備①(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第2回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備②(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第3回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備③(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第4回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備④(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第5回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑤(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第6回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑥(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第7回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑦(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第8回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑧(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第9回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑨(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第10回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑩(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第11回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑪(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第12回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑫(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第13回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑬(具体的な内容は受講生と相談の上決定)
- [第14回] 修士論文(研究報告書)を作成するための準備⑭(具体的な内容は受講生と相談の上決定)

履修上の注意

自分専用のパソコンを所有していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

学生の予備知識による。

教科書

特に定めない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(20%)および課題に対する取り組み姿勢(40%)と達成度(40%)により評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN532J			
理論系		備考	
科目名	統計学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

Ⅰ 統計学を実際の問題に適用するためには、理論と統計ソフトウェアによる実証が不可欠である。テーマとしては、確率と統計ソフトウェア、両者の基本的な知識を修得する。本演習では、まず、統計学に必要な理論の演習を行う。そのため、適切なテキストや論文を輪講しながら、問題を解いていく。また、後半では、実証に使うためのデータの検討や実証分析のための統計ソフトウェアの検討を行う。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修士論文テーマ発表1
- 第3回 修士論文テーマ発表2
- 第4回 統計ソフトウェアについて1
- 第5回 統計ソフトウェアについて2
- 第6回 統計学基礎1
- 第7回 統計学基礎2
- 第8回 統計学基礎3
- 第9回 論文輪講1
- 第10回 論文輪講2
- 第11回 論文輪講3
- 第12回 論文輪講4
- 第13回 データ分析発表
- 第14回 総括

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

記述統計学は、事前に、予習をしておくこと。復習は、参考書の問題を解くこと。

教科書

特になし。

参考書

数理統計学の基礎 野田一雄・宮岡悦良著 共立出版
統計学 森棟公夫, 他著 有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業への参加度と研究報告またはレポートの内容を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN532J			
理論系		備考	
科目名	統計学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

Ⅱ 本演習では、統計的モデリング、確率分布、時系列分析とそのファイナンス・リスク・マネジメントへの応用をテーマとする。最終的に、研究方法、分析手法、理論などを指導し、学術論文を完成させることを目標とする。1年次の基本的内容を踏まえ、修士論文の作成に向けて、論文の書き方から、研究計画のたて方を指導し、以下は、実際のテーマに従い、研究報告をさせることにより、修士論文にまとめていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修士論文構想発表1
- 第3回 修士論文構想発表2
- 第4回 時系列分析1
- 第5回 時系列分析2
- 第6回 時系列分析3
- 第7回 時系列分析4
- 第8回 データ利活用1
- 第9回 データ利活用2
- 第10回 統計ソフトウェア
- 第11回 データ分析演習1
- 第12回 データ分析演習2
- 第13回 データ分析発表
- 第14回 総括

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、記述統計学は予習すること。復習は参考書の問題などを解くこと。

教科書

特になし。

参考書

数理統計学の基礎 野田一雄・宮岡悦良著 共立出版
統計学 森棟公夫, 他著 有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業への参加度と研究報告またはレポートの内容を評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN632J			
理論系		備考	
科目名	統計学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

Ⅲ 本演習では、統計的モデリング、確率分布、時系列分析とそのファイナンス・リスク・マネジメントへの応用をテーマとする。最終的に、研究方法、分析手法、理論などを指導し、学術論文を完成させることを目標とする。1年次の基本的内容を踏まえ、修士論文の作成に向けて、論文の書き方から、研究計画のたて方を指導し、以下は、実際のテーマに従い、研究報告をさせることにより、修士論文にまとめていく。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 修士論文テーマ・計画発表1
第3回 修士論文テーマ・計画発表2
第4回 参考論文輪講1
第5回 参考論文輪講2
第6回 参考論文輪講3
第7回 参考論文輪講4
第8回 修士論文進捗発表1
第9回 修士論文進捗発表2
第10回 研究作業課題確認
第11回 修士論文テーマ修正案1
第12回 修士論文テーマ修正案2
第13回 修士論文発表
第14回 総括

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

推測統計学は、事前に予習すること。復習は、参考書の問題を解くこと。

教科書

特になし。

参考書

数理統計学の基礎 野田一雄・宮岡悦良著 共立出版
統計学 森棟公夫, 他著 有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業への参加度と研究報告またはレポートの内容を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN632J			
理論系		備考	
科目名	統計学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

Ⅳ 本演習では、統計的モデリング、確率分布、時系列分析とそのファイナンス・リスク・マネジメントへの応用をテーマとする。最終的に、研究方法、分析手法、理論などを指導し、学術論文を完成させることを目標とする。実際のテーマに従い、研究報告をさせることにより、修士論文にまとめていく。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 修士論文のテーマのサーベイ1
第3回 修士論文のテーマのサーベイ2
第4回 修士論文のテーマのサーベイ3
第5回 修士論文テーマと分析発表1
第6回 修士論文テーマと分析発表2
第7回 修士論文テーマと分析発表3
第8回 修士論文発表法とディスカッション1
第9回 修士論文発表法とディスカッション2
第10回 修士論文発表法とディスカッション3
第11回 修士論文の修正1
第12回 修士論文の修正2
第13回 修士論文の修正3
第14回 修士論文面接準備・指導

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

推測統計学は、事前に、予習すること。復習は、参考書の問題を解くこと。

教科書

特になし。

参考書

数理統計学の基礎 野田一雄・宮岡悦良著 共立出版
統計学 森棟公夫, 他著 有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業への参加度と研究報告（50%）またレポートの内容（50%）を評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

理論経済学研究Ⅰ（春学期）では、ミクロ経済学分野とマクロ経済学分野を年度により入れ替えて講義を行ってきました。2026年度は、ミクロ経済学分野の内容を取り上げる予定です。テキストは西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社とする予定です。

授業内容

講義内容の予定は
主な内容は以下のようになります。

- 第1回：効用関数
- 第2回：効用関数
- 第3回：消費者需要の決定
- 第4回：消費者需要の決定
- 第5回：支出最小化問題
- 第6回：支出最小化問題
- 第7回：行列と行列式による条件
- 第8回：与件の変化と需要
- 第9回：与件の変化と需要
- 第10回：顕示選好理論
- 第11回：顕示選好理論
- 第12回：消費者余剰の分析
- 第13回：等価変分・補償変分
- 第14回：労働供給

この講義で取り上げるミクロの分析手法は、経済分析の様々な分野で利用される基礎理論のひとつです。受講生に合わせて、授業レベルや進度を調整しながら講義を行う予定です。

履修上の注意

理論経済学研究Ⅰ（春学期）は講義形式で進める予定です。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料を配布します。

教科書

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社

参考書

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での成果（50％）・課題レポート（50％）により評価を行います。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 八木 尚志		

授業の概要・到達目標

理論経済学研究Ⅱ（秋学期）には、2026年度はミクロ経済学の内容を取り上げます。テキストは西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社とする予定です。

授業内容

講義内容の予定は
主な内容は以下のようになります。

- 第1回：生産関数の理論
- 第2回：生産関数の理論
- 第3回：生産関数と費用関数
- 第4回：長期費用関数
- 第5回：利潤最大化行動
- 第6回：利潤最大化行動
- 第7回：利潤際高行動
- 第8回：不完全競争の理論
- 第9回：不完全競争の理論
- 第10回：市場の失敗：外部性
- 第12回：市場の失敗：公共財
- 第13回：一般均衡
- 第14回：一般均衡

この講義で取り上げるミクロの分析手法は、経済分析の様々な分野で利用される基礎理論のひとつです。受講生に合わせて、授業レベルや進度を調整しながら講義を行う予定です。

履修上の注意

理論経済学研究Ⅱ（秋学期）の授業は学生との輪読の形式で行う予定です。分担して発表をしていただくことを考えています。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト通り進む予定ですので、次回の授業範囲について、テキスト等で調べておいてください。また欠席をしないようにしてください。

教科書

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済
参考文献については講義時に説明します。

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

次の回の授業時等で対応します。

成績評価の方法

授業での成果・発表（60％）・課題レポート（40）により評価を行います。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 武田 巧		

授業の概要・到達目標

本講では、理論経済学の一分野として確立されつつある「制度経済学」に、新制度学派的アプローチから焦点を当てて行きたい。その目的は、かつて賞賛されたいわゆる「日本型経済システム」が、技術革新やグローバル化の進展を始めとする外部環境の変化、加えて高齢化や国内経済の成熟といった内部環境の変化を受けて、その優位性を失っていくメカニズムを明らかにするためであり、そして日本経済が今後目指すべき経済システムを探るためである。

以上の目的に向かって、本講ではまず、新古典派の想定してきた市場概念を振り返りながら、その問題点を概観していく。次に、取引費用の存在や情報の非対称性などといった現実を前にして、いかにして制度が生まれ市場の機能を補完していくのか、そして、様々な制度を束ねる経済システムが生まれていくのかを明らかにする。そのうえで、日本型システムに焦点を絞り、同システムのサブシステムとも言われてきた系列、終身雇用、年功序列型賃金、メインバンク制度などの諸制度について、それぞれが誕生していく背景、その合理性、そして問題点を明らかにしていく。

到達目標は、市場を補完する制度の重要性、合理性、そして諸課題を把握することである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：新古典派経済学のまとめ(1)
- 第3回：新古典派経済学のまとめ(2)
- 第4回：Rコースと取引費用(1)
- 第5回：Rコースと取引費用(2)
- 第6回：経済制度(1)
- 第7回：経済制度(2)
- 第8回：取引費用(1)
- 第9回：取引費用(2)
- 第10回：経済制度の重要性(1)
- 第11回：経済制度の重要性(2)
- 第12回：日本型諸制度—終身雇用—
- 第13回：日本型諸制度—生産系列—
- 第14回：総括

履修上の注意

マクロ経済学、ミクロ経済学の基本的知識を土台として、制度経済学について興味のある者を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示された教科書、文献の指定箇所を事前に読み、まとめ、報告をお願いする。

教科書

講義開始時に指示するが、主なものは下記の通り。
Akerlof, George A. (1970) "The Market for 'Lemons': Quality, Uncertainty, and the Market Mechanism," *Quarterly Journal of Economics*, vol. 84(3), August, pp. 488-500.
Aoki, Masahiko and Hugh T. Patrick, eds. (1994) *The Japanese Main Bank System: Its Relevance for Developing and Transforming Economies*, Oxford: Oxford University Press.
Coase, Ronald H. (1937) "The Nature of the Firm," *Economica*, vol. 4, November, pp. 386-405.
David, Paul A. (1985) "Clio and the Economics of QWERTY," *American Economic Review, Papers and Proceedings*, vol. 75(2), May, pp. 332-337.
Imai, Kenichi and Ryutaro Komiya, eds. (1994) *Business Enterprise in Japan: Views of Leading Japanese Economists*, MIT Press.
Khan, Mushtaq H. and Jomo K. S., eds. (2000) *Rents, Rent-Seeking and Economic Development: Theory and Evidence in Asia*, Cambridge University Press.
Williamson, Oliver E. (1985) *The Economic Institutions of Capitalism*, Free Press.
Yeager, Timothy J. (1999) *Institutions, Transaction Economies, and Development*, Westview.

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(30%)、レポート(40%)などを中心に総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 武田 巧		

授業の概要・到達目標

本講ではまず、理論経済学研究Ⅰで明らかにした系列、終身雇用、年功序列型賃金、メインバンク制度などのいわゆる日本型制度が形成されてきた合理性を踏まえて、日本型経済制度が現在、いかにしてその競争力を失いつつあるのかを理論的に探る。それは、国内経済の成熟化と高齢化、技術革新と市場のグローバル化による取引費用の低下、狭隘な市場の中で従来謳歌していたレントの希薄化、日本型システムに留まることの機会費用上昇といった様々な要因に求めることができる。

次いで、日本型諸制度の行き着く先を考えてみたい。日本は新たなシステムを構築する必要があるが、その移行は緩慢でしかない。日本経済が旧制度に"embedded"ないしは"locked in"されているがゆえであり、旧制度を固守しようとするレント・シーキングも盛んであるがゆえである。しかし、日本が向かっている新たな経済システムとはいかなるものであるのか。日本は今、いわゆるアングロ・サクソン型市場経済システムへの移行の途上にあるのか。それとも、多様な経済システムが存続可能であるのか。本講義では、以上の点についても、理論的な検討を加えていく予定である。21世紀の日本経済システムのあるべき姿について、そして、新たな制度への移行をいかに進めるべきなのかといった点についても、問題提起を試みるつもりである。

到達目標は、履修者が自ら制度設計を手掛けるようにすることである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：理論経済学研究Ⅰ要約(1)
- 第3回：理論経済学研究Ⅰ要約(2)
- 第4回：グローバル化の進展と日本型諸制度の変容(1)
- 第5回：グローバル化の進展と日本型諸制度の変容(2)
- 第6回：O.E.ウィリアムソンと取引費用について(1)
- 第7回：O.E.ウィリアムソンと取引費用について(2)
- 第8回：制度の移行と問題—レントとレント・シーキング(1)—
- 第9回：制度の移行と問題—レントとレント・シーキング(2)—
- 第10回：制度の移行と問題—経路依存性—
- 第11回：制度の移行と問題—その他—
- 第12回：新たな日本型諸制度(1)
- 第13回：新たな日本型諸制度(2)
- 第14回：総括

履修上の注意

マクロ経済学、ミクロ経済学の基本的知識を土台として、制度経済学について興味のある者を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示された教科書、文献の指定箇所を事前に読み、まとめ、報告をお願いする。

教科書

講義開始時に指示するが、主なものは下記の通り。
Akerlof, George A. (1970) "The Market for 'Lemons': Quality, Uncertainty, and the Market Mechanism," *Quarterly Journal of Economics*, vol. 84(3), August, pp. 488-500.
Aoki, Masahiko and Hugh T. Patrick, eds. (1994) *The Japanese Main Bank System: Its Relevance for Developing and Transforming Economies*, Oxford: Oxford University Press.
Coase, Ronald H. (1937) "The Nature of the Firm," *Economica*, vol. 4, November, pp. 386-405.
David, Paul A. (1985) "Clio and the Economics of QWERTY," *American Economic Review, Papers and Proceedings*, vol. 75(2), May, pp. 332-337.
Imai, Kenichi and Ryutaro Komiya, eds. (1994) *Business Enterprise in Japan: Views of Leading Japanese Economists*, MIT Press.
Khan, Mushtaq H. and Jomo K. S., eds. (2000) *Rents, Ren-Seeking and Economic Development: Theory and Evidence in Asia*, Cambridge University Press.
McMillan, John (2002) *Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets*, W. W. Norton.
Williamson, Oliver E. (1985) *The Economic Institutions of Capitalism*, Free Press.
Yeager, Timothy J. (1999) *Institutions, Transaction Economies, and Development*, Westview.

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなどを通じてフィードバックをする。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表(30%)、レポート(40%)などを中心に総合的に評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

本講義の前半では、大学院レベルでのマクロ経済学の理解に必要な数学、具体的には線形代数・最適化の手法について学ぶ。

講義後半では、これらの数学的知識をもとに、動学的マクロ経済学の基礎を学ぶ。

授業内容

1. 2期ライフサイクルモデル
2. 無期限期間ライフサイクルモデル
3. 条件付き・条件なし最適化問題
4. ソローモデル(1)技術進歩なし
5. ソローモデル(1)技術進歩あり
6. 代表的個人モデル(1)定常状態
7. 代表的個人モデル(2)移行動学
8. 基本的重複世代モデル
9. 重複世代モデルとバブル
10. 貨幣的重複世代モデル
11. 資産価格の決定
12. 企業の参入と長期均衡
13. 内生的経済成長モデル(1)貯蓄率外生的
14. 動学マクロの概念の総復習

履修上の注意

単位取得を目的としない聴講生の受講は原則として認めません。教科書のコピーは配りません。

準備学習（予習・復習等）の内容

復習に力を入れてください。

教科書

動学マクロ経済学
二神 孝一 著
日本評論社 978-4-535-55673-7

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

中間試験 40%
期末試験 60%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

動学的マクロ経済学の基礎を学ぶ。具体的には新古典派経済成長モデル・内生的成長モデル・最適成長モデル・重複世代モデル・貨幣的経済モデルを学ぶ。

授業内容

1. 重複世代モデル・無期限期間モデルの復習
2. 内生的技術進歩(2)最適消費決定
3. 2部門内生成長モデル
4. 経済政策と経済成長
5. 技術移転とイノベーション
6. 世代重複モデルの応用：バブル資産
7. 内生的技術進歩
8. 規模効果
9. 経済政策と経済成長
10. 生産的公共サービスと経済成長(1)成長率と税率の関係
11. 生産的公共サービスと経済成長(2)社会厚生と税率の関係
12. 公共資本と経済成長
13. 金融政策と経済成長
14. これまでの復習

履修上の注意

聴講生の受講は認めません。単位取得を目的とした学生のみ受講を認めます。

英語で行われる経済学特殊講義Ⅱと扱う内容が重なります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業後に課される練習問題をきちんとといてください。

教科書

動学マクロ経済学
二神 孝一 著
日本評論社 978-4-535-55673-7

参考書

Advanced Macroeconomics (Mcgraw-hill Economics) fifth edition
David Romer (著)
ISBN: 1260185214

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

中間試験 40%
期末試験 60%
中間試験として、受講生に研究発表を行ってもらいます。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

授業の概要:計量経済学に関する基本的な英語文献を輪読する。
到達目標:修士論文で実証分析をおこなう際に必要な計量経済学理論を習得する。

授業内容

Class 1 : Introduction
Class 2 : Economic Questions and Data
Class 3 : Review of Probability (1)
Class 4 : Review of Probability (2)
Class 5 : Review of Statistics (1)
Class 6 : Review of Statistics (2)
Class 7 : Linear Regression with One Regressor
Class 8 : Regression with a Single Regressor: Hypothesis Tests and Confidence Intervals (1)
Class 9 : Regression with a Single Regressor: Hypothesis Tests and Confidence Intervals (2)
Class 10: Linear Regression with Multiple Regressors
Class 11: Hypothesis Tests and Confidence Intervals in Multiple Regression
Class 12: Nonlinear Regression Functions (1)
Class 13: Nonlinear Regression Functions (2)
Class 14: Assessing Studies Based on Multiple Regression

履修上の注意

毎回の授業は、その場で発表担当を決めて受講者がテキスト該当箇所の解説をおこなう形式で進める。受講者は各回の該当範囲をすべて予習し、全体の発表準備をしてから出席する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

経済数学の計算に関する入門的な知識は必須とする。

教科書

Stock, J. and M. Watson (2019), *Introduction to Econometrics*, 4th ed., Pearson Education Limited.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業における発表や議論の質で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN511J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

授業の概要:計量経済学に関する基本的な英語文献を輪読する。
到達目標:修士論文で実証分析をおこなう際に必要な計量経済学理論を習得する。

授業内容

Class 1 : Regression with Panel Data
Class 2 : Regression with Binary Dependent Variable
Class 3 : Instrumental Variables Regression (1)
Class 4 : Instrumental Variables Regression (2)
Class 5 : Introduction to Time Series Regression and Forecasting (1)
Class 6 : Introduction to Time Series Regression and Forecasting (2)
Class 7 : Estimation of Dynamic Causal Effects (1)
Class 8 : Estimation of Dynamic Causal Effects (2)
Class 9 : Additional Topics in Time Series Regression (1)
Class 10: Additional Topics in Time Series Regression (2)
Class 11: The Theory of Linear Regression with One Regressor (1)
Class 12: The Theory of Linear Regression with One Regressor (2)
Class 13: The Theory of Multiple Regression (1)
Class 14: The Theory of Multiple Regression (2)

履修上の注意

毎回の授業は、その場で発表担当を決めて受講者がテキスト該当箇所の解説をおこなう形式で進める。受講者は各回の該当範囲をすべて予習し、全体の発表準備をしてから出席する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

経済数学の計算に関する入門的な知識は必須とする。

教科書

Stock, J. and M. Watson (2019), *Introduction to Econometrics*, 4th ed., Pearson Education Limited.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業における発表や議論の質で評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師	博士(経済学)	高橋 聡

授業の概要・到達目標

概要：「価値(貨幣)と使用価値(現物)の経済原論」をテーマに、交換と互酬の原理的基礎を探究する。資本主義とは、抽象的交換価値を担う貨幣を媒介物とする私的交換の経済である。これに対して、貨幣を媒介しない(または疑似貨幣を媒介とする)現物のモノやサービスの循環が互酬の経済である。春学期はケインズに一定の影響を与えたG.E.クナップに即して交換を検討する。可能であれば、彼を批判するオーストリア学派のミーゼスの貨幣論、ハイエクの貨幣発行自由化論との突きあわせを行う。

目標：古典に向き合うことを通じて、これからの経済のあり方を探求する。

授業内容

- 第1章 支払、貨幣と金属(1) 金属重量測定制
- 第1章 支払、貨幣と金属(2) 表券の支払手段
- 第1章 支払、貨幣と金属(3) 流通上の満足
- 第1章 支払、貨幣と金属(4) 貨幣と金属の板片的、発生的、相場規制の関係
- 第2章 国内貨幣制度の秩序(1) 貨幣の機能的分類
- 第2章 国内貨幣制度の秩序(2) 銀行券と振替支払
- 第2章 国内貨幣制度の秩序(3) 補助貨幣のプレミア
- 第2章 国内貨幣制度の秩序(4) 補助貨幣の滞留
- 第3章 外国との貨幣流通(1) 本位間相場
- 第3章 外国との貨幣流通(2) 金銀の価値比率
- 第3章 外国との貨幣流通(3) 対外相場規制の運営
- 第3章 外国との貨幣流通(4) 最終目標としての固定相場
- 第4章 主要国概略(1) イギリスとフランス
- 第4章 主要国概略(2) オーストリア

履修上の注意

本講義は交換(貨幣)の原理論を意図しており、金融論・銀行論ではない。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読箇所の下読みが毎回必要。読みやすい文章ではないので時間を多めに確保すること。

教科書

G.F.クナップ『貨幣の国家理論』(日本経済新聞出版)

参考書

ミーゼス『貨幣及び流通手段の理論』(日本経済評論社)、ハイエク『貨幣論集』(春秋社)

課題に対するフィードバックの方法

面談やメールで適宜コメントを行う。

成績評価の方法

報告(レジュメ文書含む)50%、議論への参加度25%、期末レポート25%

その他

履修を考える者は、初回は必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) ECN512J			
理論系		備考	
科目名	理論経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師	博士(経済学)	高橋 聡

授業の概要・到達目標

概要：「価値(貨幣)と使用価値(現物)の経済原論」をテーマに、交換と互酬の原理的基礎を探究する。資本主義とは、抽象的な交換価値を担う貨幣を媒介物とする私的交換の経済である。これに対して、貨幣を媒介しない(または貨幣疑似物を媒介する)現物のモノ・サービス・ケアなどのやり取りが互酬の経済である。秋学期はケインズに一定の影響を与えたS.ゲゼルを通じて互酬を検討する。できればゲゼルが批判するマルクス、逆に彼が評価するブルードンとの突きあわせを行う。

目標：古典に向き合うことを通じて、これからの経済のあり方を探求する。

授業内容

- ゲゼルの初期貨幣改革論(1) 社会国家に架橋するものとしての貨幣改革
- ゲゼルの初期貨幣改革論(2) 事態の本質
- ゲゼルの初期貨幣改革論(3) 貨幣の国営化
- ゲゼルの初期貨幣改革論(4) アルゼンチンの通貨制度
- マルクス『資本論』体系へのゲゼルの経済学批判
- ゲゼルの国家漸進的解体論
- 漸進的に解体された国家
- 自然的経済秩序(1) 財の分配
- 自然的経済秩序(2) 目標と方法
- 自然的経済秩序(3) 自由地
- 自然的経済秩序(4) 現行の貨幣
- 自然的経済秩序(5) 自由貨幣
- 自然的経済秩序(6) 自由貨幣の利子理論あるいは資本理論
- 自然的経済秩序(7) 基礎利子

履修上の注意

本講義は互酬の原理論を意図しており、金融論・銀行論ではない。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読箇所の下読みが毎回必要。読みやすい文章ではないので時間を多めに確保すること。

教科書

S.ゲゼル『初期貨幣改革/国家論集』(ばる出版)、S.ゲゼル『自由地と自由貨幣による自然的経済秩序』(ばる出版)

参考書

K.マルクス『経済学批判』(岩波書店)、『資本論』(大月書店)、相田慎一『ゲゼル研究』(ばる出版)

課題に対するフィードバックの方法

面談やメールで適宜コメントを行う。

成績評価の方法

報告(レジュメ文書含む)50%、議論への参加度25%、期末レポート25%

その他

履修を考える者は、初回は必ず出席すること。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

計量経済学の基本的な事項を理解し、習得することを目指す。

実際の計算はパソコンソフトに頼ることになるが、パソコンソフトの使い方は秋学期に学ぶこととし、春学期はそうした計算の基礎にある概念の習得に集中する。

さらに、英語による理解も可能となるよう、専門用語や計量経済分析における英語表現を学ぶ。

授業内容

第1回	イントロダクション
第2―5回	計量経済分析の統計学的基礎
第6―8回	計量経済分析の数学的基礎
第9・10回	単回帰分析
第11―13回	線形確率モデル分析
第14回	復習とまとめ

履修上の注意

計量経済学の基本的な分析方法を学ぶとともに、線形モデルと非線形モデルの特徴を学んでいくことを考えている。ただし受講生の要望もできるだけ取り入れたいと考えている。特に数学や統計学についての予備知識を要求するつもりはない。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストは事前にこのページ上に掲載するので、予習・復習は受講生本人の意思により、適宜行っていただきたい。学習効果を高める意味で、参考書に掲げた文献の例題を発表してもらうことを課題にする。これは授業以外の時間に準備していただくことになる。

教科書

教科書は、このページの教材欄を通じて配布する。

参考書

小林和司『計量経済学の基本』世界書院
Wooldridge, J. M. *Introductory Econometrics: A modern approach*, THOMSON SOUTH-WESTERN

課題に対するフィードバックの方法

授業における発表時にコメントする。

成績評価の方法

授業中における発表や発言を通じて、取り組む姿勢と理解の進展具合を評価する。（授業への参加度30%、達成度20%、発表50%）

その他

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	計量経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

明治大学駿河台校舎12号館の教室にインストールされている計量分析ソフトStataを通じて、計量経済学を学ぶ。

ソフトの使い方と結果の解釈を学ぶことが中心となる。

授業内容

第1回	Stataの使い方
第2―5回	重回帰分析
第6―9回	パネルデータ分析の基礎
第10―13回	パネルデータ分析の実践
第14回	復習とまとめ

履修上の注意

計量経済学研究Ⅰを履修しているか、あるいはそれと同程度の計量経済学に関する基本事項を理解していることを前提とする。授業中に学んだことを理解、応用することが課題となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

練習問題の一部は授業中に実施するが、一部は課題とする。また、計量経済学研究Ⅰで学ぶ程度の英語力は各自の準備学習によって、定着していくであろう。授業最終回において英文参考書の例題を発表してもらう。

教科書

教科書は、このページの教材欄を通じて配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における発表時にコメントする。

成績評価の方法

授業中における発表や発言を通じて、取り組む姿勢と理解の進展具合を評価する。（授業への参加度30%、達成度20%、発表50%）

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	統計学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

確率・統計の基礎と応用を修得する。テーマとしては、確率、確率変数、確率分布、推定、検定などである。まず、記述統計学について、学部レベルの統計学の復習を行う。次に、確率の定義や確率分布などの導入を行い、それを基礎とした推測統計学の理論を学習する。

授業内容

第1回 統計学とは
 第2回 統計学の歴史(起源)
 第3回 統計学の歴史(日本)
 第4回 現代ファイナンス理論との関連
 第5回 記述統計の復習1 度数分布表
 第6回 記述統計の復習2 代表値
 第7回 記述統計の復習3 ちらばりの尺度
 第8回 記述統計の復習4 計算演習
 第9回 確率論1 確率とは
 第10回 確率論2 確率分布
 第11回 確率論3 いくつかの定理
 第12回 確率論4 計算演習
 第13回 推測統計学1 推測とは
 第14回 推測統計学2 推定量と標本分布について

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
 授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書で、特に、記述統計学は予習をすること。復習は、参考書の問題を解くこと。

教科書

統計学 田中勝人著 新世社

参考書

数理統計学の基礎 野田一雄・宮岡悦良著 共立出版
 統計学 森棟公夫, 他著 有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

課題について、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業は、理論の証明や計算を学生に課題として与えるので、それを、解答し、レポートにまとめ、それを評価する(50%)。また、普段の授業への参加度(50%)なども参考にする。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	統計学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

時系列解析を中心として、統計的モデリングについても修得する。また、研究の対象は、株式などのファイナンス・データを扱うので、ファイナンス統計学としての内容も扱っている。まず、統計的モデリングについて、情報量規準などの基礎概念を導入する。その後、モデリングに必要な、確率分布や時系列モデル、状態空間モデルなどを応用例を引用しながら学習する。

授業内容

第1回 推測統計の復習
 第2回 ファイナンス統計学とは
 第3回 ファイナンス統計のデータ
 第4回 現代ファイナンス理論の歴史と統計学
 第5回 統計的モデリングとは
 第6回 情報量規準
 第7回 代表的なファイナンス統計モデル1
 ユニットルート
 第8回 代表的なファイナンス統計モデル2
 ARモデル
 第9回 代表的なファイナンス統計モデル3
 ARIMAモデル
 第10回 代表的なファイナンス統計モデル4
 COINTEGRATION
 第11回 代表的なファイナンス統計モデル5
 ARCHモデル
 第12回 代表的なファイナンス統計モデル6
 GARCHモデルと分析
 第13回 代表的なファイナンス統計モデル7
 確率変動分散モデル
 第14回 状態空間モデル

履修上の注意

学部レベルの統計学は履修済みとする。
 授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

記述統計学は、事前に、予習すること。復習は、参考書を読むこと。

教科書

時系列解析入門 北川源四郎著 岩波書店

参考書

ファイナンス統計学ハンドブック マダラ・ラオ著 森平・小暮監訳

課題に対するフィードバックの方法

課題について、授業内で解説の時間を設ける

成績評価の方法

授業は、理論の証明や計算を学生に課題として与えるので、それを、解答し、レポートにまとめ、それを評価する(50%)。また、普段の授業への参加度(50%)なども参考にする。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	統計学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 関根 篤史		

授業の概要・到達目標

【講義概要】大学院修士1年生レベルの統計学の基礎理論について講義を行う。具体的には、確率論、確率変数の変換と期待値、様々な分布、無作為標本の性質、大数の法則、中心極限定理、点推定、仮説検定、区間推定、漸近理論、分散分析、回帰分析である。

【到達目標】大学院修士1年生のレベルの統計学の基礎理論について理解を深めることを目標とする。本講義では、3回のレポートを通して多くの問題を解き、大学院レベルの統計学の知識を身につけることを目指す。

授業内容

第1回 Probability Theory
第2回 Transformations and Expectations
第3回 Common Families of Distributions
第4回 Multiple Random Variables
第5回 Properties of a Random Sample
第6回 Principles of Data Reduction
第7回 Point Estimation
第8回 Hypothesis Testing
第9回 Interval Estimation
第10回 Asymptotic Evaluation
第11回 Analysis of Variance and Regression
第12回 Analysis of Variance and Regression
第13回 Regression Models
第14回 Regression Models

履修上の注意

学部の「統計学」や「解析学」、「線形代数」の講義を受講済みであることを前提に講義を進める。また本講義では、Rの実習は行わない。統計学研究Ⅰの単位を取得した学生を対象に、統計学研究ⅡでRの実習を行う。さらに、単位取得を目的としない聴講生の受講は原則認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に該当の章を読んでくることが望ましい。

教科書

Casella, G. and Berger, R. (2024). *Statistical Inference*. Chapman and Hall/CRC.

参考書

Hansen, B.E. (2022). *Probability & Statistics for Economists*. Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

3回のレポートの解答解説と講評を行う。

成績評価の方法

3回のレポート提出を90%、講義への貢献度10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN531J			
理論系		備考	
科目名	統計学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 関根 篤史		

授業の概要・到達目標

【講義概要】統計学研究Ⅰを受講した学生を対象に、Rを用いた統計学の分析手法について学ぶ。具体的には、線形回帰、欠損値のあるデータ、ロジスティック回帰、最尤法、生存分析である。

【到達目標】大学院修士1年生のレベルの統計学の分析手法について理解を深めることを目標とする。この授業では、3回のレポートを通して多くの問題を解き、大学院レベルの統計学の理論及びRによる実証分析の手法について身につけることを目指す。

授業内容

第1回 General Aspects of Fitting Regression Models
第2回 Missing Data
第3回 Multivariable Modeling Strategies
第4回 Describing, Resampling, Validating, and Simplifying the Model
第5回 Modeling Longitudinal Responses using Generalized Least Squares
第6回 Case Study in Data Reduction
第7回 Overview of Maximum Likelihood Estimation
第8回 Binary Logistic Regression
第9回 Ordinary Logistic Regression
第10回 Case Study in Ordinal Regression, Data Reduction, and Penalization
第11回 Regression Models for Continuous Y and Case Study in Ordinal Regression
第12回 Transform-Both-Sides Regression
第13回 Introduction to Survival Analysis
第14回 Parametric Survival Analysis

履修上の注意

統計学研究Ⅰの単位を取得済みであること。また、学部の統計学関連科目で使用するレベルのRの知識を有していること。さらに、単位取得を目的としない聴講生の受講は原則認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に該当の章を読んでくることが望ましい。

教科書

Harrell, F.E. (2016). *Regression Modeling Strategies: With Applications to Linear Models, Logistic and Ordinal Regression, and Survival Analysis*. Springer.

参考書

Hothorn, T. and Everitt, B.S. (2017). *A Handbook of Statistical Analyses Using R*. Chapman and Hall/CRC.

課題に対するフィードバックの方法

3回のレポートの解答解説と講評を行う。

成績評価の方法

3回のレポート提出を90%、講義への貢献度10%で評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
理論系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（理論系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 An Overview of the arts sector
- 第3回 Size, Growth, and Significance in the economy (1)
- 第4回 Size, Growth, and Significance in the economy (2)
- 第5回 Size, Growth, and Significance in the economy (3)
- 第6回 Consumer Demand
- 第7回 Measuring the Utility of Consumption
- 第8回 Consumer Budget Optimization
- 第9回 Deriving Demand Curves
- 第10回 The Determinants of Demand (1)
- 第11回 The Determinants of Demand (2)
- 第12回 How supply and demand interact in the market to establish prices (1)
- 第13回 How supply and demand interact in the market to establish prices (2)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
理論系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（理論系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Production and Cost (1)
- 第3回 Production and Cost (2)
- 第4回 Production and Cost (3)
- 第5回 Public Policy (1)
- 第6回 Public Policy (2)
- 第7回 Public Policy (3)
- 第8回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (1)
- 第9回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (2)
- 第10回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (3)
- 第11回 The Role of the Arts in a Local Economy (1)
- 第12回 The Role of the Arts in a Local Economy (2)
- 第13回 The Role of the Arts in a Local Economy (3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN582J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

【概要】

修士論文の仮テーマを策定したうえで、それに応じた先行研究を学び、情報を整理して、自身の研究の位置づけや性格を把握していく。

【到達目標】

研究の基本的な作法を体得し、主体的に研究を進めるための準備を整える。

授業内容

- 第01回 修士論文とはどのようなものか
- 第02回 仮テーマの検討(1)
- 第03回 仮テーマの検討(2)
- 第04回 先行研究リストの作成(1)
- 第05回 先行研究リストの作成(2)
- 第06回 基本文献の精読(1)
- 第07回 基本文献の精読(2)
- 第08回 基本文献の精読(3)
- 第09回 基本文献の精読(4)
- 第10回 史料について学ぶ
- 第11回 先行研究(例)の検討(1)
- 第12回 先行研究(例)の検討(2)
- 第13回 仮テーマの再検討
- 第14回 研究計画の策定

履修上の注意

本演習は「Learning by Doing」方式で行うので、履修者は「授業内容」に合わせて自身の研究活動を進める必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

「授業内容」に合わせて、適宜、自身の研究に対応した作業(=課題)を行う。
演習は、履修者が行った作業結果を素材として進めることになる。
修士論文執筆に要する先行研究の検討について、演習では代表的なものだけ扱うので、演習中に作成するリストに基づき履修者が独自に読み進めていくことが求められる。

教科書

履修者の研究テーマに即して、適切な先行研究(研究書、論文)を選ぶ。

参考書

松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』(岩波書店, 2022年)
石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』(東京大学出版会, 2010年)
武田晴人『異端の試み——日本経済史研究を読み解く』(日本経済評論社, 2017年)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習は、履修者の作業結果(=課題)を素材として、必要な指導や助言を行う形で進める。

成績評価の方法

修士論文執筆に向けた基本的な先行研究リストが完成しているか(20%)
修士論文にふさわしいテーマを決定できたか(50%)
以後、自身で進行すべき作業を「見える化」できたか(30%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN582J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

【概要】

履修者が用いる史料について、基本的な「読み方」や解釈の仕方、含意の引き出し方を学んでゆく。
大まかな論点を生み出したうえで、これを効果的な「報告」に落とし込む。

【到達目標】

具体的な調査を適切に進め、修士論文の大まかな要素を形作っていく。
実際の論文執筆に先立ち、その前提となるような報告を行う。

授業内容

- 第01回 研究計画の確認
- 第02回 史料を「読む」(1)
- 第03回 史料を「読む」(2)
- 第04回 史料を「読む」(3)
- 第05回 史料を「読む」(4)
- 第06回 論点を組み立てる(1)
- 第07回 論点を組み立てる(2)
- 第08回 論点を組み立てる(3)
- 第09回 論点を組み立てる(4)
- 第10回 報告をデザインする(1)
- 第11回 報告をデザインする(2)
- 第12回 報告をデザインする(3)
- 第13回 報告をデザインする(4)
- 第14回 研究計画の振り返りとアップデート

履修上の注意

本演習は「Learning by Doing」方式で行うので、履修者は「授業内容」に合わせて自身の研究活動を進める必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

「授業内容」に合わせて、適宜、自身の研究に対応した作業(=課題)を行う。
演習は、履修者が行った作業結果を素材として進めることになる。

教科書

松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』(岩波書店, 2022年)
他の文献は、受講者の仮テーマに応じて逐次決定してゆく。

参考書

石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』(東京大学出版会, 2010年)
武田晴人『異端の試み——日本経済史研究を読み解く』(日本経済評論社, 2017年)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習は、履修者の作業結果(=課題)を素材として、必要な指導や助言を行う形で進める。

成績評価の方法

史料の適切な扱い方を身につけたか(30%)
修士論文に盛り込むべき論点を確定できたか(50%)
報告の技法を体得したか(20%)

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN682J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

【概要】

修士論文の論理的な構成を確定し、説得力のある効果的な議論を組み立てていく。

【到達目標】

本演習の最後には、自身が執筆すべき論文のアウトラインを完成させる。
適切な情報開示の作法を体得する。

授業内容

- 第01回 目次構成を考える (1)
- 第02回 目次構成を考える (2)
- 第03回 図表を作成する (1)
- 第04回 図表を作成する (2)
- 第05回 「論」をつくり・組み立てる (1)
- 第06回 「論」をつくり・組み立てる (2)
- 第07回 「論」をつくり・組み立てる (3)
- 第08回 引用情報の適切な処理方法を学ぶ (1)
- 第09回 引用情報の適切な処理方法を学ぶ (2)
- 第10回 修士論文概要の確認と補強 (1)
- 第11回 修士論文概要の確認と補強 (2)
- 第12回 修士論文概要の確認と補強 (3)
- 第13回 修士論文概要の確認と補強 (4)
- 第14回 修士論文概要の完成、課題と結論の明確化

履修上の注意

本演習は「Learning by Doing」方式で行うので、履修者は「授業内容」に合わせて自身の研究活動を進める必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

「授業内容」に合わせて、適宜、自身の研究に対応した作業（＝課題）を行う。
演習は、履修者が行った作業結果を素材として進めることになる。

教科書

松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』（岩波書店、2022年）
他の文献は、受講者の仮テーマに応じて逐次決定してゆく。

参考書

石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』（東京大学出版会、2010年）
武田晴人『異端の試み——日本経済史研究を読み解く』（日本経済評論社、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習は、履修者の作業結果（＝課題）を素材として、必要な指導や助言を行う形で進める。

成績評価の方法

図表作成の基本的な技能を身につけたか(20%)
引用情報の取り扱いについて基本的な技能を身につけたか(30%)
修士論文の概要が確定したか(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN682J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

【概要】

実際に論文執筆を進め、草稿を素材として必要な技能を学んでゆく。

【到達目標】

論文にふさわしい言語表現を使いこなせるようになる。
修士論文を完成させる。

授業内容

- 第01回 修士論文草稿の検討 (1) 先行研究整理
- 第02回 修士論文草稿の検討 (2)
- 第03回 修士論文草稿の検討 (3)
- 第04回 修士論文草稿の検討 (4)
- 第05回 修士論文草稿の検討 (5)
- 第06回 修士論文草稿の検討 (6)
- 第07回 修士論文草稿の検討 (7)
- 第08回 修士論文草稿の検討 (8) 序論と結論
- 第09回 修士論文草稿の検討 (9) 序論と結論
- 第10回 一次稿の吟味 (1) 改良点の洗い出し
- 第11回 一次稿の吟味 (2) 仕上げ
- 第12回 推敲、形式要件の確認 (1)
- 第13回 推敲、形式要件の確認 (2)
- 第14回 研究の総括

履修上の注意

本演習は「Learning by Doing」方式で行うので、履修者は「授業内容」に合わせて自身の研究活動を進める必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

「授業内容」に合わせて、適宜、自身の研究に対応した作業（＝課題）を行う。
演習は、履修者が行った作業結果を素材として進めることになる。

教科書

松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』（岩波書店、2022年）
他の文献は、受講者の仮テーマに応じて逐次決定してゆく。

参考書

石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』（東京大学出版会、2010年）
武田晴人『異端の試み——日本経済史研究を読み解く』（日本経済評論社、2017年）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習は、履修者の作業結果（＝課題）を素材として、必要な指導や助言を行う形で進める。

成績評価の方法

論文にふさわしい言語表現を体得したか(30%)
修士論文にふさわしい内容の論文を完成させられたか(70%)

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN522J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士（経済学）奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

経済思想史に関する修士論文・研究報告書の執筆・完成に必要な学問的作法を指導する。

【到達目標】

演習Ⅰでは、経済思想史の基本的な知見の復習・確認を行うことで、研究テーマを具体的に選定するための基礎的な力を養う。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済思想史概観 1 ― 経済学前史
- 第3回 経済思想史概観 2 ― 古典派経済学の生成
- 第4回 経済思想史概観 3 ― 古典派経済学の展開
- 第5回 経済思想史概観 4 ― マルクス経済学の台頭
- 第6回 経済思想史概観 5 ― 限界革命
- 第7回 経済思想史概観 6 ― ケンブリッジ学派の系譜
- 第8回 経済思想史概観 7 ― ドイツ歴史学派
- 第9回 経済思想史概観 8 ― アメリカ制度学派
- 第10回 経済思想史概観 9 ― ケインズとシュンペーター
- 第11回 経済思想史概観 10 ― 新古典派総合
- 第12回 経済思想史概観 11 ― マネタリズム
- 第13回 経済思想史概観 12 ― 日本の経済思想
- 第14回 総括

履修上の注意

履修希望者は、教員とのコミュニケーションをきちんとはかったうえで、主体的に研究を進めるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された課題は、授業前日までに提出すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、授業で講評を行う。

成績評価の方法

提出された課題にもとづいて評価を行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN522J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士（経済学）奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

経済思想史に関する修士論文・研究報告書の執筆・完成に必要な学問的作法を指導する。

【到達目標】

演習Ⅱでは、研究課題の設定および先行研究の精査を行うことで当該テーマに対する執筆準備を整える。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 課題遂行のための研究構想の確認
- 第4回 関連文献のリストアップ
- 第5回 研究動向の確認 1
- 第6回 研究動向の確認 2
- 第7回 先行研究の精査 1
- 第8回 先行研究の精査 2
- 第9回 先行研究の精査 3
- 第10回 研究課題の妥当性の再考
- 第11回 研究構想の再考 1
- 第12回 研究構想の再考 2
- 第13回 研究課題の再設定
- 第14回 研究構想の確定

履修上の注意

履修希望者は、教員とのコミュニケーションをきちんとはかったうえで、主体的に研究を進めるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された課題は、授業前日までに提出すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、授業で講評を行う。

成績評価の方法

提出された課題にもとづいて評価を行う。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN622J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士（経済学）奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

経済思想史に関する修士論文・研究報告書の執筆・完成に必要な学問的作法を指導する。

【到達目標】

演習Ⅲでは、1次資料とその関連文献の分析を行うことで、その成果をいかにして草稿へと反映させていくのかに習熟する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 1次資料の読解と検討 1
- 第3回 1次資料の読解と検討 2
- 第4回 1次資料の読解と検討 3
- 第5回 1次資料の読解と検討 4
- 第6回 関連文献の精査 1
- 第7回 関連文献の精査 2
- 第8回 関連文献の精査 3
- 第9回 関連文献の精査 4
- 第10回 1次資料の検討成果の発表と講評 1
- 第11回 1次資料の検討成果の発表と講評 2
- 第12回 1次資料の検討成果の発表と講評 3
- 第13回 研究課題の妥当性の再確認
- 第14回 研究構想の妥当性の再確認

履修上の注意

履修希望者は、教員とのコミュニケーションをきちんとはかったうえで、主体的に研究を進めるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された課題は、授業前日までに提出すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、授業で講評を行う。

成績評価の方法

提出された課題にもとづいて評価を行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN622J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士（経済学）奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

経済思想史に関する修士論文・研究報告書の執筆・完成に必要な学問的作法を指導する。

【到達目標】

演習Ⅳでは、演習Ⅰ～Ⅲで得た研究成果を踏まえて、修士論文および研究報告書を期日内に完成させる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 課題の設定に関する研究発表
- 第3回 課題の設定の草稿提出
- 第4回 課題の設定の草稿に対する講評と討議
- 第5回 本論に関する研究発表 1
- 第6回 本論の草稿提出 1
- 第7回 本論の草稿に対する講評と討議 1
- 第8回 本論に関する研究発表 2
- 第9回 本論の草稿提出 2
- 第10回 本論の草稿に対する講評と討議 2
- 第11回 本論に関する研究発表 3
- 第12回 本論の草稿提出 3
- 第13回 本論の草稿に対する講評と討議 3
- 第14回 完成稿の草稿提出とそれに対する講評と討議

履修上の注意

履修希望者は、教員とのコミュニケーションをきちんとはかったうえで、主体的に研究を進めるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示された課題は、授業前日までに提出すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、授業で講評を行う。

成績評価の方法

提出された課題にもとづいて評価を行う。

その他

特になし。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN522J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

経済学史の一般文献、隣接領域の文献、専門文献のなかから、定評ある著書あるいは論文を取りあげて議論の進め方を「解剖」し、論文の形式と修士論文の作成において取り組むべき課題の発見について研究指導を行う。

授業の到達目標

博士前期課程の1年目春学期のこの授業では、論文の作成や発表の仕方について基本的なスキルを習得する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：経済学史文献の探索と読み方(1)
第3回：経済学史文献の探索と読み方(2)
第4回：経済学史文献のレジюмеの作成法(1)
第5回：経済学史文献のレジюмеの作成法(2)
第6回：経済学史一般文献のレジюме作成と発表・議論(1)
第7回：経済学史一般文献のレジюме作成と発表・議論(2)
第8回：経済学史隣接領域の文献のレジюме作成と発表・議論(1)
第9回：経済学史隣接領域の文献のレジюме作成と発表・議論(2)
第10回：経済学史専門文献の精読と研究課題の発見の仕方(1)
第11回：経済学史専門文献の精読と研究課題の発見の仕方(2)
第12回：経済学史専門文献の精読と研究課題の発見の仕方(3)
第13回：受講者各自の修士論文のテーマ(仮)発表
第14回：授業の総括
授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することができる。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習と復習については最初は細かく指示するが、順次、指示を減らして学生の自主的な学びを促す。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- (1)学期末に提出してもらう「課題達成報告書」、すなわち、経済学史演習Ⅰにおいて何を学び、論文作成能力と発表能力がどれだけ高められたのかについての自己診断を参考に成績を評価する(50%)。
- (2)各授業回において受講者が受け身の姿勢にとどまることなく、主体的に学びを進めたのかを複数の評価基準（議論への積極的な参加、課題提出の厳守、他の受講生へのコメントの有無とその創発性など）にもとづいて評価する(50%)。

その他

なし。

科目ナンバー：(PE) ECN522J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

経済学史演習Ⅰの授業で習得した文献探索や研究ノートの作成法などを実際の論文の作成に応用することにより、受講者の論文作成能力の向上を図る。

授業の到達目標

博士前期課程の最終目標である修士論文の完成にむけて、限られた時間のなかで効率のかつ実りある研究を進めることができるように論文作成能力を向上させる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：経済学史修士論文のモデルケースの紹介
第3回：経済学史研究の動向の把握(1)
第4回：経済学史研究の動向の把握(2)
第5回：複数の論文テーマ(仮)の設定
第6回：論文テーマ(仮)の絞り込み
第7回：研究文献一覧の作成(1)
第8回：研究文献一覧の作成(2)
第9回：研究史のなかでの論文テーマの位置づけ
第10回：論文テーマの再考・修正
第11回：論文構成(序論、章・節、結論)の検討(1)
第12回：論文構成(序論、章・節、結論)の検討(2)
第13回：論文構成の再考・修正
第14回：授業の総括
授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することができる。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習と復習については最初は細かく指示するが、順次、指示を減らして、学生の自主的な学びを促す。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- (1)学期末に提出してもらう「課題達成報告書」、すなわち、経済学史演習Ⅱにおいて何を学び、論文作成能力と発表能力がどれだけ高められたのかについての自己診断を参考に成績を評価する(50%)。
- (2)各授業回において受講者が受け身の姿勢にとどまることなく、主体的に学びを進めたのかを複数の評価基準（議論への積極的な参加、課題提出の厳守、他の受講生へのコメントの有無とその創発性など）にもとづいて評価する(50%)。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN622J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

受講生各自の「論文構成」を修士論文に結実させるために、「研究ノート」の作成を指導する。また、「修士論文の概要」の作成をつうじて、修士論文全体の具体的なイメージをもつことができるように指導する。

授業の到達目標

博士前期課程の2年目春学期のこの授業では、経済学史演習Ⅱで練り上げた「論文構成」を指針として「研究ノート」と「修士論文の概要」の作成に注力し、修士論文の執筆にむけた準備を周到なものにする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：論文構成(序論、章・節、結論)の決定
 第3回：文献収集と文献精読の指導(1)
 第4回：文献収集と文献精読の指導(2)
 第5回：文献収集と文献精読の指導(3)
 第6回：文献収集と文献精読の指導(4)
 第7回：研究ノートの作成・発表・議論(1)
 第8回：研究ノートの作成・発表・議論(2)
 第9回：研究ノートの作成・発表・議論(3)
 第10回：研究ノートの作成・発表・議論(4)
 第11回：修士論文の概要(3000文字程度)の作成と検討(1)
 第12回：修士論文の概要の作成と検討(2)
 第13回：論文構成の再検討(修士論文の概要からのフィードバック)
 第14回：授業の総括
 授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することがある。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習と復習については最初は細かく指示するが、順次、指示を減らして学生の自主的な学びを促す。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 1) 学期末に提出してもらう「課題達成報告書」、すなわち、経済学史演習Ⅲにおいて何を学び、論文作成能力と発表能力がどれだけ高められたのかについての自己診断を参考に成績を評価する(50%)。
- 2) 各授業回において受講者が受け身の姿勢にとどまることなく、主体的に学びを進めたのかを複数の評価基準(議論への積極的な参加、課題提出の厳守、他の受講生へのコメントの有無とその創発性など)にもとづいて評価する(50%)。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN622J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

研究ノートの量と質、両面での充実を図るべく研究文献の探索と読解を引きつづきサポートする。研究ノートと論文構成を指針にしながら、研究史の新生面を切り開くような修士論文の執筆を促す一方、エッセーとは異なる論文の文章表現、注記の厳密なルールについて研究指導を徹底する。

授業の到達目標

博士前期課程の2年目秋学期のこの授業では、経済学史演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業内容をふまえて修士論文の執筆に入り、論文を完成させる。

授業内容

第1回：論文構成の最終決定
 第2回：修士論文序論のドラフトの検討
 第3回：修士論文第1章のドラフトの検討(1)
 第4回：修士論文第1章のドラフトの検討(2)
 第5回：修士論文第2章のドラフトの検討(1)
 第6回：修士論文第2章のドラフトの検討(2)
 第7回：修士論文第3章のドラフトの検討(1)
 第8回：修士論文第3章のドラフトの検討(2)
 第9回：修士論文結論のドラフトの検討
 第10回：修士論文の授業内での提出と口頭試問へむけての準備
 第11回：修士論文の推敲(1)
 第12回：修士論文の推敲(2)
 第13回：修士論文の本文、注記、文献一覧の最終チェック
 第14回：授業の総括
 授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することがある。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習と復習については最初は細かく指示するが、順次、指示を減らして学生の自主的な学びを促す。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 1) 各授業回において受講者が受け身の姿勢にとどまることなく、主体的に学びを進めたのかを複数の評価基準(議論への積極的な参加、課題提出の厳守、他の受講生へのコメントの有無とその創発性など)にもとづいて評価する(30%)。
- 2) 完成した修士論文について、形式と内容を精査し、成績を評価する(70%)。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋経済史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石山 幸彦		

授業の概要・到達目標

「西洋経済史研究Ⅰ」では、第二次世界大戦後から現代までのヨーロッパ経済の発展とヨーロッパ統合の進展について検討する。欧米諸国における戦後の文書史料の公開にともない、1980年代からヨーロッパ経済や統合に関する歴史研究が急速に進展した。そこでは、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体、ヨーロッパ経済共同体(EEC)などの諸共同体やヨーロッパ連合(EU)の創設とその機能、ヨーロッパ・レベルでの国際通貨協力(スネイク、EMS)や単一通貨ユーロの導入など、様々な角度からヨーロッパ経済や統合の歴史と現状が解明されている。そうした書籍を輪読し、ヨーロッパ統合やそれと関連する現代ヨーロッパ経済史を理解することを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ヨーロッパ経済を見る眼
- 第3回 EU統合の独自性①
- 第4回 EU統合の独自性②
- 第5回 関税同盟と単一市場①
- 第6回 関税同盟と単一市場②
- 第7回 EUの共通政策とEU財政①
- 第8回 EUの共通政策とEU財政②
- 第9回 通貨協力からユーロへ①
- 第10回 通貨協力からユーロへ②
- 第11回 グリーン・デジタル・グローバル①
- 第12回 グリーン・デジタル・グローバル②
- 第13回 EU経済と産業①
- 第14回 EU経済と産業②

履修上の注意

受講生は分担してテキストの内容を要約し、報告する。したがって、事前の準備と議論への参加が必要となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読する書籍を十分に読み、毎回の担当者はその内容報告の準備をする。

教科書

田中素香・長谷部重康・久保広正・岩田健治著『現代ヨーロッパ経済第6版』有斐閣

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業のなかで報告や発言について講評する。

成績評価の方法

毎回の授業での報告、発言などによって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋経済史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 石山 幸彦		

授業の概要・到達目標

「西洋経済史研究Ⅱ」では、第二次世界大戦後から現代までのヨーロッパ経済の発展とヨーロッパ統合の進展について検討する。欧米諸国における戦後の文書史料の公開にともない、1980年代からヨーロッパ経済や統合に関する歴史研究が急速に進展した。そこでは、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体、ヨーロッパ経済共同体(EEC)などの諸共同体やヨーロッパ連合(EU)の創設とその機能、ヨーロッパ・レベルでの国際通貨協力(スネイク、EMS)や単一通貨ユーロの導入など、様々な角度からヨーロッパ経済や統合の歴史と現状が解明されている。そうした書籍を輪読し、ヨーロッパ統合やそれと関連する現代ヨーロッパ経済史を理解することを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ヨーロ圏の金融危機と金融政策①
- 第3回 ヨーロ圏の金融危機と金融政策②
- 第4回 EUの地域格差と地域政策①
- 第5回 EUの地域格差と地域政策②
- 第6回 フランスとEU経済
- 第7回 ドイツとEU経済
- 第8回 イタリアその他諸国とEU経済
- 第9回 中東欧諸国とEU経済
- 第10回 イギリスとEU経済
- 第11回 EUと対外通商関係
- 第12回 世界経済のなかのユーロ
- 第13回 EUと中国、インド太平洋
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生は分担してテキストの内容を要約し、報告する。したがって、事前の準備と議論への参加が必要となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読する書籍を十分に読み、毎回の報告者はその内容報告の準備をする。

教科書

田中素香他著『現代ヨーロッパ経済第6版』有斐閣

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業のなかで報告や発言について講評する。

成績評価の方法

毎回の授業での報告、発言などによって評価する。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋経済史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 赤津 正彦		

授業の概要・到達目標

本授業では、日本における西洋経済史の主要な研究テーマについて履修者が報告を作成し発表を行う。それにより、日本における西洋経済史研究の基礎的知識の獲得を目指すと同時に、そうした知識を踏まえた質疑・討論ができる能力の向上を目指す。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：大航海時代のヨーロッパ経済
 第3回：貿易国家オランダの興隆と衰退
 第4回：農村社会の変容と農村工業
 第5回：絶対王政と市民革命
 第6回：資本主義と宗教
 第7回：イギリス重商主義と植民地経済
 第8回：イギリス産業革命
 第9回：イギリス以外の産業革命
 第10回：「自由貿易帝国主義」
 第11回：大不況と資本主義の変容
 第12回：第二次産業革命とイギリスの衰退
 第13回：戦間期ヨーロッパ経済
 第14回：まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回担当者（履修者）が教科書の該当箇所についてその概要を報告し、また疑問点・論点を提示する。
 担当者は該当箇所を十分に読み込むとともに、わかりやすい報告を作成、また活発な討論につながりそうな疑問点・論点を提示する。
 担当でない履修者も該当箇所を十分に読み込んで授業に臨むこと。

教科書

『欧米経済史—近代化と現代—（三訂版）』関口尚志・梅津順一（放送大学教育振興会）1995年。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に報告に対する講評を行う。

成績評価の方法

授業に対する積極性、報告の出来、質疑・討論への参画度から総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	西洋経済史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 赤津 正彦		

授業の概要・到達目標

本授業では、主にイギリスにおける環境問題の歴史について履修者が報告を作成し発表を行う。それにより、環境問題の歴史についての基礎的知識の獲得を目指すと同時に、そうした知識を踏まえた質疑・討論ができる能力の向上を目指す。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：大気汚染問題の歴史(1)
 第3回：大気汚染問題の歴史(2)
 第4回：大気汚染問題の歴史(3)
 第5回：大気汚染問題の歴史(4)
 第6回：大気汚染問題の歴史(5)
 第7回：大気汚染問題の歴史(6)
 第8回：大気汚染問題の歴史(7)
 第9回：公衆衛生問題の歴史(1)
 第10回：公衆衛生問題の歴史(2)
 第11回：公衆衛生問題の歴史(3)
 第12回：都市緑化の歴史(1)
 第13回：都市緑化の歴史(2)
 第14回：都市緑化の歴史(3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回担当者（履修者）が指定された論文の概要を報告し、また疑問点・論点を提示する。
 担当者は指定された論文を十分に読み込むとともに、わかりやすい報告を作成、また活発な討論につながりそうな疑問点・論点を提示する。
 担当でない履修者も指定された論文を十分に読み込んで授業に臨むこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に報告に対する講評を行う。

成績評価の方法

授業に対する積極性、報告の出来、質疑・討論への参画度などにより総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	西洋経済史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 下斗米 秀之		

授業の概要・到達目標

アメリカは世界最大の経済大国として世界をリードしており、その理解は不可欠である。1980年代以降の新自由主義の拡大とグローバル競争の激化によって、多くの産業部門では市場集中が進み、アメリカにおける独占化の傾向は強まった。

本講義では、金融セクターやビッグテック、軍需産業など、各産業分野における独占形成の歴史とその支配の実態を、さらにはグローバル経済とのかかわりから、国際労働力移動や多国籍企業による国際分業、独占規制のあり方に至るまで、多様なトピックを考察する。アメリカ経済史にあらわれた独占の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための深い洞察力と論理的思考力を養うことを目標とする。

授業内容

- 第1回目 イントロダクションー経済史への招待
- 第2回目 グローバル競争と新たな産業の独占
- 第3回目 反トラスト政策の変遷と市場集中
- 第4回目 ビッグテックと技術プラットフォームの独占
- 第5回目 コミュニケーション資本主義と市民社会
- 第6回目 GAFAMの利潤獲得メカニズム
- 第7回目 Amazonと反トラスト政策の現在地
- 第8回目 ドル体制と金融覇権
- 第9回目 金融制裁とドル・システムの今
- 第10回目 アメリカ型金融システムと新展開
- 第11回目 金融危機後の巨大資産運用会社の台頭
- 第12回目 アメリカの消費者信用と経済学
- 第13回目 少額ローンと金融包摂
- 第14回目 総括

履修上の注意

履修者は分担してテキスト内容を紹介する報告資料を作成することになるため、事前学習と講義への積極的な参加が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：教科書や参考書を読んで単元についての理解を深める。
復習：レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。

教科書

大橋陽・中本悟編『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり』日本評論社、2023年

参考書

萩原伸次郎、大橋陽、下斗米秀之訳『米国経済白書2024』蒼天社出版、2024年。
河音琢郎、豊福裕二、野口義直・平野健編『21世紀のアメリカ資本主義—グローバル蓄積構造の変容』大槻書店、2023年。
谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017年。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で報告に対する講評、解説を行う。

成績評価の方法

講義への積極的な参加と報告内容・資料(50%)および質疑・討議内容(50%)で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	2026年度開講せず
科目名	西洋経済史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 下斗米 秀之		

授業の概要・到達目標

アメリカは世界最大の経済大国として世界をリードしており、その理解は不可欠である。1980年代以降の新自由主義の拡大とグローバル競争の激化によって、多くの産業部門では市場集中が進み、アメリカにおける独占化の傾向は強まった。

本講義では、金融セクターやビッグテック、軍需産業など、各産業分野における独占形成の歴史とその支配の実態を、さらにはグローバル経済とのかかわりから、国際労働力移動や多国籍企業による国際分業、独占規制のあり方に至るまで、多様なトピックを考察する。アメリカ経済史にあらわれた独占の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための深い洞察力と論理的思考力を養うことを目標とする。

授業内容

- 第1回目 イントロダクション
- 第2回目 軍産複合体の特質と存続要因
- 第3回目 軍需産業を支える科学者・技術者
- 第4回目 高度人材の育成と技術援助政策
- 第5回目 グローバル頭脳獲得競争と「頭脳流出」
- 第6回目 国際分業体制の成立と「非正規移民」の創出
- 第7回目 産業構造および人口動態の変化と「トランプ現象」
- 第8回目 農業・食品加工業と垂直統合と経済力集中
- 第9回目 巨大小売業の成長と反トラスト政策
- 第10回目 アメリカの貿易構造と通商政策
- 第11回目 国際分業の編成とグローバル・バリューチェーン
- 第12回目 インフレーション論争とサプライチェーン
- 第13回目 アメリカ政治と独占問題—バイデンからトランプへ
- 第14回目 総括

履修上の注意

履修者は分担してテキスト内容を紹介する報告資料を作成することになるため、事前学習と講義への積極的な参加が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：教科書や参考書を読んで単元についての理解を深める。
復習：レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。

教科書

大橋陽・中本悟編『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり』日本評論社、2023年

参考書

萩原伸次郎、大橋陽、下斗米秀之訳『米国経済白書2024』蒼天社出版、2024年。
河音琢郎、豊福裕二、野口義直・平野健編『21世紀のアメリカ資本主義—グローバル蓄積構造の変容』大槻書店、2023年。
谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017年。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で報告に対する講評、解説を行う。

成績評価の方法

講義への積極的な参加と報告内容・資料(50%)および質疑・討議内容(50%)で評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

《概要》17世紀から第一次大戦期までの日本経済の歴史を学ぶ。
《目標》戦前日本における経済の動向について概要を理解するとともに、理論的分析を補完する帰納的な分析姿勢を身につける。

授業内容

- 第01回 近世経済の歴史的前提
- 第02回 小農社会の成立
- 第03回 幕府と大名
- 第04回 都市経済と民間社会、幕府・諸大名の対応、18世紀の農村経済
- 第05回 概観(1800-1885)
- 第06回 農村市場の拡大と生産地間の競争、開港の経済的インパクト
- 第07回 維新政府の制度改革と経済政策
- 第08回 移行期における地域社会の形成
- 第09回 概観(1885-1914)
- 第10回 経済成長と複層的発展、生産組織の選択と技術
- 第11回 資本と労働
- 第12回 産業発展とインフラストラクチャー、政府とマクロ経済運営
- 第13回 国際経済関係、場としての地域社会
- 第14回 総括討論

履修上の注意

- (1) この授業は院生による報告を軸に進める。
- (2) 受講生は全員、毎回、割当範囲(日本語による教科書20-30ページほど)の要約資料(要提出)を準備せねばならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 授業ごとに、割当範囲の要約資料を作成する。その際、わからないことがあれば可能な限り調べておく。
- (2) 最終回に総括討論を行うため、これに備えて、最低限1章読了ごとに考察をまとめておくことが望まれる。なお、総括討論の際に自分が提起する意見は、文書にまとめて提出せねばならない。

教科書

『日本経済史』沢井実・谷本雅之(有斐閣)
なお、本書には電子書籍版もある(有斐閣のサイトよりリンク)。
<https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641164888>

参考書

『概説日本経済史・近現代(第4版)』三和良一・三和元(東京大学出版会)
なお、本書には電子書籍版もある。
<https://www.utp.or.jp/book/b10032810.html>

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で求める「要約資料」の提出以外には課題を設けない。
「要約資料」については、履修者による報告を補足するかたちで解説を行う。

成績評価の方法

- ・要約資料の提出(50%)
- ・授業での討論参加姿勢(10%)
- ・最後に提出する総括討論レポートの質(40%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	日本経済史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 日向 祥子		

授業の概要・到達目標

《概要》第一次大戦期から高度成長期までの日本経済の歴史を学ぶ。
《目標》第一次大戦後の日本における経済の動向について概要を理解するとともに、理論的分析を補完する帰納的な分析姿勢を身につける。

授業内容

- 第01回 概観(1914-1936)
- 第02回 国際経済関係とマクロ経済、経済政策の展開、産業発展の諸条件
- 第03回 労働市場の構造と教育体系の整備、金融構造の変化と企業金融
- 第04回 変貌する都市と農村、植民地経済の変化
- 第05回 概観(1937-1954)
- 第06回 経済統制・「計画経済」から市場経済への復帰、産業構造・財閥・企業組織の変遷
- 第07回 労使関係の変化と「日本型雇用システム」の成立、財政・金融システム、科学技術と教育システムの変化
- 第08回 戦中・戦後の都市と農村、「大東亜共栄圏」の経済的帰結とアジアからの強制的「離脱」
- 第09回 概観(1955-1972)
- 第10回 高度成長を可能にした国際的条件、マクロ経済運営と分野別経済政策
- 第11回 産業発展と技術革新、変貌する中小企業
- 第12回 財政・金融システム、農業と家族の変貌
- 第13回 高度成長のバランスシート
- 第14回 総括討論

履修上の注意

- (1) この授業は院生による報告を軸に進める。
- (2) 受講生は全員、毎回、割当範囲(日本語による教科書20-30ページほど)の要約資料(要提出)を準備せねばならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 授業ごとに、割当範囲の要約資料を作成する。その際、わからないことがあれば可能な限り調べておく。
- (2) 最終回に総括討論を行うため、これに備えて、最低限1章読了ごとに考察をまとめておくことが望まれる。なお、総括討論の際に自分が提起する意見は、文書にまとめて提出せねばならない。

教科書

『日本経済史』沢井実・谷本雅之(有斐閣)
なお、本書には電子書籍版もある(有斐閣のサイトよりリンク)。
<https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641164888>

参考書

『概説日本経済史・近現代(第4版)』三和良一・三和元(東京大学出版会)
なお、本書には電子書籍版もある。
<https://www.utp.or.jp/book/b10032810.html>

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で求める「要約資料」の提出以外には課題を設けない。
「要約資料」については、履修者による報告を補足するかたちで解説を行う。

成績評価の方法

- ・要約資料の提出(50%)
- ・授業での討論参加姿勢(10%)
- ・最後に提出する総括討論レポートの質(40%)

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	社会経済史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師	博士(文学)	中島 満大

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業ではジェンダーという視点から歴史を読み直すことを目指す。授業の前半ではアントワネット・バートン、2025年『ジェンダー史入門』(勁草書房)を輪読していく。それを通してジェンダー史がどのようにして展開してきたのかを確認していく。授業の後半では、久留島典子ほか2015年『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』(大月書店)、もしくは三成美保ほか2014年『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』(大月書店)の中から担当する節を受講者が選択し、その内容について報告してもらう。具体的な研究を題材として、ジェンダーという視点で歴史をどのように読み直してきたのかを検討していく。

【到達目標】

受講生が関心のあるトピックやテーマの歴史研究を題材として、ジェンダーという視点から歴史を読み直してきた実践を読み取っていくことを目指していく。

授業内容

- 第1回 ジェンダー史の文脈
 - 第2回 ジェンダー史という領域のいくつかの起源
 - 第3回 ジェンダー史が飛び立つ
 - 第4回 インターセクショナリティとジェンダー史の展開
 - 第5回 近代以前へ、アメリカ大陸を超えて
 - 第6回 主体をクィアする
 - 第7回 若者組と村社会(近世)
 - 第8回 寺子屋へ通う女子(近世)
 - 第9回 徴兵制とマスキュリニティ(近代)
 - 第10回 「からゆきさん」と植民地公娼制度(近代)
 - 第11回 近代文化とジェンダー・バイアス(近代)
 - 第12回 主婦の成立と消費文化(第二次世界大戦前後)
 - 第13回 ウーマン・リブとフェミニズム(現代)
 - 第14回 女性の職場進出と差別(現代)
- ※第7回から第14回は受講生が担当するトピックを選定するため、教員による例示となる。

履修上の注意

この授業は受講生の報告を中心に進めていきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に指定した文献を読んでくること(全員)。
報告者はレジュメを作成してくること。

教科書

アントワネット・バートン、2025年『ジェンダー史入門』(勁草書房)

参考書

久留島典子ほか2015年『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』(大月書店)
三成美保ほか2014年『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』(大月書店)

課題に対するフィードバックの方法

報告に対して、口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(議論へのコメント・質問)が40%、報告が60%。

その他

初回の授業では、授業の進め方などを説明するので、できる限り出席してください。

科目ナンバー：(PE) ECN581J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	社会経済史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師	博士(文学)	中島 満大

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本講義では、福祉を追求してきた社会を歴史的な視点から検討していくことを目指していく。授業の前半では、理論的な視座を検討するために落合恵美子、2023年『親密圏と公共圏の社会学』(有斐閣)を読み進めていく。後半は、金澤周作ほか、2025年『福祉の世界史』(有斐閣)の中から担当する章を受講者が選択し、その内容について報告してもらう。地域と時代性を軸として、福祉の歴史を追いかけていく。

【到達目標】

福祉レジーム論などの理論的視座と、地域と歴史という軸から、福祉について考察する力を養うことを目指す。

授業内容

- 第1回 生とケアを包摂する社会理論
 - 第2回 近代世界の転換と家族変動の論理
 - 第3回 アジア近代におけるジェンダー構築の論理
 - 第4回 アジアの家族主義を再考する
 - 第5回 ケアダイアモンドと福祉レジーム
 - 第6回 世界の中の戦後日本家族
 - 第7回 イギリス——西洋的近代の代表(近代)
 - 第8回 フランス——近代を支えた「伝統」の力(近代)
 - 第9回 中国——中華民国期における慈善事業の再編(近代)
 - 第10回 日本——制限的「救済」と散発的「慈善」(近代)
 - 第11回 スウェーデン——福祉供給主体の組織化の2つの波(現代)
 - 第12回 アフリカ——新しい「セルフヘルプ」から見えてくるもの(現代)
 - 第13回 イスラム世界——慈善の伝統と近代的福祉の現在地(現代)
 - 第14回 日本——“社会”福祉の歴史(現代)
- ※第7回から第14回は受講生が担当するトピックを選定するため、教員による例示となる。

履修上の注意

この授業は受講生の報告を中心に進めていきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に指定した文献を読んでくること(全員)。
報告者はレジュメを作成してくること。

教科書

落合恵美子、2023年『親密圏と公共圏の社会学』(有斐閣)

参考書

金澤周作ほか、2025年『福祉の世界史』(有斐閣)

課題に対するフィードバックの方法

報告に対して、口頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(議論へのコメント・質問)が40%、報告が60%。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士（経済学） 奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

17世紀から1860年代までの経済思想の歴史を概観する。

【到達目標】

当該期の経済思想の多様な類型に習熟するとともに、経済思想史研究に必要な分析手法を習得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 絶対王政と市民革命
- 第3回 重商主義期の経済思想
- 第4回 フランスの経済構想
- 第5回 資本の原始的蓄積と産業革命
- 第6回 イギリス経済の光と闇
- 第7回 アダム・スミスの「同感」と経済秩序
- 第8回 『国富論』とその波及
- 第9回 経済政策における自由と保護の相克
- 第10回 経済成長の終焉論
- 第11回 ユートピア社会主義の生成
- 第12回 マルクスの資本主義分析
- 第13回 『資本論』とその波及
- 第14回 総括

履修上の注意

- ・この授業では経済思想史に関する標準的なテキストを選定したうえで、履修生にはその内容報告を求める。
- ・報告者以外の履修生には、内容要約のレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告資料（レジュメ）およびレポートは、授業前日までに作成し、提出すること。

教科書

- ・使用するテキストは、履修生とも協議のうえ、初回授業で決定する。

参考書

- ・『新版 経済思想史 ― 社会認識の諸類型』鈴木信雄他編著（名古屋大学出版会）

課題に対するフィードバックの方法

- ・提出されたレポートには、授業で講評を行う。

成績評価の方法

- ・報告資料（レジュメ）およびプレゼンテーションの質（60％）
- ・レポート（30％）
- ・授業中の討議への参加度（10％）

その他

- ・履修を希望する場合、初回授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済思想史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士（経済学） 奥山 誠		

授業の概要・到達目標

【概要】

1870年代から現代までの経済思想の歴史を概観する。

【到達目標】

当該期の経済思想の多様な類型に習熟するとともに、経済思想史研究に必要な分析手法を習得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 限界革命と近代経済学の生成
- 第3回 社会主義経済計算論争
- 第4回 歴史学派と経済学方法論争
- 第5回 正統派経済学の継承としてのケンブリッジ学派
- 第6回 世界恐慌期の経済政策思想
- 第7回 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』とその波及
- 第8回 シュンペーターの資本主義変容論
- 第9回 サムエルソンと「新古典派総合」
- 第10回 フリードマンと「マネタリズム」
- 第11回 ガルブレイスと「現代制度派経済学」
- 第12回 ミュルダールと福祉国家
- 第13回 センと社会的選択論
- 第14回 総括

履修上の注意

- ・この授業では経済思想史に関する標準的なテキストを選定したうえで、履修生にはその内容報告を求める。
- ・報告者以外の履修生には、内容要約のレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告資料（レジュメ）およびレポートは、授業前日までに作成し、提出すること。

教科書

- ・使用するテキストは、履修生とも協議のうえ、初回授業で決定する。

参考書

- ・『新版 経済思想史 ― 社会認識の諸類型』鈴木信雄他編著（名古屋大学出版会）

課題に対するフィードバックの方法

- ・提出されたレポートには、授業で講評を行う。

成績評価の方法

- ・報告資料（レジュメ）およびプレゼンテーションの質（60％）
- ・レポート（30％）
- ・授業中の討議への参加度（10％）

その他

- ・履修を希望する場合、初回授業に必ず出席すること。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	社会思想史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(社会学) 杉本 隆司		

授業の概要・到達目標

この授業では、近代ヨーロッパにおける「産業主義」の思想的展開を検討する。*Industrie*あるいは*Industrialisme*という言葉は、18世紀の「商業社会論」から19世紀初頭の「産業革命」を経て、20世紀の「技術官僚主義」や「(脱)工業化社会論」まで、豊かな思想的射程を持つ概念でありながら、同時にその広がりゆえに曖昧さの付きまとう用語でもある。この概念の起源はどこにあるのか、なぜこうした汎用性を担うようになったのか、あるいは19世紀以降の社会主義思想への影響について、ベーコン、ルソー、ヒューム、サン＝シモン、コント、マルクス、ヴェイユ、マルクーゼ等の思想的系譜を、仏語文献の輪読を通して理解していく。併せて、フランス語の文章を読む力を身に付けることも目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 L'élargissement continu du concept d'Industrie
- 第3回 L'industrie, communauté de travail organisée
- 第4回 Le Monastère et la « première révolution industrielle »
- 第5回 La Manufacture et la « révolution scientifique »
- 第6回 L'Usine et la grande « Révolution industrielle »
- 第7回 La grande entreprise industrielle et la « révolution managériale »
- 第8回 Le programme Bacon & Descartes
- 第9回 L'affrontement Rousseau vs Hume
- 第10回 Les industrialistes Saint-Simon & Comte
- 第11回 Marx & Engels et la Révolution industrielle
- 第12回 L'anti-industrialisme de Bergson & Simone Weil
- 第13回 Aron vs Marcuse et « la société industrielle avancée »
- 第14回 まとめ

※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がありうる。

履修上の注意

フランス語の基礎文法の習得者が望ましいが、学習意欲のある者であれば歓迎。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者をはじめ、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。そして、わからない箇所をチェックしておくこと。

教科書

Pierre Musso, *Qu'est-ce que l'industrie?*, Editions Manucius, 2022

参考書

ピエール・ミュッソ『サン＝シモンとサン＝シモン主義』杉本隆司訳、文庫クセジュ、2019年

課題に対するフィードバックの方法

課題、テキスト予習ほか、すべてのフィードバックは授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

最終的には受講者の語学レベルと関心に沿ってテキストを決定するので、初回ガイダンスに必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	社会思想史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(社会学) 杉本 隆司		

授業の概要・到達目標

この授業では、19世紀フランスにおける*Association*や*Cooperation*の思想史を検討する。現代では、これらの言葉から「会社」や「企業」をイメージしやすいが、互助会や信徒団体のように、本来は営利を目的とした団体だけを指す言葉ではなかった。フランスでは、ル・シャブリエ法(1791年)による国家と個人の間の中間団体の禁止令にも関わらず、七月王政期から二月革命にかけて、サン＝シモン主義やフーリエ主義の周辺から多くの“アソシアション”思想が登場した。現代の企業のあり方を考えるうえでも、フランス社会主義の原点に位置するその思想の特徴と展開を、仏語文献の輪読を通して理解していく。併せて、フランス語の文章を読む力を身に付けることも目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Association et coopération : continuité au xix^e siècle d'une thématique associationniste
- 第3回 Choix méthodologiques
- 第4回 Le plan adopté dans cet ouvrage
- 第5回 L'émergence de la « question sociale »
- 第6回 Quelques repères économiques, politiques et sociaux de la société française (1830-1852)
- 第7回 La prise de conscience de l'existence d'une nouvelle pauvreté
- 第8回 L'économie politique saint-simonienne de Prosper Enfantin
- 第9回 L'associationnisme de Philippe Bûchez et de Pierre Leroux
- 第10回 Le fouriérisme de Victor Considérant
- 第11回 L'« association mutuelliste » chez Pierre-Joseph Proudhon
- 第12回 Libéralisme et association chez Alexis de Tocqueville
- 第13回 La position des économistes libéraux du JOURNAL DES ECONOMISTES
- 第14回 まとめ

※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がありうる。

履修上の注意

フランス語の基礎文法の習得者が望ましいが、学習意欲のある者であれば歓迎。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者をはじめ、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。そして、わからない箇所をチェックしておくこと。

教科書

Cyrille Ferraton, *Associations et coopératives : une autre histoire économique*, Erès, 2007

参考書

高村学人『アソシアションへの自由：「共和国」の論理』勁草書房、2007年
杉原四郎(他編著)『アソシアションの想像力：初期社会主義思想への新視角』平凡社、1989年

課題に対するフィードバックの方法

課題、テキスト予習ほか、すべてのフィードバックは授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

最終的には受講者の語学レベルと関心に沿ってテキストを決定するので、初回ガイダンスに必ず出席すること。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

この授業では、外国貿易を一国の経済発展の最も重要な基盤と捉えた重商主義からアダム・スミスの『国富論』刊行前までの経済学の歴史を講じる。ただし、授業運営においては、受講者の主体的な学びを尊重して、一方的な講義形式に偏することがないように留意する。受講者各自には、文献を調べて作成した課題レポートを授業中に発表してもらい、その内容を受講生同士が議論することにより、経済学史の知見が自家菜園中のものになるように指導する。

授業の到達目標

ヨーロッパ世界における経済学の生成とその初期の展開を回顧し、経済理論や政策論の基底にある経済学固有の基本的発想について理解を深める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：経済学史研究の方法
第3回：重商主義の歴史的背景
第4回：イギリスの重商主義
第5回：フランスの重商主義
第6回：課題の発表・議論・講評(1)
第7回：フィジオクラシーの歴史的背景
第8回：F. ケネーの「経済表」における経済主体区分と前払い
第9回：F. ケネーの「経済表」の解釈と後世への影響
第10回：課題の発表・議論・講評(2)
第11回：R. カンティロン「経済循環論」
第12回：D. ヒュームの貨幣論と自由貿易論
第13回：課題の発表・議論・講評(3)
第14回：授業の総括
授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することがある。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：とくに必要はない。
復習：授業内容の要約を作成することで理解度を高めること。また関連文献を読み進めるか否かを自分で判断し、読んだ場合には、文献名とその感想を報告すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

課題レポート(50%)と期末テスト(50%)にもとづいて成績を評価する。

その他

なし。

科目ナンバー：(PE) ECN521J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	経済学史研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

授業の概要

この授業では、アダム・スミスの『国富論』から始まるイギリス古典派経済学の歩みを振り返る。授業は講義形式を基本とするが、課題レポートにもとづく発表を随時取り入れて、受講生同士の議論の場を設ける。また、経済学系の学部で経済学史の授業を履修済みの受講者については、教える側の立場から特定のテーマごとに「講義」形式の発表を行ってもらい、最後に授業担当者が講評を行う。

授業の到達目標

経済的自由主義、経済成長第一主義、貿易をめぐる自由と保護、経済成長の懐疑論と限界論など、これまで幾度となく問い直されてきたテーマについて学び、現代の経済社会のみならず、現代の経済学を歴史的視野のなかで理解する能力を培う。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：A. スミスの分業論と生産的労働論
第3回：A. スミスの価格論
第4回：A. スミスの歴史論
第5回：A. スミスの政府論
第6回：T. R. マルサスの人口論
第7回：T. R. マルサスの平等社会論批判と救済法批判
第8回：D. リカードウの価値論と地代論
第9回：D. リカードウの賃金論と利潤論
第10回：穀物法論争(1)
第11回：穀物法論争(2)
第12回：J. S. ミルの生産と分配の峻別論
第13回：J. S. ミルの停止状態論
第14回：授業の総括
授業内容は、受講者のレベルと受講者数を考慮のうえ、変更することがある。

履修上の注意

設置時限が遅いので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：とくに必要はない。
復習：授業内容の要約を作成することで、理解度を高めること。また関連文献を読み進めるか否かを自分で判断し、読んだ場合には、文献名とその感想を報告すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

授業の進展に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

課題レポート(50%)と期末テスト(50%)にもとづいて成績を評価する。

その他

なし。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（歴史・思想史系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 An Overview of the arts sector
- 第3回 Size, Growth, and Significance in the economy (1)
- 第4回 Size, Growth, and Significance in the economy (2)
- 第5回 Size, Growth, and Significance in the economy (3)
- 第6回 Consumer Demand
- 第7回 Measuring the Utility of Consumption
- 第8回 Consumer Budget Optimization
- 第9回 Deriving Demand Curves
- 第10回 The Determinants of Demand (1)
- 第11回 The Determinants of Demand (2)
- 第12回 How supply and demand interact in the market to establish prices (1)
- 第13回 How supply and demand interact in the market to establish prices (2)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
歴史・思想史系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（歴史・思想史系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Production and Cost (1)
- 第3回 Production and Cost (2)
- 第4回 Production and Cost (3)
- 第5回 Public Policy (1)
- 第6回 Public Policy (2)
- 第7回 Public Policy (3)
- 第8回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (1)
- 第9回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (2)
- 第10回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (3)
- 第11回 The Role of the Arts in a Local Economy (1)
- 第12回 The Role of the Arts in a Local Economy (2)
- 第13回 The Role of the Arts in a Local Economy (3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	財政学演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

修士論文作成のための財政、税制、地方財政に関する基礎的能力を高めることを目標とする。毎回、少しずつでも報告を積み重ねていくことで、論文作成へ歩みを進めたい。

授業内容

第1回：修士論文とは
 第2回：大学院入学時における問題意識の報告
 第3回：論文作成の準備事項について
 第4回：資料収集について
 第5回：修士論文の形式について
 第6回：論文テーマの報告①
 第7回：論文テーマの報告②
 第8回：資料収集状況のチェック
 第9回：英文資料について①
 第10回：英文資料について②
 第11回：基礎資料の紹介①
 第12回：基礎資料の紹介②
 第13回：論文報告、自治体財政調査のための夏合宿準備
 第14回：夏期休暇中の研究予定の確認

履修上の注意

演習での議論、論文進行状況に関する報告準備を怠らないこと。たえず、問題意識をもち、情報、資料収集にあたってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、1週間の研究進行状況報告を求めるので、それが可能のように準備する。

教科書

院生の関心を見極めて設定する。

参考書

院生の関心を見極めて設定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での議論への参加、準備状況、および授業への貢献度を重視する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	財政学演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

修士論文作成のための基礎的能力を高めることを目標とする。たえず、問題意識をもち、情報、資料収集にあたってほしい。

授業内容

第1回：夏期休暇中の研究成果報告
 第2回：自治体財政調査報告①
 第3回：自治体財政調査報告②
 第4回：英文資料講読①
 第5回：英文資料講読②
 第6回：英文資料講読③
 第7回：論文進行状況報告①
 第8回：論文進行状況報告②
 第9回：論文進行状況報告③
 第10回：論文進行状況報告④
 第11回：論文進行状況報告⑤
 第12回：冬期、春期休暇中の研究予定確認
 第13回：基礎資料の点検
 第14回：論文の方向性の再検討

履修上の注意

演習での議論、報告の準備を怠らないことを期待する。たえず、情報にあたり、資料、文献収集につとめて演習に臨んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、1週間の研究進行状況報告を求めるので、それが可能のように準備する。

教科書

院生の関心を見極めて設定する。

参考書

院生の関心を見極めて設定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での議論、および授業への貢献度を重視する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	財政学演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

修士論文作成のための基礎的能力をもう一段高めることとともに、論文をほぼ完成の状況に持っていくことを目標とする。

授業内容

第1回：前年度の研究成果報告
第2回：論文作成状況報告①
第3回：論文作成状況報告②
第4回：英文資料講読①
第5回：英文資料講読②
第6回：英文資料講読③
第7回：論文作成状況報告③
第8回：論文作成状況報告④
第9回：論文作成状況報告⑤
第10回：注、参考文献について
第11回：自治体財政調査合宿の準備①
第12回：自治体財政調査合宿の準備②
第13回：論文内容の再検討①
第14回：論文内容の再検討②

履修上の注意

修士論文作成に向けて一步一步準備を進めていくことが必要となる。たえず、情報にあたり、資料、文献収集につとめて演習に臨んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、1週間の間の研究進行状況報告を求めるので、可能なように準備する。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

演習中の議論で対応する。

成績評価の方法

演習での議論への参加、および授業への貢献度とともに、論文の進行状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	財政学演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

修士論文作成の仕上げ作業とともに、論文としての体裁づくりにも力を注ぎたい。ここでは、修士論文の完成が目標となる。

授業内容

第1回：前期の研究成果報告
第2回：論文作成状況報告①
第3回：論文作成状況報告②
第4回：英文資料確認①
第5回：英文資料確認②
第6回：英文資料確認③
第7回：論文作成状況報告③
第8回：論文作成状況報告④
第9回：論文作成状況報告⑤
第10回：完成論文の確認
第11回：注、参考文献確認、要旨作成
第12回：冬期休暇中の最終確認について
第13回：提出前論文の点検
第14回：提出した論文内容の再検討、再確認

履修上の注意

完成論文に向け、準備を怠らないことが必要となる。たえず、情報にあたり、資料、文献収集につとめて演習に臨んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、1週間の間の研究進行状況報告を求めるので、可能なように準備する。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での議論、および授業への貢献度を重視するとともに、論文の仕上げに向けた進行状況を評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

修士論文・研究報告書執筆に向けて、基礎的知識の習得をしてもらう。主に各自が発表する形式の講義となるため、効果的なプレゼンテーションの方法についても考えてもらいたい。

授業内容

財政学・租税論に関する基本的な論文(日本語・外国語)を講読し、基礎的知識と学術論文の基本的ルールについて学ぶ。同時に論文執筆に必要なスキルの獲得、効果的なプレゼンテーションについて指導する。

- 第一回：(a)イントロダクション(修士論文執筆に向けて)
 第二回：論文講読1(各自が関心のあるテーマに関する論文を講読し、概要を発表してもらう)
 第三回：論文講読2
 第四回：論文講読3
 第五回：外国語論文講読1(各自が関心のあるテーマに関する外国語論文を講読し、概要を発表してもらう)
 第六回：外国語論文講読2
 第七回：外国語論文講読3
 第八回：修士論文・研究報告書のテーマ発表
 第九回：文献収集に関する指導1
 第十回：文献収集に関する指導2
 第十一回：理論分析に関する指導1
 第十二回：第九回で収集した論文の概要報告1
 第十三回：第九回で収集した論文の概要報告2
 第十四回：第九回で収集した論文の概要報告3

履修上の注意

履修上の注意に関しては特にはないが、講義中指示する準備学習については事前にしっかりとしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義中に取り上げた論文については、必ず目を通しておくこと。基本的には受講生の発表形式による講義となるため、十分な準備をしておくこと。また、講義中に受けた指導、助言については、自ら検討し、後日修正箇所を報告すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

ディスカッションを通じて修士論文・研究報告書の構成を明確にする。修士論文・研究報告書の完成に向けて、論文本文の検討を進める。また希望者には政経学会での報告の準備を行う。

授業内容

- 第一回：(a)イントロダクション(修士論文執筆に向けて)
 第二回：修士論文・研究報告書の章立て発表とディスカッション1
 第三回：修士論文・研究報告書の章立て発表とディスカッション2
 第四回：修士論文・研究報告書の章立て発表とディスカッション3
 第五回：近隣自治体・官庁・研究機関での調査に向けた準備1(ヒアリングの手法に関する指導)
 第六回：近隣自治体・官庁・研究機関での調査に向けた準備2(対象の選定)
 第七回：近隣自治体・官庁・研究機関での調査に向けた準備3(調査手法に関するディスカッション)
 第八回：近隣自治体・官庁・研究機関での調査に向けた準備4(論点整理)
 第九回：調査の結果報告とディスカッション
 第十回：調査まとめ
 第十一回：修士論文・研究報告書の概要についての発表とディスカッション1
 第十二回：修士論文・研究報告書の概要についての発表とディスカッション2
 第十三回：修士論文・研究報告書の概要についての発表とディスカッション3
 第十四回：修士論文・研究報告書の概要についての発表とディスカッション4

履修上の注意

履修上の注意に関しては特にはないが、講義中指示する準備学習については事前にしっかりとしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本的には受講生の発表形式による講義となるため、十分な準備をしておくこと。また、講義中に受けた指導、助言については、自ら検討し、後日修正箇所を報告すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度により判断する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

ディスカッションを通じて修士論文・研究報告書の構成を明確にする。修士論文・研究報告書の完成に向けて、論文本文の検討を進める。演習Ⅲの終了時までに修士論文・研究報告書を七割方完成させることを目指す。

授業内容

- 第一回：(a) イントロダクション—修士論文・研究報告書の完成に向けて
第二回：修士論文・研究報告書の概要発表1（論点について発表）
第三回：修士論文・研究報告書の概要発表2（論理構成の検討）
第四回：修士論文・研究計画書の概要発表3（先行研究の再検討）
第五回：先行研究の再整理と発表1
第六回：先行研究の再整理と発表2
第七回：先行研究の再整理と発表3
第八回：修士論文・研究報告書の論点の再整理
第九回：修士論文・研究報告書の指導1（形式面の再指導）
第十回：修士論文・研究報告書の指導2（本文の発表と修正すべき点の検討）
第十一回：修士論文・研究報告書の指導3（本文の発表と修正すべき点の検討）
第十二回：修士論文・研究報告書の指導4（本文の発表と修正すべき点の検討）
第十三回：修士論文・研究報告書の指導5（本文の発表と修正すべき点の検討）
第十四回：修士論文・研究報告書の指導6（本文の発表と修正すべき点の検討）

履修上の注意

履修上の注意に関しては特にはないが、講義中指示する準備学習については事前にしっかりとしておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には受講生の発表形式による講義となるため、十分な準備をしておくこと。また、講義中に受けた指導、助言については、自ら検討し、後日修正箇所を報告すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で判断する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

修士論文・研究報告書の完成に向けて、論文本文の検討を進める。また政経学会での報告の準備を行うとともに、学部で行っている冬期合宿（卒論発表会）に参加し、そこで修士論文・研究報告書について報告をしてもらう予定である。

授業内容

- 第一回：(a) イントロダクション—修士論文・研究報告書の完成に向けて
第二回：政経学会に向けた報告資料（スライド資料）作成
第三回：政経学会に向けた報告資料の再検討
第四回：政経学会発表予行演習1（ディスカッション）
第五回：政経学会発表予行演習2（ディスカッションを踏まえて再度予行演習）
第六回：政経学会発表予行演習3（最終チェック）
第七回：政経学会後の課題の検討（政経学会発表後に明らかになった課題の検討）
第八回：政経学会後の課題の再検討
第九回：修士論文・研究報告書の指導1（論文・報告書の本文を発表してもらい、修正すべき点を検討する）
第十回：修士論文・研究報告書の指導2
第十一回：修士論文・研究報告書の指導3
第十二回：修士論文・研究報告書の指導4
第十三回：冬期合宿（学部生卒論発表会）における修士論文報告の準備
第十四回：修士論文・研究報告書の最終チェック

履修上の注意

履修上の注意に関しては特にはないが、講義中指示する準備学習については事前にしっかりとしておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には受講生の発表形式による講義となるため、十分な準備をしておくこと。また、講義中に受けた指導、助言については、自ら検討し、後日修正箇所を報告すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で判断する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

財政学、地方財政論、福祉国家論の方法論を学習するとともに、研究計画、研究報告、論文執筆・投稿など具体的な研究能力の獲得を目指す。学部授業では一つの学問領域の概観を理解することを目指していたが、大学院授業では多様な研究分野・手法を相対化して理解し、個々人の問題意識・研究アプローチに落とし込んで考える力を養うことを目標としたい。

授業内容

- 第1回：研究とは何か
- 第2回：リサーチクエスションとは何か
- 第3回：リサーチデザインの考え方
- 第4回：修士論文に向けたロードマップ
- 第5回：論文テーマの報告①
- 第6回：論文テーマの報告②
- 第7回：論文テーマの報告③
- 第8回：他大学との合同研究合宿の準備
- 第9回：現地調査の方法(自治体・海外調査)
- 第10回：資料収集の方法(一次資料、国際比較データベースなど)
- 第11回：論文テーマの報告④
- 第12回：論文テーマの報告⑤
- 第13回：論文テーマの報告⑥
- 第14回：夏期休暇中の研究予定の確認

履修上の注意

他の履修者の研究報告に対しても積極的にコメントをすることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

定期的にレジюмеを作成し、研究報告を行ってもらおう。また、適時研究の進捗状況報告を求めるので可能な限り準備をすること。

教科書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

参考書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

課題に対するフィードバックの方法

対面・オンライン問わず、できる限り速やかに添削・口頭によるフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での議論への参加、準備状況、授業への貢献度などを重視する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

財政学、地方財政論、福祉国家論の方法論を学習するとともに、研究計画、研究報告、論文執筆・投稿など具体的な研究能力の獲得を目指す。学部授業では一つの学問領域の概観を理解することを目指していたが、大学院授業では多様な研究分野・手法を相対化して理解し、個々人の問題意識・研究アプローチに落とし込んで考える力を養うことを目標としたい。

授業内容

- 第1回：夏期休暇中の研究成果報告
- 第2回：学会報告に向けた準備①
- 第3回：学会報告に向けた準備②
- 第4回：学会報告に向けた準備③
- 第5回：海外文献収集・講読①
- 第6回：海外文献収集・講読②
- 第7回：海外文献収集・講読③
- 第8回：論文進行状況報告①
- 第9回：論文進行状況報告②
- 第10回：論文進行状況報告③
- 第11回：論文進行状況報告④
- 第12回：冬期、春期休暇中の研究予定確認
- 第13回：研究計画書の準備①
- 第14回：研究計画書の準備②

履修上の注意

他の履修者の研究報告に対しても積極的にコメントをすることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

定期的にレジюмеを作成し、研究報告を行ってもらおう。また、適時研究の進捗状況報告を求めるので可能な限り準備をすること。

教科書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

参考書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

課題に対するフィードバックの方法

対面・オンライン問わず、できる限り速やかに添削・口頭によるフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での議論への参加、準備状況、授業への貢献度などを重視する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

修士論文・研究報告書執筆に向けて、論文執筆に必要な知識・スキルの習得を目指す。財政学、地方財政論、福祉国家論に関する文献を適時輪読を行う。修士論文・研究報告書に関するプレゼンテーションを各自行ってもらい、プレゼンテーション能力の向上も図りたい。

授業内容

第1回：前年度の研究成果報告
第2回：研究計画書の再検討(特別研究員等の書類準備)
第3回：先行研究の調査・講読①(サーベイ論文の理解)
第4回：先行研究の調査・講読②(論点の整理)
第5回：論文作成状況報告①
第6回：論文作成状況報告②
第7回：論文作成状況報告③
第8回：他大学との合同研究合宿の準備
第9回：現地調査の方法(自治体・海外調査)
第10回：資料収集の方法(一次資料、国際比較データベース)
第11回：論文テーマの報告④
第12回：論文テーマの報告⑤
第13回：論文テーマの報告⑥
第14回：夏期休暇中の研究予定の確認

履修上の注意

他の履修者の研究報告に対しても積極的にコメントをすることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

定期的にレジュメを作成し、研究報告を行ってもらおう。また、適時研究の進捗状況報告を求めるので可能な限り準備すること。

教科書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

参考書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

課題に対するフィードバックの方法

対面・オンライン問わず、できる限り速やかに添削・口頭によるフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での議論への参加、準備状況、授業への貢献度などを重視する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

論文執筆に必要な知識・スキルの習得を行い、修士論文・研究報告書執筆の完成を目指す。財政学、地方財政論、福祉国家論に関する文献を適時輪読を行う。修士論文・研究報告書に関するプレゼンテーションを各自行ってもらい、プレゼンテーション能力の向上も図りたい。

授業内容

第1回：夏期休暇中の研究成果報告
第2回：学会報告に向けた準備①
第3回：学会報告に向けた準備②
第4回：学会報告に向けた準備③
第5回：海外文献収集・講読①(サーベイ論文の検討)
第6回：海外文献収集・講読②(研究手法の検討)
第7回：海外文献収集・講読③(研究課題の設定)
第8回：論文進行状況報告①
第9回：論文進行状況報告②
第10回：論文進行状況報告③
第11回：論文進行状況報告④
第12回：修士論文完成に向けたチェック①データ・資料の確認
第13回：修士論文完成に向けたチェック②参考文献・報告要旨確認
第14回：修士論文完成に向けたチェック③最終確認

履修上の注意

他の履修者の研究報告に対しても積極的にコメントをすることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

定期的にレジュメを作成し、研究報告を行ってもらおう。また、適時研究の進捗状況報告を求めるので可能な限り準備すること。

教科書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

参考書

院生の関心を踏まえて議論した上で設定する。

課題に対するフィードバックの方法

対面・オンライン問わず、できる限り速やかに添削・口頭によるフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での議論への参加、準備状況、授業への貢献度などを重視する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN562J			
経済政策系		備考	
科目名	金融経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

大学院において研究を進めるための基礎的な知識をつけることを目標とします。教科書をベースに、金融および金融取引の根幹をなす貨幣について、その機能や信用の源泉への理解を深めていきます。その上で、デジタル技術の進展に伴って、将来の貨幣像がどのように変わる可能性があるか、大手プラットフォーム企業による暗号資産（仮想通貨）の発行計画をどう評価すべきか、中央銀行はデジタル通貨を発行すべきかといったテーマへの理解を深めていくことを通じて、研究テーマを具体的に絞り込んでいくことを目指します。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：論文の読解1 基本事項の整理
 第3回：論文の読解2 論理展開
 第4回：論文の読解3 先行研究の取りまとめ
 第5回：レジュメの作成方法について
 第6回：修士論文の構想1 基礎の確認①
 第7回：修士論文の構想2 基礎の確認②
 第8回：論文の読解4 基本概念の整理
 第9回：論文の読解5 関連事項の整理
 第10回：論文の読解6 結論の書き方
 第11回：修士論文の構想3 反省を踏まえて①
 第12回：修士論文の構想4 反省を踏まえて②
 第13回：修士論文の構想5 反省を踏まえて③
 第14回：まとめと今後の研究計画

履修上の注意

受講生は、基礎文献を読みこなすと同時に、修士論文の作成に向けて、テーマ決めなどを自らのイニシアティブで進めることが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

学期末に提出する研究計画の策定に向けて、関連する先行研究や基礎文献をしっかりと読み込むことを想定しています。

教科書

特に定めませんが、「エンジニアが学ぶ金融システムの『知識』と『技術』」(大和総研フロンティア研究開発センター)を用いる予定です。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合いのほか、学期末に取りまとめる研究計画の内容を総合的に評価します。(発表・討議への貢献度:70%, 研究計画の評価:30%)

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE) ECN562J			
経済政策系		備考	
科目名	金融経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

前期に引き続いて、大学院において研究を進めるための基礎的な知識をつけることを目標とします。その上で、研究テーマを具体的に絞り込み、関連する分野の先行研究についてサーベイを完成させることを目指します。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：論文の読解1 基本事項の整理
 第3回：論文の読解2 論理展開
 第4回：論文の読解3 先行研究の取りまとめ
 第5回：レジュメの作成方法について
 第6回：修士論文の構想1 基礎の確認①
 第7回：修士論文の構想2 基礎の確認②
 第8回：論文の読解4 基本概念の整理
 第9回：論文の読解5 関連事項の整理
 第10回：論文の読解6 結論の書き方
 第11回：修士論文の構想3 反省を踏まえて①
 第12回：修士論文の構想4 反省を踏まえて②
 第13回：修士論文の構想5 反省を踏まえて③
 第14回：まとめ

履修上の注意

受講生は、基礎文献を読みこなすと同時に、修士論文の作成に向けて、テーマ決めなどを自らのイニシアティブで進めることが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

学期末に提出する概要書の策定に向けて、関連する先行研究や基礎文献をしっかりと読み込むことを想定しています。

教科書

特に定めませんが、「エンジニアが学ぶ金融システムの『知識』と『技術』」(大和総研フロンティア研究開発センター)を用いる予定です。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合いのほか、学期末に取りまとめる概要書の内容を総合的に評価します。(発表・討議への貢献度:70%, 研究計画の評価:30%)

その他

特にありません。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN662J			
経済政策系		備考	
科目名	金融経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に向けて、執筆内容の精緻化を図ります。受講生は自らの論文ドラフトを定期的に提出し、他の受講生とのディスカッションを通じて、論文のさらなる充実化を図ります。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：修士論文の執筆1 先行研究の取りまとめ①
第3回：修士論文の執筆2 先行研究の取りまとめ②
第4回：修士論文の執筆3 先行研究の取りまとめ③
第5回：修士論文の執筆4 先行研究の取りまとめ④
第6回：取りまとめ1 執筆内容の確認①
第7回：取りまとめ2 執筆内容の確認②
第8回：修士論文の執筆5 論文貢献内容の再評価①
第9回：修士論文の執筆6 論文貢献内容の再評価②
第10回：修士論文の執筆7 論文貢献内容の再評価③
第11回：修士論文の執筆8 反省を踏まえて①
第12回：修士論文の執筆9 反省を踏まえて②
第13回：修士論文の執筆10 反省を踏まえて③
第14回：まとめと論文提出に向けて

履修上の注意

教員・他の受講生との議論を通じて、論文執筆をしっかりと進めることが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の発表の準備を入念にしてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、論文などの提出物を総合的に評価します。（発表・討議：30%、論文の評価：70%）

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE) ECN662J			
経済政策系		備考	
科目名	金融経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

修士論文の完成に向けて、執筆と推敲を繰り返します。受講生は自らの論文のドラフトを定期的に提出し、議論やコメントを受けながら、修士論文を完成させます。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：修士論文の執筆1 論文貢献内容の再評価①
第3回：修士論文の執筆2 論文貢献内容の再評価②
第4回：修士論文の執筆3 論文貢献内容の再評価③
第5回：修士論文の執筆4 論文貢献内容の再評価④
第6回：取りまとめ1 執筆内容の確認①
第7回：取りまとめ2 執筆内容の確認②
第8回：修士論文の執筆5 論文の総括①
第9回：修士論文の執筆6 論文の総括②
第10回：修士論文の執筆7 論文の総括③
第11回：修士論文の執筆8 論文の総括と口頭試問①
第12回：修士論文の執筆9 論文の総括と口頭試問②
第13回：修士論文の執筆10 論文の総括と口頭試問③
第14回：論文提出に向けて

履修上の注意

教員・他の受講生との議論を通じて、修士論文の完成に向けて、主体的に作業をすることが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を着実に書き終えるようにしてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、論文などの提出物を総合的に評価します。（発表・討議：30%、論文の評価：70%）

その他

特にありません。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

基本的学力を養成するとともに、社会保障に関する実証的研究能力の養成を行う。

授業内容

社会保障及びその関連分野に関する知識を再確認し、修士論文等作成のための問題意識を熟成させる。

第1回：社会保障制度の概要(1) — 総論
 第2回：社会保障制度の概要(2) — 年金制度とその課題
 第3回：社会保障制度の概要(3) — 医療保険制度とその課題
 第4回：社会保障制度の概要(4) — 医療供給体制とその課題
 第5回：社会保障制度の概要(5) — 介護保険制度とその課題
 第6回：社会保障制度の概要(6) — 雇用保険制度とその課題
 第7回：社会保障制度の概要(7) — 生活保護制度とその課題
 第8回：わが国の社会保障統計について(1) — 社会保障全般
 第9回：わが国の社会保障統計について(2) — 年金
 第10回：わが国の社会保障統計について(3) — 医療
 第11回：わが国の社会保障統計について(4) — 公的扶助
 第12回：人口動向と少子高齢化の現状について(1) — 人口構造
 第13回：人口動向と少子高齢化の現状について(2) — 少子高齢化
 第14回：人口動向と少子高齢化の現状について(3) — 国際比較

履修上の注意

ミクロ経済学などの基礎や社会保障に関連する基本的な知識を学んでいること。また、実証分析の経験があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に配布する資料や文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。レジュメ等を用いて授業を進める。

参考書

- ①加藤久和(2011)『世代間格差』(ちくま新書)筑摩書房。
- ②小塩隆士(2013)『社会保障の経済学 第4版』, 日本評論社。
- ③小塩隆士(2010)『再分配の厚生分析』, 日本評論社。
- ④駒村康平, 山田 篤裕他(2015)『社会政策』(有斐閣アルマ)有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文等の進捗状況の評価などによる。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN552J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障に関する論文・研究報告書概要書を作成することのできる問題意識・手法の取得を目指す。

授業内容

修士論文・研究報告書の完成を目的とした研究を遂行するため、必要な経済学的知識等の取得を行う。また、国際比較研究を可能にするための諸外国の制度を研究する。

第1回：社会保障の今日的課題
 第2回：社会保障の分析視点(1) — 社会保障と財政
 第3回：社会保障の分析視点(2) — 社会保障とマクロ経済
 第4回：研究に必要な経済学に関する演習(1) — ミクロ経済学(1)(市場の失敗)
 第5回：研究に必要な経済学に関する演習(2) — ミクロ経済学(2)(効率と公平)
 第6回：研究に必要な経済学に関する演習(3) — ミクロ経済学(3)(情報の非対称性)
 第7回：研究に必要な経済学に関する演習(4) — マクロ経済学(1)(政府規模と社会保障)
 第8回：研究に必要な経済学に関する演習(5) — マクロ経済学(2)(経済政策と社会保障)
 第9回：海外の社会保障制度(1)(イギリス)
 第10回：海外の社会保障制度(2)(ドイツ)
 第11回：海外の社会保障制度(3)(フランス)
 第12回：海外の社会保障制度(4)(スウェーデン)
 第13回：海外の社会保障制度(5)(アメリカ)
 第14回：海外の社会保障制度(6)(アジア)

履修上の注意

ミクロ経済学などの基礎や社会保障に関連する基本的な知識を学んでいること。また、実証分析の経験があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、事前に配布する資料や文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。レジュメ等を用いて授業を進める。

参考書

- ①加藤久和(2011)『世代間格差』(ちくま新書)筑摩書房。
- ②小塩隆士(2013)『社会保障の経済学 第4版』, 日本評論社。
- ③小塩隆士(2010)『再分配の厚生分析』, 日本評論社。
- ④駒村康平, 山田 篤裕他(2015)『社会政策』(有斐閣アルマ)有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文等の進捗状況の評価などによる。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障に関する論文・研究報告書の作成を進め、ワークショップ等で報告可能なレベルにまで完成させる。

授業内容

社会保障及びその関連分野における問題意識を熟成させ、修士論文・研究報告書執筆に必要な知識等を得るため、先行研究のレビューを行う。また、制度改革の現状を把握する。

第1回:先行研究のレビュー (1) 年金制度に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第2回:先行研究のレビュー (2) 年金制度に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第3回:先行研究のレビュー (3) 一医療保険制度に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第4回:先行研究のレビュー (4) 一医療保険制度に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第5回:先行研究のレビュー (5) 一医療供給に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第6回:先行研究のレビュー (6) 一医療供給に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第7回:先行研究のレビュー (7) 一介護保険制度に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第8回:先行研究のレビュー (8) 一介護保険制度に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第9回:先行研究のレビュー (9) 一生活保護制度に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第10回:先行研究のレビュー (10) 一生活保護制度に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第11回:先行研究のレビュー (11) 一少子化対策に関する実証分析(1)(日本の実証分析)

第12回:先行研究のレビュー (12) 一少子化対策に関する実証分析(2)(海外の実証分析)

第13回:社会保障制度改革の課題—年金・生活保護

第14回:社会保障制度改革の課題—医療・介護

履修上の注意

ミクロ経済学の基本、社会保障に関連する知識と実証分析の手法を学んでいることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に配布する資料や文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。レジュメ等を用いて授業を進める。

参考書

- ①加藤久和(2011)『世代間格差』(ちくま新書)筑摩書房。
- ②小塩隆士(2013)『社会保障の経済学 第4版』, 日本評論社。
- ③小塩隆士(2010)『再分配の厚生分析』, 日本評論社。
- ④駒村康平, 山田 篤裕他(2015)『社会政策』(有斐閣アルマ)有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文等の進捗状況の評価などによる。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN652J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障に関する修士論文・研究報告書を作成する。

授業内容

修士論文・研究報告書の完成を目的とした研究内容の確認を行う。さらに論文の完成度を高める。

第1回 修士論文のテーマの絞込(1)

第2回 修士論文のテーマの絞込(2)

第3回 修士論文:構成報告

第4回 修士論文:現状分析の報告(1)

第5回 修士論文:現状分析の報告(2)

第6回 修士論文:先行研究の報告(1)

第7回 修士論文:先行研究の報告(2)

第8回 修士論文:分析結果の報告(1)

第9回 修士論文:分析結果の報告(2)

第10回 修士論文初校発表

第11回 修士論文再校発表

第12回 修士論文三校発表

第13回 修士論文最終原稿の発表

第14回 修士論文面接準備・指導

履修上の注意

ミクロ経済学の基本、社会保障に関連する知識及び実証分析の手法を学んでいることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題を示すので、それを準備してから授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。レジュメ等を用いて授業を進める。

参考書

- ①加藤久和(2011)『世代間格差』(ちくま新書)筑摩書房。
- ②小塩隆士(2013)『社会保障の経済学 第4版』, 日本評論社。
- ③小塩隆士(2010)『再分配の厚生分析』, 日本評論社。
- ④駒村康平, 山田 篤裕他(2015)『社会政策』(有斐閣アルマ)有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文・研究報告書の評価による。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

経済理論と実証分析に基づいて、労働に関する論文を執筆するためのミクロ計量経済学の知識の習得を目指す。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
 第2回 RCT(Randomized Controlled Trial):導入
 第3回 RCT:展開
 第4回 回帰分析:導入
 第5回 回帰分析:展開
 第6回 操作変数法:導入
 第7回 操作変数法:展開
 第8回 学術論文の輪読(RCT①)
 第9回 学術論文の輪読(RCT②)
 第10回 学術論文の輪読(RCT③)
 第11回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析①)
 第12回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析②)
 第13回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析③)
 第14回 総括

履修上の注意

- (1) この授業は、受講者による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。要約は日本語でも英語でも構わないが、報告は日本語で行うこと。
- (3) 労働経済学研究Ⅰ・Ⅱを履修済みまたは履修中であること。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (4) 計量分析で卒業論文や授業レポートを執筆した経験を前提とする。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (5) 前半は教科書の輪読を行い、後半は*Quarterly Journal of Economics*, *American Economic Journal*等の経済学の総合学術雑誌や、*Journal of Labor Economics*, *Labour Economics*等の労働関係の学術雑誌に掲載された論文を、各回指定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

労働経済学研究Ⅰ・Ⅱの内容に加えて、学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。
 また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、これまでにミクロ経済学ならびに計量経済学を履修していることが受講の前提となる。
 よって、計量経済学とミクロ経済学の授業を履修したことがない場合、履修してからの受講を推奨する。

教科書

カニングハム (2023)『因果推論入門～ミックステップ:基礎から現代的アプローチまで』、技術評論社。

参考書

Angrist and Pischke (2015) *Mastering 'Metrics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

受講者・参加者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)
 授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

労働経済学演習Ⅰに引き続き、経済理論と実証分析に基づいて、労働に関する論文を執筆するためのミクロ計量経済学の知識の習得を目指す。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
 第2回 RDD(Regression Discontinuity Designs):基礎
 第3回 RDD:展開
 第4回 DD(Differences-in-Differences):基礎
 第5回 DD:展開
 第6回 教育効果の計測:基礎
 第7回 教育効果の計測:展開
 第8回 学術論文の輪読(RDD①)
 第9回 学術論文の輪読(RDD②)
 第10回 学術論文の輪読(DD①)
 第11回 学術論文の輪読(DD②)
 第12回 学術論文の輪読(教育効果の計測①)
 第13回 学術論文の輪読(教育効果の計測②)
 第14回 総括

履修上の注意

- (1) この授業は、受講者による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。要約は日本語でも英語でも構わないが、報告は日本語で行うこと。
- (3) 労働経済学研究Ⅰ・Ⅱを履修済みまたは履修中であることが履修の条件である。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (4) 計量分析で卒業論文や授業レポートを執筆した経験を前提とする。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (5) 前半は教科書の輪読を行い、後半は*Quarterly Journal of Economics*, *American Economic Journal*等の経済学の総合学術雑誌や、*Journal of Labor Economics*, *Labour Economics*等の労働関係の学術雑誌に掲載された論文を、各回指定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

労働経済学研究Ⅰ・Ⅱの内容に加えて、学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。
 また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、これまでにミクロ経済学ならびに計量経済学を履修していることが受講の前提となる。
 よって、計量経済学とミクロ経済学の授業を履修したことがない場合、履修してからの受講を推奨する。

教科書

カニングハム (2023)『因果推論入門～ミックステップ:基礎から現代的アプローチまで』、技術評論社。

参考書

Angrist and Pischke (2015) *Mastering 'Metrics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

受講者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)
 授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

経済理論と実証分析に基づいて、労働に関する論文を執筆するためのミクロ計量経済学の知識の習得を目指す。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 RCT(Randomized Controlled Trial):導入
第3回 RCT:展開
第4回 回帰分析:導入
第5回 回帰分析:展開
第6回 操作変数法:導入
第7回 操作変数法:展開
第8回 学術論文の輪読(RCT①)
第9回 学術論文の輪読(RCT②)
第10回 学術論文の輪読(RCT③)
第11回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析①)
第12回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析②)
第13回 学術論文の輪読(操作変数法と回帰分析③)
第14回 総括

履修上の注意

- (1) この授業は、受講者による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。要約は日本語でも英語でも構わないが、報告は日本語で行うこと。
- (3) 労働経済学研究Ⅰ・Ⅱを履修済みまたは履修中であることが履修の条件である。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (4) 計量分析で卒業論文や授業レポートを執筆した経験を前提とする。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (5) 前半は教科書の輪読を行い、後半は*Quarterly Journal of Economics*, *American Economic Journal*等の経済学の総合学術雑誌や、*Journal of Labor Economics*, *Labour Economics*等の労働関係の学術雑誌に掲載された論文を、各回指定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

労働経済学研究Ⅰ・Ⅱの内容に加えて、学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。
また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、これまでにミクロ経済学ならびに計量経済学を履修していることが受講の前提となる。
よって、計量経済学とミクロ経済学の授業を履修したことがない場合、履修してからの受講を推奨する。

教科書

カニングハム (2023)『因果推論入門～ミックステップ:基礎から現代的アプローチまで』、技術評論社。

参考書

Angrist and Pischke (2015) *Mastering 'Metrics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

受講者・参加者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)
授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

労働経済学演習Ⅲに引き続き、経済理論と実証分析に基づいて、労働に関する論文を執筆するためのミクロ計量経済学の知識の習得を目指す。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 RDD(Regression Discontinuity Designs):基礎
第3回 RDD:展開
第4回 DD(Differences-in-Differences):基礎
第5回 DD:展開
第6回 教育効果の計測:基礎
第7回 教育効果の計測:展開
第8回 学術論文の輪読(RDD①)
第9回 学術論文の輪読(RDD②)
第10回 学術論文の輪読(DD①)
第11回 学術論文の輪読(DD②)
第12回 学術論文の輪読(教育効果の計測①)
第13回 学術論文の輪読(教育効果の計測②)
第14回 総括

履修上の注意

- (1) この授業は、受講者による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。要約は日本語でも英語でも構わないが、報告は日本語で行うこと。
- (3) 労働経済学研究Ⅰ・Ⅱを履修済みまたは履修中であることが履修の条件である。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (4) 計量分析で卒業論文や授業レポートを執筆した経験を前提とする。そうでない場合、事前に教員に相談すること。
- (5) 前半は教科書の輪読を行い、後半は*Quarterly Journal of Economics*, *American Economic Journal*等の経済学の総合学術雑誌や、*Journal of Labor Economics*, *Labour Economics*等の労働関係の学術雑誌に掲載された論文を、各回指定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

労働経済学研究Ⅰ・Ⅱの内容に加えて、学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。
また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、これまでにミクロ経済学ならびに計量経済学を履修していることが受講の前提となる。
よって、計量経済学とミクロ経済学の授業を履修したことがない場合、履修してからの受講を推奨する。

教科書

カニングハム (2023)『因果推論入門～ミックステップ:基礎から現代的アプローチまで』、技術評論社。

参考書

Angrist and Pischke (2015) *Mastering 'Metrics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

受講者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)
授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN542J			
経済政策系		備考	
科目名	日本経済論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 成長会計の理論とデータ収集方針
- 第3回 日本経済に関する成長会計(1)
- 第4回 日本経済に関する成長会計(2)
- 第5回 日本経済に関する成長会計(3)
- 第6回 時系列分析の基礎とVAR
- 第7回 日本経済に関するVAR分析(1)
- 第8回 日本経済に関するVAR分析(2)
- 第9回 日本経済に関するVAR分析(3)
- 第10回 パネルデータ分析の基本概念
- 第11回 日本経済に関するパネル分析(1)
- 第12回 日本経済に関するパネル分析(2)
- 第13回 日本経済に関するパネル分析(3)
- 第14回 その他の論点について

履修上の注意

- ・日本経済論研究Ⅰ・Ⅱを既習であるか、同時履修すること

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・計量経済学のパッケージソフト（EViews, SPSS, R, STATA など）のいずれか一つについて、基本的な操作とプログラミングが出来ること

教科書

- ・履修者と協議の上決定する

参考書

- ・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・課題提出による

その他

科目ナンバー：(PE) ECN542J			
経済政策系		備考	
科目名	日本経済論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 生産性に関する近年の研究動向(1)
- 第3回 生産性に関する近年の研究動向(2)
- 第4回 金融政策に関する近年の研究動向(1)
- 第5回 金融政策に関する近年の研究動向(2)
- 第6回 財政政策に関する近年の研究動向(1)
- 第7回 財政政策に関する近年の研究動向(2)
- 第8回 労働市場に関する近年の研究動向(1)
- 第9回 労働市場に関する近年の研究動向(2)
- 第10回 国際経済に関する近年の研究動向(1)
- 第11回 国際経済に関する近年の研究動向(2)
- 第12回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(1)
- 第13回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(2)
- 第14回 その他の論点について

履修上の注意

- ・日本経済論研究Ⅰ・Ⅱを既習であるか、同時履修すること

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・計量経済学のパッケージソフト（EViews, SPSS, R, STATA など）のいずれか一つについて、基本的な操作とプログラミングが出来ること

教科書

- ・履修者と協議の上決定する

参考書

- ・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・課題提出による

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN642J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	日本経済論演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		飯田 泰之

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 成長会計の理論とデータ収集方針
第3回 日本経済に関する成長会計(1)
第4回 日本経済に関する成長会計(2)
第5回 日本経済に関する成長会計(3)
第6回 時系列分析の基礎とVAR
第7回 日本経済に関するVAR分析(1)
第8回 日本経済に関するVAR分析(2)
第9回 日本経済に関するVAR分析(3)
第10回 パネルデータ分析の基本概念
第11回 日本経済に関するパネル分析(1)
第12回 日本経済に関するパネル分析(2)
第13回 日本経済に関するパネル分析(3)
第14回 その他の論点について

履修上の注意

・日本経済論研究Ⅰ・Ⅱを既習であるか、同時履修すること

準備学習（予習・復習等）の内容

・計量経済学のパッケージソフト（EViews, SPSS, R, STATA など）のいずれか一つについて、基本的な操作とプログラミングが出来ること

教科書

・履修者と協議の上決定する

参考書

・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・課題提出による

その他

科目ナンバー：(PE) ECN642J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	日本経済論演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		飯田 泰之

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 生産性に関する近年の研究動向(1)
第3回 生産性に関する近年の研究動向(2)
第4回 金融政策に関する近年の研究動向(1)
第5回 金融政策に関する近年の研究動向(2)
第6回 財政政策に関する近年の研究動向(1)
第7回 財政政策に関する近年の研究動向(2)
第8回 労働市場に関する近年の研究動向(1)
第9回 労働市場に関する近年の研究動向(2)
第10回 国際経済に関する近年の研究動向(1)
第11回 国際経済に関する近年の研究動向(2)
第12回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(1)
第13回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(2)
第14回 その他の論点について

履修上の注意

・日本経済論研究Ⅰ・Ⅱを既習であるか、同時履修すること

準備学習（予習・復習等）の内容

・計量経済学のパッケージソフト（EViews, SPSS, R, STATA など）のいずれか一つについて、基本的な操作とプログラミングが出来ること

教科書

・履修者と協議の上決定する

参考書

・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・課題提出による

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	経済政策研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師		齋藤 雅己

授業の概要・到達目標

本講では、我々の社会において生じる様々な経済問題を解決していく「経済政策」とはどのようなものであるのか、また、その「経済政策」はどのように形成されていくのか、という問題について理解し、現実の経済政策を立案するためのプロセスとその実践的手法について学んでいく。最終的には、受講生が関心を持つ政策課題に関して、自らの力で政策立案レポートを作成できるようになることが目標となる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション（経済政策とは何か／経済政策の形成過程／政策立案の8つのステップ）
第2回：政策課題の定義
第3回：エビデンス（証拠）の収集と統合
第4回：政策オプションの作成
第5回：評価基準の選択
第6回：成果の予測
第7回：トレードオフの明確化
第8回：分析の検証と修正
第9回：ストーリーの作成と説得
第10回：政策立案レポートの検討（討論）
第11回：エビデンス（証拠）収集に関する具体的手法
第12回：制度設計問題への対応法
第13回：スマートブラクティスの活用
第14回：政策立案レポートの作成（報告）

※上記の授業内容は、受講者のレベルや進捗状況に応じて変更することがある。なお、第1回の授業において、授業の進め方や基本的ルール、テキスト担当箇所、成績評価などの重要事項について説明するため、本科目の履修を考えている学生は必ず出席すること。

履修上の注意

受講生は、学部レベルのマクロ経済学・ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。また、毎回の授業では、テキストを輪読するとともに、担当を割り当てられた受講生が指定範囲を報告していく形式となり、受講者の主体的な学びと議論への積極的な参加が求められる。なお、連絡のない遅刻や無断欠席は認められない。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は指定範囲の報告にあたりレジュメを準備しておくこと。また、担当者以外は、テキストの当該範囲について事前に十分読み込み、疑問点や自分なりの意見をまとめておくこと。さらに、政策立案レポートの作成に向けて、日常的に経済情報の収集・整理を行うとともに、現実経済に生じている政策課題をまとめておくこと。

教科書

『政策立案の技法—問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ（第2版）』バーダック、ユージン/パタシュニック、エリック・M.【著】（東洋経済新報社、2023年）

参考書

『アセモグル／レイブソン／リスト マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】（東洋経済新報社、2019年）
※その他、必要とする参考文献等はその都度提示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業終了後、Oh-ol Meijiクラスウェブを通じて授業内容に関する感想・質問等のコメントを提出してもらい、重要な質問に対しては翌週の授業で回答・解説する。

成績評価の方法

担当箇所の報告（30%）・出席コメントを含む授業への参加度（30%）・政策立案レポート（40%）を総合的に勘案して評価する。

その他

経済政策研究Ⅰ・Ⅱは独立した内容となっているため、必ずしも両方を履修する必要はない。

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	経済政策研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師		齋藤 雅己

授業の概要・到達目標

本講では、自由主義運動に基づく「経済原理」と平等主義運動に基づく「政治原理」という二つの政策指導原理、および、それぞれに内在する矛盾から生じる政策指導原理の転換メカニズムに対する基本的理解を踏まえて、これらの政策指導原理が現実の経済・社会において有効に作用するためにはどうすればよいのか、という問題を考えていく。このとき、現代の世界経済において、その矛盾が蓄積し、表出している米国経済を取り上げて検討していく。

この授業の到達目標は、公正で自由な優れた社会を推進するのとはどのような経済システムであるのか、また、そのような経済システムを実現するためにはどのような経済政策が求められるのか、というビジョンを得るとともに、この問題について考えるためのフレームワークを身につけることである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション（経済政策の形成とその基本概念）
第2回：経済政策形成の指導原理とその転換メカニズム～経済原理と政治原理～
第3回：自由の危機
第4回：経済学者は自由をどう考えているのか？
第5回：解放と自由——基本原則
第6回：強制により自由により——公共財とフリーライダー問題
第7回：一般の契約と社会契約と自由
第8回：自由と競争経済と社会正義
第9回：社会的強制と社会的結束
第10回：計画的に形づくられる個人や信念
第11回：寛容と社会的連帯と自由
第12回：新自由主義的資本主義はなぜ失敗したのか？
第13回：自由と主権と国家間の強制
第14回：進歩的資本主義と社会民主主義と学習する社会

※上記の授業内容は、受講者のレベルや進捗状況に応じて変更することがある。なお、第1回の授業において、授業の進め方や基本的ルール、テキスト担当箇所、成績評価などの重要事項について説明するため、本科目の履修を考えている学生は必ず出席すること。

履修上の注意

受講生は、学部レベルのマクロ経済学・ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。第3回以降の授業では、テキストを輪読するとともに、担当を割り当てられた受講生が指定範囲を報告していく形式となり、受講者の主体的な学びと議論への積極的な参加が求められる。なお、連絡のない遅刻や無断欠席は認められない。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は指定範囲の報告にあたりレジュメを準備しておくこと。また、担当者以外は、テキストの当該範囲について事前に十分読み込み、疑問点や自分なりの意見をまとめておくこと。さらに、政策立案レポートの作成に向けて、日常的に経済情報の収集・整理を行うとともに、現実経済に生じている政策課題をまとめておくこと。

教科書

『資本主義と自由』スティグリッツ、ジョセフ・E.【著】（東洋経済新報社、2025年）

参考書

『アセモグル／レイブソン／リスト マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】（東洋経済新報社、2019年）
※その他、必要とする参考文献等は、その都度提示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業終了後、Oh-ol Meijiクラスウェブを通じて授業内容に関する感想・質問等のコメントを提出してもらい、重要な質問に対しては翌週の授業で回答・解説する。

成績評価の方法

担当箇所の報告（50%）・出席コメントを含む授業への参加度（50%）を総合的に勘案して評価する。

その他

経済政策研究Ⅰ・Ⅱは独立した内容となっているため、必ずしも両方を履修する必要はない。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	経済政策研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(経済学) 柴田 有祐		

授業の概要・到達目標

経済成長を念頭に置きながら市場メカニズムと政府の役割について講義する。具体的には、生産要素の蓄積に関連するトピックスを中心に扱う。各回のテーマに関連する理論モデルを解説し、実際の政策の事例についても取り上げて議論する。

具体的な到達目標は、(1) 経済厚生を測る・比較する手法を身につけること、(2) 経済成長の基本的なモデルの構造を理解すること、(3) 政府の役割と限界について理解することである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション——市場メカニズムと政府の役割
- 第2回 パレート効率性
- 第3回 余剰分析
- 第4回 GDP
- 第5回 経済成長に関する議論
- 第6回 マクロ生産関数
- 第7回 成長会計
- 第8回 物的資本(1)——ソロー・モデルの定常状態
- 第9回 物的資本(2)——投資の増加
- 第10回 いかにして投資を増やすか
- 第11回 人的資本の役割
- 第12回 教育と外部性
- 第13回 人口と経済成長
- 第14回 まとめ

履修上の注意

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な知識を有していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業で必要となる知識や関連する参考文献について具体的に示すので、事前に内容を理解しておくこと。

教科書

特に定めません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

問題演習を授業中に行う場合には、その授業中に解説・講評します。課題やレポートを出した場合には、その次の授業において解説・講評を行います。

成績評価の方法

授業への貢献度70%、レポート等の課題30%。

その他

講義の内容は必要に応じて変更する場合があります。

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	経済政策研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(経済学) 柴田 有祐		

授業の概要・到達目標

経済成長を念頭に置きながら市場メカニズムと政府の役割について講義する。具体的には、貿易政策を含めた生産性の向上に関連するトピックスを中心に扱う。各回のテーマに関連する理論モデルを解説し、実際の政策の事例についても取り上げて議論する。

具体的な到達目標は、(1) 経済厚生を測る・比較する手法を身につけること、(2) 取り上げるモデルの構造を理解すること、(3) 政府の役割と限界について理解することである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション——市場メカニズムと政府の役割
- 第2回 イノベーションの促進(1)——技術革新が起こりやすい環境
- 第3回 イノベーションの促進(2)——技術革新における政府の役割
- 第4回 資源配分の効率化(1)——自然独占の弊害
- 第5回 資源配分の効率化(2)——規制緩和
- 第6回 自由貿易の利益(1)——比較優位の原理
- 第7回 自由貿易の利益(2)——貿易政策の効果
- 第8回 自由貿易の利益(3)——FTAの経済分析
- 第9回 GATT / WTOの理念と原則
- 第10回 産業政策は有効か(1)——長期の比較優位
- 第11回 産業政策は有効か(2)——幼稚産業保護論
- 第12回 天然資源と経済成長(1)——天然資源の役割
- 第13回 天然資源と経済成長(2)——特殊要素モデルとオランダ病
- 第14回 まとめ

履修上の注意

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な知識を有していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業で必要となる知識や関連する参考文献について具体的に示すので、事前に内容を理解しておくこと。

教科書

特に定めません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

問題演習を授業中に行う場合には、その授業中に解説・講評します。課題やレポートを出した場合には、その次の授業において解説・講評を行います。

成績評価の方法

授業への貢献度70%、レポート等の課題30%。

その他

講義の内容は必要に応じて変更する場合があります。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

何のための公共部門か、租税と社会保険とはどう違うのか。所得税、法人税、消費税を税法改正の観点からどうみるか。財政の役割、税財政改革、税法を論ずる中で国際比較、歴史、実態分析の観点から議論を進めていきたい。まずは、財政、税制とは何かについて、正しい資料をもとに議論、分析できるだけの基礎知識を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回：公共部門と民間部門
第2回：各税法・地方税法改正の動向
第3回：財政・税制の国際比較
第4回：スウェーデンの財政と税制
第5回：スウェーデンの地方財政
第6回：スウェーデンの地方所得税と日本の所得税
第7回：イギリスの財政と税制
第8回：イギリスの地方財政
第9回：イギリスの地方税と日本の固定資産税
第10回：消費課税、税法の国際比較
第11回：法人課税、税法の国際比較
第12回：所得課税、税法の国際比較
第13回：一般的消費課税の国際比較
第14回：少子高齢社会における財政のあり方

履修上の注意

議論への参加が最重要となる。たえず、財政、税制、地方財政への関心をもち、情報収集にあたってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを読んで、資料収集、質問項目の作成。

教科書

院生の関心を見極めて設定する。

参考書

院生の関心を見極めて設定する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中の議論で対応する。

成績評価の方法

講義での貢献度30% 講義での参画度50% レポート20%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

何のための公共部門か。地方税法改正の動向、民営化や民間委託、市町村合併や、あるべき自治体の規模、自治体の財政分析など、税制・財政をめぐる様々な課題について議論する。ここでは、とくに歴史的観点、地方財政的観点からの財政的、地方税法的基礎を身につけることを目標としたい。

授業内容

第1回：国民経済と財政
第2回：予算、決算
第3回：各租税法改正の動向
第4回：地方税法改正の動向
第5回：一般会計予算と地方交付税
第6回：社会保障と財政
第7回：シャウプ勧告
第8回：昭和30年代の財政・税制
第9回：昭和40年代の財政・税制
第10回：昭和50年代の財政・税制
第11回：昭和60年代から平成不況の財政・税制
第12回：21世紀の財政・税制
第13回：地方自治体の財政分析
第14回：次年度予算について

履修上の注意

講義への参加が最重要となる。たえず、財政、税制、地方財政への関心をもち、情報収集にあたってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト、資料を読んで、質問項目を作成。

教科書

院生の関心を見極めて設定する。

参考書

院生の関心を見極めて設定する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中の議論で対応する。

成績評価の方法

講義での貢献度30% 講義での参画度50% レポート20%

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

財政学のなかでも、特に租税論を中心に取り上げる。租税の基礎的な一般理論について検討し、秋学期に各種税制を考える際に重要となる概念について分析を行う。なお、講義では政府報告書なども用いて、税制改革をめぐる議論において、租税理論がどのような役割を果たしているのかを考える。

授業の概要

現在の租税原則としては、「簡素」「中立(経済成長)」「公平」の概念が、重要視されている。これらの租税原則が確立されてきた背景を明らかにするとともに、その意味について考えて行く。

授業内容

- 第1回：(a)イントロダクション—租税とは何か—
- 第2回：租税の根拠—利益説と義務説—
- 第3回：租税と経済社会政策
- 第4回：租税原則の歴史の変遷
- 第5回：1984年アメリカ財務省報告書
- 第6回：英国IFS・マリーズ・レポートの概要
- 第7回：租税と中立性概念
- 第8回：中立性と経済成長
- 第9回：公平な課税とは
- 第10回：租税と所得再分配
- 第11回：簡素と税務執行・納税協力
- 第12回：諸外国における税制改革の潮流
- 第13回：EUにおける税制改革の議論
- 第14回：ディスカッション

履修上の注意

履修上の注意は特にはないが、講義中に指示する準備学習についてはしっかりとしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義中に重要箇所について、後日調べてもらい、発表してもらうことがある。発表に際しては、十分に準備をしておくこと。また、講義中に受けた指導、助言については、自ら検討し、後日修正箇所を報告すること。

教科書

特に指定しないが、参考文献として外国語文献を用いることがある。それについてはあらかじめ翻訳しておくこと。

参考書

星野・小野島編著『現代財政論』学陽書房

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	財政学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 小野島 真		

授業の概要・到達目標

授業の概要

所得(含法人)・消費・資産課税の実態と理論について取り上げる。講義においては、現制度についてその詳細を条文なども用いながら分析するとともに、その制度設計における議論について税調の議論などを取り上げる。そして、判例なども用いながら現行制度の現実的課題について考える。また、経済のグローバル化を考慮すれば、国際課税論についても重要なテーマである。授業では国際課税制度における基礎的な概念を説明するとともに現在の課題について分析を行う。

授業内容

- 第1回：(a)イントロダクション—税制改革の潮流—
- 第2回：所得課税①制度分析・条文なども取り上げ、所得税の制度を確認する。
- 第3回：所得課税②理論分析・判例なども取り上げながら、所得課税の課題を分析する。
- 第4回：所得課税③国際比較研究・諸外国の制度を分析し、日本の所得税制へのインプリケーションを考える。
- 第5回：消費課税①制度研究・条文なども取り上げ、消費税及び各種消費課税の制度を確認する。
- 第6回：消費課税②理論分析・判例なども取り上げながら、消費税及び各種消費課税の課題を分析する。
- 第7回：消費課税③国際比較研究・諸外国の制度を分析し、日本の消費・各種消費課税制度へのインプリケーションを考える。
- 第8回：法人課税①制度分析・条文なども取り上げ、消費税及び各種消費課税の制度を確認する。
- 第9回：法人課税②理論分析・判例なども取り上げながら、消費税及び各種消費課税の課題を分析する。
- 第10回：法人課税③国際比較研究・諸外国の制度を分析し、日本の消費・各種消費課税制度へのインプリケーションを考える。
- 第11回：資産課税・資産課税制度の課題について分析する。
- 第12回：国際課税①制度分析・国際課税の基礎的な概念
- 第13回：国際課税②制度分析・二重課税排除方法と移転価格税制
- 第14回：国際課税を巡る諸動向・BEPSについて

履修上の注意

履修上の注意は特にはないが、講義中に指示する準備学習についてはしっかりとしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義中の重要箇所については、後日各自で調べてもらい、発表してもらうことがある。発表に際しては、十分に準備をしておくこと。

教科書

特に指定しないが、参考文献として外国語文献を用いることがある。それについてはあらかじめ翻訳しておくこと。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には、次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で判断する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

財政学のなかでも、社会保障制度や租税制度を「制度」の視点から分析するための方法論的検討を行う。どのようにして「制度」は形成されて、発展していくのか。それが各国の財政制度・福祉国家の独自性や類似性を形作るのか。そのメカニズムについて検討を行う。後半では財政社会学のアプローチについて検討する。「制度」を形成する上で国家がどのような役割を果たすのかについて考えていきたい。

授業を通じて、受講者が研究の方法論について考えを深め、自らの研究に活かせるようになることを目標とする。また、各国の社会の多様性や類似性について理解を深めることで、研究者だけでなく様々な業界で活躍することを目標とする受講者にも役立つ内容になるように講義を進める。

授業内容

- 第1回：(a)イントロダクションー財政学研究とは何かー
- 第2回：財政学の方法論的潮流
- 第3回：制度の政治経済学①：制度とは何か
- 第4回：制度の政治経済学②：財政と制度
- 第5回：福祉国家研究と財政学①：日本の福祉国家
- 第6回：福祉国家研究と財政学②：類型・レジーム論
- 第7回：福祉国家研究と財政学③：新制度論
- 第8回：福祉国家研究と財政学④：歴史分析と国際比較分析
- 第9回：福祉国家研究と財政学⑤：グローバル化と福祉国家
- 第10回：福祉国家研究と財政学⑥：アクターとしての国家
- 第11回：財政社会学とは何か①：新財政社会学の潮流
- 第12回：財政社会学とは何か②：近代国家の成立と財政
- 第13回：財政社会学とは何か③：租税同意をめぐる議論
- 第14回：ディスカッション

履修上の注意

受講生には前提とする知識は特に求めないが、毎回の授業で書籍や論文を輪読する形で授業を進める。授業では文献に基づいて議論を行うため、積極的な参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回講義までに文献の必要箇所を読んでおくこと。レジュメ作成やプレゼンをすることもある。

教科書

特に指定しないが、参考文献として外国語文献を用いることがある。

参考書

『福祉国家の基礎理論ーグローバル化時代の国家のゆくえ』田中拓道、岩波書店。
『財政社会学とは何か』井手英策ら、有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義の最初に質問や感想についてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表、レジュメ、発言など)で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	2026年度開講せず
科目名	財政学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 倉地 真太郎		

授業の概要・到達目標

財政学における「地域研究」の方法論的検討を行う。財政制度は国や地域によって多様であり、その実態を明らかにしたり、比較を通じて制度変化のメカニズムを明らかにしたりする研究が行われてきた。この講義の前半は地方財政制度の詳細な制度理解のための分析を行う。地方交付税、地方税、地方債などの複雑な地方財政制度の正確な理解を目指す。その上で自治体財政分析の方法論的検討を行う。

後半では諸外国の「地域研究」について検討を行う。北欧諸国、欧州諸国、米国、東アジア諸国、アフリカ諸国などの地域の福祉国家や財政制度の特質に焦点を当てて比較分析を行う。

授業を通じて、受講者が研究の方法論について考えを深め、自らの研究に活かせるようになることを目標とする。また、各国の社会の多様性や類似性について理解を深めることで、研究者だけでなく様々な業界で活躍することを目標とする受講者にも役立つ内容になるように講義を進める。

授業内容

- 第1回：(a)イントロダクション・
- 第2回：地方財政研究①：地方財政制度を概観する
- 第3回：地方財政研究②：地方交付税における財源保障
- 第4回：地方財政研究③：地方税と税源偏在是正をめぐる議論
- 第5回：地方財政研究④：地方債をめぐる議論
- 第6回：地方財政研究⑤：自治体の財政分析ー比較分析からー
- 第7回：地方財政研究⑥：自治体の財政分析ー歴史統計からー
- 第8回：国際比較研究①：地域研究の意義と課題
- 第9回：国際比較研究②：北欧諸国と財政
- 第10回：国際比較研究③：欧州諸国・EU財政
- 第11回：国際比較研究④：米国と財政
- 第12回：国際比較研究⑤：東アジア諸国と財政
- 第13回：国際比較研究⑥：国際比較から見た日本財政
- 第14回：ディスカッション

履修上の注意

受講生には前提とする知識は特に求めないが、毎回の授業で書籍や論文を輪読する形で授業を進める。授業では文献に基づいて議論を行うため、積極的な参加を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回講義までに文献の必要箇所を読んでおくこと。担当者はレジュメの作成やプレゼンをすることもある。

教科書

特に指定しないが、参考文献として外国語文献を用いることがある。

参考書

『平等と効率の福祉革命 新しい女性の役割』エスピン＝アンデルセン、岩波書店。
『地方財政学 -- 機能・制度・歴史』小西砂千夫、有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義の最初に質問や感想についてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表、レジュメ、発言など)で評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN561J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	金融経済学研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

貨幣と決済について理解を深めていきます。理論と現実をバランス良く理解できるよう、最近の金融実務をしっかりと踏まえた大学院入門レベルの講義を行います。授業を通じて、将来の金融経済研究者になるための基礎的な知識と金融の考え方を身につけることを到達目標とします。

授業内容

第1回: Introduction
第2回: Beginning of Commodity Money
第3回: Monetary Instability in Ancient Rome
第4回: Rise of Paper Money
第5回: Bills of Exchange and Promissory Notes
第6回: Gold Standard
第7回: Monetary Instability after the WW1
第8回: General Features of Fiat Money
第9回: Different Forms of Fiat Currency
第10回: Money Creation and Money Issuance
第11回: Seigniorage in Fiat Currencies
第12回: 受講生によるレポート(1)
第13回: 受講生によるレポート(2)
第14回: 受講生によるレポート(3)

履修上の注意

受講生は、ミクロ・マクロ経済学の基礎を取得していることを前提として授業を進めます。また、毎回の授業では予め担当者を決めておき、教科書を輪読する形で進めます。担当者には、担当箇所のエッセンスを他の受講生に対して、わかりやすく説明することが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に教科書の該当箇所を読んで下さい。また、授業中に紹介した文献等については、適宜入手し、復習の際に活かして下さい。なお、学期末までに取りまとめるレポートでは、講義に関連するトピックを選択し、授業中にプレゼンすることを想定しています。

教科書

『The Evolution of Money and Payments』Jean-Michel Godeffroy

参考書

各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、レポートの内容・プレゼンを総合的に評価します。
(発表・討議への貢献度:50%, レポートの評価:50%)

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE) ECN561J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	金融経済学研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

春学期の講義を踏まえた上で、貨幣と決済について理解をさらに深めていきます。特に決済システムの役割に焦点を当て、新しい民間マネーや中央銀行が発行するデジタル通貨の決済がどのように行われることになるのかを中心に、理論と現実をバランス良く理解できるよう講義を進めます。

授業を通じて、将来の金融経済研究者になるための知識と金融の考え方を身につけることを到達目標とします。また、金融機関の調査部門やアナリスト業界で活躍することを目標とする受講生にも十分に役立つ内容を中心に講義を進めます。

授業内容

第1回: Introduction
第2回: Modern fiduciary money
第3回: Book money and digital money
第4回: Cashless payment instruments: overview
第5回: Bilateral payments and correspondent banking
第6回: Multilateral settlements
第7回: Central banks as money issuers
第8回: Central banks and payment systems
第9回: Bitcoin and other unbanked crypto-assets
第10回: Rise of stablecoins
第11回: 受講生によるレポート(1)
第12回: 受講生によるレポート(2)
第13回: 受講生によるレポート(3)
第14回: ラップアップ

履修上の注意

受講生は、ミクロ・マクロ経済学の基礎を取得していることを前提として授業を進めます。また、毎回の授業では予め担当者を決めておき、教科書を輪読する形で進めます。このため、担当者には、担当箇所のエッセンスを他の受講生に対して、わかりやすく説明することが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に教科書の該当箇所を読んで下さい。また、授業中に紹介した文献等については、適宜入手し、復習の際に活かして下さい。なお、学期末までに取りまとめるレポートでは、講義に関連するトピックを選択し、授業中にプレゼンすることを想定しています。

教科書

『The Evolution of Money and Payments』Jean-Michel Godeffroy

参考書

各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、レポートの内容・プレゼンを総合的に評価します。
(発表・討議への貢献度:40%, レポートの評価:60%)

その他

特にありません。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障制度やこれに関連する分野を研究する上で不可欠な基礎概念や、現代の社会保障制度が抱える課題や制度改革の方向性、少子高齢社会への対応などに関する理解を深める。

授業内容

社会保障論研究Ⅰでは、輪読等を中心に、社会保障の基本的な内容について学ぶ。

授業計画

- 第1回 社会保障制度を取り巻く環境
- 第2回 社会保障制度の見取り図
- 第3回 医療保険
- 第4回 生活保護と社会福祉
- 第5回 介護保険
- 第6回 これまでのまとめとディスカッション(1)
- 第7回 年金
- 第8回 雇用保険
- 第9回 労働者災害補償保険
- 第10回 社会保険と民間保険
- 第11回 社会保障の歴史と構造
- 第12回 日本の人口問題
- 第13回 少子化対策と全世代型社会保障制度
- 第14回 これまでのまとめとディスカッション(2)

履修上の注意

受講者は、社会保障制度に関心を持ち、学部レベルの知識を有していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に配布する資料や文献等で調べておくこと。

教科書

棕野・田中(2023)『はじめての社会保障(第20版)』有斐閣。

参考書

- ①小塩隆士(2005)『社会保障の経済学 第3版』日本評論社。
 - ②小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社。
 - ③加藤久和(2011)『世代間格差』ちくま新書、筑摩書房。
 - ④加藤久和(2014)『社会政策を問う』明治大学出版会。
- その他、必要なレジュメをOh-o! Meijiシステムのクラスウェブに掲載する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

最終レポート70%、報告及び議論への参加30%のウエイトで成績評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN551J			
経済政策系		備考	
科目名	社会保障論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障制度やこれに関連する分野を研究する上で不可欠な基礎概念等を、経済学の視点から解説し、現代の社会保障制度が抱える課題や制度改革の方向性、少子高齢社会への対応などに関する理解を深める。

授業内容

社会保障論研究Ⅱでは、現在の政策課題と密接に関連したトピックを選び、これを扱う論文・書籍の輪読等を行う。

授業計画

- 第1回 公共経済学の基礎
- 第2回 厚生経済学と社会保険の考え方
- 第3回 年金の経済分析①
- 第4回 年金の経済分析②
- 第5回 医療経済学入門①
- 第6回 医療経済学入門②
- 第7回 貧困と格差の諸問題(貧困)
- 第8回 貧困と格差の諸問題(格差)
- 第9回 諸外国の社会保障制度①
- 第10回 諸外国の社会保障制度②
- 第11回 国際比較統計
- 第12回 公共政策のポイント
- 第13回 働き方改革と日本経済
- 第14回 秋学期まとめ

履修上の注意

受講者は、社会保障制度に関して学部レベルの知識を有しており、特にミクロ経済学の基本理論を理解していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に配布する資料や文献等で調べておくこと。

教科書

輪読する書籍・論文等については、初回の講義時に指定する。

参考書

- ①小塩隆士(2005)『社会保障の経済学 第3版』日本評論社。
- ②小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社。
- ③加藤久和(2011)『世代間格差』ちくま新書、筑摩書房。
- ④加藤久和(2014)『社会政策を問う』明治大学出版会。
- ⑤棕野・田中(2023)『はじめての社会保障(第20版)』有斐閣。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

最終レポート70%、報告及び議論への参加30%のウエイトで成績評価を行う。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

<概要>

労働経済学の基礎理論と労働市場に関する実証分析の例を学ぶ。

<到達目標>

労働経済学の基礎理論を理解するとともに、理論から実証への接続ができるようになる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 労働供給(基礎)
- 第3回 労働供給(労働供給関数の導出)
- 第4回 労働供給モデルの応用(実証)
- 第5回 労働需要(基礎)
- 第6回 労働需要(労働需要関数の導出)
- 第7回 労働需要(実証)
- 第8回 市場均衡(基礎)
- 第9回 市場均衡(実証)
- 第10回 市場均衡(非競争的労働市場)
- 第11回 補償賃金格差(基礎)
- 第12回 補償賃金格差(実証)
- 第13回 人的資本(基礎)
- 第14回 人的資本(実証)

履修上の注意

- (1) この授業は、院生による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者・参加する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。

また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、ミクロ経済学の知識を十分に有していることを前提に授業を行う。

よって、計量経済学とミクロ経済学に関する知識が不十分である場合、関連科目を同時に履修したり、自習するなどの準備学習が必要である。

教科書

川口大司 (2017)『労働経済学:理論と実証をつなぐ』, 有斐閣。

参考書

Borjas (2023) *Labor Economics* (9th edition), McGraw-Hill Education.

Ehrenberg, Hallock, and Smith (2021) *Modern Labor Economics: Theory and Public Policy* (14th edition), Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

受講者・参加者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)

授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	労働経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 原 ひろみ		

授業の概要・到達目標

<概要>

労働経済学研究Ⅰに引き続き、労働経済学の基礎理論と労働市場に関する実証分析の例を学ぶ。

<到達目標>

労働経済学の基礎理論を理解するとともに、理論から実証への接続ができるようになる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 賃金構造(基礎)
- 第3回 賃金構造(実証)
- 第4回 労働移動(基礎)
- 第5回 労働移動(実証)
- 第6回 労働移動(転職とマッチング)
- 第7回 労働市場における差別(基礎)
- 第8回 労働市場における差別(発展)
- 第9回 労働市場における差別(実証)
- 第10回 インセンティブ・ペイ(基礎)
- 第11回 インセンティブ・ペイ(発展)
- 第12回 失業(基礎)
- 第13回 失業(発展)
- 第14回 失業(実証)

履修上の注意

- (1) この授業は、院生による報告を軸に進める。
- (2) 授業を受講する者・参加する者は全員、毎回、授業範囲の要約を作成し、持参のうえ、提出しなければならない。
- (3) 労働経済学研究Ⅰを履修済みであることが望ましい。よって、履修していることを前提に授業を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

労働経済学研究Ⅰの内容に加えて、学部レベルの計量経済学の基礎的な知識が前提となる。具体的には、Wooldridge, J. M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*に書かれている程度の知識が必要である。

また、労働経済学はミクロ経済学の応用分野であるため、ミクロ経済学の知識を十分に有していることが前提となる。

よって、計量経済学とミクロ経済学に関する知識が不十分である場合、関連科目を同時に履修したり、自習するなどの準備学習が必要である。

教科書

川口大司 (2017)『労働経済学:理論と実証をつなぐ』, 有斐閣。

参考書

Borjas (2023) *Labor Economics* (9th edition), McGraw-Hill Education.

Ehrenberg, Hallock, and Smith (2021) *Modern Labor Economics: Theory and Public Policy* (14th edition), Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

受講者・参加者による授業内報告や要約に対して、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。

成績評価の方法

提出された要約資料への評価(50%)

授業における報告・議論への参加度(50%)

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	人口学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. 金子 隆一		

授業の概要・到達目標

人口統計学は人口の増減を扱うものというより、むしろ人々のライフコース全般を定量的に捉えて分析するための統計分野である。社会経済現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会への歴史的転換期にある。したがって現代を把握し将来を見通すためには、ライフコース・人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。本講義では、まず人口構造・人口動態ならびに結婚、出生、死亡などのライフコース事象に関する基礎概念、モデル、分析法の習得を通して人口の特性を学ぶ。理解を深めるため、毎回テーマに関する討論を行う。

授業内容

- 第1回 序論
人口減少・少子高齢社会への道
- 第2回 人口統計の基礎概念(1)
人口静態・動態、規模・構造、統計体系
- 第3回 人口統計の基礎概念(2)
科学としての位置付け、生存延べ年数
- 第4回 人口増加
人口学的方程式、人口増加モデル
- 第5回 人口再生産
人口再生産率、人口置換水準
- 第6回 人口構造(1)
基本構造、人口ピラミッド
- 第7回 人口構造(2)
人口モメンタム
- 第8回 人口分析の方法(1)
統計モデル、レキシス座標・平面
- 第9回 人口分析の方法(2)
ライフサイクル事象、確率モデル
- 第10回 生命表(1)
死亡秩序、歴史、生命表関数
- 第11回 生命表(2)
平均寿命、事象歴(イベントヒストリー)分析法
- 第12回 死亡分析
死亡率、ゴンパツ・モデル、モデル生命表
- 第13回 結婚分析
初婚率、コール・マクニール・モデル
- 第14回 出生分析
出生率、コール・トラッセル・モデル

履修上の注意

統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必要な手法等は講義で解説し、習得できる範囲のものである。したがってスキルより、関心や問題意識の強さが重要である。ただし、頻繁に討論を行うので、それぞれの専門領域に関する学部レベルの知識やスキルを持つことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料と参考図書などを用いて、講義内容を十分復習し、問題提起などに対して真剣に考察すること。

教科書

指定しない。配付する資料を教科書とし、適宜紹介する参考図書等を補助教材とする。

参考書

- 『新時代からの挑戦状―未知の少親多死社会をどう生きるか』金子隆一・村木厚子・宮本太郎、厚生労働統計協会(2018, ISBN-10: 4875117736),
- 『日本の人口動向とこれからの社会』森田朗(監修) 東京大学出版会(2017, ISBN-10: 4130511394),
- 『ポスト人口転換期の日本』佐藤龍三郎・金子隆一(編) 原書房(2016, ISBN-10: 4562092076),
- 『人口学への招待』河野稠果(著) 中公新書(2007, ISBN-10: 4121019105),
- その他適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席・討論参加(50%)、期末レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	人口学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	特任教授 Ph.D. 金子 隆一		

授業の概要・到達目標

人口統計学は人口の増減を扱うものというより、むしろ人々のライフコース全般を定量的に捉えて分析するための統計分野である。社会経済現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会への歴史的転換期にある。したがって現代を把握し将来を見通すためには、ライフコース・人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。本講義では、人口統計学の基礎概念、人口の特性について復習した後、わが国や世界が直面している人口高齢化をはじめとする人口潮流とその経済社会、社会保障などとの関わりについて学習し、理解を深める。理解を深めるため、毎回テーマに関する討論を行う。

授業内容

- 第1回 人口統計の基礎概念
人口科学
- 第2回 人口増加と人口再生産
人口増加モデル、再生産率、人口置換水準
- 第3回 人口構造
人口モメンタムと人口減少
- 第4回 人口分析の方法
人口減少社会とライフコース
- 第5回 死亡現象と長寿化(1)
疫学転換と要因・帰結
- 第6回 死亡現象と長寿化(2)
老化・寿命の進化、長寿化と経済社会
- 第7回 結婚現象と未婚化
晩婚化・未婚化・非婚化
- 第8回 出生現象と少子化(1)
TFRの成りたち、出生転換
- 第9回 出生現象と少子化(2)
少子化の動向・要因・メカニズム・帰結・「対策」
- 第10回 人口転換理論
近代化・人口転換、脱近代化・第二の人口転換、人口移動
- 第11回 人口モデルと人口推計
安定人口モデル、将来人口推計、ライフサイクル変動
- 第12回 人口減少社会
人口と社会の持続可能性
- 第13回 人口高齢化
少子高齢化、人口ボーナス/オーナス、国際比較
- 第14回 人口と経済社会
地域人口(地方消滅)、社会保障、社会理念

履修上の注意

統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必要な手法等は講義で解説し、習得できる範囲のものである。したがってスキルより、関心や問題意識の強さが重要である。ただし、頻繁に討論を行うので、それぞれの専門領域に関する学部レベルの知識やスキルを持つことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料と参考図書などを用いて、講義内容を十分復習し、問題提起などに対して真剣に考察すること。

教科書

指定しない。配付する資料を教科書とし、適宜紹介する参考図書等を補助教材とする。

参考書

- 『新時代からの挑戦状―未知の少親多死社会をどう生きるか』金子隆一・村木厚子・宮本太郎、厚生労働統計協会(2018, ISBN-10: 4875117736),
- 『日本の人口動向とこれからの社会』森田朗(監修) 東京大学出版会(2017, ISBN-10: 4130511394),
- 『ポスト人口転換期の日本』佐藤龍三郎・金子隆一(編) 原書房(2016, ISBN-10: 4562092076),
- 『人口学への招待』河野稠果(著) 中公新書(2007, ISBN-10: 4121019105),
- その他適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席・討論参加(50%)、期末レポート(50%)

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	人口学研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(経済学) 鎌田 健司		

授業の概要・到達目標

本講義では、「形式人口学」における人口統計や人口学の基礎概念・分析手法の習得を基本に起きながら、少子高齢化・人口減少が進行する日本の人口動向を中心に、国際比較や社会経済的環境との関係、個人のライフコース選択など「実体人口学」についても取り上げ、人口を学術的に理解することを目指す。

授業内容

第1回: Introduction
第2回: Population Change (1)
第3回: Population Change (2)
第4回: Population Growth and Decline (1)
第5回: Population Growth and Decline (2)
第6回: Age-Sex Composition (1)
第7回: Age-Sex Composition (2)
第8回: Comparing Populations (1)
第9回: Comparing Populations (2)
第10回: Mortality and Health (1)
第11回: Mortality and Health (2)
第12回: Fertility and the Family (1)
第13回: Fertility and the Family (2)
第14回: 前半のまとめ

履修上の注意

講義では、毎回担当者が該当箇所を報告する。
人口統計や学術論文等をもとに概説し、それらをもとに議論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料を参照した上で、事前に内容の理解を深めるとともに、積極的な議論への参加が求められる。

教科書

Rowland, D. (2003) Demographic Methods and Concepts, Oxford
その他、適宜紹介する書籍や学術論文を補助教材とする。

参考書

『人口学への招待』河野稠果(中公新書) 2007年
『現代人口学』阿藤誠(日本評論社) 2000年
『人口減少と少子化対策』高橋重郷・大淵寛編著(原書房) 2015年 など

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実習を行った内容については、クラスウェブを通じたフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(30%)・報告(70%)

その他

PCを持参しての資料の確認等を推奨する。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備 考	
科 目 名	人口学研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授 博士(経済学) 鎌田 健司		

授業の概要・到達目標

本講義では、「形式人口学」における人口統計や人口学の基礎概念・分析手法の習得を基本に起きながら、少子高齢化・人口減少が進行する日本の人口動向を中心に、国際比較や社会経済的環境との関係、個人のライフコース選択など「実体人口学」についても取り上げ、人口を学術的に理解することを目指す。

授業内容

第1回: 前半の振り返り
第2回: Life Tables (1)
第3回: Life Tables (2)
第4回: Stable and Stationary Models (1)
第5回: Stable and Stationary Models (2)
第6回: Population Distribution (1)
第7回: Population Distribution (2)
第8回: Migration (1)
第9回: Migration (2)
第10回: Population Projections and Estimates (1)
第11回: Population Projections and Estimates (2)
第12回: Population Composition (1)
第13回: Population Composition (2)
第14回: 後半のまとめ

履修上の注意

講義では、毎回担当者が該当箇所を報告する。
人口統計や学術論文等をもとに概説し、それらをもとに議論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料を参照した上で、事前に内容の理解を深めるとともに、積極的な議論への参加が求められる。

教科書

Rowland, D. (2003) Demographic Methods and Concepts, Oxford
その他、適宜紹介する書籍や学術論文を補助教材とする。

参考書

『人口学への招待』河野稠果(中公新書) 2007年
『現代人口学』阿藤誠(日本評論社) 2000年
『人口減少と少子化対策』高橋重郷・大淵寛編著(原書房) 2015年 など

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実習を行った内容については、クラスウェブを通じたフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(30%)・報告(70%)

その他

PCを持参しての資料の確認を推奨する。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	日本経済論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済に関する諸問題を定量的に分析する技術の習得を目標に双方型の講義を展開する。

基礎事項の講義にとどまらず、
・基本文献や論文を読み、その内容について口頭発表を行う
・あたえられたデータセットをもちいて計量分析を行う
ことで理解を深めていきたい。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 国民経済計算
第3回 マクロ経済の決定理論
第4回 産業連関分析
第5回 ※産業連関分析をもちいた報告
第6回 財政政策
第7回 金融政策
第8回 時系列分析の基礎
第9回 ※マクロ経済政策に関する論文報告
第10回 ※時系列分析の実践
第11回 社会保障政策
第12回 所得再分配
第13回 ※その他関連論文の報告
第14回 まとめ
※の回では事前に課題を指示した上で受講生による報告を中心に講義を進める

履修上の注意

・日本経済論Ⅱとの同時履修が望ましい
・一方通行ではない参加型の講義とするため、講義中に積極的に発言すること

準備学習（予習・復習等）の内容

・学部専門課程レベルのミクロ経済学，マクロ経済学，統計学については理解しておく必要がある

教科書

・受講者と協議のうえ決定する

参考書

・受講者と協議のうえ決定する

課題に対するフィードバックの方法

・双方向講義となるため、各発表の際にフィードバックを行う

成績評価の方法

・講義への貢献・期末レポートによる

その他

・使用テキストや発表分担を決めるため、第一回の講義には必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する場合には別途連絡の上対応を協議する。

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
経済政策系		備考	
科目名	日本経済論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済の理解に必要な統計についての講義と関連文献のサーベイを行う

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 景気循環
第3回 ※景気循環に関連する論文報告
第4回 労働・雇用
第5回 教育
第6回 パネルデータ分析の基礎
第7回 ※労働・雇用・教育関連論文報告
第8回 政治と経済政策
第9回 因子分析と主成分分析
第10回 ※アンケートデータを用いたデータ分析1
第11回 ※アンケートデータを用いたデータ分析2
第12回 地域経済の諸論点
第13回 人口と経済成長
第14回 まとめ
※の回は受講生による報告を中心に進行する

履修上の注意

・日本経済論Ⅰとの同時履修が望ましい（特別な理由がある場合は相談すること）
・文献サーベイでの輪読担当など、一方通行ではない参加型の講義となる
・これらの実習に積極的に参加することが求められる

準備学習（予習・復習等）の内容

・学部レベルの数学は既習であることを前提とする
・学部専門課程レベルのミクロ経済学，マクロ経済学，統計学，計量経済学については事前に十分に理解しておく必要がある

教科書

・テキストは協議して決定する

参考書

・適宜指示する

課題に対するフィードバックの方法

・講義の中で適宜フィードバックする

成績評価の方法

・講義中の発言，輪読での発表分担，期末レポートによる

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（経済政策系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 An Overview of the arts sector
- 第3回 Size, Growth, and Significance in the economy (1)
- 第4回 Size, Growth, and Significance in the economy (2)
- 第5回 Size, Growth, and Significance in the economy (3)
- 第6回 Consumer Demand
- 第7回 Measuring the Utility of Consumption
- 第8回 Consumer Budget Optimization
- 第9回 Deriving Demand Curves
- 第10回 The Determinants of Demand (1)
- 第11回 The Determinants of Demand (2)
- 第12回 How supply and demand interact in the market to establish prices (1)
- 第13回 How supply and demand interact in the market to establish prices (2)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
経済政策系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（経済政策系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Production and Cost (1)
- 第3回 Production and Cost (2)
- 第4回 Production and Cost (3)
- 第5回 Public Policy (1)
- 第6回 Public Policy (2)
- 第7回 Public Policy (3)
- 第8回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (1)
- 第9回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (2)
- 第10回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (3)
- 第11回 The Role of the Arts in a Local Economy (1)
- 第12回 The Role of the Arts in a Local Economy (2)
- 第13回 The Role of the Arts in a Local Economy (3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN542J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この授業では、戦後の貿易システムについて検討した上で、これからの世界経済に有益な貿易システムを探究していく。具体的には、GATTやWTO、TPPなどのEPA/FTAを取り上げて授業を進めていく。

《到達目標》

国際経済では自国の国益(時にはエゴ)が現れやすく、結局、国内経済と対外経済とのバランスを如何にとるかが今日の課題となる。この課題に対する処方箋を検討していくことが、本講義の目指すところである。

授業内容

- 第1回 a:イントロダクション b:国際経済政策とは何か
- 第2回 大恐慌時の世界経済
- 第3回 戦後の世界経済
- 第4回 世界経済の現状
- 第5回 自由貿易と保護貿易
- 第6回 GATTの成立過程
- 第7回 GATTの原則:「自由・多角・無差別」
- 第8回 最恵国待遇と内国民待遇
- 第9回 貿易自由化:関税引き下げ
- 第10回 貿易自由化:非関税障壁
- 第11回 輸出自主規制と輸入自主拡大
- 第12回 セーフガード措置
- 第13回 ダumping
- 第14回 まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解すること。授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。また、次回の授業のためのガイドとして、授業の復習として、経済学のアンケートや実験を行う。

教科書

特になし。

参考書

『通商白書』経済産業省
『ジェトロ世界貿易投資報告』JETRO

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、その内容について精査するため、提出した翌週の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)および授業への参画度(50%)によって評価を行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN542J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この授業では、戦後の貿易システムについて検討した上で、これからの世界経済に有益な貿易システムを探究していく。具体的には、GATTやWTO、TPPなどのEPA/FTAを取り上げて授業を進めていく。

《到達目標》

国際経済では自国の国益(時にはエゴ)が現れやすく、結局、国内経済と対外経済とのバランスを如何にとるかが今日の課題となる。この課題に対する処方箋を検討していくことが、本講義の目指すところである。

授業内容

- 第1回 a:イントロダクション b:国際経済体制について
- 第2回 GATTのラウンド
- 第3回 ウルグアイ・ラウンド
- 第4回 GATTからWTOへ
- 第5回 農業貿易、繊維貿易、サービス貿易
- 第6回 紛争解決手続
- 第7回 WTOの現状とドーハ・ラウンド
- 第8回 EPA/FTAの経済学
- 第9回 NAFTA
- 第9回 TPP
- 第10回 TPPの経済効果
- 第11回 TPPと日本・アメリカ・中国の戦略
- 第12回 世界の貿易体制の現状と問題点
- 第13回 有益な貿易システムとは何か?
- 第14回 まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解すること。授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。また、次回の授業のためのガイドとして、授業の復習として、経済学のアンケートや実験を行う。

教科書

特になし。

参考書

『通商白書』経済産業省
『ジェトロ世界貿易投資報告』JETRO

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、その内容について精査するため、提出した翌週の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)および授業への参画度(50%)によって評価を行う。

その他

特になし。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN642J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

論文および研究報告書の作成のために、論文指導を行っていく。まず、学生の研究テーマに沿う形で先行研究の読み込み、それと同時に論文の執筆の仕方を学んでいく。その後、研究報告を繰り返しながら、論文の全体像を形づくっていく。《到達目標》

修士論文の全体像を描くことを目標とする。

授業内容

第1回 a:イントロダクション b:論文の書き方について
第2回 論文の構想の発表(1)
第3回 論文の構想の発表(2)
第4回 先行研究の発表(1)
第5回 先行研究の発表(2)
第6回 先行研究の発表(3)
第7回 これまでのまとめ
第8回 論文発表(1)
第9回 論文発表(2)
第10回 論文発表(3)
第11回 論文発表(4)
第12回 論文発表(5)
第13回 これまでのまとめ
第14回 今後の研究方針の確認

履修上の注意

授業では必ず論文の進捗度合いについて報告をしてもらいます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に論文の進捗状況に応じて、準備学習については指示する。

教科書

特になし。

参考書

授業時に研究テーマに沿った文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(50%)と研究発表(50%)で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN642J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

修士論文の全体像を描くことを目標とする。修士論文および研究報告書の完成を目指して、論文指導を行っていく。前半は論文発表と討議を中心に行い、後半は事前に提出した論文(各章・各節ごと)についての添削指導と論文の修正を行っていく。《到達目標》

修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

第1回 論文の構想の確認
第2回 論文発表(1)
第3回 論文発表(2)
第4回 論文発表(3)
第5回 これまでのまとめ
第6回 論文発表(4)
第7回 論文発表(5)
第8回 論文発表(6)
第9回 論文の最終検討
第10回 論文の構想の最終確認
第11回 論文の校正と修正(1)
第12回 論文の校正と修正(2)
第13回 論文の修正と校正(3)
第14回 論文の最終確認

履修上の注意

授業時に必ず論文の進捗度合いを報告してもらいます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に論文の進捗度合いに応じて準備学習について指示する。

教科書

特になし。

参考書

授業時に論文の進捗度合いに応じて、研究テーマに沿った文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(50%)と研究報告(50%)で評価する。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経済学） 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文のテーマ設定
- 第3回 論文の構成について
- 第4回 先行研究の分析(1)
- 第5回 先行研究の分析(2)
- 第6回 内容の検討(1)
- 第7回 内容の検討(2)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(2)
- 第10回 論文内容の検討(1)
- 第11回 論文内容の検討(2)
- 第12回 論文内容の検討(3)
- 第13回 最終発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30％，論文70％。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経済学） 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文のテーマ設定
- 第3回 論文の構成について
- 第4回 先行研究の分析(1)
- 第5回 先行研究の分析(2)
- 第6回 内容の検討(1)
- 第7回 内容の検討(2)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(2)
- 第10回 論文内容の検討(1)
- 第11回 論文内容の検討(2)
- 第12回 論文内容の検討(3)
- 第13回 最終発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30％，論文70％。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 論文のテーマ設定
第3回 論文の構成について
第4回 先行研究の分析(1)
第5回 先行研究の分析(2)
第6回 内容の検討(1)
第7回 内容の検討(2)
第8回 中間発表(1)
第9回 中間発表(2)
第10回 論文内容の検討(1)
第11回 論文内容の検討(2)
第12回 論文内容の検討(3)
第13回 最終発表
第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%，論文70%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 論文のテーマ設定
第3回 論文の構成について
第4回 先行研究の分析(1)
第5回 先行研究の分析(2)
第6回 内容の検討(1)
第7回 内容の検討(2)
第8回 中間発表(1)
第9回 中間発表(2)
第10回 論文内容の検討(1)
第11回 論文内容の検討(2)
第12回 論文内容の検討(3)
第13回 最終発表
第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%，論文70%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

国際経済政策は経済政策の範疇の一つとして位置付けることができるが、今や一国の経済政策は他の諸国や世界経済に対して少なからず影響を及ぼす。また、グローバリゼーションは、世界経済や各国経済に対してプラス・マイナスの影響をもたらしている。そのため、近年、国内経済の諸問題を国際経済と関連付け、他国や国際機関へ責任を転嫁するという傾向が強くなっている。国際経済では自国の国益（時にはエゴ）が現れやすく、結局、国内経済と対外経済とのバランスを如何にとるかが今日の課題となる。この課題に対する処方箋を検討していくことが、本講義の目指すところである。

《到達目標》

この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的動向を踏まえながら進めていく。現実の経済の動向に対して、多角的視点から物事を捉え、世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。

授業内容

- 第1回：a: イントロダクション b: 国際経済学とは何か
 第2回：自由貿易と保護貿易の歴史
 第3回：伝統的な貿易理論(1)
 第4回：伝統的な貿易理論(2)
 第5回：関税の効果(小国の場合・大国の場合)
 第6回：輸入数量制限・生産補助金の効果
 第7回：新しい貿易理論(1)
 第8回：新しい貿易理論(2)
 第9回：戦略的貿易政策
 第10回：新々貿易理論(1)
 第11回：新々貿易理論(2)
 第12回：貿易の政治経済学
 第13回：EPA/FTA (TPP)
 第14回：まとめ

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解すること。授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。また、次回の授業のためのガイドとして、授業の復習として、経済学のアンケートや実験を行う。

教科書

特に指定しない

参考書

授業時に必要な本・論文について紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、その内容について精査するため、提出した翌週の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)および授業への参画度(50%)によって評価を行う。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) ECN541J			
国際経済系		備考	
科目名	国際経済政策研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

グローバリゼーションの歴史、その意義や問題点、具体的な事例などを分析しながら、グローバリゼーションの是非について考察する。

《到達目標》

この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的動向を踏まえながら進めていく。現実の経済の動向に対して、多角的視点から物事を捉え、世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。

授業内容

- 第1回：a: イントロダクション b: グローバリゼーションについてのアンケート
 第2回：グローバリゼーションとは何か
 第3回：グローバリゼーションの歴史(1) ～1970'S
 第4回：グローバリゼーションの歴史(2) 1980'S～
 第5回：グローバリゼーションの意義
 第6回：グローバリゼーションの問題点
 第7回：市場の役割と国家の役割(1)
 第8回：市場の役割と国家の役割(2)
 第9回：通貨危機：アジア通貨危機
 第10回：金融危機：リーマン・ショック
 第11回：資本移動自由化の是非
 第12回：世界的な経常収支不均衡問題
 第13回：グローバリゼーションの是非
 第14回：まとめ

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解すること。授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。また、次回の授業のためのガイドとして、授業の復習として、経済学のアンケートや実験を行う。

教科書

特に指定しない

参考書

バグワティ『グローバリゼーションを擁護する』日本経済新聞社
 スティグリッツ『世界に格差を撒いたグローバリズムを正す』徳間書店
 授業時に必要な本・論文について紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、その内容について精査するため、提出した翌週の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)および授業への参画度(50%)によって評価を行う。

その他

特になし

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本講義では、開発経済学に関する理論研究を踏まえながら、Stataを用いたデータ分析の基礎を習得する。到達目標は、開発理論を踏まえた上で、自分が興味のあるデータを用いて分析出来るようになることである。

授業内容

第1回目 インTRODクシヨ
第2回目 計量経済学の基礎
第3回目 Stataの基礎
第4回目 単回帰分析
第5回目 重回帰分析
第6回目 グラビティ・モデルの基礎
第7回目 経済開発の計量分析
第8回目 固定効果モデル
第9回目 経済成長理論
第10回目 絶対的収束と条件付き収束
第11回目 各種データベースの加工
第12回目 World Development Indicatorsを用いた計量分析
第13回目 Stataの応用的活用方法
第14回目 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。遅刻・欠席によって授業についていけない場合は、他の学生にも多大な迷惑を及ぼします。遅刻・欠席を出来るだけ無くすとともに、その場合には、必ず他の学生に聞くなどして授業内容を理解しておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示した予習・復習と課題は、必ず行ってください。授業についていけない場合は、他の学生にも多大な迷惑をかけます。

教科書

松浦寿幸 (2021)『Stataによるデータ分析入門』第3版、東京図書。

参考書

Mankiw, N. Gregory, David Romer and David N. Weil, 1992, "A Contribution to the Empirics of Economic Growth," Quarterly Journal of Economics, 107(2), 407-437.
Barro, Robert, 2015, "Convergence and Modernisation," Economic Journal, 125, 911-942.
大塚啓二郎、櫻井武司編 (2007)『貧困と経済発展——アジアの経験とアフリカの現状——』東洋経済新報社
盛本圭一 (2024)「はじめてのマクロ経済学——経済成長理論と成長回帰——」『経済セミナー』8・9月号、112-122頁。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度70%、レポート30%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
国際経済系		備考	
科目名	開発経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本講義では、開発経済学に関する理論研究を踏まえながら、Stataを用いたデータ分析の基礎を習得する。到達目標は、開発理論を踏まえた上で、自分が興味のあるデータを用いて分析出来るようになることである。

授業内容

第1回目 インTRODクシヨ
第2回目 グラビティ・モデルの復習
第3回目 UN ComtradeとCEPIIの活用
第4回目 グラビティ・モデルの応用
第5回目 国際分業と生産ネットワーク
第6回目 離散選択モデル
第7回目 海外直接投資と条件付きロジット・モデル
第8回目 DiD分析
第9回目 操作変数法
第10回目 傾向スコアマッチング法
第11回目 合成コントロール法
第12回目 時系列分析
第13回目 システムGMM
第14回目 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。遅刻・欠席によって授業についていけない場合は、他の学生にも多大な迷惑を及ぼします。遅刻・欠席を出来るだけ無くすとともに、その場合には、必ず他の学生に聞くなどして授業内容を理解しておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

指示した予習・復習と課題は、必ず行ってください。授業についていけない場合は、他の学生にも多大な迷惑をかけます。

教科書

松浦寿幸 (2021)『Stataによるデータ分析入門』第3版、東京図書。

参考書

Bui, Minh Tam, Eksan Miyazaki, Masami Saito, Yusuke Shibata and Keiichiro Suenaga, forthcoming, "Dynamic Shifts in Relationships between Local and Foreign Firms in the Thai Manufacturing Industry: A New Economic Geography Analysis Using Microdata from Thailand and Japan"
Kimura, Fukunari, Yuya Takahashi, and Kazunobu Hayakawa, 2007, "Fragmentation and Parts and Components Trade: Comparison between East Asia and Europe," North American Journal of Economics and Finance, 18, 23-40.
Brückner and Ciccone, 2011, "Rain and the Democratic Window of Opportunity," Econometrica, 79(3), 923-947.
Acemoglu, Daron, David Autor, David Dorn, Gordon H. Hanson and Brendan Price, 2016, "Import Competition and the Great US Employment Sag of the 2000s," Journal of Labor Economics, 34, S141-S198.
Nathan Nunn, 2008, "The Long-term Effects of Africa's Slave Trades," Quarterly Journal of Economics, 123, 139-176.
筒井他『Stataで計量経済学入門』第2版、ミネルヴァ書房。
北村『パネルデータ分析』岩波書店。
西山他『計量経済学』有斐閣。
山澤成康 (2023)『回帰分析から学ぶ計量経済学——Excelで読み解く経済の仕組み——』オーム社、第5章。
池川真里亜 (2016)「東アジアにおける家庭用冷蔵庫の普及と日系冷凍食品企業の立地国選択」『農業経済研究』88(3), 339-344。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度70%、レポート30%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。計量経済学とSTATAに関して相当の知識がある学生以外は、必ず春学期の開発経済学研究Ⅱも履修してください。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN561J			
国際経済系		備考	
科目名	国際金融研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 田中 茉莉子		

授業の概要・到達目標

国際金融システムを理解するために必要となる概念や背景について理解を深める。国際金融システムの影響、外国為替について学生自らが考察できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：先進国・途上国間の国際金融取引(1)
第3回：先進国・途上国間の国際金融取引(2)
第4回：国際収支統計の仕組み(1)
第5回：国際収支統計の仕組み(2)
第6回：貯蓄・投資バランスと国際収支(1)
第7回：貯蓄・投資バランスと国際収支(2)
第8回：為替制度と為替相場(1)
第9回：為替制度と為替相場(2)
第10回：財市場と為替レート(1)
第11回：財市場と為替レート(2)
第12回：金融市場と為替レート(1)
第13回：金融市場と為替レート(2)
第14回：まとめ

履修上の注意

マクロ経済理論、金融理論を基本的に理解していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストに目を通し、報告の準備をすること。

教科書

植田健一・服部孝洋(2024)『国際金融』(日本評論社)

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

適宜コメントする。

成績評価の方法

グループワークへの参加(50%)、報告内容(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN561J			
国際経済系		備考	
科目名	国際金融研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(経済学) 田中 茉莉子		

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、国際金融システムを理解するために必要となる概念や背景について理解を深める。外国為替、国際的な金融危機の問題について学生自らが考察できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本の為替介入(1)
第3回：日本の為替介入(2)
第4回：データから見た経済危機の特徴(1)
第5回：データから見た経済危機の特徴(2)
第6回：通貨危機・国際収支危機(1)
第7回：通貨危機・国際収支危機(2)
第8回：国家債務危機(1)
第9回：国家債務危機(2)
第10回：複合的な危機(1)
第11回：複合的な危機(2)
第12回：国際経済システムの変遷と課題(1)
第13回：国際経済システムの変遷と課題(2)
第14回：まとめ

履修上の注意

マクロ経済理論、金融理論を基本的に理解していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストに目を通し、報告の準備をすること。

教科書

植田健一・服部孝洋(2024)『国際金融』(日本評論社)

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

適宜コメントする。

成績評価の方法

グループワークへの参加(50%)、報告内容(50%)

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
国際経済系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（国際経済系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 An Overview of the arts sector
- 第3回 Size, Growth, and Significance in the economy (1)
- 第4回 Size, Growth, and Significance in the economy (2)
- 第5回 Size, Growth, and Significance in the economy (3)
- 第6回 Consumer Demand
- 第7回 Measuring the Utility of Consumption
- 第8回 Consumer Budget Optimization
- 第9回 Deriving Demand Curves
- 第10回 The Determinants of Demand (1)
- 第11回 The Determinants of Demand (2)
- 第12回 How supply and demand interact in the market to establish prices (1)
- 第13回 How supply and demand interact in the market to establish prices (2)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
国際経済系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（国際経済系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Production and Cost (1)
- 第3回 Production and Cost (2)
- 第4回 Production and Cost (3)
- 第5回 Public Policy (1)
- 第6回 Public Policy (2)
- 第7回 Public Policy (3)
- 第8回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (1)
- 第9回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (2)
- 第10回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (3)
- 第11回 The Role of the Arts in a Local Economy (1)
- 第12回 The Role of the Arts in a Local Economy (2)
- 第13回 The Role of the Arts in a Local Economy (3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市域に関する様々な経済地理学のアプローチの主体的習得と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。具体的内容としては、「インナーシティ」に関するさまざまな経済地理学のアプローチについて、基本的文献・資料類の取り扱いに関する演習を行い、関連外国語文献の理解も深める一方で、並行して当該分野関連研究論文執筆のための展開が図れるようにする。

授業内容

第1回：イントロダクション・近代都市とインナーシティ
第2回：インナーシティと都市空間モデル(1)
第3回：インナーシティと都市空間モデル(2)
第4回：インナーシティと都市システム論的アプローチ(1)
第5回：インナーシティと都市システム論的アプローチ(2)
第6回：インナーシティと都市システム論的アプローチ(3)
第7回：住宅・土地問題とインナーシティ(1)
第8回：住宅・土地問題とインナーシティ(2)
第9回：住宅・土地問題とインナーシティ(3)
第10回：インナーシティ再開発問題(1)
第11回：インナーシティ再開発問題(2)
第12回：インナーシティ再開発問題(3)
第13回：ポストモダン都市とインナーシティ
第14回：インナーシティの総括的検討

履修上の注意

都市や地域といった空間変数を明示的な分析単位とする経済地理学のアプローチに積極的な関心を抱いており、演習における報告やそれと平行したリサーチペーパーの作成等に強い意欲を持っていることが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習内容の正確な理解と運用を図るため、簡単なレポートやレジュメの作成と事前提出を求める場合がある。

教科書

黒田ほか著、2008、『都市と地域の経済学』（新版）有斐閣

参考書

適宜、詳細な文献リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

成績評価は、各学期とも基本的に演習での報告(60%)及び討論への参加度(40%)の総合評価で行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市域に関する様々な経済地理学のアプローチの主体的習得と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。具体的内容としては、「アーバンフリンジ」に関するさまざまな経済地理学のアプローチについて、基本的文献・資料類の取り扱いに関する演習を行い、関連外国語文献の理解も深める一方で、並行して当該分野関連研究論文執筆のための展開が図れるようにする。

授業内容

第1回：イントロダクション・近代都市空間とアーバンフリンジ(都市縁辺部)
第2回：アーバンフリンジと都市空間モデル(1)
第3回：アーバンフリンジと都市空間モデル(2)
第4回：アーバンフリンジへの都市システム論的アプローチ(1)
第5回：アーバンフリンジへの都市システム論的アプローチ(2)
第6回：アーバンフリンジへの都市システム論的アプローチ(3)
第7回：住宅・土地問題とアーバンフリンジ(1)
第8回：住宅・土地問題とアーバンフリンジ(2)
第9回：住宅・土地問題とアーバンフリンジ(3)
第10回：アーバンフリンジと都市計画(1)
第11回：アーバンフリンジと都市計画(2)
第12回：アーバンフリンジと都市計画(3)
第13回：ポストモダン都市とアーバンフリンジ
第14回：アーバンフリンジについての総括的検討

履修上の注意

都市や地域といった空間変数を明示的な分析単位とする経済地理学のアプローチに積極的な関心を抱いており、演習における報告やそれと平行したリサーチペーパーの作成等に強い意欲を持っていることが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習内容の正確な理解と運用を図るため、小レポートやレジュメ等の作成と事前提出を適宜求める。

教科書

黒田ほか著、2008、『都市と地域の経済学』（新版）有斐閣

参考書

必要に応じて詳細な文献リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

成績評価は、各学期とも基本的に演習での報告(60%)及び討論への参加度(40%)の総合評価で行う。

その他

特になし。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市域に関する様々な経済地理学のアプローチの主眼的習得と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。具体的内容としては、「広域都市圏」に関するさまざまな経済地理学のアプローチについて、基本的文献・資料類の取り扱いに関する演習を行い、関連外国語文献の理解も深める一方で、並行して当該分野関連研究論文執筆のための展開を図れるようにする。

授業内容

第1回：イントロダクション・近代都市空間と広域都市圏
第2回：広域都市圏とその空間モデル(1)
第3回：広域都市圏とその空間モデル(2)
第4回：広域都市圏へのシステム論的アプローチ(1)
第5回：広域都市圏へのシステム論的アプローチ(2)
第6回：広域都市圏へのシステム論的アプローチ(3)
第7回：住宅・土地問題と広域都市圏論(1)
第8回：住宅・土地問題と広域都市圏論(2)
第9回：住宅・土地問題と広域都市圏論(3)
第10回：広域都市圏と都市・地域計画(1)
第11回：広域都市圏と都市・地域計画(2)
第12回：広域都市圏と国土計画
第13回：ポストモダン都市と広域都市圏
第14回：広域都市圏についての総括的検討

履修上の注意

都市や地域といった空間変数を明示的な分析単位とする経済地理学のアプローチに積極的な関心を抱いており、演習における報告やそれと平行したリサーチペーパーの作成等に強い意欲を持っていることが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習内容の正確な理解と運用を図るため、小規模なペーパーやレジュメ等の作成と事前提出を求める場合がある。

教科書

特に定めてはいないが、論文の進行度に合わせて適宜用意する。

参考書

論文の進行度に合わせた詳細な文献リストを適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

成績評価は、各学期とも基本的に演習での報告(60%)及び討論への参加度(40%)の総合評価で行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市域に関する様々な経済地理学のアプローチの主眼的習得と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。具体的内容としては、「都市システム論」に関するさまざまな経済地理学のアプローチについて、基本的文献・資料類の取り扱いに関する演習を行い、関連外国語文献の理解も深める一方で、並行して当該分野関連研究論文執筆のための展開を図れるようにする。

授業内容

第1回：イントロダクション・都市システム論とその含意
第2回：都市システムとその空間モデル(1)
第3回：都市システムとその空間モデル(2)
第4回：都市へのシステム論的アプローチ(1)
第5回：都市へのシステム論的アプローチ(2)
第6回：都市へのシステム論的アプローチ(3)
第7回：住宅・土地問題と都市システム(1)
第8回：住宅・土地問題と都市システム(2)
第9回：住宅・土地問題と都市システム(3)
第10回：都市システムと都市・地域計画(1)
第11回：都市システムと都市・地域計画(2)
第12回：都市システムと国土計画
第13回：ポストモダン都市と都市システム
第14回：都市システム論に関する総括的検討

履修上の注意

都市や地域といった空間変数を明示的な分析単位とする経済地理学のアプローチに積極的な関心を抱いており、演習における報告やそれと平行したリサーチペーパーの作成等に強い意欲を持っていることが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習内容の正確な理解と運用を図るため、小規模なペーパーやレジュメ等の作成と事前提出を適宜求める。

教科書

特に定めてはいないが、論文の進行度に合わせて適宜用意する。

参考書

論文の進行度に合わせた適宜詳細な文献リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

成績評価は、各学期とも基本的に演習での報告(60%)及び討論への参加度(40%)の総合評価で行う。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の作成にむけ、先行研究レビュー、統計処理及びフィールドワークの評価・修正および方法検討などを行う。

Research Question、仮説およびこれらをつなぐ理論体系の構築をめざし、早期に修士論文の執筆を開始できるようにする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 地域産業に関する研究課題の紹介(1)
- 第3回 地域産業に関する研究課題の紹介(2)
- 第4回 研究テーマ相談・調整(1)
- 第5回 研究テーマ相談・調整(2)
- 第6回 研究計画作成・修正(1)
- 第7回 研究計画作成・修正(2)
- 第8回 先行研究論文レビューおよび討論(1)
- 第9回 先行研究論文レビューおよび討論(2)
- 第10回 フィールドワーク計画の策定・調整(1)
- 第11回 フィールドワーク計画の策定・調整(2)
- 第12回 統計処理計画の策定・調整
- 第13回 Research Question、仮説およびこれらをつなぐ理論体系(仮案)の調整
- 第14回 Research Question、仮説およびこれらをつなぐ理論体系(仮案)の完成

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、修士論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。また、調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次回の演習でフィードバックする。

成績評価の方法

演習での報告(50%)、討論への貢献度(50%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の作成にむけ、先行研究レビュー、統計処理及びフィールドワークの実施・評価・修正を行うとともに、論文骨子、論文序章作成指導を行う。

論文骨子および論文序章の作成を目標とし、早期に修士論文の本格執筆に取り掛かれるようにする。

授業内容

- 第1回 復習・レビュー、Research Question（仮案）再調整
- 第2回 フィールドワーク報告・討論
- 第3回 統計処理報告・討論
- 第4回 論文構想の確認
- 第5回 論文骨子の検討
- 第6回 追加フィールドワーク計画の策定・調整
- 第7回 追加先行研究論文レビューおよび討論(1)
- 第8回 追加先行研究論文レビューおよび討論(2)
- 第9回 文献リスト作成・指導
- 第10回 文献の確認・指導
- 第11回 論文骨子および論文序章の調整(1)
- 第12回 論文骨子および論文序章の調整(2)
- 第13回 論文骨子および論文序章の調整(3)
- 第14回 論文骨子および論文序章の完成・発表

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、修士論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。また、調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次回の演習でフィードバックする。

成績評価の方法

演習での報告(50%)、討論への貢献度(50%)

その他

特になし。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の作成にむけ、先行研究レビュー、統計処理及びフィールドワークの精緻化とともに、論文草稿作成指導を行う。

論文草稿の作成を目標とし、早期に修士論文の本格執筆に取り掛かれるようにする。

授業内容

- 第1回 復習・レビュー、論文骨子再調整
- 第2回 論文構成内容の検討・討論(1)
- 第3回 論文構成内容の検討・討論(2)
- 第4回 論文構成内容の検討・討論(3)
- 第5回 事例分析・統計分析の検討・討論(1)
- 第6回 事例分析・統計分析の検討・討論(2)
- 第7回 追加先行研究論文レビューおよび討論(1)
- 第8回 追加先行研究論文レビューおよび討論(2)
- 第9回 論文草稿の作成指導(1)
- 第10回 論文草稿の作成指導(2)
- 第11回 論文草稿の調整(1)
- 第12回 論文草稿の調整(2)
- 第13回 論文草稿の調整(3)
- 第14回 論文草稿の完成・発表

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、修士論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。また、調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次回の演習でフィードバックする。

成績評価の方法

演習での報告(50%)、討論への貢献度(50%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本演習では、修士論文の完成にむけた最終調整等を行う。修士論文の作成を目標とし、理論の補正および精緻化を繰り返し実施する。

授業内容

- 第1回 復習・レビュー、論文草稿の見直し
- 第2回 論文草稿の見直し・討論(1)
- 第3回 論文草稿の見直し・討論(2)
- 第4回 論文草稿の見直し・討論(3)
- 第5回 理論の補正および精緻化の検討・討論(1)
- 第6回 理論の補正および精緻化の検討・討論(2)
- 第7回 追加先行研究論文レビューおよび討論(1)
- 第8回 追加先行研究論文レビューおよび討論(2)
- 第9回 第二次論文草稿の見直し・討論
- 第10回 論文修正および推敲(1)
- 第11回 論文修正および推敲(2)
- 第12回 論文の完成
- 第13回 研究成果発表に向けた検討
- 第14回 総括

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、修士論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。また、調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次回の演習でフィードバックする。

成績評価の方法

演習での報告(50%)、討論への貢献度(50%)

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	中小企業論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

中小企業論の研究を進めていくために、必要な先行研究文献の輪読と討議を通じて、履修生の研究テーマの明確化を図る。また、各種統計資料の収集方法と分析手法及びアンケート・ヒアリング調査を行うために必要な調査法の習得を目指す。

特に、中小企業論の研究は、理論と実証(実態調査研究)の融合分野である。それゆえ、中小企業を対象とした研究アプローチも多種多様とならざるを得ない。そこで、本研究では、まず中小企業経営の実態から考察し、次にそこから導きだされる中小企業問題を明らかにしたうえで先行研究に関する文献研究を行う。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(「中小企業と中小企業問題への理解」の講義)
 第2回:輪読(「持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して」)と討議(1)
 第3回:輪読(「持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して」)と討議(2)
 第4回:輪読(「持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して」)と討議(3)
 第5回:輪読(「持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して」)と討議(4)
 第6回:輪読(「多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論」)と討議(1)
 第7回:輪読(「多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論」)と討議(2)
 第8回:輪読(「多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論」)と討議(3)
 第9回:輪読(「多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論」)と討議(4)
 第10回:中小企業向けアンケート・ヒアリング調査法の解説
 第11回:中小企業向けアンケート・ヒアリング調査の質問表の作成
 第12回:輪読(「中小企業白書・小規模企業白書 2025年版」)と討議(1)
 第13回:輪読(「中小企業白書・小規模企業白書 2025年版」)と討議(2)
 第14回a:中小企業の問題の解決に資する政策と経営手法に関する討議

履修上の注意

中小企業論演習ⅠとⅡ、およびⅢとⅣは連続履修すること。また、中小企業論研究Ⅰ、Ⅱを履修しておくこと。さらに、中小企業、産業、情報、地域経済、人口、労働などに関連する科目、例えば「中小企業論」「産業組織論」「地域産業論」「労働経済学」「国際経済学」「経済政策」「産業心理学」などを学んだ経験があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、授業内容に従って、教科書を熟読し、授業時のプレゼン発表用資料を作成し、提出できるようにしておくこと。また、復習としては、授業時に添削された発表用資料を修正し、次回授業時に修正済み資料を改めて提出すること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
 『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄(同友館)
 『いま中小企業ができる生産性向上』筒井 徹他(商工総合研究所)
 『中小企業白書・小規模企業白書 2025年版』中小企業庁(日経印刷)

参考書

『賢い企業は拡大主義より持続主義』碓氷悟史・大友 純(同文館出版)
 『価値づくりマーケティング』上原征彦・大友 純(丸善出版)

課題に対するフィードバックの方法

履修者は、提出したプレゼンテーション用資料の添削、及び授業中に行う発表の内容に対して、指導教員からのアドバイスを受ける。また、演習に参加している同級生及び上級生からの質疑応答を通じて、発表内容の理解を深める。

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料の提出、授業中に行うプレゼンテーション、教科書・参考書毎に行うレポート作成、調査等の研究活動への参画状況によって、総合的に評価する(総得点100点=プレゼンテーション用資料25点+プレゼンテーション発表25点+レポート25点+調査等の研究活動への参画状況(調査報告書の作成と提出)25点)。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積における中小企業・支援機関・協同組合等に対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会を実施する予定。

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	中小企業論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

修士論文概要書・研究報告書概要書の作成指導を通じて、中小企業経営及び支援策に関連した経営課題・政策課題の解決につながる研究テーマを設定し、論文・研究報告書の構成を確定する。

そこで、論文・研究報告書の作成に必要な中小企業論研究に関連した先行研究文献の輪読を通じて、日本語・外国後文献の読解力強化を図ると同時に、関連文献・資料・統計の収集と分析、論文・研究報告書の構想立案、アンケート調査票の作成とヒアリング調査の実施を並行して行う。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(「論文・研究報告書の書き方」の講義)
 第2回:輪読(「考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則」)と討議(1)
 第3回:輪読(「考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則」)と討議(2)
 第4回:輪読(「賢い企業は拡大主義より持続主義」)と討議(1)
 第5回:輪読(「賢い企業は拡大主義より持続主義」)と討議(2)
 第6回:論文・研究報告書・ヒアリング調査の構想書の発表と添削(1)
 第7回:論文・研究報告書・ヒアリング調査の構想書の発表と添削(2)
 第8回:論文・研究報告書・ヒアリング調査の構想書の発表と添削(3)
 第9回:論文・研究報告書・ヒアリング調査の構想書の発表と添削(4)
 第10回:論文・研究報告書・ヒアリング調査の構想書の発表と添削(5)
 第11回:論文・研究報告書の概要書の作成と添削(1)
 第12回:論文・研究報告書の概要書の作成と添削(2)
 第13回:論文・研究報告書の下書き作成と添削(1)
 第14回a:論文・研究報告書の下書き作成と添削(2)

履修上の注意

中小企業論演習ⅠとⅡ、およびⅢとⅣは連続履修すること。また、中小企業論研究Ⅰ、Ⅱを履修しておくこと。さらに、中小企業、産業、情報、地域経済、人口、労働などに関連する科目、例えば「中小企業論」「産業組織論」「地域産業論」「労働経済学」「国際経済学」「経済政策」「産業心理学」などを学んだ経験があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、授業内容に従って、教科書を熟読し、授業時のプレゼン発表用資料を作成、および論文の構想書も合わせて毎回の授業前に作成し、提出できるようにしておくこと。また、復習としては、授業時に添削された発表用資料と論文の構想書を修正し、次回授業時に修正済み資料を改めて提出すること。

なお、中小企業研究に関する論文作成の準備段階の指導となるため、各自、自分のテーマに沿った参考文献一覧を第2回目の授業時までに作成し、提出すること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
 『考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則』バーバラ・ミンツ(ダイヤモンド社)
 『賢い企業は拡大主義より持続主義』碓氷悟史・大友 純(同文館出版)
 『共生共益を実現する人づくりの経営』磯部 巖他(中央経済社)
 『Innovation Management』Allan Afuah (Oxford)

参考書

『思考の整理学』外山滋比古(筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

履修者は、提出したプレゼンテーション用資料の添削、及び授業中に行う発表の内容に対して、指導教員からのアドバイスを受ける。また、演習に参加している同級生及び上級生からの質疑応答を通じて、発表内容の理解を深める。

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料と論文の構想書の提出、授業中のプレゼンテーション、レポート(教科書毎に行う)、調査等の研究活動への参画状況、によって、総合的に評価する。総得点100点=プレゼンテーション用資料と論文の構想書40点+プレゼンテーション20点+レポート20点+調査等の研究活動への参画状況(調査報告書の作成と提出)20点。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会を実施する予定。

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	中小企業論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

修士論文概要書・研究報告書概要書を軸として、中小企業経営及び支援策に関連した経営課題・政策課題の解決につながる研究を行い、論文・研究報告書の構成を確定させ、論文執筆作業を進め、完成稿の50%以上の水準の論文執筆を目指す。

そこで、修士論文概要書・研究報告書概要書を軸として、論文・研究報告書の構成を確定させ、論文執筆作業を進める。そして、毎回の授業時に章あるいは節ごとを事前提出させ、その添削指導を行う。また、大学院研究論文等の応募論文の作成も行う。さらに、関連文献・資料・統計の収集と分析、アンケート調査票の作成とヒアリング調査の実施を並行して行う。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(年間、調査研究計画および論文執筆計画の作成)
第2回:論文添削と討議(1)
第3回:論文添削と討議(2)
第4回:ヒアリング・アンケート項目の設計(1)
第5回:論文添削と討議(3)
第6回:論文添削と討議(4)
第7回:ヒアリング・アンケート項目の設計(2)
第8回:論文添削と討議(5)
第9回:論文添削と討議(6)
第10回:ヒアリング・アンケート項目の設計(3)
第11回:論文添削と討議(7)
第12回:ヒアリング調査の結果報告と討議
第13回:ヒアリング調査の結果の論文への応用(講義)
第14回a:ヒアリング調査の結果の論文への応用(論文添削)

履修上の注意

中小企業論演習ⅠとⅡ、およびⅢとⅣは連続履修すること。また、中小企業論研究Ⅰ、Ⅱを履修しておくこと。なお、中小企業論研究Ⅰ、Ⅱを通じて、論文の構想書と章立てを完成させておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、履修者は初回授業時に、論文構想書と論文章立てを提出すること。また、毎回の授業時に論文執筆の進捗状況を説明する発表用資料と執筆途上の論文を必ず提出できるように、事前準備を行うこと。

復習として、発表用資料に基づいた授業中の発表時の討議の中で指摘されたことに従って、また授業時に添削された執筆途上の論文を修正すること、次の授業に備えること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
『企業の一生涯の経済学』橋本俊昭・安田武彦(ナカニシヤ出版)
『中小企業金融とベンチャー・ファイナンス』忽那憲治(東洋経済)
『Product/Market Strategies of Small and Medium-sized Enterprises』Bambergar (Avebury)

参考書

『マネジメントー基本と原則』ピーター・F・ドラッカー、上田惇生(訳)(ダイヤモンド社)

課題に対するフィードバックの方法

履修者は、提出した修士論文あるいは研究報告書の下書きの添削、及び授業中に行う発表の内容に対して、指導教員からのアドバイスを受ける。また、演習に参加している同級生及び上級生からの質疑応答を通じて、発表内容の理解を深める。

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料と論文の構想書の提出、授業中のプレゼンテーション、レポート(教科書毎に行う)、調査等の研究活動への参画状況、によって、総合的に評価する。
総得点100点=プレゼンテーション用資料と論文の構想書40点+プレゼンテーション20点+レポート20点+調査等の研究活動への参画状況(調査報告書の作成と提出)20点。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に大手企業の工場視察会を実施する予定。

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	中小企業論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

中小企業経営及び支援策に関連した経営課題・政策課題の解決につながる研究を行い、修士論文・研究報告書を完成させる。また、大学院研究論文等の学内外への論文の応募も行う。そこで、修士論文・研究報告書の作成として、毎回の授業時に執筆分(章あるいは節ごと)を事前提出させ、その添削指導を行い、論文を完成させる。また、毎月、修士論文・研究報告書の中間報告を行うと同時に、政経学会での報告準備も行い、11月の同学会での発表を通じて完成度の高い論文の作成を目指す。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(年間、調査研究計画および論文執筆計画の修正)
第2回:論文添削と討議(1)
第3回:論文添削と討議(2)
第4回:修士論文・研究報告書の中間報告会(1)
第5回:政経学会での報告準備(1)
第6回:政経学会での報告準備(2)
第7回:論文添削と討議(3)
第8回:修士論文・研究報告書の中間報告会(2)
第9回:ヒアリング調査の実施
第10回:ヒアリング調査報告発表と討議
第11回:論文添削と討議(4)
第12回:修士論文・研究報告書の中間報告会(3)
第13回:論文添削と討議(5)
第14回a:修士論文・研究報告書の最終報告会

履修上の注意

中小企業論演習ⅠとⅡ、およびⅢとⅣは連続履修すること。また、中小企業論研究Ⅰ、Ⅱを履修しておくこと。なお、中小企業論研究Ⅰを終了した段階で、論文の50%以上を完成させておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、履修者は初回授業時に、論文構想書と論文章立てを提出すること。また、毎回の授業時に論文執筆の進捗状況を説明する発表用資料と執筆途上の論文を必ず提出できるように、事前準備を行うこと。

復習として、発表用資料に基づいた授業中の発表時の討議の中で指摘されたことに従って、また授業時に添削された執筆途上の論文を修正すること、次の授業に備えること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営:環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
『中小企業組合の歴史的展開』山本 貢(新山社)
『Innovation Management』Allan Afuah (Oxford)
『Lean and Meam』Bennet Harrison (BasicBooks)

参考書

『言葉でたたかう技術』加藤恭子(文藝春秋)

課題に対するフィードバックの方法

履修者は、提出した修士論文あるいは研究報告書の下書きの添削、及び授業中に行う発表の内容に対して、指導教員からのアドバイスを受ける。また、演習に参加している同級生及び上級生からの質疑応答を通じて、発表内容の理解を深める。

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料と論文の構想書の提出、授業中に行うプレゼンテーション、教科書・参考書毎に作成する行うレポート、調査等の研究活動への参画状況によって、総合的に評価する。

総得点100点=プレゼンテーション用資料と論文の構想書40点+プレゼンテーション20点+レポート20点+調査等の研究活動への参画状況(調査報告書の作成と提出)20点。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に大手企業の工場視察会を実施する予定。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	環境経済学演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士（経済学）大森 正之		

授業の概要・到達目標

- Ⅰ
1. 環境経済学の復習
 2. 文献収集・分析力の養成
 3. 研究テーマの検討

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 論文構想の発表(1)
第3回 論文構想の発表(2)
第4回 文献リスト作成準備
第5回 文献リストの発表
第6回 基本文献資料の講読(1)
第7回 基本文献資料の講読(2)
第8回 基本文献資料の講読(3)
第9回 基本文献資料の講読(4)
第10回 論文構想の発表(3)
第11回 論文構想の発表(4)
第12回 研究方法の探索
第13回 研究テーマの発表
第14回 総括

履修上の注意

明確な問題意識を持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義科目の内容の復習をすること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

目標達成度を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	環境経済学演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士（経済学）大森 正之		

授業の概要・到達目標

- Ⅱ
1. 企業調査、環境関連イベントへの参加
 2. 研究テーマの確定、文献分析
 3. 論文のアウトラインの明確化

授業内容

第1回 論文構想の発表第2回 研究方法と作業仮説の検討(1)
第2回 論文構想の発表第2回 研究方法と作業仮説の検討(2)
第3回 関連文献資料の講読(1)
第4回 関連文献資料の講読(2)
第5回 関連文献資料の講読(3)
第6回 関連文献資料の講読(4)
第7回 論文構想の発表
第8回 概要書構想の発表(1)
第9回 関連文献資料の講読(5)
第10回 概要書構想の発表(2)
第11回 文献リストの発表
第12回 概要書初校発表
第13回 概要書再校発表
第14回 総括

履修上の注意

明確な問題意識を持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義科目の内容を復習しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

目標達成度を評価する。

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	環境経済学演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

- Ⅲ
1. 研究報告概要書の再検討
 2. 論文作成と修正
 3. 研究報告会の準備

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究方法と作業仮説の検討
第3回 文献研究・フィールドワークの報告(1)
第4回 文献研究・フィールドワークの報告(2)
第5回 文献研究・フィールドワークの報告(3)
第6回 文献研究・フィールドワークの報告(4)
第7回 調査研究の中間報告(1)
第8回 文献研究・フィールドワークの報告(5)
第9回 文献研究・フィールドワークの報告(6)
第10回 文献研究・フィールドワークの報告(7)
第11回 調査研究の中間報告(2)
第12回 作業仮説検証結果発表
第13回 論文構想発表
第14回 総括

履修上の注意

明確な問題意識を持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義科目の内容を復習しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

目標達成度を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	環境経済学演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

- Ⅳ
1. 論文の中間報告
 2. 論文の完成

授業内容

第1回 論文構想発表(1)
第2回 研究方法と作業仮説の検討
第3回 文献研究・フィールドワークの報告(1)
第4回 文献研究・フィールドワークの報告(2)
第5回 収集データの分析(1)
第6回 収集データの分析(2)
第7回 収集データの分析(3)
第8回 収集データの分析(4)
第9回 論文構想発表(2)
第10回 執筆論文発表(1)
第11回 執筆論文発表(2)
第12回 執筆論文発表(3)
第13回 完成論文発表
第14回 論文面接準備

履修上の注意

明確な問題意識を持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義科目の内容を復習しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

目標達成度を評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	協同組合論演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 大高 研道		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、協同組合・社会的連帯経済および現代社会の構造理論に関する基礎文献の読み込みを徹底的に行う。

《到達目標》

修士論文作成の際の基盤となる先行研究のレビューを通して、基礎概念および研究アプローチの確認・確立をめざす。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマ・問題意識の検討
- 第3回 研究計画の検討
- 第4回 先行研究のターゲットの検討
- 第5回 基礎文献講読(1)
- 第6回 基礎文献講読(2)
- 第7回 基礎文献講読(3)
- 第8回 基礎文献講読(4)
- 第9回 研究テーマの再検討
- 第10回 先行研究の検討(1)
- 第11回 先行研究の検討(2)
- 第12回 先行研究の検討(3)
- 第13回 先行研究の検討(4)
- 第14回 論文構想の再検討

履修上の注意

修士論文の問題意識および社会的意義を確認し、深める時期であるため、幅広い文献講読および実践への関与が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》理論研究に関する基礎文献を学ぶ際にも、その内容理解だけでなく、常に自身の研究テーマとの関連で考察し位置づける作業を行ったうえで演習にのぞむこと。
《復習》毎回の演習終了後、論点及びさらに学ぶ必要のある論考についてのノートを作成すること。

教科書

協同組合・社会的連帯経済の基礎理論に関しては、テキスト候補の中から初回講義時に履修者と相談のうえ決定する。先行研究レビューに関しては、履修者の研究テーマに即して随時選択する。

参考書

- 『人間の経済1・2』カール・ポランニー（岩波書店）
- 『人間の条件』ハンナ・アレント（筑摩書房）
- 『不平等の再検討』アマルティア・セン（岩波書店）
- 『農と食の経済と協同』山田定市（日本経済評論社）
- 『協同組合論』美土路達雄（筑波書房）
- 『共同体の基礎理論』内山節（農文協）
- 『闘う社会的企業』藤井敦史・原田晃樹・大高研道（勁草書房）
- 『反乱する都市 資本のアーバンイゼーションと都市の再創造』D.ハーヴェイ（作品社）
- 『現代の経済思想』橋本務編（勁草書房）
- 『贈与と共生の経済倫理学 ポランニーで読み解く金子美登の実践と「お礼制」』折戸えと（ヘウレーカ）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50％、平常点(授業での報告・発表) 50％

その他

科目ナンバー：(PE) ECN592J			
地域・環境系		備考	
科目名	協同組合論演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 大高 研道		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、修士論文の問題意識(研究課題)および先行研究レビュー部分の執筆を念頭に指導する。同時に、事例分析対象の選定及び予備調査等の検討をすすめる。

《到達目標》

修士論文の全体像(構想)をより具体化し、序章と先行研究にかかわる章の草稿執筆完了をめざす。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究テーマの最終確認
- 第3回 研究計画の検討
- 第4回 先行研究リストの再検討
- 第5回 関連文献の輪読(1)
- 第6回 関連文献の輪読(2)
- 第7回 関連文献の輪読(3)
- 第8回 関連文献の輪読(4)
- 第9回 研究の進捗状況報告
- 第10回 序章(問題意識及び研究課題)の検討(1)
- 第11回 序章(問題意識及び研究課題)の検討(2)
- 第12回 先行研究レビューの成果報告・検討(1)
- 第13回 先行研究レビューの成果報告・検討(2)
- 第14回 修士論文の実証研究部分および全体構成の検討

履修上の注意

修士論文の問題意識および課題を焦点化していく時期となる。「演習Ⅰ」とは異なり、より自身の研究テーマにひきつけた文献講読が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》理論研究に関する基礎文献を学ぶ際にも、その内容理解だけでなく、常に自身の研究テーマとの関連で考察し位置づける作業を行ったうえで演習にのぞむこと。
《復習》毎回の演習終了後、論点及びさらに学ぶ必要のある論考についてのノートを作成すること。

教科書

先行研究レビューに関しては、履修者の研究テーマに即して随時選択する。

参考書

- 『人間の経済1・2』カール・ポランニー（岩波書店）
- 『不平等の再検討』アマルティア・セン（岩波書店）
- 『農と食の経済と協同』山田定市（日本経済評論社）
- 『協同組合論』美土路達雄（筑波書房）
- 『闘う社会的企業』藤井敦史・原田晃樹・大高研道（勁草書房）
- 『未来への大分岐 資本主義の終わりか、人間の終焉か?』斎藤幸平編（集英社新書）
- 『反乱する都市 資本のアーバンイゼーションと都市の再創造』D.ハーヴェイ（作品社）
- 『現代の経済思想』橋本務編（勁草書房）
- 『贈与と共生の経済倫理学 ポランニーで読み解く金子美登の実践と「お礼制」』折戸えと（ヘウレーカ）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50％、平常点(授業での報告・発表) 50％

その他

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	協同組合論演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		大高 研道

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、調査の進捗状況確認および分析方法の検討を中心に、修士論文の作成にむけた指導を行う。

《到達目標》

修士論文の執筆にとりかかり、1st Draftの完成をめざす。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 研究テーマ・計画の確認
第3回 分析枠組みの確認・検討
第4回 調査方法・内容の確認・検討
第5回 事例分析結果の検討(1)
第6回 事例分析結果の検討(2)
第7回 先行研究の再検討(1)
第8回 先行研究の再検討(2)
第9回 修士論文構成の見直し(1)
第10回 修士論文構成の見直し(2)
第11回 補足調査の検討(1)
第12回 補足調査の検討(2)
第13回 第一次草稿の提出
第14回 修士論文完成に向けた今後の計画の検討

履修上の注意

事例調査・分析を中心とした具体的に修士論文をまとめる作業が中心になる。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》翌週までに前回演習での指摘事項を踏まえた論文の書き直し。

《復習》毎回の演習終了後、論点及びさらに学ぶ必要のある論考についてのノートを作成すること。

教科書

先行研究レビューに関しては、履修者の研究テーマに即して随時選択する。

参考書

『人間の経済1・2』カール・ポランニー（岩波書店）
『不平等の再検討』アマルティア・セン（岩波書店）
『農と食の経済と協同』山田定市（日本経済評論社）
『協同組合論』美土路達雄（筑波書房）
『闘う社会的企業』藤井敦史・原田晃樹・大高研道（勁草書房）
『未来への大分岐 資本主義の終わりか、人間の終焉か？』斎藤幸平編（集英社新書）
『反乱する都市 資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』D.ハーヴェイ（作品社）
『現代の経済思想』橋本務編（勁草書房）
『贈与と共生の経済倫理学 ポランニーで読み解く金子美登の実践と「お札制」』折戸えとな（ヘウレーカ）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%，平常点（授業での報告・発表）50%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN692J			
地域・環境系		備考	
科目名	協同組合論演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		大高 研道

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、修士論文の作成にむけた指導を行う。

《到達目標》

修士論文の完成をめざす。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 研究テーマ・計画の確認
第3回 一次草稿の見直し
第4回 補足調査の検討・指導
第5回 先行研究の再検討
第6回 第1章「課題」の校正
第7回 第二次草稿の提出
第8回 補足調査・先行研究の見直し
第9回 修士論文の推敲(1)
第10回 修士論文の推敲(2)
第11回 修士論文の推敲(3)
第12回 修士論文の完成・提出
第13回 研究成果の発表にむけた検討
第14回 総括

履修上の注意

修士論文の推敲・完成が中心的な作業となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》翌週までに前回演習での指摘事項を踏まえた論文の書き直し。

《復習》毎回の演習終了後、論点及びさらに学ぶ必要のある論考についてのノートを作成すること。

教科書

先行研究レビューに関しては、履修者の研究テーマに即して随時選択する。

参考書

『人間の経済1・2』カール・ポランニー（岩波書店）
『不平等の再検討』アマルティア・セン（岩波書店）
『農と食の経済と協同』山田定市（日本経済評論社）
『協同組合論』美土路達雄（筑波書房）
『闘う社会的企業』藤井敦史・原田晃樹・大高研道（勁草書房）
『未来への大分岐 資本主義の終わりか、人間の終焉か？』斎藤幸平編（集英社新書）
『反乱する都市 資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』D.ハーヴェイ（作品社）
『現代の経済思想』橋本務編（勁草書房）
『贈与と共生の経済倫理学 ポランニーで読み解く金子美登の実践と「お札制」』折戸えとな（ヘウレーカ）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%，平常点（授業での報告・発表）50%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市空間関連の問題群に関する様々な経済地理学的アプローチの総体的理解と各自の研究における応用能力の向上を主な目標とする。都市空間と経済資源集積に関するさまざまな都市経済地理学的アプローチについて、モデル論的展開と実証研究事例を外国語文献を含め適宜紹介しながら、上記の目標を実現できるように鋭意努力する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション・都市問題と地域問題
- 第2回：都市と都市化
- 第3回：都市の集積と拡散
- 第4回：都市へのシステム論的アプローチ(1)・ランクサイズ論ほか
- 第5回：都市へのシステム論的アプローチ(2)・世界都市論など
- 第6回：都市空間の内部構造論(1)
- 第7回：都市空間の内部構造論(2)
- 第8回：住宅・土地問題と政策的対応(1)
- 第9回：住宅・土地問題と政策的対応(2)
- 第10回：経済成長と地域間格差形成(1)
- 第11回：経済成長と地域間格差形成(2)
- 第12回：都市・地域間交易及び交通
- 第13回：地域の経済的自立とその限界
- 第14回：総括的検討

履修上の注意

講義科目ではあるが、ある程度進んだ数学モデルの操作と大量の参考となる英文参考論文の読解が必要となるので、それらにも主体的、積極的に取り組めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

モデルと英文の適切な理解に基づいた運用。関連したレジュメの事前作成&提出を求める場合もある。

教科書

特に定めないが、開始時に指定する多量の参考文献を積極的に吸収することが求められる。

参考書

テーマが多岐にわたるため、外国語分権を含めた指定する参考文献を積極的に参照してもらう。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

レポート(40%)、試験(50%)及び参加度(10%)の総合評価。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	経済地理学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学) 廣松 悟		

授業の概要・到達目標

都市システム論関連の問題群に関する様々な経済地理学的アプローチの総体的理解と各自の研究における応用能力の向上を主な目標とする。都市システム変動と政治経済上のグローバル化に関連した各種の都市経済地理学的アプローチについて、モデル論的展開と実証研究事例を外国語文献を含め適宜紹介しながら、参加者が上記の目標を実現できるように鋭意努力する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション・「世界都市・論」再考
- 第2回：都市システム論と世界システム論
- 第3回：都市経済の本質と空間問題
- 第4回：都市の空間的ネットワーク
- 第5回：都市連関の空間科学
- 第6回：経済のグローバル化と都市ネットワーク分析(1)
- 第7回：経済のグローバル化と都市ネットワーク分析(2)
- 第8回：経済のグローバル化と高次サービス連関(1)
- 第9回：経済のグローバル化と高次サービス連関(2)
- 第10回：経済のグローバル化と都市連関(1)
- 第11回：経済のグローバル化と都市連関(2)
- 第12回：経済のグローバル化と都市連関(3)
- 第13回：近代世界・都市システムとグローバル経済社会・回顧と展望
- 第14回：総括

履修上の注意

講義科目ではあるが、ある程度進んだ数学モデルの操作と大量の参考となる英文参考論文の読解が必要となるので、それらにも積極的に取り組めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

モデルと英文の正確な理解と運用を図るため、レジュメ等の作成と事前提出を求める場合がある。

教科書

特に定めない。開始時に指定する外国語のそれを含めた参考文献を積極的に吸収することが求められている。

参考書

P. J. Taylor, 2004, World City Network: A Global Urban Analysis, NY: Routledge. etc.

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

レポート(40%)、試験(50%)及び参加度(10%)の総合評価。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

地域産業に関わる文献研究および事例分析を通じて、地域の持続的発展の担い手である地域産業の発生、発展、維持および衰退の理論的枠組を体系的に習得するとともに、その課題を実証的に捉える。地域産業論研究Ⅰでは、産業立地論および産業集積論のエッセンスを学修する。

【到達目標】

地域産業論研究は、理論だけでなく、理論と実態との関連性を創造的に思考するものである。このため、地域と産業についての関係性を理解し、地域における産業の役割を深く認識するとともに、地域産業分野における実態への理論の適用能力、および実態からの理論化能力の習得をめざす。

授業内容

- 第1回 地域産業論研究の全体像
- 第2回 文献研究：農業立地論の基礎と応用
- 第3回 文献研究：工業立地論の基礎と応用
- 第4回 文献研究：中心地理論の基礎と応用
- 第5回 文献研究：オフィス立地と都市システム論
- 第6回 文献研究：集積の理論
- 第7回 文献研究：空間経済学
- 第8回 文献研究：現代工業の立地調整と進化経済地理学
- 第9回 文献研究：グローバリゼーションと多国籍企業の立地
- 第10回 文献研究：知識フローと地域イノベーションの新展開
- 第11回 文献研究：商業立地の刷新と中心市街地の衰退問題
- 第12回 文献研究：創造性と文化産業の立地－アニメ産業を例に－
- 第13回 文献研究：少子高齢化社会と福祉サービスの立地
- 第14回 文献研究：環境問題と立地論

履修上の注意

講義科目ではあるが、大学院での研究科目であり、予習を前提とし、講義時間は双方向の議論を中心とする。また、地域産業研究ⅠとⅡは連続履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、授業内容に合わせて教科書または論文を事前に熟読し、事前に要点、質問、意見をまとめて、講義中に議論できるようにしておくこと。各回の担当を決めて、レジュメをまとめ、発表する。調べた内容はレポートとして提出すること。また、復習として、講義を振り返って不明な点を明確にし、次回に質問できるようにしておくこと。

教科書

『現代の立地論』松原宏編著(古今書院)または『BASIS地域産業論』奥山雅之(清明書院)

参考書

『経済地理学キーコンセプト』青山裕子、スーザン・ハンソン、ジェームズ・T.マーフィー（古今書院）
『都市の原理』Jane Jacobs著、中江利忠・加賀谷洋一訳(鹿島出版会)
『脱「国境」の経済学－産業立地と貿易の新理論』Paul Krugman著、北村行伸・妹尾美起・高橋亘訳(東洋経済新報社)
『競争戦略論Ⅱ』Michael E. Porter著、竹内弘高訳(ダイヤモンド社)
『地域中小企業と産業集積』加藤秀雄(新評論)
『新地域産業論－産業の地域化を求めて』伊藤正昭(学文社)
『産業集積の経済地理学』山本健児(法政大学出版局)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、講義中に口頭または板書にてフィードバックを行う。オンラインの課題については、メールにてフィードバックを行う。

成績評価の方法

講義での議論への貢献度50%、レポート・発表50%で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	地域産業論研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

地域産業に関わる文献研究および事例分析を通じて、地域の持続的発展の担い手である地域産業の発生、発展、維持および衰退の理論的枠組を体系的に習得するとともに、その課題を実証的に捉える。地域産業論研究Ⅱでは、地域産業の現代的課題を中心に学修する。

【到達目標】

地域産業論研究は、理論だけでなく、理論と実態との関連性を創造的に思考するものである。このため、地域と産業についての関係性を理解し、地域における産業の役割を深く認識するとともに、地域産業分野における実態への理論の適用能力、および実態からの理論化能力の習得をめざす。

授業内容

- 第1回 地域産業論研究の現代的論点
- 第2回 文献研究：需要縮小と地域産業構造
- 第3回 文献研究：生産の海外化と地域産業構造
- 第4回 文献研究：技術革新と地域産業構造
- 第5回 文献研究：地域イノベーションシステムと地域産業構造
- 第6回 産業研究：海外衣料品生産時代をめぐる生産・流通構造変化の特質
- 第7回 産業研究：日本における生地生産の拡大と縮小の構図
- 第8回 産業研究：アパレル企業の諸分類と国内縫製業の拡大と縮小
- 第9回 産業研究：小売市場変化を起点とする生産・流通構造変化と今後の行方
- 第10回 地域産業研究：産業地域の構造変化の類型と諸要因
- 第11回 地域産業研究：需要縮小と構造変化 和装産地：西陣・丹後・桐生・十日町・米沢
- 第12回 地域産業研究：生産の海外化と構造変化 縫製・アパレル産地：北埼玉・岐阜・倉敷
- 第13回 地域産業研究：生産技術の革新と構造変化 横編ニット産地：新潟・山形・群馬・山梨
- 第14回 地域産業研究：北海道十勝地方の食産業集積

履修上の注意

講義科目ではあるが、大学院での研究科目であり、予習を前提とし、講義時間は双方向の議論を中心とする。また、地域産業研究ⅠとⅡは連続履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、授業内容に合わせて教科書または論文を事前に熟読し、事前に要点、質問、意見をまとめて、講義中に議論できるようにしておくこと。各回の担当を決めて、レジュメをまとめ、発表する。調べた内容はレポートとして提出すること。また、復習として、講義を振り返って不明な点を明確にし、次回に質問できるようにしておくこと。

教科書

『繊維・アパレルの構造変化と地域産業－海外生産と国内産地の行方－』加藤秀雄・奥山雅之(文眞堂)
『知識と文化の経済地理学』松原宏編著(古今書院)
『経済地理学キーコンセプト』青山裕子ほか著(古今書院)

参考書

『産業集積の本質－柔軟な分業・集積の条件』伊丹敬之・橘川武郎・松島茂編(有斐閣)
『クリエイティブ都市論』Richard L. Florida著、井口典夫訳(ダイヤモンド社)
『創造都市の経済学』佐々木雅幸(勁草書房)
『現代日本の産業集積研究』渡辺幸男(慶應大学出版会)
『新地域産業論－産業の地域化を求めて』伊藤正昭(学文社)
『外需時代の日本産業と中小企業』加藤秀雄(新評論)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、講義中に口頭または板書にてフィードバックを行う。オンラインの課題については、メールにてフィードバックを行う。

成績評価の方法

講義での議論への参画度・貢献度50%、レポート・発表50%で評価する。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	中小企業論研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

中小企業論研究は、理論と実証、実態調査研究などの融合分野である。従来、中小企業論といえば、二重構造論、下請重層構造論などの構造論を中心に論じられてきた。あるいは、産業別、地域別に中小企業の経営活動を捉えようとするたて割型の研究手法が主体であった。

しかし、今日のように、変化のスピードが早く、グローバル化と高度情報化(AI/IoT・DX化)が進んだ時代の趨勢から判断すれば、現実世界における真実から派生した中小企業論研究の必要性が高まっているといえる。

そこで、中小企業論研究Ⅰにおいては、中小企業論研究の必須理論として、中小企業協同組合論、ベンチャービジネス論、事業創造論などを学ぶ。さらに、実際に調査活動(フィールドワーク)を取り入れた課外活動も行うことで、生の中小企業経営の実態を分析、評価する能力を養成していく。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(中小企業研究の視座)
- 第2回:革新的な中小企業の経営特質
- 第3回:中小企業問題と中小企業政策
- 第4回:中小企業組合等連携組織の理論と新実践
- 第5回:中小企業の連携・組織化政策の新展開
- 第6回:グローバル時代における中小企業経営
- 第7回:中小製造業の経営特質と史的展開
- 第8回:中小製造業と産業クラスター
- 第9回:中小製造業のものづくり力向上への挑戦
- 第10回:中小物流業の経営特質と史的展開
- 第11回:中小物流業のロジスティクス新展開
- 第12回:中小流通業の経営特質と史的展開
- 第13回:中小流通業と大手流通チェーンの行方
- 第14回:中小サービス業の生産性向上

履修上の注意

中小企業論研究Ⅰの履修を希望する学生は学部学生時代に、中小企業、産業、情報、地域経済、人口、労働などに関連する科目、例えば「中小企業論」「産業組織論」「地域産業論」「環境経済学」「労働経済学」「経済政策」「産業心理学」などを学んだ経験があることが望ましい。また、中小企業論研究ⅠとⅡは連続履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、授業内容に合わせて、教科書を事前に熟読し、事前に質問事項をまとめ、授業時に質問できるようにしておくこと。また、復習として、配布されたレジュメを利用して、当該授業を振り返るために、Oh-ol Meijiのアンケート機能を通じた課題に答える。また、課題について不明な点を明確にし、次回授業時に質問できるように、質問事項をまとめておくこと。

教科書

- 『持続可能社会を築く中小企業経営：環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
- 『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄(同友館)
- 『マネジメント基本全集15 ベンチャービジネス論(ベンチャリング)：ベンチャービジネスとマネジメント』今村哲・森下正(学文社)
- 『中小企業 これからの成長戦略』百瀬恵夫・D.H.ウイッター・森下正(東洋経済新報社)
- 『中小企業白書・小規模企業白書 2025年版』中小企業庁(日経印刷)

参考書

- 『シリコンバレー 最強の仕組み』デボラ・ペリー・ピシオーニ他・桃井緑美子(訳)(日経BP)
- 『ザ・ビジョン：進むべき道は見えているか』ケン・ブランチャード他・田辺希久子(訳)(ダイヤモンド社)
- 『失敗の科学 失敗から学習する組織、学習できない組織』マシュー・サイド、有枝春(訳)(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのアンケート機能を通じて提出された課題について、指導教員がコメント欄に課題解答のポイントを解説する。

成績評価の方法

成績は、授業中、および授業後に実施するOh-ol Meijiのアンケート機能を使用したリアクション・ペーパーの提出により、総合的に評価する。

総得点100点＝全14回分の授業の事後学習としてリアクション・ペーパー 100点。

その他

授業は、教員からの事前配布資料、教科書と課題図書に従って、教員による概要解説の後、履修者からの質疑に基づく討議を行う。

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会を実施する予定。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	中小企業論研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

中小企業論研究は、理論と実証、実態調査研究などの融合分野である。従来、中小企業論といえば、二重構造論、下請重層構造論などの構造論を中心に論じられてきた。あるいは、産業別、地域別に中小企業の経営活動を捉えようとするたて割型の研究手法が主体であった。

しかし、今日のように、変化のスピードが早く、グローバル化と高度情報化(AI/IoT・DX化)が進んだ時代の趨勢から判断すれば、現実世界における真実から派生した中小企業論研究の必要性が高まっているといえる。

そこで、中小企業論研究Ⅱにおいては、中小企業論研究の必須理論として、中小企業協同組合論、ベンチャービジネス論、事業創造論などを学ぶ。さらに、実際に調査活動(フィールドワーク)を取り入れた課外活動も行うことで、生の中小企業経営の実態を分析、評価する能力を養成していく。

授業内容

- 第1回:イントロダクション(規制改革と中小企業)
- 第2回:中小企業による環境経営
- 第3回:中小企業金融の実態と課題
- 第4回:IT 革命と中小企業経営
- 第5回:中小企業の人材育成
- 第6回:地方創生と中小企業経営
- 第7回:企業家精神と産業風土
- 第8回:ベンチャー・中小企業の新規創業
- 第9回:ベンチャー・中小企業による新事業創造
- 第10回:ベンチャー・中小企業のマーケティング戦略
- 第11回:ベンチャー・中小企業のブランド戦略
- 第12回:ベンチャー・中小企業のロジスティックス
- 第13回:ベンチャー・中小企業のSDG s
- 第14回:ベンチャー・中小企業の経営再構築と危機管理

履修上の注意

中小企業論研究Ⅱの履修を希望する学生は学部学生時代に、中小企業、産業、情報、地域経済、人口、労働などに関連する科目、例えば「中小企業論」「産業組織論」「地域産業論」「環境経済学」「労働経済学」「経済政策」「産業心理学」などを学んだ経験があることが望ましい。また、中小企業論研究ⅠとⅡは連続履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、授業内容に合わせて、教科書を事前に熟読し、事前に質問事項をまとめ、授業時に質問できるようにしておくこと。また、復習として、配布されたレジュメを利用して、当該授業を振り返るために、Oh-ol Meijiのアンケート機能を通じた課題に答える。また、課題について不明な点を明確にし、次回授業時に質問できるように、質問事項をまとめておくこと。

教科書

- 『持続可能社会を築く中小企業経営：環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一(八千代出版)
- 『現代日本の中小企業』植田浩史(岩波書店)
- 『新・日本の経営』ジェームス・C・アベグレン(日本経済新聞社)
- 『デミングの組織論』武田 修三郎(東洋経済新報社)
- 『世界を変えたビジネス思想家』ダイヤモンド社(ダイヤモンド社)

参考書

- 『多様性の科学 画一的で凋落する組織、複数の視点で問題を解決する組織』マシュー・サイド(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのアンケート機能を通じて提出された課題について、指導教員がコメント欄に課題解答のポイントを解説する。

成績評価の方法

成績は、授業中、および授業後に実施するOh-ol Meijiのアンケート機能を使用したリアクション・ペーパーの提出により、総合的に評価する。

総得点100点＝全14回分の授業の事後学習としてリアクション・ペーパー 100点。

その他

授業は、教員による事前配布資料、教科書と課題図書に従って、教員による概要解説の後、履修者による質疑応答に基づく討議を行う。

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会を実施する予定。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	環境経済学研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

Ⅰ 経済学は自然および環境をどのように理解してきたのか？経済活動は公害や環境破壊といった事象にどのように関与してきたのか？そして現在、地域社会から地球規模に至る環境問題にたいして経済学、そして消費者・企業・政府さらに国際機関はどのような処方箋を準備しているのか？授業では環境経済学の形成史をたどりつつ、以上の諸論点を解明する。そして環境政策の様々な手法(法的な直接規制、経済財政的規制、情報的教育的誘導)がどのように構想され、その導入がどのように模索されたかを跡付ける。

授業の到達目標を企業及び政府の現行の環境政策について、代案を準備できる能力の形成におきます。

授業内容

- 第1回目 環境経済学の定義・方法・範囲
- 第2回目 古典派経済学における環境問題の不在
- 第3回目 環境経済学の源流Ⅰ：J.S.ミルの自然理解と天恵物
- 第4回目 環境経済学の源流Ⅱ：J.S.ミルにおける定常状態論と開発抑制志向
- 第5回目 環境経済学の源流Ⅲ：J.S.ミルのコモンズ保存活動とナショナルトラスト
- 第6回目 環境経済学の源流Ⅳ：シジウィックとフォーセットによるミルの継承
- 第7回目 環境経済学の源流Ⅴ：ジュヴォンズによる「負の財」の発見
- 第8回目 環境経済学の端緒的形成Ⅰ：マーシャルの自由財と外部性論
- 第9回目 環境経済学の端緒的形成Ⅱ：マーシャルの都市住環境保全論と空気浄化税
- 第10回目 環境経済学の端緒的形成Ⅲ：マーシャルのゾーニング案と都市建築規制
- 第11回目 環境経済学の形成Ⅰ：ビグーの「負のサービス」と公私の限界生産物乖離論
- 第12回目 環境経済学の形成Ⅱ：ビグーの環境政策論(自主交渉、規制、税・補助金)
- 第13回目 制度学派の環境経済学：カップの社会的費用論と直接規制
- 第14回目 新制度学派の環境経済学：コースの社会的費用問題(コースの定理と排出権取引)

履修上の注意

できる限り原典にあたり、諸概念を厳密に検討する。その過程で現在の環境経済学が古典派経済学、新古典派経済学、「法と経済」学派の各学派における環境および自然資源問題に関する経済理論的な認識をどのように継承し、あるいは継承せずに議論を展開しているかに着目する。そのため、原典だけでなく、現代のテキストを併読する。よって現代的な環境経済学の諸課題とそれらへの理論的・政策的対応に深く関心を持つ受講者が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

ミクロ経済学の外部性、ビグー税、排出量取引を復習しておくこと。

教科書

教科書は原則として使用しない。受講者はとりあえず以下の参考書を批判的に検討されたい。

参考書

Daly Harman E. (1996) 1, Beyond Growth, Beacon Press, Boston, 邦訳 新田功・蔵本忍・大森正之共訳(2005)『持続可能な発展の経済学』みすず書房

大森正之 (2005), 「ケンブリッジ環境経済思想の形成と展開」, 金子光男・尾崎和夫編著(2005), 『環境の思想と倫理』所収, 人間の科学社

de Steiger J. E. (1997), The Age of Environmentalism, WCG-McGraw-Hill, Boston, 邦訳

新田功・蔵本忍・大森正之共訳(2001)『環境保護主義の時代』多賀出版

des Jardia J. R. (2001), Enviromental Ethics 3ed. Wadsworth, California, 邦訳 新田功・生方卓・蔵本忍・大森正之共訳(2005)『環境倫理学』, 人間の科学社

Peter Soderbaum (2008), Understanding Sustainability Economics, 大森正之, 小祝慶紀, 野田浩二共訳(2010)『持続可能性の経済学を学ぶ』人間の科学社

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参画度で半分、環境経済学に関するレポートで半分。

その他

適宜、授業中に詳しく説明します。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	環境経済学研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

Ⅱ 1960年代の先進諸国における環境政策の模索とその後の導入を契機に、経済活動での環境利用における環境資源の節約、すなわち環境経済(Environmental Economy)の過程が始動する。80年代以降の廃棄物問題や地球規模の環境問題への関心を契機に、企業の自主的な環境管理活動から環境志向的な技術革新が生じ、台頭する環境志向の消費者群との連携からエコグッズが開発される。授業ではこうした環境ビジネスの展開に着目する。

授業の到達目標を企業及び政府の現行の環境政策について、代案を準備できる能力の形成におきます。

授業内容

- 第1回目 市場経済の形成と環境問題(前近代～第二次世界大戦)
- 第2回目 市場の失敗と環境政策の模索・導入(戦後～1970年代)
- 第3回目 環境経済学の対応(厚生経済学の限界とマルクス学説の適用)
- 第4回目 環境経済学の課題(マルクス学説の限界とシュンペーターのリスク論)
- 第5回目 環境政策論Ⅰ：環境立法と直接規制
- 第6回目 環境政策論Ⅱ：直接規制と環境補助金および環境課徴金
- 第7回目 環境政策論Ⅲ：直接規制とPPPおよび環境産業の形成
- 第8回目 環境政策論Ⅳ：緑の消費者と緑の企業の連携(エコラベリング制度)
- 第9回目 環境ビジネス論Ⅰ：「公害防止は儲かる」仮説とエコノベーション
- 第10回目 環境ビジネス論Ⅱ：環境ソフトビジネスの普及
- 第11回目 環境マネジメント論Ⅰ：環境管理と環境監査(EMASとISO14000)
- 第12回目 環境マネジメント論Ⅱ：環境管理・監査システムおよび導入の経済的意義
- 第13回目 企業の環境経済Ⅰ：環境経済学から環境節約学へ
- 第14回目 企業の環境経済Ⅱ：エコテクノストラクチャーの形成と環境戦略

履修上の注意

エコビジネス、環境産業の動向について多様なメディアから情報を集めておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

興味のある企業の有価証券報告書と環境報告書および環境会計をウェブで検索し、研究しておくこと。

教科書

教科書は原則として使用しない。

参考書

担当者が作成した明大ウェブ上の「エコグッズ・サービス&ビジネス博物館」にある年表や文献を参照されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参画度で半分、環境経済学に関するレポートで半分。

その他

適宜、授業中に詳しく説明します。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	協同組合論研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 Ph.D.	大高 研道	

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

現代社会は、貧困や飢餓、健康や教育、労働環境、環境破壊、国際紛争など、さまざまな課題を抱えている。その中で、国連は持続可能な社会の実現にむけた取り組み(SDGs)に着手し、また、経済理論においても、市場・再分配・互酬性を混合させた多元的経済を軸としたボランニ－の研究があらためて見直されている。このように、協同、相互扶助、民主的参加・自主管理を含む連帯関係が組み込まれた経済活動は21世紀の経済・社会のあり方を考える上で無視することのできないものとなっている。本講義では、それらの社会的連帯経済の代表的な存在である協同組合を念頭に置きつつ、(市場)経済至上主義を軸とした自由主義経済とは異なる「人間ありきの経済」の実現にむけた実践的・理論的課題及び可能性について論じたい。

《到達目標》

本講義では、持続可能な社会の実現のためには、市場経済のあり方そのものの転換、つまりオルタナティブな経済の実践と理論が不可欠であるという認識のもと、既存のグローバル資本主義経済の課題を多面的な角度から検討するとともに、社会的経済・社会的連帯経済の実践理論について学ぶ。それらの検討を踏まえて、暮らしの現実(感覚)と乖離しない社会・経済および労働のあり方について、受講生一人ひとりが一定程度のヴィジョンを描くことができるようになることをめざす。

授業内容

本講義は、文献講読および個別論題報告によって構成される。テキストは、候補書の中から受講生の関心のあるものを選ぶ。毎回の講義ではあらかじめ指名された報告者・指定討論者が中心となって内容理解を深める。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代社会経済の基礎構造
- 第3回 文献講読・報告及び議論(1)
- 第4回 文献講読・報告及び議論(2)
- 第5回 文献講読・報告及び議論(3)
- 第6回 文献講読・報告及び議論(4)
- 第7回 中間総括
- 第8回 文献講読・報告及び議論(5)
- 第9回 文献講読・報告及び議論(6)
- 第10回 文献講読・報告及び議論(7)
- 第11回 文献講読・報告及び議論(8)
- 第12回 個別論題報告(1)
- 第13回 個別論題報告(2)
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

本講義は、テキストを活用しつつ、内容理解を前提としたディスカッションや解説を中心に実施する対話・議論型講義である。報告者はレジュメを用意し、参加者は事前に担当箇所を必ず読んでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》毎回の講義の最後に、次回講義内容(担当章)について触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。
《復習》毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、中間総括および総括の際に質疑応答・意見交換の時間を設ける。

教科書

テキスト候補の中から初回講義時に履修者と相談のうえ決定する。

参考書

藤井敦史編著『社会的連帯経済』彩流社
テツオ・ナジタ『相互扶助の経済』みずす書房
岡野八代『ケアの倫理』岩波書店
山崎亮『面識経済―資本主義社会で人生を愉しむためのコミュニティ論』マリア・ミース他『世界システムと女性』藤原書店
小田切徳美『にぎやかな過疎をつくる』農文協
中川雄一郎『キリスト教社会主義と協同組合』日本経済評論社
アマルティア・セン『不平等の再検討―潜在能力と自由』岩波書店
宮本みち子『東京ミドル期シングルの衝撃：「ひとり」社会のゆくえ』東洋経済新報社
D.ハーヴェイ『反資本主義―新自由主義の危機から「真の自由」へ』作品社

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度70%、平常点(授業での報告・発表)30%

その他

授業は対話型のアクティブラーニング形式で実施する。討議や質問・発言などを通じた積極的な参加が望まれる。そのためにも毎回の事前課題は必ずやってくる。

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備 考	
科 目 名	協同組合論研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 Ph.D.	大高 研道	

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

現代社会は、貧困や飢餓、健康や教育、労働環境、環境破壊、国際紛争など、さまざまな課題を抱えている。その中で、国連は持続可能な社会の実現にむけた取り組み(SDGs)に着手し、また、経済理論においても、市場・再分配・互酬性を混合させた多元的経済を軸としたボランニ－の研究があらためて見直されている。このように、協同、相互扶助、民主的参加・自主管理を含む連帯関係が組み込まれた経済活動は21世紀の経済・社会のあり方を考える上で無視することのできないものとなっている。本講義では、それらの社会的連帯経済の代表的な存在である協同組合を念頭に置きつつ、(市場)経済至上主義を軸とした自由主義経済とは異なる「人間ありきの経済」の実現にむけた実践的・理論的課題及び可能性について論じたい。

《到達目標》

本講義では、持続可能な社会の実現のためには、市場経済のあり方そのものの転換、つまりオルタナティブな経済の実践と理論が不可欠であるという認識のもと、既存のグローバル資本主義経済の課題を多面的な角度から検討するとともに、社会的経済・社会的連帯経済の実践理論について学ぶ。それらの検討を踏まえて、暮らしの現実(感覚)と乖離しない社会・経済および労働のあり方について、受講生一人ひとりが一定程度のヴィジョンを描くことができるようになることをめざす。

授業内容

「協同組合論研究Ⅰ(春学期)」をふまえ、協同組合を含む社会的企業及び社会的連帯経済の実践と理論について学ぶ。講義は、文献講読および個別論題報告によって構成される。テキストは、候補書の中から受講生の関心のあるものを選ぶ。毎回の講義ではあらかじめ指名された報告者・指定討論者が中心となって内容理解を深める。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 協同組合・社会的企業論の射程
- 第3回 文献講読・報告及び議論(1)
- 第4回 文献講読・報告及び議論(2)
- 第5回 文献講読・報告及び議論(3)
- 第6回 文献講読・報告及び議論(4)
- 第7回 中間総括
- 第8回 文献講読・報告及び議論(5)
- 第9回 文献講読・報告及び議論(6)
- 第10回 文献講読・報告及び議論(7)
- 第11回 文献講読・報告及び議論(8)
- 第12回 個別論題報告(1)
- 第13回 個別論題報告(2)
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

本講義は、テキストを活用しつつ、内容理解を前提としたディスカッションや解説を中心に実施する対話・議論型講義である。報告者はレジュメを用意し、参加者は事前に担当箇所を必ず読んでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習》毎回の講義の最後に、次回講義内容(担当章)について触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。
《復習》毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、中間総括および総括の際に質疑応答・意見交換の時間を設ける。

教科書

テキスト候補の中から初回講義時に履修者と相談のうえ決定する。

参考書

藤井敦史・原田晃樹・大高研道『闘う社会的企業』勁草書房
中川雄一郎/JC総研編『協同組合は「未来の創造者」になれるか」家の光協会
中川雄一郎・杉本貴志編『協同組合 未来への選択』日本経済評論社
黒川俊雄『いまなぜ労働者協同組合なのか』大槻書店
杉村芳美『「良い仕事」の思想』中公新書
本山美彦『「協同労働」が拓く社会』文真堂

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点等を記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度70%、平常点(授業での報告・発表)30%

その他

授業は対話型のアクティブラーニング形式で実施する。討議や質問・発言などを通じた積極的な参加が望まれる。そのためにも毎回の事前課題は必ずやってくる。

博士前期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅰ（地域・環境系）		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 An Overview of the arts sector
- 第3回 Size, Growth, and Significance in the economy (1)
- 第4回 Size, Growth, and Significance in the economy (2)
- 第5回 Size, Growth, and Significance in the economy (3)
- 第6回 Consumer Demand
- 第7回 Measuring the Utility of Consumption
- 第8回 Consumer Budget Optimization
- 第9回 Deriving Demand Curves
- 第10回 The Determinants of Demand (1)
- 第11回 The Determinants of Demand (2)
- 第12回 How supply and demand interact in the market to establish prices (1)
- 第13回 How supply and demand interact in the market to establish prices (2)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591J			
地域・環境系		備考	
科目名	外国語文献研究Ⅱ（地域・環境系）		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士（経済学） 三浦 留美		

授業の概要・到達目標

経済学の英語文献を各履修者が決められた範囲の和訳を準備し順番に発表していく。本講義ではミクロ経済学の理論をもとにしたCultural and Creative Sectorの分析方法に関する英語文献を和訳し精読する。その上で学説の基礎的な素養を身に付けるとともに各自の研究に役立てることを目指す。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Production and Cost (1)
- 第3回 Production and Cost (2)
- 第4回 Production and Cost (3)
- 第5回 Public Policy (1)
- 第6回 Public Policy (2)
- 第7回 Public Policy (3)
- 第8回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (1)
- 第9回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (2)
- 第10回 Theory and Practice of Government Support for the Arts (3)
- 第11回 The Role of the Arts in a Local Economy (1)
- 第12回 The Role of the Arts in a Local Economy (2)
- 第13回 The Role of the Arts in a Local Economy (3)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

Problem Setを中心としたディスカッションも行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の他に授業内で別の文献を指定することがある。
発表担当者はレジュメを準備の上発表すること。

教科書

Borowiecki, Gray and Heilbrun (2023) *The Economics of Art and Culture*, 3rd ed., Cambridge University Press.

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で応答する。

成績評価の方法

授業での発表 60%
授業への貢献度 40%

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経済学特殊講義Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

〈The course will not be open in 2026.〉

This course aims to offer you a basic understanding of so called 'institutional economics' by exploring Japan's economic institutions such as life-time employment, keiretsu, main bank system and so on. I would like you to understand why the market does not function well without the institutional frameworks and why the economic institutions do matter.

For the above objective, this course covers Japan's economic institutions such as life-time employment, keiretsu, main bank system, and so on. Once criticized as inefficient, irrational, and growth-retarding by neo-classical economists, those practices, however, have contributed to Japan's postwar economic success. And the skeptical views then dramatically changed in the 1970s and 80s. Those practices are now understood among economists as a result of a rational choice between sellers and buyers of the relevant goods and services, when market transaction costs are high and information asymmetries exist. We first explore the views in depth theoretically.

授業内容

Day 1
Overview
Day 2
Neoclassical Economics (1)
Day 3
Neoclassical Economics (2)
Day 4
R. H. Coase and Transaction Costs (1)
Day 5
R. H. Coase and Transaction Costs (2)
Day 6
Economic Institutions (1)
Day 7
Economic Institutions (2)
Day 8
Transaction Costs (1)
Day 9
Transaction Costs (2)
Day 10
Implication of Economic Institutions (1)
Day 11
Implication of Economic Institutions (2)
Day 12
Case 1: Lifetime Employment
Day 13
Case 2: Keiretsu
Day 14
Summary

履修上の注意

1. Basic understandings of principles of macro-and microeconomics.
2. Regular class attendance and regular participation in class discussion.
3. An analytical paper about the Japanese economic institutions. Ideally your paper will ask a question relevant to understanding an aspect of the Japanese economic institutions that we have not covered in class. The paper should then seek to answer the question. A good way to find topics is to read some of the background and further reading books/materials below. You should make an effort to use some primary source material such as the Japan Statistical Yearbook, the Yearbook of Labor Statistics, or National Accounts data. The paper should be typewritten, double-spaced, about 10-12 pages (maximum 3000 words), plus tables/exhibits (with your sources indicated), footnotes, and bibliography of sources used.

準備学習（予習・復習等）の内容

You are requested to read, summarize and make a presentation on required reading materials for each class.

教科書

Textbooks will be announced on the first day of class. The following textbooks are tentative.
Akerlof, George A. (1970) "The Market for 'Lemons': Quality, Uncertainty, and the Market Mechanism," *Quarterly Journal of Economics*, vol. 84 (3), August, pp. 488-500.
Aoki, Masahiko and Hugh T. Patrick, eds. (1994)*The Japanese Main Bank System: Its Relevance for Developing and Transforming Economies*, Oxford: Oxford University Press.
Coase, Ronald H. (1937) "The Nature of the Firm," *Economica*, vol. 4, November, pp. 386-405.
David, Paul A. (1985) "Clio and the Economics of QWERTY," *American Economic Review, Papers and Proceedings*, vol. 75 (2), May, pp. 332-337.
Imai, Kenichi and Ryutaro Komiya, eds. (1994)*Business Enterprise in Japan: Views of Leading Japanese Economists*, MIT Press.
Khan, Mushtaq H. and Jomo K. S., eds. (2000)*Rents, Rent-Seeking and Economic Development: Theory and Evidence in Asia*, Cambridge University Press.
Williamson, Oliver E. (1985)*The Economic Institutions of Capitalism*, Free Press.
Yeager, Timothy J. (1999)*Institutions, Transaction Economies, and Development*, Westview.

参考書

Background and further reading materials may be announced if necessary.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given on each of your paper and presentation in classes or through Oh-o! Meiji system.

成績評価の方法

Paper (up to 3000 words) or Presentation: 30%
Class Involvement: 70%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経済学特殊講義Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		武田 巧

授業の概要・到達目標

〈The course will not be open in 2026.〉

This course aims to offer you a basic understanding of so called 'institutional economics' by exploring Japan's economic institutions such as life-time employment, keiretsu, main bank system and so on. I would like you to understand why the market does not function well without the institutional frameworks and why the economic institutions do matter.

For the above objective, this course covers Japan's economic institutions such as life-time employment, keiretsu, main bank system, and so on. Once criticized as inefficient, irrational, and growth-retarding by neo-classical economists, those practices, however, have contributed to Japan's postwar economic success. And the skeptical views then dramatically changed in the 1970s and 80s. Those practices are now understood among economists as a result of a rational choice between sellers and buyers of the relevant goods and services, when market transaction costs are high and information asymmetries exist. We first explore the views in depth theoretically.

授業内容

Day 1
Overview
Day 2
Neoclassical Economics (1)
Day 3
Neoclassical Economics (2)
Day 4
R. H. Coase and Transaction Costs (1)
Day 5
R. H. Coase and Transaction Costs (2)
Day 6
Economic Institutions (1)
Day 7
Economic Institutions (2)
Day 8
Transaction Costs (1)
Day 9
Transaction Costs (2)
Day 10
Implication of Economic Institutions (1)
Day 11
Implication of Economic Institutions (2)
Day 12
Case 1: Lifetime Employment
Day 13
Case 2: Keiretsu
Day 14
Summary

履修上の注意

1. Basic understandings of principles of macro-and microeconomics.
2. Regular class attendance and regular participation in class discussion.
3. An analytical paper about the Japanese economic institutions. Ideally your paper will ask a question relevant to understanding an aspect of the Japanese economic institutions that we have not covered in class. The paper should then seek to answer the question. A good way to find topics is to read some of background and further reading books/materials below. You should make an effort to use some primary source material such as the Japan Statistical Yearbook, the Yearbook of Labor Statistics, or National Accounts data. The paper should be typewritten, double-spaced, about 10-12 pages (maximum 3000 words), plus tables/exhibits (with your sources indicated), footnotes, and bibliography of sources used.

準備学習（予習・復習等）の内容

You are requested to read, summarize and make a presentation on required reading materials for each class.

教科書

Textbooks will be announced on the first day of class. The following textbooks are tentative.
Akerlof, George A. (1970) "The Market for 'Lemons': Quality, Uncertainty, and the Market Mechanism," *Quarterly Journal of Economics*, vol. 84 (3), August, pp. 488-500.
Aoki, Masahiko and Hugh T. Patrick, eds. (1994)*The Japanese Main Bank System: Its Relevance for Developing and Transforming Economies*, Oxford: Oxford University Press.
Coase, Ronald H. (1937) "The Nature of the Firm," *Economica*, vol. 4, November, pp. 386-405.
David, Paul A. (1985) "Clio and the Economics of QWERTY," *American Economic Review, Papers and Proceedings*, vol. 75 (2), May, pp. 332-337.
Imai, Kenichi and Ryutaro Komiya, eds. (1994)*Business Enterprise in Japan: Views of Leading Japanese Economists*, MIT Press.
Khan, Mushtaq H. and Jomo K. S., eds. (2000)*Rents, Rent-Seeking and Economic Development: Theory and Evidence in Asia*, Cambridge University Press.
McMillan, John (2002)*Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets*, W. W. Norton.
Williamson, Oliver E. (1985)*The Economic Institutions of Capitalism*, Free Press.
Yeager, Timothy J. (1999)*Institutions, Transaction Economies, and Development*, Westview.

参考書

Background and further reading materials may be announced if necessary.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given on each of your paper and presentation in classes or through Oh-o! Meiji system.

成績評価の方法

Paper (up to 3000 words) or Presentation: 30%
Class Involvement: 70%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備考	
科目名	経済学特殊講義Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

The objective of the course is to provide students with a brief introduction to the graduate level macroeconomic theory, especially monetary theory. We focus on the models and methods which is the center of current macroeconomics. In this class, we will mainly lecture on how to analyze monetary economic models using dynamic optimization theory. The mathematical frameworks used include the Hamiltonian and the Lagrangian. Monetary models covered in the class include the Money-in-the-utility function model, Cash-in-advance model, and search theoretic models. We will explain them in detail. Among them, the difference between monetary equilibrium and non-monetary equilibrium, the impact of inflation on output, economic growth rate, the impact of open market operations, which buy and sell bonds and money, on output, growth rate, and analysis of social welfare are explained. Using these models, we try to figure out the best economics policies for our societies.

授業内容

1. Recursive methods in macroeconomics
2. Money-in-the-utility model
3. Innovation and endogenous growth in the money-in-the-utility models
4. First generation monetary search model (Kiyotaki-Wright model)
5. Monetary growth models with horizontal innovation (cash-in-advance model)
6. Monetary growth models with vertical innovation (cash-in-advance model)
7. Monetary growth models with the spirit of capitalism
8. Monetary growth models with endogenous fertility
9. Nash-bargaining in the dynamic macroeconomic models.
10. Introduction to the new monetarist model (Lagos-Wright model)
11. Capital accumulation in the Lagos-Wright model
12. Endogenous growth models with search theoretic monetary exchange
13. Asset pricing in the monetary search models.
14. Review

履修上の注意

Students are required to be familiar with ordinary differential equations and with dynamic optimization problems, especially Lagrangian and Hamiltonian. Only the registered graduate students are allowed to take this class.

準備学習（予習・復習等）の内容

We often set-up and solve differential equations.

教科書

Ben J. Heijdra Foundations of Modern Macroeconomics third edition, Oxford Univ Press ISBN-10: 0198784139

参考書

- 1) Stokey, N. Lucas Jr., R. E., Prescott, E. C., 1989. Recursive methods in economic dynamics. Harvard University Press.
- 2) Jean-Pascal Benassy (2011) Macroeconomic Theory, Oxford University Press
- 3) David Romer (2010), Advanced Macroeconomics. McGrawHill

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Final exam: 60%
Midterm exam: 40% (Students are asked to make a presentation (20-30 minutes) on recent academic papers on macroeconomic dynamics during the class.)

その他

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備考	
科目名	経済学特殊講義Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

The main focus in this course is to investigate the microfounded models of money. Especially we study the digital currency in the search models. The goal of this course is to use the dynamic macroeconomic models and understand the dynamics of the macroeconomic variables and to evaluate the effects of monetary and fiscal policies in terms of social welfare.

授業内容

- 1) An Analytical Approach to the monetary search models
- 2) Job Creation and Job Destruction in the Theory of Unemployment
- 3) Inflation and unemployment in the search models.
- 4) Cryptocurrency and monetary policy
- 5) Central bank digital currency and monetary policy
- 6) Monetary Policy with Heterogeneous Agents
- 7) Asset bubbles and monetary policy
- 8) Open economy monetary search model
- 9) Continuous-time monetary models.
- 10) Monetary policy and banking
- 11) Overlapping generations models of search (1) introduction
- 12) Overlapping generations models of search (2) multiple currencies
- 13) Open economy monetary search models.
- 14) Review

履修上の注意

Students are required to take Special Lecture for Economics I (Spring) before registering for this class. Also, students should be familiar with differential equations.

準備学習（予習・復習等）の内容

Basic knowledge on differentiation and linear algebra is needed.

In this course, we assume that students are familiar with the neoclassical growth models (Ramsey model), the endogenous growth models (AK model and Uzawa-Lucas model), and the monetary models (money-in-the-utility function model and monetary search model). Using these models, we try to figure out the best economics policies for our societies.

教科書

Lars Ljungqvist and Thomas Sargent (2022)
"Recursive Macroeconomic Theory, 5th edition", MIT press

参考書

- 1) Stokey, N., Lucas Jr., R. E., Prescott, E. C., 1989. Recursive methods in economic dynamics. Harvard University Press.
- 2) Jean-Pascal Benassy (2011) Macroeconomic Theory, Oxford University Press
- 3) Daron Acemoglu, Introduction to Modern Economic Growth Princeton University Press

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Final exam: 60%
Midterm exam: 40% (Students are asked to make a presentation (20-30 minutes) on recent academic papers on macroeconomic dynamics during the class.)

その他

Course materials we cover in this class are similar to those in Economic Theory (Lecture II) (Thursday, 1st period), although I use Japanese there.

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経済学特殊講義Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講 2
担 当 者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

This course aims to enhance understandings of the role of money in the digital era. It is a primer for graduate students who wish to study recent advances in financial technology and to develop balanced views between theory and practice. Please note that the course is aimed for students reading economics.

The objective of the course is to ensure that those students will be equipped with the basic knowledge of money and finance, so that they will be prepared to engage in research and analytical activities in the financial industry.

授業内容

1. Introduction
2. Early development of coins and paper currency
3. Global currency supplies: size and composition
4. Global currency supplies: shares held abroad
5. Holdings of currency in domestic economy
6. Currency demand in the legal, tax-paying economy
7. Currency demand in the underground economy
8. Seigniorage
9. Role of paper money
10. Plan for phasing out paper money
11. Presentation by students I
12. Presentation by students II
13. Presentation by students III
14. Presentation by students IV

履修上の注意

Students are encouraged to have completed their study on basic micro- and macro-economics. They are also encouraged to do the several rounds of presentation summarising the contents of the textbook and providing fresh perspectives during lectures. Presentation and communication skills are required.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are encouraged to read the relevant chapters of the textbook in advance so that they can engage in discussion during lectures. They are also expected to use research papers and articles shown in the appendix of the textbook. Furthermore, they will be asked to submit the report before the end of the course. Presentation of the interim progress of the report will be requested.

教科書

The Curse of Cash, by Kenneth S. Rogoff (Princeton)

参考書

References will be shown in each lecture.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Grading and evaluation will be based on (i) the contribution and presentation during the lectures, and (ii) the quality of the report. The former will comprise 40 percent of the total grading while the latter will comprise 60 percent.

その他

None.

科目ナンバー：(PE) ECN591E			
経済学専攻共通科目		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	経済学特殊講義Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

Based on the lectures in Special Lecture for Economics I, this course aims to further enhance understandings of the role of money in the digital era. It intends to provide balanced views between theory and practice for graduate students who wish to study recent advances in financial technology. Please note again that the course is intended for students reading economics.

The objective of the course is to ensure that those students will be equipped with the basic knowledge of money and finance, so that they will be prepared to engage in research and analytical activities in the financial industry.

授業内容

1. Introduction
2. Negative interest rates: review
3. Cost of the zero bound constraints
4. Higher inflation targets, nominal GDP, escape clause
5. Other paths to negative interest rates
6. Central bank digital currencies
7. Downsides to negative nominal policy rates
8. Negative interest rates as a violation of trust
9. Phasing out paper money: international perspectives
10. Digital currencies and gold
11. Presentation by students I
12. Presentation by students II
13. Presentation by students III
14. Presentation by students IV

履修上の注意

Students are encouraged to have completed their study on basic micro- and macro-economics. They are also encouraged to do the several rounds of presentation summarising the contents of the textbook and providing fresh perspectives during lectures. Presentation and communication skills are required.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are encouraged to read the relevant chapters of the textbook in advance so that they can engage in discussion during lectures. They are also expected to use research papers and articles shown in the appendix of the textbook. Furthermore, they will be asked to submit the report before the end of the course. Presentation of the interim progress of the report will be requested.

教科書

The Curse of Cash, by Kenneth S. Rogoff (Princeton)

参考書

References will be shown in each lecture.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Grading and evaluation will be based on (i) the contribution and presentation during the lectures, and (ii) the quality of the report. The former will comprise 40 percent of the total grading while the latter will comprise 60 percent.

その他

None.

政治経済学研究科

博士後期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

授業科目及び担当者

博士後期課程

政治学専攻

授 業 科 目	単位数	担 当 者	備 考
	演 習		
政 治 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (学術) 木 寺 元	
政 治 学 特 殊 研 究 II	2		
比 較 政 治 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 Ph.D. 堀 金 由 美	
比 較 政 治 論 特 殊 研 究 II	2		
政 治 体 制 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 外 池 力	
政 治 体 制 論 特 殊 研 究 II	2		
政 治 過 程 論 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
政 治 過 程 論 特 殊 研 究 II	2		
政 治 行 動 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 井 田 正 道	
政 治 行 動 論 特 殊 研 究 II	2		
国 家 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (政治学) 西 川 伸 一	
国 家 論 特 殊 研 究 II	2		
国 際 政 治 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 Ph.D. 伊 藤 剛	
国 際 政 治 学 特 殊 研 究 II	2		
政 治 理 論 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
政 治 理 論 特 殊 研 究 II	2		
政 治 学 説 史 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (政治学) 高 山 裕 二	2026年度開講せず
政 治 学 説 史 特 殊 研 究 II	2		
西 洋 政 治 史 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (政治学) 水戸部 由 枝	
西 洋 政 治 史 特 殊 研 究 II	2		
外 交 史 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (法学) 川 嶋 周 一	
外 交 史 特 殊 研 究 II	2		
日 本 政 治 思 想 史 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
日 本 政 治 思 想 史 特 殊 研 究 II	2		
日 本 政 治 史 特 殊 研 究 I	2	専任教授 小 西 徳 應	
日 本 政 治 史 特 殊 研 究 II	2		
政 治 思 想 特 殊 研 究 I	2	専任教授 重 田 園 江	
政 治 思 想 特 殊 研 究 II	2		
行 政 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (政治学) 西 村 弥	
行 政 学 特 殊 研 究 II	2		
地 方 自 治 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 牛 山 久仁彦	
地 方 自 治 論 特 殊 研 究 II	2		
都 市 政 策 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (工学) 野 澤 千 絵	
都 市 政 策 特 殊 研 究 II	2		
危 機 管 理 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
危 機 管 理 特 殊 研 究 II	2		
マス・コミュニケーション学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
マス・コミュニケーション学 特 殊 研 究 II	2		
マス・コミュニケーション学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 Ph.D. 水 野 剛 也	
マス・コミュニケーション学 特 殊 研 究 II	2		
社 会 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
社 会 学 特 殊 研 究 II	2		
比 較 社 会 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (文学) 加 藤 彰 彦	
比 較 社 会 学 特 殊 研 究 II	2		
社 会 心 理 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
社 会 心 理 学 特 殊 研 究 II	2		
産 業 社 会 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (学際情報学) 荒 木 淳 子	2026年度開講せず
産 業 社 会 学 特 殊 研 究 II	2		
福 祉 社 会 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (社会学) 鍾 家 新	
福 祉 社 会 学 特 殊 研 究 II	2		
社 会 人 類 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
社 会 人 類 学 特 殊 研 究 II	2		

経済学専攻

授 業 科 目	単位数	担 当 者	備 考
	演 習		
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 八 木 尚 志	
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 武 田 巧	
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (経済学) 盛 本 圭 一	2026年度開講せず
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 Ph.D. 平 口 良 司	
理 論 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
計 量 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 小 林 和 司	
計 量 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
統 計 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (学術) 永 原 裕 一	
統 計 学 特 殊 研 究 II	2		
経 済 数 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
経 済 数 学 特 殊 研 究 II	2		
西 洋 経 済 史 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
西 洋 経 済 史 特 殊 研 究 II	2		
日 本 経 済 史 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
日 本 経 済 史 特 殊 研 究 II	2		
経 済 思 想 史 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
経 済 思 想 史 特 殊 研 究 II	2		
社 会 思 想 史 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
社 会 思 想 史 特 殊 研 究 II	2		
経 済 学 史 特 殊 研 究 I	2	専任教授 高 橋 信 勝	
経 済 学 史 特 殊 研 究 II	2		
経 済 政 策 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
経 済 政 策 特 殊 研 究 II	2		
財 政 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 星 野 泉	
財 政 学 特 殊 研 究 II	2		
財 政 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (経済学) 小野島 真	
財 政 学 特 殊 研 究 II	2		
金 融 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周 司	
金 融 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
社 会 保 障 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (経済学) 加 藤 久 和	
社 会 保 障 論 特 殊 研 究 II	2		
労 働 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (経済学) 原 ひろみ	2026年度開講せず
労 働 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
食 料 経 済 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
食 料 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
人 口 学 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
人 口 学 特 殊 研 究 II	2		
日 本 経 済 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 飯 田 泰 之	
日 本 経 済 論 特 殊 研 究 II	2		
N P O 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
N P O 特 殊 研 究 II	2		
国 際 経 済 政 策 特 殊 研 究 I	2	専任教授 藤 永 修 一	
国 際 経 済 政 策 特 殊 研 究 II	2		
開 発 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (経済学) 末 永 啓一郎	
開 発 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
国 際 金 融 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
国 際 金 融 特 殊 研 究 II	2		
経 済 地 理 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 (理学) 廣 松 悟	
経 済 地 理 学 特 殊 研 究 II	2		

授 業 科 目	単位数	担 当 者	備 考
	演 習		
地 域 政 策 特 殊 研 究 I	2		2026年度開講せず
地 域 政 策 特 殊 研 究 II	2		
地 域 産 業 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 奥 山 雅 之 (経済学)	
地 域 産 業 論 特 殊 研 究 II	2		
中 小 企 業 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 森 下 正 (経済学)	
中 小 企 業 論 特 殊 研 究 II	2		
環 境 経 済 学 特 殊 研 究 I	2	専任教授 博士 大 森 正 之 (経済学)	
環 境 経 済 学 特 殊 研 究 II	2		
協 同 組 合 論 特 殊 研 究 I	2	専任教授 Ph.D. 大 高 研 道	
協 同 組 合 論 特 殊 研 究 II	2		

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治学特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

博士論文執筆のために必要な指導を行う。
論文執筆に必要な能力の引き上げを目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 論文構想発表(1)
第3回 論文構想発表(2)
第4回 文献リスト作成・指導
第5回 資料講読(1)
第6回 資料講読(2)
第7回 資料講読(3)
第8回 資料講読(4)
第9回 論文中間発表(1)
第10回 論文中間発表(2)
第11回 研究作業の課題の確認
第12回 論文の修正案の提示(1)
第13回 論文の修正案の提示(2)
第14回 論文の修正案の提示(3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の準備。

教科書

特になし。

参考書

追って挙げる。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の質および貢献度。

その他

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治学特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	木寺 元	

授業の概要・到達目標

博士論文執筆のために必要な指導を行う。
論文執筆に必要な能力の引き上げを目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 論文構想発表(1)
第3回 論文構想発表(2)
第4回 文献リスト作成・指導
第5回 資料講読(1)
第6回 資料講読(2)
第7回 資料講読(3)
第8回 資料講読(4)
第9回 論文中間発表(1)
第10回 論文中間発表(2)
第11回 研究作業の課題の確認
第12回 論文の修正案の提示(1)
第13回 論文の修正案の提示(2)
第14回 論文の修正案の提示(3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の準備。

教科書

特になし。

参考書

追って挙げる。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の質および貢献度。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備考	
科目名	比較政治論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

開発の政治経済学、開発途上国（特にアジア）の政治、開発援助などをテーマとして、十分なレベルに達した博士論文を仕上げるための研究を実施し、論文を執筆する能力を強化する。

- より具体的には、
 1) 博士論文の執筆に向けた各自の研究に関する個人指導、
 2) 理論的基礎も含め、より広い視野を養うためのセミナー形式の授業、
 3) 研究の方法論に関する授業

を適宜とりまぜながら授業を実施する。講義（セミナー形式）でとりあげる具体的内容は、参加者の興味に応じて決定することとするが、より一般的な理論的検討を行う可能性もある。

諸外国の政治を比較的观点から検討することが比較政治であり、この分野における研究には、外国語文献、特に英語の文献は必須である。特に、途上国の政治を扱う場合には、基本的文献はほとんど外国語とならざるを得ないことを予め了解されたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：博士論文構想発表(1)
 第3回：研究計画の策定(総論)
 第4回：学位論文の書き方(総論)
 第5回：社会科学における研究の方法論(1)
 第6回：社会科学における研究の方法論(2)
 第7回：社会科学における研究の方法論(3)
 第8回：社会科学における研究の方法論(4)
 第9回：社会科学における研究の方法論(5)
 第10回：社会科学における研究の方法論(6)
 第11回：社会科学における研究の方法論(7)
 第12回：社会科学における研究の方法論(8)
 第13回：博士論文構想発表(2)
 第14回：先行研究のサーベイと研究課題の明確化、総括

履修上の注意

なお、参加者の顔ぶれ、人数、能力次第で、テキストのみならず、授業自体を英語で実施する可能性もある。

準備学習（予習・復習等）の内容

いかなるトピック・テーマを扱う場合においても、博士後期課程の授業において、その内容につき十分の準備がない限り、授業は成立しえないことを自覚されたい。

教科書

参加者の興味・能力に応じて指定する。

参考書

適宜推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度と授業への参画度 40%
 執筆物(論文アウトラインなど) 60%

その他

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備考	
科目名	比較政治論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 堀金 由美		

授業の概要・到達目標

引き続き、開発の政治経済学、開発途上国（特にアジア）の政治、開発援助などに関するテーマについて博士論文を執筆するための基本的能力アップを目指すとともに、研究計画を確定する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：博士論文執筆のための研究計画発表
 第3回：研究に必要とされる方法論(1)
 第4回：研究に必要とされる方法論(2)
 第5回：研究に必要とされる方法論(3)
 第6回：研究関連分野の理論検討(1)
 第7回：研究関連分野の理論検討(2)
 第8回：研究関連分野の理論検討(3)
 第9回：研究の進捗状況中間発表
 第10回：研究計画発表
 第11回：先行研究のサーベイ状況発表
 第12回：研究関連分野の理論検討(4)
 第13回：研究の枠組み検討
 第14回：研究の枠組み詳細検討、総括

履修上の注意

参加者の顔ぶれ、人数、能力次第で、テキストのみならず、授業自体を英語で実施する可能性もある。

準備学習（予習・復習等）の内容

いかなるトピック・テーマを扱う場合においても、博士後期課程の授業において、その内容につき十分の準備がない限り、授業は成立しえないことを自覚されたい。

教科書

参加者の興味・能力に応じて指定する。

参考書

適宜推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内に指導する。

成績評価の方法

授業への貢献度と授業への参画度 40%
 執筆物(論文など) 60%

その他

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備考	
科目名	政治体制論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		外池 力

授業の概要・到達目標

デモクラシー論、人権論、民主化研究などに関連する自分のテーマについて、最新の論文をレビューすると同時に、オリジナリティのある新たな知見を加える方法を考察することで、学位論文への準備を整える。

基本的に毎回発表を求めることになる。

紀要論文や学会誌への投稿、学会発表などの準備をする。

授業内容

人権の政治学的アプローチに関する文献、デモクラシー論、デモクラシー思想、民主化研究、寛容論を中心に文献を読み、論文作成に向け、最新の研究動向と自分の研究対象の動向を中心に報告とレポートを重ねていきます。

第1回：はじめに(イントロダクション)

第2回：研究計画概要作成(1)

第3回：研究計画概要作成(2)

第4回：先行研究等の検討(1)

第5回：先行研究等の検討(2)

第6回：人権論の最新動向検討

第7回：デモクラシー論の最新動向検討

第8回：博士論文の構成検討(1)

第9回：博士論文の構成検討(2)

第10回：論文発表、報告と検討(1)：紀要論文構成や政経学会などへの発表の計画について

第11回：論文発表、報告と検討(2)：紀要論文構成や政経学会などへの発表の計画について

第12回：論文発表、報告と検討(3)：紀要論文構成や政経学会などへの発表の計画について

第13回：政経学会・学会誌。紀要論文などを含め今後の研究計画の再検討

第14回：まとめと総括

履修上の注意

学位論文のための計画と紀要論文などの準備を行うので、常に自主的に準備するとともに、人権論、デモクラシー論、民主化論などの蓄積と最新動向に留意し、また幅広い視野をもつための関心とそれに基づく読書が期待される。

大学院紀要、学会誌や政経学会などでの発表を視野に入れて、計画を立てること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

以下のサイトなどを参考にし、世界の人権状況を把握しておくこと。

<http://www.hrweb.org/>

<https://freedomhouse.org/explore-the-map?type=fotn&year=2022>

<http://www.jinken.or.jp/inews/>

<http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>

<http://www.ihrla.org/links.shtml>

Varieties of Democracy (V-Dem)

<https://www.v-dem.net>

法務省人権擁護局

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/>

外務省人権外交

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>

UPR（普遍的・定期的レビュー）

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html

国会図書館デジタルコレクション

<http://dl.ndl.go.jp/>

大学図書館横断検索

<http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja>

日本の古本屋

<https://www.kosho.or.jp/>

京都人権マップ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000206129.html>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)と論文の執筆(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備考	
科目名	政治体制論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		外池 力

授業の概要・到達目標

デモクラシー論、人権論、民主化研究などに関連する自分のテーマについて、最新の論文をレビューすると同時に、オリジナリティのある新たな知見を加える方法を考察することで、学位論文や学会での研究報告への準備を整える。

基本的に毎回発表を求めることになる。

授業内容

人権の政治学的アプローチに関する文献、デモクラシー論、デモクラシー思想、民主化研究、寛容論を中心に文献を読み、学位論文作成に向け、最新の研究動向と自分の研究対象の動向などを中心に報告とレポートを重ねていきます。

第1回：はじめに(イントロダクション)

第2回：研究計画進捗状況検討

第3回：政経学会やその他の学会などの研究報告準備検討

第4回：人権論の最新動向検討

第5回：デモクラシー論の最新動向検討

第6回：紀要論文やその他の論文などの計画確認

第7回：論文の構成検討(1) 政経学会など発表の準備

第8回：論文の構成検討(2) 政経学会など発表の準備

第9回：論文の構成検討(3) 政経学会など発表の準備

第10回：論文発表、報告と検討(1) 学位論文の構成案について

第11回：論文発表、報告と検討(2) 学位論文の構成案について

第12回：論文発表、報告と検討(3) 学位論文の構成案について

第13回：学位論文への計画の検証

第14回：学位論文への計画の検証

履修上の注意

秋学期は、政経学会等もあるので、それらでの報告準備を踏まえ、学位論文につながる論文作成を行うため、計画的に授業を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での発表は、前の週に関連論文を参加者全員に配布することになるので、それを事前に目を通すのが当然だが、発表者は発表の二週間前には、教員と発表内容の相談をすること。

教科書

特になし。

参考書

以下のサイトなどを参考にし、世界の人権状況を把握しておくこと。

<http://www.hrweb.org/>

<https://freedomhouse.org/report/freedom-world/freedom-world-2019>

<http://www.jinken.or.jp/inews/>

<http://www.frontlinedefenders.org/>

<http://www.indexoncensorship.org/>

<http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>

<http://www.ihrla.org/links.shtml>

Varieties of Democracy (V-Dem)

<https://www.v-dem.net/en/>

法務省人権擁護局

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/>

外務省人権外交

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>

UPR（普遍的・定期的レビュー）

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html

国会図書館デジタルコレクション

<http://dl.ndl.go.jp/>

大学図書館横断検索

<http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja>

日本の古本屋

<https://www.kosho.or.jp/>

Forensic-architecture（人権侵害のビジュアル化）

<https://forensic-architecture.org/>

課題に対するフィードバックの方法

授業中における課題やレジュメは、授業中に参加者で議論し、教員がアドバイスする。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)と論文の執筆(50%)

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治行動論特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

昨今の日本では投票率の低下傾向や無党派層の増大が注目されているが、このような傾向は先進諸国の多くで認められる。したがって、一国のみを対象とした考察には限界があり、クロス・ナショナルな視点からの検討も必要とされる。我が国ではアメリカの投票行動研究に関する紹介は多くなされてきたが、ヨーロッパの投票行動研究は不十分な状況にある。そこで本授業では投票行動に関する理論的考察を行い、先進諸国の置かれた政治・社会的状況を考えてゆきたい。投票行動論を習得することが本授業の到達目標である。

授業内容

1. イントロダクション
2. 現代政治学と投票行動研究
3. 棄権に関する実証的研究
4. コロンビア学派の理論
5. ミシガンモデル
6. リビジョニスト理論
7. 業績投票理論
8. 個人投票理論
9. 政党衰退論
10. 日本における政党支持研究
11. 日本におけるイデオロギー態度研究
12. 日本における投票参加研究
13. 日本における業績投票研究
14. 日本における争点投票研究

履修上の注意

予習をしてくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをしっかりと読んでくること。

教科書

井田正道『政治・社会意識の現在』北樹出版

参考書

井田正道編『変革期における政権と世論』北樹出版

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(50%)、レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治行動論特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		井田 正道

授業の概要・到達目標

これは、欧米あるいは日本といった先進民主主義国における「政党一有権者」関係の長期的変容に関して検討する。現代デモクラシーにおける政党の役割の大きさに関しては、政党論のみでなく投票行動論からもその重要性が指摘されてきた。しかし、20世紀後半において先進諸国は、大きな社会構造の変化を経験し、政党と有権者との関係も変容する傾向がほぼ共通的に認められる。それは、政治的態度の次元では、政党帰属意識の低下、選挙においては、投票率の低下、ヴォラティリティの増大、組織の次元では党員数・党員比率の低下、そして政党システムの次元では政党の破片化として表れている。さらに、脱政党現象の帰結として、近年、提示されている「政治の大統領制化」についても検討する。先進国における政治構造の変化に関する知識を習得することが本授業の到達目標である。

授業内容

1. イントロダクション
2. 政治の大統領制化
3. 大統領制化のダイナミズム
4. 大統領制化の原因
5. イギリスの首相
6. 大統領制化しつつある政党国家
7. 大統領制化、イタリアの流儀
8. スペインにおける大統領制化
9. 低地帯諸国の大統領制化
10. デンマーク
11. バージョン大統領
12. カナダ
13. 双頭的大統領制化
14. 半主権的なアメリカの大統領

履修上の注意

予習をしてくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをしっかりと読んでくること。

教科書

ポグントケ・ウェブ『民主政治はなぜ大統領化するのか』ミネルヴァ書房

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(50%)、レポート(50%)

その他

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備考	
科目名	国家論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：受講者の最終目標は博士論文の提出なので、授業では論文執筆のトレーニングを常に行い、受講者には『政治経済学研究論集』への投稿と明治大学特定課題研究ユニット政治制度研究センターの例会における報告を義務づける。そして、博士論文の作成をいつも念頭においた授業であるように心がける。
- (2)到達目標：『政治経済学研究論集』への投稿論文を完成させる。および、その内容を政治制度研究センターの例会で報告する。

授業内容

上記に掲げた到達目標の達成を目指して、毎回受講者による報告および指導を行う。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：4月提出締切りの『政治経済学研究論集』の完成原稿報告
- 第3回：博士論文プランの報告(Ⅰ)
- 第4回：博士論文プランの報告(Ⅱ)
- 第5回：博士論文プランの報告(Ⅲ)
- 第6回：博士論文プランの報告(Ⅳ)
- 第7回：博士論文プランの報告(Ⅴ)
- 第8回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の構想報告(Ⅰ)
- 第9回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の構想報告(Ⅱ)
- 第10回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の参考文献報告
- 第11回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の章立て報告(Ⅰ)
- 第12回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の章立て報告(Ⅱ)
- 第13回：9月締切りの『政治経済学研究論集』の草稿報告
- 第14回：政治制度研究センターの例会報告予定

履修上の注意

博士後期課程の学生は論文執筆と研究会での報告準備が日々の研究の目標となります。本授業をそのいわばペースメーカーの場としてほしいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、パワーポイントなどで報告してもらうので、事前に十分な準備をしてきてください。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%＋授業への参画度50%

その他

受講者には定刻および期日の厳守を強く望みます。ルーズさとは無縁な緊張感のある研究の場としたいと念じています。

科目ナンバー：(PE) POL712J			
政治学専攻		備考	
科目名	国家論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西川 伸一		

授業の概要・到達目標

- (1)概要：受講者の最終目標は博士論文の提出なので、授業では論文執筆のトレーニングを常に行い、受講者には『政治経済学研究論集』への投稿と政経学会における報告を義務づける。そして、博士論文の作成をいつも念頭においた授業であるように心がける。『政治経済学研究論集』の締切りが9月下旬なので、9月中旬に前倒し補講を行う予定である。
- (2)到達目標：『政治経済学研究論集』への投稿論文と政経学会での報告についての指導などを通して、博士論文作成の土台作りをする。

授業内容

上記に掲げた到達目標の達成を目指して、毎回受講者による報告および指導を行う。

- 第1回：9月提出締切りの『政治経済学研究論集』の完成原稿報告
- 第2回：博士論文プランの報告(Ⅰ)
- 第3回：博士論文プランの報告(Ⅱ)
- 第4回：政経学会報告の構想報告(Ⅰ)
- 第5回：政経学会報告の構想報告(Ⅱ)
- 第6回：政経学会の報告予定
- 第7回：博士論文プランの報告(Ⅲ)
- 第8回：博士論文プランの報告(Ⅳ)
- 第9回：博士論文プランの報告(Ⅴ)
- 第10回：翌年度4月締切りの『政治経済学研究論集』の構想報告(Ⅰ)
- 第11回：翌年度4月締切りの『政治経済学研究論集』の構想報告(Ⅱ)
- 第12回：翌年度4月締切りの『政治経済学研究論集』の参考文献報告
- 第13回：翌年度4月締切りの『政治経済学研究論集』の章立て報告
- 第14回：翌年度4月締切りの『政治経済学研究論集』の草稿報告

履修上の注意

博士後期課程の学生は論文執筆と研究会での報告準備が日々の研究の目標となります。本授業をそのいわばペースメーカーの場としてほしいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、パワーポイントなどで報告してもらうので、事前に十分な準備をしてきてください。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを通して適宜行います。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性50%＋授業への参画度50%

その他

受講者には定刻および期日の厳守を強く望みます。ルーズさとは無縁な緊張感のある研究の場としたいと念じています。

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備考	
科目名	国際政治学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		伊藤 剛

授業の概要・到達目標

国際政治理論, アジア太平洋地域国際関係, 外交政策研究 IR theories, IR of the Asia-Pacific, Foreign Policy Studies 学術論文の書き方を指導する目的で, 博士課程用の授業を開講する。論文のテーマは受講者自身の研究課題に合わせるが, 国際関係に関する事柄であることが望まれる。論文の書き方のエッセンスは課題の多少の異同にかかわらず, 概して不変であるので, テーマ設定, 論文構成, 資料収集, 実証方法等に関して指導する。

各自のテーマを常に持ち続けておくこと。適宜個別指導を行う予定である。

For those who want to have this class in English, I would be happy to do so depending on your requests.

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 文献に関する「書評」の検討
- 第7回 論文のラフ・スケッチの作成
- 第8回 論文の構成と資料の確認
- 第9回 エビデンスの確認
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

博士後期課程であるので, すでにペーパーや論文の書き方は, 周知しているという前提で考えている。自分のテーマをきちんと考えておくこと。

I assume that doctoral students are already familiar with the way to write academic papers. Think about your own topic!

準備学習（予習・復習等）の内容

特に定めない。

教科書

特に定めない。

参考書

- 伊藤が関わっているものを挙げておく。
- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店, 2004年。
 - ② アルフレード・ヴァラダン(伊藤ほか訳)『自由の帝国』NTT出版, 2000年。
 - ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂, 2002年。
 - ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
 - ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂, 2006年。
 - ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房, 2007年。
 - ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
 - ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U. K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点による。

その他

博士後期課程は, 適度な時間内で「一生懸命駆け抜けること」が大事である。そのためのステップとなれば幸いである。

Ph.D. is an entry to your academic world. You should get it done in a timely manner. The instructor should be only at a point toward your destination.

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備考	
科目名	国際政治学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		伊藤 剛

授業の概要・到達目標

国際政治理論, アジア太平洋地域国際関係, 外交政策研究 IR Theories, IR of the Asia-Pacific, Foreign Policy Studies 学術論文の書き方を指導する目的で, 博士秋学期課程用の授業を開講する。論文のテーマは受講者自身の研究課題に合わせるが, 国際関係に関する事柄であることが望まれる。論文の書き方のエッセンスは課題の多少の異同にかかわらず, 概して不変であるので, テーマ設定, 論文構成, 資料収集, 実証方法等に関して指導する。

各自のテーマを常に持ち続けておくこと。適宜個別指導を行う予定である。

For those who want to have this class in English, I would be happy to do so depending on your requests.

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 文献に関する「書評」の検討
- 第7回 論文のラフ・スケッチの作成
- 第8回 論文の構成と資料の確認
- 第9回 エビデンスの確認
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

TBA

準備学習（予習・復習等）の内容

特に定めない。

教科書

特に定めない。

参考書

伊藤が関わっているものを挙げておく。

- ① 桜田大造・伊藤剛編著『比較外交政策』明石書店, 2004年。
- ② アルフレード・ヴァラダン(伊藤ほか訳)『自由の帝国』NTT出版, 2000年。
- ③ 伊藤剛『同盟の認識と現実』有信堂, 2002年。
- ④ Go Ito, Alliance in Anxiety (New York: Routledge, 2003).
- ⑤ 五十嵐武士編著『アメリカ外交と21世紀の世界』昭和堂, 2006年。
- ⑥ 家近・松田・段編著『日中関係』晃陽書房, 2007年。
- ⑦ Mike Mochizuki et. al., Japan in International System (Boulder: Lynne Rienner, 2007).
- ⑧ Purnendra Jain et. al., Japan in Decline: Fact or Fiction? (Dorset, U. K.: Global Oriental, 2011).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点による。

その他

Spend only a few more years at school. Get your dissertation done in a timely manner.

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、Alexis de Tocqueville, *The Ancien Regime and the Revolution*を輪読することで、「民主的専制」としての行政権力の集中がフランス革命以前(アンシャン・レジーム期)にいかんして起こったのか、またそれがいかなる特徴を持つに至ったのかを検討する。それは、現代政治の「ポピュリズム」と呼ばれる現象を理解するうえでも資するところがあるはずである。

また同時に、現代中国で同書が何故に注目されているのか、あるいは革命が起こりうる社会を分析するうえで何故に有益とされるのかを、その社会心理学的考察にも光を当てながらじっくり考えてみたい。

最終的に、政治思想の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
- 第2回 *The Ancien Regime and the Revolution*の解説
- 第3回 第1部読解
- 第4回 第2部読解(1)
- 第5回 第2部読解(2)
- 第6回 第2部読解(3)
- 第7回 第2部読解(4)
- 第8回 第2部読解(5)
- 第9回 第3部読解(1)
- 第10回 第3部読解(2)
- 第11回 第3部読解(3)
- 第12回 第3部読解(4)
- 第13回 第3部読解(5)
- 第14回 まとめ

※読解のペースは受講者を見て判断する。テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 「政治思想史」(学部講義)レベルの知識は最低限身につけていること。
- Tocquevilleの政治思想に関する著書を一冊でも読んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキスト*The Ancien Regime and the Revolution*の報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。

教科書

Tocqueville, *The Ancien Regime and the French Revolution (Cambridge Texts in the History of Political Thought)* by Jon Elster (Editor) and Arthur Goldhammer (Translator), (Cambridge University Press, 2011), or *L'Ancien regime et la Revolution* (Folio, 1985).

参考書

Alexis de Tocqueville, *The Old Regime and the Revolution, Volume I: The Complete Text (Volume 1)*, by Francois Furet (Editor), Françoise Melonio (Editor), Alan S. Kahan (Translator), (University Of Chicago Press, 2003).

Robert T. Gannett Jr., *Tocqueville Unveiled: The Historian and His Sources for The Old Regime and the Revolution* (University Of Chicago Press, 2003).

トクヴィル『旧体制と大革命』(小山勉訳、ちくま学芸文庫、1998年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

科目ナンバー：(PE) POL792J

政治学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	政治学説史特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 高山 裕二		

授業の概要・到達目標

この授業では、現代の全体主義や民主主義の諸問題を論じた研究を講読する。例えば、Juan J. Linz, *The Breakdown of Democratic Regimes: Crisis, Breakdown and Reequilibration. An Introduction*やSamuel P. Huntington, *The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century*, 比較的新しいCass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences*などを扱う。

また、Hannah Arendtの*The Human Condition: Second Edition*や*The Origins of Totalitarianism*など、20世紀の政治理論家のテキストでもできれば紹介し、ファシズム後の「民主的専制」について広く深く検討する。

最終的に、現代の政治理論の英語文献を自分で読む力をつけることを目指す。

授業内容

- 第1回 イントロ
- 第2回 *Conformity: The Power of Social Influences*の序章読解
- 第3回 第1章読解(1)
- 第4回 第1章読解(2)
- 第5回 第1章読解(3)
- 第6回 第2章読解(1)
- 第7回 第2章読解(2)
- 第8回 第2章読解(3)
- 第9回 第3章読解(1)
- 第10回 第3章読解(2)
- 第11回 第3章読解(3)
- 第12回 第4章読解(1)
- 第13回 第4章読解(2)
- 第14回 結論読解

※この授業内容は一例で、受講者を見て、テキストも変更する可能性がある。

履修上の注意

- 政治学説史研究Ⅰを履修していること。
- 「政治思想史」(学部授業)レベルの知識は最低限身につけていること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題テキストの報告者はもちろん、参加者全員が該当箇所を読んでくこと。

教科書

Cass R. Sunstein *Conformity: The Power of Social Influences* (NYU Press, 2019).

Timothy Snyder, *The Road to Unfreedom: Russia, Europe, America* (Tim Duggan Books, 2018).

Hannah Arendt, *The Human Condition: Second Edition* (University of Chicago Press, 2019).

Hannah Arendt, *The Origins of Totalitarianism* (Penguin Classics, 2017).

Hannah Arendt, *Between Past and Future*, Revised edition (Penguin Classics, 2006).

Juergen Habermas, *Legitimation Crisis* (Beacon Press, 1975).

参考書

アーレント『新版 全体主義の起源』(みすず書房)。

アーレント『過去と未来の間』(みすず書房)。

アーレント『人間の条件』(ちくま学芸文庫)。

ハーバース『後期資本主義における正統化の諸問題』(岩波文庫)。

サミュエル・P・ハンティントン『第三の波：二〇世紀後半の民主化』(白水社)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業での報告・発表) 100%

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備考	
科目名	西洋政治史特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

「ヨーロッパ史1815-1914」

本講義では、著名な歴史家リチャード・J・エヴァンズの大著(1)『ヨーロッパ史1815-1914：力の探求 上』と(2)『ヨーロッパ史1815-1914：力の探求 下』を輪読しながら、19世紀後半から20世紀半ばにかけての政治・経済・社会・文化にみる歴史的連続性・非連続性(過去と現在との共通点・相違点)、社会現象の因果関係などについて考察する。

到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方についても考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：授業内容の説明、文献解説
 第2回 (1)第1章 革命の遺産(21-113頁)
 第3回 (1)第2章 自由のパラドックス(115-205頁)
 第4回 (1)第3章 ヨーロッパの春(209-267頁)
 第5回 (1) ヨーロッパの春(267-327頁)
 第6回 (1)第4章 社会革命(329-379頁)
 第7回 (2) 社会革命(380-420頁)
 第8回 (2)第1章 自然の征服(1)(7-103頁)
 第9回 (2)第2章 感情の時代(1)(105-159頁)
 第10回 (2) 感情の時代(2)(159-210頁)
 第11回 (2)第3章 民主主義の挑戦(1)(211-267頁)
 第12回 (2) 民主主義の挑戦(2)(267-319頁)
 第13回 (2)第4章 帝国の代償(1)(319-355頁)
 第14回 (2) 帝国の代償(2)(355-433頁)

履修上の注意

- 1) 授業内容の理解をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
- 2) 「西洋政治史特殊研究Ⅰ」と「西洋政治史特殊研究Ⅱ」は連続した内容であることから、セツ履修することが望ましい。
- 3) 希望があれば、英語、ドイツ語文献を読むことも可能である。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを配布してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。参加者全員が毎回テキストを読んでくれること。

教科書

リチャード・J・エヴァンズ『ヨーロッパ史1815-1914：力の追求 上・下(近現代ヨーロッパ200年史全4巻)』白水社、2018年。

参考書

- 1) E.J.ホブズボーム(柳父国近・荒関めぐみ他訳)『資本の時代：1848-1875 (1)(2)新装版』みすず書房、2018年。
 - 2) E.J.ホブズボーム(野口建彦・野口照子他訳)『帝国の時代：1875-1914 (1)(2)新装版』みすず書房、2023年。
- 他、授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿って教科書を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備考	
科目名	西洋政治史特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 水戸部 由枝		

授業の概要・到達目標

「20世紀ヨーロッパ史」

本講義では、著名な歴史家コンラート・H・ヤーラオシュの『灰燼のなから：20世紀ヨーロッパ史の試み 上・下』を輪読しながら、20世紀のヨーロッパ史を俯瞰する。そして現代との歴史的連続性・非連続性(過去と現在との共通点・相違点)、社会現象の因果関係などについて考察する。

到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の社会への理解をより深めること。さらには将来の社会のあり方についても考える力をつけること。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：授業内容の説明と本授業で取り上げる文献の紹介
 第2回 序章、第1章 グローバルな支配、第2章 瓦解する平和
 第3回 第3章 総力戦をたたかう、第4章 ボリシェヴィキ革命
 第4回 第5章 民主主義の希望、第6章 ファシズムという対案
 第5回 第7章 モダニストの挑発、第8章 恐慌のもたらす荒廃
 第6回 第9章 スターリン主義的近代化、第10章 ヒトラーの民族共同体
 第7回 第11章 第二次世界大戦を引き起こすもの、第12章 枢軸による征服
 第8回 第13章 ナチのホロコースト、第14章 苦い勝利
 第9回 第15章 民主主義的刷新、第16章 お仕着せの共産主義
 第10回 第17章 冷戦危機、第18章 期待外れの脱植民地化
 第11回 第19章 経済統合、第20章 ポップと繁栄、第21章 社会改良の計画化
 第12回 第22章 近代性への反乱、第23章 ポスト工業化への移行
 第13回 第24章 デタントへの回帰、第25章 平和革命、第26章 東を作り変える
 第14回 第27章 グローバル・チャレンジ、第28章 21世紀への展望、終章

履修上の注意

- 1) 授業内容の理解をより深めるために、西洋史に関する一般的な知識を、事前に身につけておくことが望ましい。
- 2) 「西洋政治史特殊研究Ⅰ」と「西洋政治史特殊研究Ⅱ」は連続した内容であることから、セツ履修することが望ましい。
- 3) 希望があれば、英語、ドイツ語文献を読むことも可能である。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者には毎回内容を要約したレジュメを配布してもらい、報告後、参加者全員でその内容について議論する。参加者全員が毎回テキストを読んでくれること。

教科書

コンラート・H・ヤーラオシュ『灰燼のなから：20世紀ヨーロッパ史の試み 上・下』人文書院、2022年。

参考書

エリック・ホブズボーム(大井由紀訳)『20世紀の歴史 上・下：両極端の時代』筑摩書房、2018年。
 イアン・カーショア『ヨーロッパ史1914-1949：地獄の淵から(近現代ヨーロッパ200年史全4巻)』白水社、2017年。
 イアン・カーショア『ヨーロッパ史1950-2017：分断と統合への試練(近現代ヨーロッパ200年史全4巻)』白水社、2019年。
 他、授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

担当者が作成したレジュメおよびレジュメ記載の問題提起(3、4点)については、授業中にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加度(報告・出席など、70%)、授業への貢献度(30%)を総合的に判断して評価する。

その他

最終的には受講者の問題関心に沿って教科書を決定するので、第1回の授業に必ず出席すること。

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	外交史特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

外交史、国際政治史、国際関係史に関する自らの研究を深め、博士論文の執筆に向けた体制づくりを構築し、より高度な研究に到達できることになること。加えて、博士論文執筆に必要な史料の確保、乗り越えなければならない先行研究のレビュー、自分が取り組む研究分野の国内・国際的状況を把握することも、必要になってくる。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究課題の設定
第3回 研究計画概要作成
第4回 先行研究等の検討
第5回 文献リストの作成
第6回 博士論文の内容報告(1)
第7回 博士論文の内容報告(2)
第8回 博士論文の内容報告(3)
第9回 博士論文の内容報告(4)
第10回 博士論文の成果報告に関する内容検討
第11回 博士論文の成果報告に関する報告
第12回 博士論文の完成に向けた再検討
第13回 今後の研究計画の検証
第14回 まとめと総括

履修上の注意

博士後期課程になると、研究指導を行う院生のテーマについて、指導教官よりも研究を行う大学院生の方が詳しく知っていて然るべきである。そのような心づもりを持ったうえで、博士課程の年月を一日も無駄にせず地道に、効率的に研究に従事する心構えを持つことが、重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

教員より事前に指示する。

教科書

開講時に指示する。

参考書

開講時ないしは、講義時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

準備が入念になされたかどうか、講義内で積極的に研究に取り組んでいるかどうか、論文が実際に書かれたかどうか、等の点を総合的に勘案して成績評価を行う。

その他

科目ナンバー：(PE) POL732J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	外交史特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(法学) 川嶋 周一		

授業の概要・到達目標

博士論文を執筆するまでのスケジュールリングの管理や必要な研究上の要件を確認し、博士論文執筆に向けて確たる道筋をつけること。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究課題の設定
第3回 研究計画概要作成
第4回 先行研究等の検討
第5回 文献リストの作成
第6回 博士論文の内容報告(1)
第7回 博士論文の内容報告(2)
第8回 博士論文の内容報告(3)
第9回 博士論文の内容報告(4)
第10回 博士論文の成果報告に関する内容検討
第11回 博士論文の成果報告に関する報告
第12回 博士論文の完成に向けた再検討
第13回 今後の研究計画の検証
第14回 まとめと総括

履修上の注意

講義がない日であっても、毎日、博士論文の執筆に向けた作業に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

教員より事前に指示する。

教科書

開講時に指示する。

参考書

開講時ないしは適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

事前準備の入念さ、授業へのコミットメント、執筆された論文を総合的に勘案して行う。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備考	
科目名	日本政治史特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

近現代日本政治をめぐる諸相を各人の研究テーマに即して理解を進める。具体的には論文指導を通し、研究手法を洗練させ、歴史的事実の確認を常に行う。この作業を繰り返すことで、博士論文の作成を行う。

授業内容

日本政治が意味するものは、広義には、政治や社会、教育、環境、芸術、さらには医学や最新テクノロジーの分野まで多岐にわたっている。また日本が諸外国と直接・間接的な関係をもっているため、国際関係に対しても一定の知識や理解がなければ「日本政治」を理解することはできない。くわえて、それらには歴史的理解が不可欠である。

そこで「日本政治を真に理解する」ことを目的として、以下のことをおこなう。問題の所在を自ら明確にするとともに、明確な論理構成をおこなえるようにする。

- 第1回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(1)
- 第2回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(2)
- 第3回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(3)
- 第4回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(4)
- 第5回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(5)
- 第6回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(6)
- 第7回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(7)
- 第8回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(8)
- 第9回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(9)
- 第10回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(10)
- 第11回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(11)
- 第12回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(12)
- 第13回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(13)
- 第14回 総括

履修上の注意

授業で扱うテーマに関し、より専門的な視点からアプローチできるように事前に調べておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

1週間前に次回の報告者のテーマが発表されるので、事前学習により予備知識を得てきてください。

教科書

博士前期課程に在籍する院生たちと討論するために共通のテキストを使用します。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、課題提出に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論によってなされます。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)により判断します。

その他

授業に出席するだけで論文執筆を進めることは困難なので、不断に発表し、相談することが望まれる。

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備考	
科目名	日本政治史特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小西 徳應		

授業の概要・到達目標

近現代日本政治をめぐる諸相を各人の研究テーマに即して理解を進める。具体的には論文指導を通し、研究手法を洗練させ、歴史的事実の確認を常に行う。この作業を繰り返すことで、博士論文の作成を行う。

授業内容

日本政治が意味するものは、広義には、政治や社会、教育、環境、芸術、さらには医学や最新テクノロジーの分野まで多岐にわたっている。また日本が諸外国と直接・間接的な関係をもっているため、国際関係に対しても一定の知識や理解がなければ「日本政治」を理解することはできない。くわえて、それらには歴史的理解が不可欠である。

そこで「日本政治を真に理解する」ことを目的として、以下のことをおこなう。問題の所在を自ら明確にするとともに、明確な論理構成をおこなえるようにする。

- 第1回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(1)
- 第2回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(2)
- 第3回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(3)
- 第4回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(4)
- 第5回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(5)
- 第6回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(6)
- 第7回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(7)
- 第8回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(8)
- 第9回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(9)
- 第10回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(10)
- 第11回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(11)
- 第12回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(12)
- 第13回 博士前期課程に在籍する院生たちと徹底した討論をおこなう(13)
- 第14回 総括

履修上の注意

授業で扱うテーマに関し、より専門的な視点からアプローチできるように事前に調べておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

1週間前に次回の報告者のテーマが発表されるので、事前学習により、予備知識を得て参加してください。

教科書

各院生の研究発表をもとにした授業のため、特定の教科書は定めません。

参考書

各院生の研究発表をもとにした授業のため、特定の参考書は定めません。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に課題はありませんが、他大に限らず、すべてのフィードバックは口頭での説明・討論を通して行います。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)、および貢献度(50%)により判断します。

その他

講義に出席するだけで論文執筆を進めることは困難なので、不断に発表し、相談することが望まれます。

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治思想特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

博士論文の完成に向けた指導を行なう。

授業内容

博士論文作成に向けた文献の探し方、読み方、テーマの発見方法、そして文章をどのように構成するかについて、課題を設けて実際にそれに取り組みながら指導する。

第 一 回 テーマについて
第 二 回 目次づくり
第 三 回 報告(1)
第 四 回 報告(2)
第 五 回 報告(3)
第 六 回 報告(4)
第 七 回 報告(5)
第 八 回 報告(6)
第 九 回 報告(7)
第 十 回 報告(8)
第一一回 報告(9)
第一二回 報告(10)
第一三回 報告(11)
第一四回 まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用にレジュメの準備をすること。
必要に応じて指定する文献を読んでくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

科目ナンバー：(PE) POL792J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	政治思想特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 重田 園江		

授業の概要・到達目標

博士論文の完成に向けた指導を行なう。

授業内容

博士論文作成に向けた文献の探し方、読み方、テーマの発見方法、そして文章をどのように構成するかについて、課題を設けて実際にそれに取り組みながら指導する。

第 一 回 テーマについて
第 二 回 目次づくり
第 三 回 報告(1)
第 四 回 報告(2)
第 五 回 報告(3)
第 六 回 報告(4)
第 七 回 報告(5)
第 八 回 報告(6)
第 九 回 報告(7)
第 十 回 報告(8)
第一一回 報告(9)
第一二回 報告(10)
第一三回 報告(11)
第一四回 まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用にレジュメの準備をすること。
必要に応じて指定する文献を読んでくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告、授業への参画度および貢献度。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	行政学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

博士論文の完成に必要な研究スキルを磨き上げることを目標に置く。

1年間で最低2本以上、「習作」として論文を執筆すること（もしくはその準備を着実に進めること）を単位の認定要件とする。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究上必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに特殊研究Ⅰでは、「習作」論文に関する先行研究の把握とリサーチデザイン、研究計画の立案に重点をおく。

授業内容

- 第1講 博士論文および「習作」論文の研究課題について1
- 第2講 博士論文および「習作」論文の研究課題について2
- 第3講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討1
- 第4講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討2
- 第5講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討3
- 第6講 先行研究のレビュー、研究計画の添削1
- 第7講 先行研究のレビュー、研究計画の添削2
- 第8講 先行研究のレビュー、研究計画の添削3
- 第9講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
- 第10講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
- 第11講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
- 第12講 調査結果の整理、「習作1」執筆状況の報告1
- 第13講 調査結果の整理、「習作1」執筆状況の報告2
- 第14講 「習作1」執筆状況の報告、夏季休業中の進め方について

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に研究についての進捗を求め、その際に留意点等について指摘する。また、適宜オンラインでの指導を実施する。

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	行政学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(政治学) 西村 弥		

授業の概要・到達目標

博士論文の完成に必要な基本的な方法を学ぶことを目標に置く。

1年間で最低2本以上、「習作」として論文を執筆すること（もしくはその準備を着実に進めること）を単位の認定要件とする。

研究テーマの設定、先行研究のレビュー、調査方法の検討と研究計画・章立ての策定、調査データの分析と知見の整理、執筆と併行する章立ての再検討や追加調査の実施等々、具体的な作業を進める中で、研究上必要な能力を獲得、成長させることを試みる。

とくに特殊研究Ⅱでは、先行研究の調査データの分析、得られた知見の整理と「習作」論文の執筆に重点をおく。

授業内容

- 第1講 夏季休業中の成果報告、今後の進め方について
- 第2講 博士論文および「習作2」論文の研究課題について1
- 第3講 博士論文および「習作2」論文の研究課題について2
- 第4講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討1
- 第5講 先行研究のレビュー、リサーチデザインの検討2
- 第6講 先行研究のレビュー、研究計画の添削1
- 第7講 先行研究のレビュー、研究計画の添削2
- 第8講 先行研究のレビュー、研究計画の添削3
- 第9講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告1
- 第10講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告2
- 第11講 先行研究のレビュー、調査結果の中間報告3
- 第12講 調査結果の整理、「習作2」執筆状況の報告1
- 第13講 調査結果の整理、「習作2」執筆状況の報告2
- 第14講 「習作2」執筆状況の報告、春季休業中の進め方について

履修上の注意

無断欠席は単位不認定とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、提出を求められる課題を着実に進めることが準備学習となる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に研究についての進捗を求め、その際に留意点等について指摘する。また、適宜オンラインでの指導を実施する。

成績評価の方法

提出した課題の内容をもとに成績を評価する。

その他

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	地方自治論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

論文完成に向けた内容についての討論と個別指導
地方分権がもたらした影響と成果について、具体的な自治体現場の変化を視野に入れて検討・研究を行う

授業内容

第1回 研究の進め方についてのガイダンス
第2回 研究についての課題設定
第3回 研究計画の見通しについての討論
第4回 地方自治についての先行研究の確認
第5回 基礎文献の確認
第6回 地方自治論の研究動向の検討
第7回 自治体の現状と課題についての検討①
第8回 自治体の現状と課題についての検討②
第9回 受講者の課題についての研究動向の確認①
第10回 受講者の課題についての研究動向の確認②
第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
第12回 博士論文要旨・章立て等検討
第13回 今後に向けた研究計画の検証
第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

開講時に受講生の研究テーマをふまえて決定する

参考書

開講時に指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する

その他

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	地方自治論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 牛山 久仁彦		

授業の概要・到達目標

論文完成に向けた内容についての討論と個別指導
個別政策分野について、地方分権の成果を検証し、今後を展望する

授業内容

第1回 研究の進め方についてのガイダンス
第2回 設定した研究課題の検証
第3回 研究計画概要書の作成
第4回 先行研究等の再整理
第5回 文献リストの作成
第6回 論文作成指導①
第7回 論文作成指導②
第8回 作成論文の中間発表①
第9回 作成論文の中間発表②
第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
第12回 博士論文要旨・章立て等検討
第13回 今後の論文作成に向けた達成度の検証と評価
第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

開講時に受講生の研究テーマをふまえて決定する

参考書

開講時に指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	都市政策特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、研究計画の立案や研究のとりまとめに関連した既往文献調査のまとめ方や論文作成の基本的な手法を学び、授業でのディスカッションを通じて自らの研究テーマと研究計画を確立していく。

なお、研究活動や論文執筆を行うにあたり、予め心得おくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

研究テーマに関する検討や既往研究レビューといったプロセスを通じて、都市政策を取り巻く今日の課題の現状を知り、自らの問題意識の位置づけ・意義を整理することができる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマ案の提示
- 第3回：研究テーマ案に関する基礎知識
- 第4回：研究テーマ案に関する政策の現状
- 第5回：研究倫理に関する指導
- 第6回：文献リスト作成・指導
- 第7回：文献の確認・指導
- 第8回：既往研究レビューのまとめ
- 第9回：研究計画案の作成
- 第10回：研究計画の修正案の提示
- 第11回：既往研究からの位置づけの提示
- 第12回：調査・分析手法の指導
- 第13回：調査・分析手法の案の提示・検討
- 第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。

また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度（20%）、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などの総合的判断（80%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) POL722J			
政治学専攻		備考	
科目名	都市政策特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 野澤 千絵		

授業の概要・到達目標

授業の概要

各自の問題意識に即した研究テーマについて、調査・分析結果に基づく成果をとりまとめる手法を学び、授業でのディスカッションを通じて論文執筆に向けた作業を深化させていく。

到達目標

学生自らが設定した都市政策に関わる研究をテーマに、論文の構成案に関する検討や具体的な調査・分析に基づく成果のとりまとめ手法の検討といったプロセスを通じて、自らの調査・分析をとりまとめる能力を修得できることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：論文作成に関する指導
- 第3回：論文構成案の提示・指導
- 第4回：論文構成の修正案の提示・指導
- 第5回：研究の背景・目的に関するディスカッション
- 第6回：調査・分析方法の妥当性に関するディスカッション
- 第7回：調査・分析結果の表現に関する指導・ディスカッション
- 第8回：調査・分析結果の整理
- 第9回：調査・分析結果に基づく成果の提示・ディスカッション
- 第10回：調査・分析結果に基づく成果の修正・ディスカッション
- 第11回：調査・分析結果に基づく成果の再修正・ディスカッション
- 第12回：論文構成案の再修正
- 第13回：論文執筆に向けた作業の確認
- 第14回：振り返り・総括

履修上の注意

原則として、毎回、レジュメを準備し、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次週までに調査すべきことを提示するので準備すること。

また、毎回、指摘した点について振り返り、適宜、修正作業等を行うとともに、疑問点や論点を整理しておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。
適宜、研究テーマに即して提示する。

参考書

適宜、研究テーマに即して提示する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業時の各自からのプレゼンテーションに対して、ディスカッション等を通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業時間内の貢献度（20%）、及び、研究計画の立案力、研究手法の独創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度、調査・分析の進捗、研究内容の考察力、論文作成能力などを総合的判断（80%）で評価する。

その他

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC762J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	マス・コミュニケーション学特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.	水野 剛也	

授業の概要・到達目標

本講義の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディア分野における主要な研究書や論文をできるだけ多く読むと同時に、参加者自身が「プロの研究者」として研究を実践することである。

最終的な目標は、アカデミアに加わる「ライセンス」といえる博士論文を執筆することである。

博士後期課程の在籍者は、もはや「学生」というよりは、限りなく「プロの研究者」に近い存在であるから、質・量ともに最高峰のレベルを期待する。スポーツにたとえると、前期課程では「自己ベスト」の更新である程度の評価を得られるかもしれないが、後期課程では「日本・世界記録」を破らなければならない。もちろん、あらゆる面において高い倫理水準が求められる。

授業内容

春学期・秋学期ともに、ジャーナリズム、マス・メディア分野における最高水準の文献をできるだけ多く読み、濃密なディスカッションをおこなう。題材は、参加者の関心にあわせて臨機応変に決定する。

同時に、参加者は実際に研究を遂行する（論文を執筆すること）を強く期待され、随時、その内容や進捗状況を発表することになる。

もっとも、講義内でのディスカッションや発表はあくまで「手段」にすぎず、真のねらいは国内外の学会での研究発表、機関の学会誌への論文投稿、そして最終的に博士論文を完成させることである。

第1回	イントロダクション（「学術研究とは」、「研究者の倫理」）	
第2回	文献の報告とディスカッション	1
第3回	文献の報告とディスカッション	2
第4回	文献の報告とディスカッション	3
第5回	文献の報告とディスカッション	4
第6回	文献の報告とディスカッション	5
第7回	文献の報告とディスカッション	6
第8回	文献の報告とディスカッション	7
第9回	文献の報告とディスカッション	8
第10回	文献の報告とディスカッション	9
第11回	文献の報告とディスカッション	10
第12回	文献の報告とディスカッション	11
第13回	これまで読んだ文献全体に関するディスカッション	12
第14回	総括	

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、プロの研究者としての能力を相互に高めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻な準備が必要である。

教科書

初回の演習で説明する。

参考書

初回の演習で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読と発表＝50％、ディスカッション＝50％
日常的な継続的努力がもっとも重要である。文献を精読し発表するという最低限の活動をするのももちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC762J			
政治学専攻		備 考	
科 目 名	マス・コミュニケーション学特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.	水野 剛也	

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、これまで国内外で発表されてきたジャーナリズム、マス・メディア分野における主要な研究書や論文をできるだけ多く読むと同時に、参加者自身が「プロの研究者」として研究を実践することである。

最終的な目標は、アカデミアに加わる「ライセンス」といえる博士論文を執筆することである。

博士後期課程の在籍者は、もはや「学生」というよりは、限りなく「プロの研究者」に近い存在であるから、質・量ともに最高峰のレベルを期待する。スポーツにたとえると、前期課程では「自己ベスト」の更新である程度の評価を得られるかもしれないが、後期課程では「日本・世界記録」を破らなければならない。もちろん、あらゆる面において高い倫理水準が求められる。

授業内容

春学期・秋学期ともに、ジャーナリズム、マス・メディア分野における最高水準の文献をできるだけ多く読み、濃密なディスカッションをおこなう。題材は、参加者の関心にあわせて臨機応変に決定する。

同時に、参加者は実際に研究を遂行する（論文を執筆すること）を強く期待され、随時、その内容や進捗状況を発表することになる。

もっとも、講義内でのディスカッションや発表はあくまで「手段」にすぎず、真のねらいは国内外の学会での研究発表、機関の学会誌への論文投稿、そして最終的に博士論文を完成させることである。

第1回	イントロダクション（「学術研究とは」、「研究者の倫理」）	
第2回	文献の報告とディスカッション	1
第3回	文献の報告とディスカッション	2
第4回	文献の報告とディスカッション	3
第5回	文献の報告とディスカッション	4
第6回	文献の報告とディスカッション	5
第7回	文献の報告とディスカッション	6
第8回	文献の報告とディスカッション	7
第9回	文献の報告とディスカッション	8
第10回	文献の報告とディスカッション	9
第11回	文献の報告とディスカッション	10
第12回	文献の報告とディスカッション	11
第13回	これまで読んだ文献全体に関するディスカッション	12
第14回	総括	

履修上の注意

小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義は一切しない。各自が読んだ文献にもとづき報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、プロの研究者としての能力を相互に高めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前・事後とも、入念な文献精読、および精緻な準備が必要である。

教科書

初回の演習で説明する。

参考書

初回の演習で説明する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内、あるいはポータルサイトにておこなう。

成績評価の方法

文献の精読と発表＝50％、ディスカッション＝50％
日常的な継続的努力がもっとも重要である。文献を精読し発表するという最低限の活動をするのももちろん、ディスカッションへの積極的な参加が問われる。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC712J			
政治学専攻		備考	
科目名	比較社会学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

家族・人口・社会構造の比較社会学的研究を共通テーマに、学術研究を進めて、学術論文を作成するための研究指導を行う。最終目標は博士論文の執筆である。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：問題設定と研究計画
第3回：研究発表と検討(1)
第4回：研究発表と検討(2)
第5回：研究発表と検討(3)
第6回：研究発表と検討(4)
第7回：研究発表と検討(5)
第8回：研究計画の再構成
第9回：研究発表と検討(6)
第10回：研究発表と検討(7)
第11回：研究発表と検討(8)
第12回：研究発表と検討(9)
第13回：研究発表と検討(10)
第14回：総括

履修上の注意

授業は、履修者の設定した個別テーマに即した研究発表、討論、および研究指導により進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究の成否は、履修者本人が研究に対して、どの程度主体的に時間と労力を注ぎ込むかにかかっている。自らの発表準備はもちろんのこと、他の履修者の発表についても、気づいた点や疑問点は積極的に調べる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアーリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田淵一郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への貢献度(研究発表と議論)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC712J			
政治学専攻		備考	
科目名	比較社会学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 加藤 彰彦		

授業の概要・到達目標

家族・人口・社会構造の比較社会学的研究を共通テーマに、学術研究を進めて、学術論文を作成するための研究指導を行う。最終目標は博士論文の執筆である。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：問題設定と研究計画
第3回：研究発表と検討(1)
第4回：研究発表と検討(2)
第5回：研究発表と検討(3)
第6回：研究発表と検討(4)
第7回：研究発表と検討(5)
第8回：研究計画の再構成
第9回：研究発表と検討(6)
第10回：研究発表と検討(7)
第11回：研究発表と検討(8)
第12回：研究発表と検討(9)
第13回：研究発表と検討(10)
第14回：総括

履修上の注意

授業は、履修者の設定した個別テーマに即した研究発表、討論、および研究指導により進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究の成否は、履修者本人が研究に対して、どの程度主体的に時間と労力を注ぎ込むかにかかっている。自らの発表準備はもちろんのこと、他の履修者の発表についても、気づいた点や疑問点は積極的に調べる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

加藤彰彦・戸石七生・林研三編著『家と共同性』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線①)日本経済評論社 2016年
平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編著『出会いと結婚』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線②)日本経済評論社 2017年
小山静子・小玉亮子編著『子どもと教育ー近代家族というアーリーナ』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線③)日本経済評論社 2018年
小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史ーせめぎあう家族と行政』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線④)日本経済評論社 2019年
小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係ー子育て・教育・介護・相続』(比較家族史学会監修：家族研究の最前線⑤)日本経済評論社 2021年
石原邦雄・青柳涼子・田淵一郎編『現代中国家族の多面性ー中国4地域での大規模調査による実証』弘文堂 2013年
Akihiko Kato, *The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century*, 2021, Springer.

その他、授業を進めるなかで、受講者の研究関心も考慮しつつ、先行研究論文・文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで応答・解説する。

成績評価の方法

授業への貢献度(研究発表を含む)によって評価する。

その他

博士後期課程

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC792J			
政治学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

本授業では「働く」ことについて、現代社会における仕事やキャリア、組織、個人の心理の関わりについて学びます。そして個人が主体的にキャリアを形成するとはどのようなことなのか、そのために組織や社会はどうあるべきかについて考えます。

授業内容

1. 仕事、雇用、キャリア(1)
2. 仕事、雇用、キャリア(2)
3. キャリア発達(1)
4. キャリア発達(2)
5. 組織の中のキャリア(1)
6. 組織の中のキャリア(2)
7. 自律的キャリア(1)
8. 自律的キャリア(2)
9. 新しいキャリア研究(1)
10. 新しいキャリア研究(2)
11. 意義深い仕事(1)
12. 意義深い仕事(2)
13. 新しい働き方と組織(1)
14. 新しい働き方と組織(2)

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスをを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表前には発表準備を十分行うこと。

教科書

教科書は用いない。研究テーマに応じて文献を指定する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートへの添削等のフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

科目ナンバー：(PE) SOC792J			
政治学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	産業社会学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学際情報学) 荒木 淳子		

授業の概要・到達目標

本授業では引き続き「働く」ことについて、現代社会における仕事やキャリア、組織、個人の心理の関わりについて学びます。そして個人が主体的にキャリアを形成するとはどのようなことなのか、そのために組織や社会はどうあるべきかについて考えます。

授業内容

1. 働き方の多様化(1)
2. 働き方の多様化(2)
3. 働き方とジェンダー(1)
4. 働き方とジェンダー(2)
5. 日本の雇用システム(1)
6. 日本の雇用システム(2)
7. 働きがい(1)
8. 働きがい(2)
9. リーダーシップ(1)
10. リーダーシップ(2)
11. 職場とチームワーキング(1)
12. 職場とチームワーキング(2)
13. 仕事と学び(1)
14. 仕事と学び(2)

※各回のテーマは履修者の興味関心に合わせて変更することもあり得ます。

履修上の注意

発表には十分な準備を行うこと。他のメンバーの発表についても積極的なコメント、アドバイスをを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自発表準備を十分に行うこと。

教科書

テキストは用いない。研究テーマに応じて適宜文献を指定する。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

口頭でのフィードバック、レポートへの添削等のフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業に対する貢献度(20%)と発表内容(80%)で行う。

その他

政治学専攻

科目ナンバー：(PE) SOC742J			
政治学専攻		備考	
科目名	福祉社会学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

本授業では、つぎの諸問題を中心に授業を展開する。これらは①福祉社会学の基本概念・理論構造・研究方法、②近代の救貧制度・公的扶助制度、③近代の伝染病と衛生制度、④医療保険制度、⑤年金保険制度である。本授業によって、福祉社会学の研究手法を身につけることと、「公的扶助制度」「衛生制度」「医療保険制度」「年金保険制度」の形成の背景に関する理解を深めることができる。現代社会における社会保障制度の機能・限界を把握するに役立つ。

授業内容

- 1 福祉社会学の基本概念(1)
- 2 福祉社会学の基本概念(2)
- 3 福祉社会学の理論構造(1)
- 4 福祉社会学の理論構造(2)
- 5 福祉社会学の研究手法(1)
- 6 福祉社会学の研究手法(2)
- 7 近代の救貧制度
- 8 公的扶助制度の形成
- 9 近代の伝染病と衛生制度の形成(1)
- 10 近代の伝染病と衛生制度の形成(2)
- 11 医療保険制度の形成(1)
- 12 医療保険制度の形成(2)
- 13 年金保険制度の形成(1)
- 14 年金保険制度の形成(2)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度30%と②報告70%によって評価を行う。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) SOC742J			
政治学専攻		備考	
科目名	福祉社会学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 鍾 家新		

授業の概要・到達目標

本授業では、つぎの諸問題を中心に討議する。これらは、(1)コミュニティの変貌・少子高齢化・グローバル化が社会保障制度の改革に与えた影響、(2)地域福祉の実態と課題、(3)福祉格差の実態と対策、(4)東アジア福祉の特徴、である。本授業によって、現代社会における福祉国家の貢献と限界に関する理解を深めることができる。

授業内容

- 1 コミュニティの変貌と社会保障制度の改革(1)
- 2 コミュニティの変貌と社会保障制度の改革(2)
- 3 少子高齢化と社会保障制度の改革(1)
- 4 少子高齢化と社会保障制度の改革(2)
- 5 グローバル化と社会保障制度の改革(1)
- 6 グローバル化と社会保障制度の改革(2)
- 7 地域福祉の実態と課題(1)
- 8 地域福祉の実態と課題(2)
- 9 福祉格差の実態と対策(1)
- 10 福祉格差の実態と対策(2)
- 11 東アジア福祉の特徴(1)
- 12 東アジア福祉の特徴(2)
- 13 福祉国家の貢献と限界(1)
- 14 福祉国家の貢献と限界(2)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献・資料を予習し、授業後、復習すること。

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への参画度30%と②報告70%によって評価を行う。

その他

特になし

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		八木 尚志

授業の概要・到達目標

履修者の研究テーマに関する学術論文の作成を目的とし、そのための研究指導を行う。到達目標は学術論文を完成させることである。

授業内容

学位論文の作成を目的とした研究指導を行います。授業内容は履修者の研究テーマに従います。授業は基本的に履修者による研究テーマに沿った論文の発表とそれに対する研究指導という形式で行います。学位論文作成と併せて研究者としての素養や能力に関する指導も行う予定です。

第1回：論文の構想の検討
第2回：論文に関連する報告(1)
第3回：論文に関連する報告(2)
第4回：論文に関連する報告(3)
第5回：論文に関連する報告(4)
第6回：論文に関連する報告(5)
第7回：論文に関連する報告(6)
第8回：論文に関連する報告(7)
第9回：論文に関連する報告(8)
第10回：論文に関連する報告(9)
第11回：論文に関連する報告(10)
第12回：論文に関連する報告(11)
第13回：論文に関連する報告(12)
第14回：研究全体の構想の検討

履修上の注意

各自の研究テーマに沿ったテーマで、毎回研究報告を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。また、ある程度研究が進んだテーマについては、論文の作成を進めること。

教科書

特に指定せず。

参考書

研究テーマに関する必須文献。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業における報告内容及び論文などによって評価する(100%)。

その他

学会での報告や論文の投稿ができるように研究を進めてください。

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		八木 尚志

授業の概要・到達目標

履修者の研究テーマに関する学術論文の作成を目的とし、そのための研究指導を行う。到達目標は学術論文を完成させることである。

授業内容

学位論文の作成を目的とした研究指導を行う。授業内容は履修者の研究テーマに従って変動するので、個々の履修者によって異なる。本授業は基本的に履修者による研究テーマに沿った論文の発表とそれに対する研究指導という演習形式で行われる。学位論文作成と併せて研究者としての素養や能力に関する指導も行う。

第1回：論文の構想の検討
第2回：論文に関連する報告(1)
第3回：論文に関連する報告(2)
第4回：論文に関連する報告(3)
第5回：論文に関連する報告(4)
第6回：論文に関連する報告(5)
第7回：論文に関連する報告(6)
第8回：論文に関連する報告(7)
第9回：論文に関連する報告(8)
第10回：論文に関連する報告(9)
第11回：論文に関連する報告(10)
第12回：論文に関連する報告(11)
第13回：論文に関連する報告(12)
第14回：研究全体の構想の検討

履修上の注意

各自の研究テーマに沿ったテーマで、毎回研究報告を行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマについて、論文等のサーベイを十分に行い、その読み込みを十分に行うこと。また、ある程度研究が進んだテーマについては、論文の作成を進めること。

教科書

特に指定せず。

参考書

研究テーマに関する必須文献

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告内容および論文によって評価する(100%)。

その他

学会での報告や論文の投稿ができるように研究を進めてください。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 武田 巧		

授業の概要・到達目標

理論経済学の一分野として確立されつつある「制度経済学」に、新制度学派的アプローチから焦点を当てて行きたい。その目的は、かつて賞賛されたいわゆる「日本型経済システム」が、技術革新やグローバル化の進展を始めとする外部環境の変化、加えて高齢化や国内経済の成熟といった内部環境の変化を受けて、その優位性を失っていくメカニズムを明らかにするためであり、そして日本経済が今後目指すべき経済システムを探るためである。従って、上記テーマに関連して博士論文を作成する意思のある研究者が対象となる。

以上の目的に向かって、授業では論文発表を重ねていくが、授業時間外の自主学習としては、新古典派の想定してきた市場概念を振り返り、その問題点を概観し、取引費用の存在や情報の非対称性などといった現実を前にして、いかにして制度が生まれ市場の機能を補完していくのか、そして、様々な制度を束ねる経済システムが生まれていくのか、日本型システムに焦点を絞り、同システムのサブシステムとも言われてきた系列、終身雇用、年功序列型賃金、メインバンク制度などの諸制度について、それぞれが誕生していく背景、その合理性、そして問題点などを扱う数多くの文献を課題として指定するので、それらを毎回まとめて貰うことになる。

到達目標は、皆さんが制度経済学について理解し、そのうえで自らの研究課題を見出すことである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究計画概要作成(1)
- 第3回：研究計画概要作成(2)
- 第4回：先行研究等の検討(1)
- 第5回：先行研究等の検討(2)
- 第6回：制度経済学の最新動向(1)
- 第7回：制度経済学の最新動向(2)
- 第8回：論文の構成検討(1)
- 第9回：論文の構成検討(2)
- 第10回：論文発表 報告と検討(1)
- 第11回：論文発表 報告と検討(2)
- 第12回：論文発表 報告と検討(3)
- 第13回：論文発表 報告と検討(4)
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

マクロ経済学、ミクロ経済学の中級教科書を終えていることが必須。そのうえで、制度経済学について興味のある者を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

学習計画に基づいて指定された文献を読み、まとめ、報告をする。

教科書

講義開始時に指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなども用いて、フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表、論文の内容(70%)などを中心に総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 武田 巧		

授業の概要・到達目標

理論経済学の一分野として確立されつつある「制度経済学」に、新制度学派的アプローチから焦点を当てて行きたい。その目的は、かつて賞賛されたいわゆる「日本型経済システム」が、技術革新やグローバル化の進展を始めとする外部環境の変化、加えて高齢化や国内経済の成熟といった内部環境の変化を受けて、その優位性を失っていくメカニズムを明らかにするためであり、そして日本経済が今後目指すべき経済システムを探るためである。従って、上記テーマに関連して博士論文を作成する意思のある研究者が対象となる。

以上の目的に向かって、授業では論文発表を重ねていくが、授業時間外の自主学習としては、新古典派の想定してきた市場概念を振り返り、その問題点を概観し、取引費用の存在や情報の非対称性などといった現実を前にして、いかにして制度が生まれ市場の機能を補完していくのか、そして、様々な制度を束ねる経済システムが生まれていくのか、日本型システムに焦点を絞り、同システムのサブシステムとも言われてきた系列、終身雇用、年功序列型賃金、メインバンク制度などの諸制度について、それぞれが誕生していく背景、その合理性、そして問題点などを扱う数多くの文献を課題として指定するので、それらを毎回まとめて貰うことになる。

到達目標は、皆さんが制度経済学について理解し、そのうえで自らの研究課題を見出すことである。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究計画概要作成(1)
- 第3回：研究計画概要作成(2)
- 第4回：先行研究等の検討(1)
- 第5回：先行研究等の検討(2)
- 第6回：制度経済学の最新動向(1)
- 第7回：制度経済学の最新動向(2)
- 第8回：論文の構成検討(1)
- 第9回：論文の構成検討(2)
- 第10回：論文発表 報告と検討(1)
- 第11回：論文発表 報告と検討(2)
- 第12回：論文発表 報告と検討(3)
- 第13回：論文発表 報告と検討(4)
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

マクロ経済学、ミクロ経済学の中級教科書を終えていることが必須。制度経済学について興味のある者を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

学習計画に基づいて指定された文献を読み、まとめ、報告をする。

教科書

講義開始時に指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiなども用いて、フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(30%)、発表、論文の内容(70%)などを中心に総合的に評価する。

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

概要：各自の研究テーマについて学術論文を作成するための研究指導を行う。
目標：査読付き学術誌に投稿・採択される水準の学術論文を作成する。

授業内容

査読付き学術誌に投稿・採択される水準の学術論文を作成するため、各自の論文作成過程における既存文献の報告や自身の研究報告をおこなう。

第1回：研究計画の検討
第2回：論文に関する報告(1)
第3回：論文に関する報告(2)
第4回：論文に関する報告(3)
第5回：論文に関する報告(4)
第6回：論文に関する報告(5)
第7回：論文に関する報告(6)
第8回：論文に関する報告(7)
第9回：論文に関する報告(8)
第10回：論文に関する報告(9)
第11回：論文に関する報告(10)
第12回：論文に関する報告(11)
第13回：論文に関する報告(12)
第14回：研究計画の実施状況に関するまとめ

履修上の注意

各自の研究について、毎回進捗状況を報告する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究報告をするのに必要な既存研究の概観を十分におこなうこと。

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容及び作成された論文に基づき評価する(100%)。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	2026年度開講せず
科目名	理論経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 盛本 圭一		

授業の概要・到達目標

概要：各自の研究テーマについて学術論文を作成するための研究指導を行う。
目標：査読付き学術誌に投稿・採択される水準の学術論文を作成する。

授業内容

査読付き学術誌に投稿・採択される水準の学術論文を作成するため、各自の論文作成過程における既存文献の報告や自身の研究報告をおこなう。

第1回：研究計画の検討
第2回：論文に関する報告(1)
第3回：論文に関する報告(2)
第4回：論文に関する報告(3)
第5回：論文に関する報告(4)
第6回：論文に関する報告(5)
第7回：論文に関する報告(6)
第8回：論文に関する報告(7)
第9回：論文に関する報告(8)
第10回：論文に関する報告(9)
第11回：論文に関する報告(10)
第12回：論文に関する報告(11)
第13回：論文に関する報告(12)
第14回：研究計画の実施状況に関するまとめ

履修上の注意

各自の研究について、毎回進捗状況を報告する必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究報告をするのに必要な既存研究の概観を十分におこなうこと。

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容及び作成された論文に基づき評価する(100%)。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

動学マクロ経済学をテーマとして、学術雑誌への投稿が可能なレベルに達する博士論文を仕上げるための研究を実施し、論文を執筆する能力を養成する。具体的には、

- 1) 博士論文の完成に向けた各自の研究に関する個人指導、
 - 2) 研究の方法論に関する授業
- をとりまぜながら授業を実施する。講義（セミナー形式）でとりあげる具体的内容は、近年話題となっている経済動学の諸分野から選ぶ。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：博士論文構想発表(1)
- 第3回：研究計画の策定(総論)
- 第4回：学位論文の書き方(総論)
- 第5回：動学マクロ経済学における研究の方法論(1)
- 第6回：動学マクロ経済学における研究の方法論(2)
- 第7回：動学マクロ経済学における研究の方法論(3)
- 第8回：動学マクロ経済学における研究の方法論(4)
- 第9回：動学マクロ経済学における研究の方法論(5)
- 第10回：動学マクロ経済学における研究の方法論(6)
- 第11回：動学マクロ経済学における研究の方法論(7)
- 第12回：動学マクロ経済学における研究の方法論(8)
- 第13回：博士論文構想発表(2)
- 第14回：先行研究のサーベイと研究課題の明確化、総括

履修上の注意

事前に十分な準備をしてから講義に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

数学的基礎学力を各自高めておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

メールを用いて行う。

成績評価の方法

授業時の発表により行う。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN712J			
経済学専攻		備考	
科目名	理論経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 平口 良司		

授業の概要・到達目標

前期に引き続き引き続き、動学マクロ経済学に関する論文作成能力アップを目指すとともに、研究計画を確定する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：博士論文執筆のための研究計画発表
- 第3回：研究に必要とされる方法論(1)
- 第4回：研究に必要とされる方法論(2)
- 第5回：研究に必要とされる方法論(3)
- 第6回：研究関連分野の理論検討(1)
- 第7回：研究関連分野の理論検討(2)
- 第8回：研究関連分野の理論検討(3)
- 第9回：研究の進捗状況中間発表
- 第10回：研究計画発表
- 第11回：先行研究のサーベイ状況発表
- 第12回：研究関連分野の理論検討(4)
- 第13回：研究の枠組み検討
- 第14回：研究の枠組み詳細検討、総括

履修上の注意

十分に準備をして臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

数学的基礎能力を高めること。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の発表の出来により行う。

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN732J			
経済学専攻		備考	
科目名	計量経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

計量経済学における分析方法

授業内容

第1回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(1)
第2回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(2)
第3回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(3)
第4回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(4)
第5回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(5)
第6回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(6)
第7回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(7)
第8回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(8)
第9回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(9)
第10回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(10)
第11回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(11)
第12回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(12)
第13回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(13)
第14回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(14)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

学生の予備知識による。

教科書

特に定めない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

取り組む姿勢と目標への到達度合いで評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN732J			
経済学専攻		備考	
科目名	計量経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 小林 和司		

授業の概要・到達目標

計量経済学における分析方法

授業内容

第1回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(1)
第2回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(2)
第3回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(3)
第4回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(4)
第5回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(5)
第6回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(6)
第7回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(7)
第8回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(8)
第9回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(9)
第10回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(10)
第11回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(11)
第12回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(12)
第13回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(13)
第14回 受講生の希望に沿って、計量経済学を研究する。(14)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

学生の予備知識による。

教科書

特に定めない。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

取り組む姿勢と目標への到達度合いで評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN732J			
経済学専攻		備考	
科目名	統計学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

時系列分析及び統計的リスク管理の研究。
分析手法の理解と応用を目標とする。

授業内容

金融・証券データを中心に、時系列解析を行い、ARCH, GARCH, 確率分散変動モデルなどを適用し、価格発生メカニズムの実証分析を行う。

第1回:イントロダクション
第2回:研究計画概要作成 1
第3回:研究計画概要作成 2
第4回:研究計画概要作成 3
第5回:先行研究等の検討 1
第6回:先行研究等の検討 2
第7回:先行研究等の検討 3
第8回:時系列モデル研究の最新動向検討 1
第9回:時系列モデル研究の最新動向検討 2
第10回:統計的リスク管理研究の最新動向検討 1
第11回:統計的リスク管理研究の最新動向検討 2
第12回:論文の構成検討 1
第13回:論文の発表
第14回:まとめと総括

履修上の注意

博士春学期課程の統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

推測統計学の予習と、復習は、参考書を読むこと。

教科書

特に指定なし。

参考書

ファイナンス統計学ハンドブック マダラ・ラオ著 森平・小暮監訳

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度(50%)と研究報告の内容(50%)を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN732J			
経済学専攻		備考	
科目名	統計学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 永原 裕一		

授業の概要・到達目標

時系列分析及び統計的リスク管理の研究。
モデルの理解とソフトウェアの計算可能なことを目標とする。

授業内容

金融分野における、リスク管理をテーマに、多変量非正規分布や時系列モデルを適用し、新たな、統計的アプローチの研究を行う。

第1回:イントロダクション
第2回:研究計画概要作成 1
第3回:研究計画概要作成 2
第4回:先行研究等の検討 1
第5回:先行研究等の検討 2
第6回:統計ソフトウェアの検討 1
第7回:統計ソフトウェアの検討 2
第8回:最新の統計モデルの検討 1
第9回:最新の統計モデルの検討 2
第10回:最新の統計モデルの検討 3
第11回:論文の構成検討 1
第12回:論文の構成検討 2
第13回:論文発表、報告と検討
第14回:まとめと総括

履修上の注意

博士春学期課程の統計学は履修済みとする。
授業で紹介した内容について、参考書・論文等で調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

ソフトウェアのマニュアルは、事前に、予習すること。復習は参考書を読むこと。

教科書

特に指定なし。

参考書

ファイナンス統計学ハンドブック マダラ・ラオ著 森平・小暮監訳

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度(50%)と研究報告の内容(50%)を評価する。

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN722J			
経済学専攻		備考	
科目名	経済学史特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

専門学会での研究発表，学会誌への投稿，博士号の取得を促し，経済学史を専攻する研究者として独り立ちできるように研究指導を行う。

授業内容

第1回：修士論文の再考
第2回：研究テーマの設定(長期のテーマと短期のテーマ)
第3回：研究計画の立案(長期の計画と短期の計画)
第4回：研究報告と議論(1)
第5回：研究報告と議論(2)
第6回：研究報告と議論(3)
第7回：研究報告と議論(4)
第8回：研究報告と議論(5)
第9回：研究報告と議論(6)
第10回：研究報告と議論(7)
第11回：研究報告と議論(8)
第12回：研究報告と議論(9)
第13回：研究報告と議論(10)
第14回：授業の総括

履修上の注意

とくになし。

準備学習（予習・復習等）の内容

とくになし。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究計画と実際の研究との整合の程度，専門の学会誌・大学院の研究論集へ投稿した論文等にもとづいて総合的に評価する。

その他

とくになし。

科目ナンバー：(PE) ECN722J			
経済学専攻		備考	
科目名	経済学史特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		高橋 信勝

授業の概要・到達目標

専門学会での研究発表，学会誌への投稿，博士号の取得を促し，経済学史を専攻する研究者として独り立ちできるように研究指導を行う。

授業内容

第1回：博士論文のテーマの設定
第2回：研究史の概観
第3回：研究史における博士論文の位置づけ
第4回：研究報告と議論(1)
第5回：研究報告と議論(2)
第6回：研究報告と議論(3)
第7回：研究報告と議論(4)
第8回：研究報告と議論(5)
第9回：研究報告と議論(6)
第10回：研究報告と議論(7)
第11回：研究報告と議論(8)
第12回：研究報告と議論(9)
第13回：研究報告と議論(10)
第14回：授業の総括

履修上の注意

とくになし。

準備学習（予習・復習等）の内容

とくになし。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究計画と実際の研究との整合の程度，専門の学会誌・大学院の研究論集へ投稿した論文等にもとづいて総合的に評価する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	財政学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

何のための公共部門か、租税と社会保険とはどう違うのか。企業と個人の負担関係をどうみるか。財政の役割、税財政改革を論ずる中で国際比較、歴史、実態分析の観点から議論を進めていきたい。論文については、各自の問題意識の確認、論文作成への道筋を確認を目標としていきたい。

授業内容

各博士課程院生の研究テーマにあわせ、調整、議論を進める。
 第1回：博士論文作成とは
 第2回：大学院入学時における問題意識の報告
 第3回：論文作成の準備事項について
 第4回：資料収集について
 第5回：博士論文の形式について
 第6回：論文テーマの報告①
 第7回：論文テーマの報告②
 第8回：資料収集状況のチェック
 第9回：英文資料について①
 第10回：英文資料について②
 第11回：基礎資料の紹介①
 第12回：基礎資料の紹介②
 第13回：論文報告、自治体財政調査のための夏合宿準備
 第14回：夏期休暇中の研究予定の確認

履修上の注意

学会報告、紀要論文の作成に向け、報告を求める。たえず、問題意識をもち、情報、資料収集にあたってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、1週間の間の研究進行状況報告を求めるので、可能なように準備する。

教科書

追って指示する。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究の進行状況、演習への準備状況を評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	財政学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		星野 泉

授業の概要・到達目標

何のための公共部門か、地方自治体は必要不可欠なものなのか。民営化や民間委託、市町村合併や道州制論議、あるべき自治体の規模など、地方財政をめぐる様々な改革動向について検討する。ここでは、財政に関する幅広い知識の習得とともに、新しい課題にどの程度取り組んでいくことを目標とする。

授業内容

各博士課程院生の研究テーマにあわせ、調整、議論を進める。
 第1回：前期の研究成果報告
 第2回：論文作成状況の報告①
 第3回：論文作成状況の報告②
 第4回：英文資料確認①
 第5回：英文資料確認②
 第6回：英文資料確認③
 第7回：論文作成状況の報告③
 第8回：論文作成状況の報告④
 第9回：論文作成状況の報告⑤
 第10回：完成論文の確認①
 第11回：完成論文の確認②
 第12回：注、参考文献確認、要旨作成
 第13回：冬期休暇中の最終確認について
 第14回：提出した論文内容の再検討、再確認

履修上の注意

学会報告、紀要論文の作成に向け報告を求める。たえず、問題意識をもち、情報、資料収集にあたってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、研究状況確認をするので、準備をすること。

教科書

追って指示する。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究状況、論文、演習への参加準備状況によって評価する。

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	財政学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経済学） 小野島 真		

授業の概要・到達目標

大学院論集，学会誌への論文投稿，そして博士論文執筆に向けて，論文の論理構成を精緻化する。

授業内容

受講者各自にテーマを設定してもらい，大学院論集・学会誌などへの論文投稿に向けた指導を行う。

- 第1回：(a)イントロダクション
- 第2回：論文指導(論文テーマの選定について)
- 第3回：論文指導(先行研究の分析Ⅰ)
- 第4回：論文指導(先行研究の分析Ⅱ)
- 第5回：論文指導(先行研究の分析Ⅲ)
- 第6回：論文指導(論点整理Ⅰ)
- 第7回：論文指導(論点整理Ⅱ)
- 第8回：論文指導(概要報告Ⅰ)
- 第9回：論文指導(概要報告Ⅱ)
- 第10回：論文指導(暫定稿の報告)
- 第11回：論文指導(暫定稿手直しⅠ)
- 第12回：論文指導(暫定稿手直しⅡ)
- 第13回：論文指導(暫定稿手直しⅢ)
- 第14回：論文指導(完成稿報告)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回プレゼンテーションの準備を行うとともに，前回講義での指導内容について，文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には，次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で判断する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	財政学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（経済学） 小野島 真		

授業の概要・到達目標

大学院論集，学会誌への論文投稿，そして博士論文執筆のため，論文の論理構成の精緻化をする。

授業内容

春学期での研究結果を踏まえ，新たなテーマ，論点を見出し，大学院論集・学会誌などへの論文投稿を目指してもらう。

- 第1回：(a)イントロダクション
- 第2回：論文指導(論文テーマの選定について)
- 第3回：論文指導(先行研究の分析Ⅰ)
- 第4回：論文指導(先行研究の分析Ⅱ)
- 第5回：論文指導(先行研究の分析Ⅲ)
- 第6回：論文指導(論点整理Ⅰ)
- 第7回：論文指導(論点整理Ⅱ)
- 第8回：論文指導(概要報告Ⅰ)
- 第9回：論文指導(概要報告Ⅱ)
- 第10回：論文指導(暫定稿の報告)
- 第11回：論文指導(暫定稿手直しⅠ)
- 第12回：論文指導(暫定稿手直しⅡ)
- 第13回：論文指導(暫定稿手直しⅢ)
- 第14回：論文指導(完成稿報告)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回プレゼンテーションの準備を行うとともに，前回講義での指導内容について，文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課題を出した場合には，次の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業への貢献度で判断する。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN762J			
経済学専攻		備考	
科目名	金融経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

金融および金融取引について、情報の経済学に基づく様々なアプローチを使いながら、理解を深めていきます。また、理論と現実をバランス良く理解できるよう、最近の金融実務をしっかりと踏まえた大学院入門レベルの講義を行います。

授業を通じて、将来の金融経済研究者になるための基礎的な知識と金融の考え方を身につけることを到達目標とします。また、金融機関の調査部門やアナリスト業界を目指す受講生にも役立つような内容を中心に講義を進めます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：金融研究方法論
- 第3回：貨幣と決済
- 第4回：金融の機能
- 第5回：金融取引とリスク
- 第6回：金融取引と情報の非対称性
- 第7回：金融と流動化
- 第8回：証券設計
- 第9回：金融と情報生産
- 第10回：金融取引と担保
- 第11回：資産分散化と資産選択
- 第12回：受講生によるレポート(1)
- 第13回：受講生によるレポート(2)
- 第14回：受講生によるレポート(3)

履修上の注意

受講生は、ミクロ・マクロ経済学の基礎を取得していることを前提として授業を進めます。また、毎回の授業では予め担当者を決めておき、教科書を輪読する形で進めます。このため、担当者には、教科書に登場する図表類のアップデートや担当箇所のエッセンスを他の受講生に対して、わかりやすく説明することが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。また、授業中に紹介した文献等については、適宜入手し、復習の際に活かして下さい。なお、学期末までに取りまとめるレポートでは、講義に関連するトピックを選択し、授業中にプレゼンすることを想定しています。

教科書

『金融』内田浩史(有斐閣)

参考書

各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、レポートの内容・プレゼンを総合的に評価します。
(発表・討議への貢献度:40%, レポートの評価:60%)

その他

特にありません。

科目ナンバー：(PE) ECN762J			
経済学専攻		備考	
科目名	金融経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil (経済学) 小早川 周司		

授業の概要・到達目標

春学期の講義を踏まえた上で、金融機関や金融市場の役割のほか、金融政策と金融システムの安定性という中央銀行の政策の本質について、理解を深めていきます。その過程では、マクロ政策を取り巻く国内外の動きをフォローしながら、理論と現実をバランス良く理解できるよう、大学院入門レベルの講義を行います。

授業を通じて、将来の金融経済研究者になるための知識と金融の考え方を身につけることを到達目標とします。また、金融機関の調査部門やアナリスト業界で活躍することを目標とする受講生にも十分に役立つ内容を中心に講義を進めます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：金融システムと金融仲介機関の役割
- 第3回：金融市場の役割
- 第4回：金融仲介機関以外の金融機関の役割
- 第5回：資金循環と金融システム
- 第6回：金融政策と実体経済
- 第7回：非伝統的金融政策を巡る動き
- 第8回：金融危機と金融システムの安定性
- 第9回：ブルーデンス政策を巡る動き
- 第10回：マクロブルーデンスの考え方
- 第11回：受講生によるレポート(1)
- 第12回：受講生によるレポート(2)
- 第13回：受講生によるレポート(3)
- 第14回：ラップアップ

履修上の注意

受講生は、ミクロ・マクロ経済学の基礎を取得していることを前提として授業を進めます。また、毎回の授業では予め担当者を決めておき、教科書を輪読する形で進めます。このため、担当者には、教科書に登場する図表類のアップデートや担当箇所のエッセンスを他の受講生に対して、わかりやすく説明することが求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

今回の授業範囲について、事前に教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。また、授業中に紹介した文献等については、適宜入手し、復習の際に活かして下さい。なお、学期末までに取りまとめるレポートでは、講義に関連するトピックを選択し、授業中にプレゼンすることを想定しています。

教科書

『金融』内田浩史(有斐閣)

参考書

各回の授業において紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の授業における発表・討議への貢献度合い、レポートの内容・プレゼンを総合的に評価します。
(発表・討議への貢献度:40%, レポートの評価:60%)

その他

特にありません。

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	社会保障論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障論・公共経済学に関する実証分析

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：社会保障の分析視点①—社会保障とは何か
第3回：社会保障の分析視点②—日本の社会保障制度について
第4回：研究に必要な経済学に関する演習①—ミクロ経済学
(1) (市場の失敗)
第5回：研究に必要な経済学に関する演習②—ミクロ経済学
(2) (効率と公平)
第6回：研究に必要な経済学に関する演習③—ミクロ経済学
(3) (情報の非対称性)
第7回：研究に必要な経済学に関する演習④—マクロ経済学
第8回：わが国の社会保障統計について①—社会保障全般
第9回：わが国の社会保障統計について②—年金
第10回：わが国の社会保障統計について③—医療
第11回：わが国の社会保障統計について④—生活保護・その他
第12回：海外の社会保障統計について
第13回：人口動向と少子高齢化の現状について
第14回：少子化対策

履修上の注意

社会保障及びその関連分野に関する経済学的基礎理論の習得を行うとともに、実証分析の手法に関する知識のブラッシュアップを行うので、ミクロ・マクロ・計量経済学を履修していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定する教材等を読んだうえで授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。公開された雑誌や書籍の論文を題材として使用する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と演習・討議への参加、宿題等の提出などを勘案して成績評価を行う。

その他

計量経済学のソフト（EViews, R等）に熟知していることが望ましい。

科目ナンバー：(PE) ECN752J			
経済学専攻		備考	
科目名	社会保障論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 加藤 久和		

授業の概要・到達目標

社会保障論・公共経済学に関する実証分析

授業内容

第1回：先行研究のレビュー①—年金制度に関する実証分析①
第2回：先行研究のレビュー②—年金制度に関する実証分析②
第3回：先行研究のレビュー③—医療制度に関する実証分析①
第4回：先行研究のレビュー④—医療制度に関する実証分析②
第5回：先行研究のレビュー⑤—人口問題に関する実証分析①
第6回：先行研究のレビュー⑥—人口問題に関する実証分析②
第7回：先行研究のレビュー⑦—社会保障制度改革に関する実証分析①
第8回：先行研究のレビュー⑧—社会保障制度改革に関する実証分析②
第9回：計量経済学の知識の復習①
第10回：計量経済学の知識の復習②
第11回：マクロ経済と社会保障制度に関する実証分析①
第12回：マクロ経済と社会保障制度に関する実証分析②
第13回：マクロ経済と社会保障制度に関する実証分析③
第14回：研究に必要な実証分析の手法について

履修上の注意

社会保障及びその関連分野に関する経済学的基礎理論の習得を行うとともに、実証分析の手法に関する知識のブラッシュアップを行うので、ミクロ・マクロ・計量経済学を履修していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定する教材等を読んだうえで授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。公開された雑誌や書籍の論文を題材として使用する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と演習・討議への参加、宿題等の提出などを勘案して成績評価を行う。

その他

計量経済学のソフト（EViews, R等）に熟知していることが望ましい。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN742J			
経済学専攻		備考	
科目名	日本経済論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

第1回 イントロダクション
 第2回 成長会計の理論とデータ収集方針
 第3回 日本経済に関する成長会計(1)
 第4回 日本経済に関する成長会計(2)
 第5回 日本経済に関する成長会計(3)
 第6回 時系列分析の基礎とVAR
 第7回 日本経済に関するVAR分析(1)
 第8回 日本経済に関するVAR分析(2)
 第9回 日本経済に関するVAR分析(3)
 第10回 パネルデータ分析の基本概念
 第11回 日本経済に関するパネル分析(1)
 第12回 日本経済に関するパネル分析(2)
 第13回 日本経済に関するパネル分析(3)
 第14回 その他の論点について
 ※受講生の興味にあわせテーマを調整する可能性があるの
 で、受講予定者は初回講義には必ず出席すること

履修上の注意

・定期的に論文を執筆し、外部に報告すること

準備学習（予習・復習等）の内容

・履修者と協議の上決定する

教科書

・履修者と協議の上決定する

参考書

・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・論文による

その他

科目ナンバー：(PE) ECN742J			
経済学専攻		備考	
科目名	日本経済論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 飯田 泰之		

授業の概要・到達目標

日本経済をフィールドとする実証分析に関する論文執筆の指導を行う

授業内容

第1回 イントロダクション
 第2回 生産性に関する近年の研究動向(1)
 第3回 生産性に関する近年の研究動向(2)
 第4回 金融政策に関する近年の研究動向(1)
 第5回 金融政策に関する近年の研究動向(2)
 第6回 財政政策に関する近年の研究動向(1)
 第7回 財政政策に関する近年の研究動向(2)
 第8回 労働市場に関する近年の研究動向(1)
 第9回 労働市場に関する近年の研究動向(2)
 第10回 国際経済に関する近年の研究動向(1)
 第11回 国際経済に関する近年の研究動向(2)
 第12回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(1)
 第13回 主観的幸福度に関する近年の研究動向(2)
 第14回 その他の論点について
 ※受講生の興味にあわせテーマを調整する可能性があるの
 で、受講予定者は初回講義には必ず出席すること

履修上の注意

・定期的に論文を執筆し、外部に報告すること

準備学習（予習・復習等）の内容

・履修者と協議の上決定する

教科書

・履修者と協議の上決定する

参考書

・履修者と協議の上決定する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・論文による

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN742J			
経済学専攻		備考	
科目名	国際経済政策特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

博士論文の全体像を描くことを目標とする。博士論文の完成を目指して、論文指導を行っていく。前半は論文発表と討議を中心に行い、後半は事前に提出した論文(各章・各節ごと)についての添削指導と論文の修正を行っていく。

《到達目標》

博士論文の全体像を描くことを目標とする。

授業内容

第1回 a:イントロダクション b:論文の書き方について
第2回 論文の構想の発表(1)
第3回 論文の構想の発表(2)
第4回 先行研究の発表(1)
第5回 先行研究の発表(2)
第6回 先行研究の発表(3)
第7回 これまでのまとめ
第8回 論文発表(1)
第9回 論文発表(2)
第10回 論文発表(3)
第11回 論文発表(4)
第12回 論文発表(5)
第13回 これまでのまとめ
第14回 今後の研究方針の確認

履修上の注意

授業では必ず論文の進捗度合いについて報告をしてもらいます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に論文の進捗状況に応じて、準備学習については指示する。

教科書

特になし。

参考書

授業時に研究テーマに沿った文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(50%)と研究発表(50%)で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN742J			
経済学専攻		備考	
科目名	国際経済政策特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤永 修一		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

博士論文の全体像を描くことを目標とする。博士論文の完成を目指して、論文指導を行っていく。前半は論文発表と討議を中心に行い、後半は事前に提出した論文(各章・各節ごと)についての添削指導と論文の修正を行っていく。

《到達目標》

博士論文の全体像を描くことを目標とする。

授業内容

第1回 論文の構想の確認
第2回 論文発表(1)
第3回 論文発表(2)
第4回 論文発表(3)
第5回 これまでのまとめ
第6回 論文発表(4)
第7回 論文発表(5)
第8回 論文発表(6)
第9回 論文の最終検討
第10回 論文の構想の最終確認
第11回 論文の校正と修正(1)
第12回 論文の校正と修正(2)
第13回 論文の修正と校正(3)
第14回 論文の最終確認

履修上の注意

授業では必ず論文の進捗度合いについて報告をしてもらいます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に論文の進捗状況に応じて、準備学習については指示する。

教科書

特になし。

参考書

授業時に研究テーマに沿った文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参画度(50%)と研究発表(50%)で評価する。

その他

特になし。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	開発経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文のテーマ設定
- 第3回 論文の構成について
- 第4回 先行研究の分析(1)
- 第5回 先行研究の分析(2)
- 第6回 内容の検討(1)
- 第7回 内容の検討(2)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(2)
- 第10回 論文内容の検討(1)
- 第11回 論文内容の検討(2)
- 第12回 論文内容の検討(3)
- 第13回 最終発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

- ・Suenaga, Keiichiro, 2018, "Catching up and Innovation in the Asia Pacific: An Evolutionary Approach," Thomas Clarke and Keun Lee eds., *Innovation in the Asia Pacific: From Manufacturing to Knowledge Economies*, Springer.
- ・Bui, Minh Tam, Rumi Miura, Masami Saito, Yusuke Shibata and Keiichiro Suenaga, 2022, "Fragmented Flying Geese (FFG) and Intra-regional Agglomeration: Towards a Model Explaining Location Shifting of Japanese Multinational Corporations and the Electric Value Chains of ASEAN Economies," *Economies*, 10(10), 238.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%，論文70%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	開発経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 末永 啓一郎		

授業の概要・到達目標

本演習では、論文の作成について検討を行いつつ、論文の完成を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文のテーマ設定
- 第3回 論文の構成について
- 第4回 先行研究の分析(1)
- 第5回 先行研究の分析(2)
- 第6回 内容の検討(1)
- 第7回 内容の検討(2)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(2)
- 第10回 論文内容の検討(1)
- 第11回 論文内容の検討(2)
- 第12回 論文内容の検討(3)
- 第13回 最終発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

経済理論や国際経済、計量経済学に関する講義も履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習の内容については、その都度、指示する。

教科書

受講生の要望を踏まえながら決定する。

参考書

- ・Suenaga, Keiichiro, 2018, "Catching up and Innovation in the Asia Pacific: An Evolutionary Approach," Thomas Clarke and Keun Lee eds., *Innovation in the Asia Pacific: From Manufacturing to Knowledge Economies*, Springer.
- ・Bui, Minh Tam, Rumi Miura, Masami Saito, Yusuke Shibata and Keiichiro Suenaga, 2022, "Fragmented Flying Geese (FFG) and Intra-regional Agglomeration: Towards a Model Explaining Location Shifting of Japanese Multinational Corporations and the Electric Value Chains of ASEAN Economies," *Economies*, 10(10), 238.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%，論文70%。

その他

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	経済地理学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)		廣松 悟

授業の概要・到達目標

地域空間システム論関連の問題群に関する様々な経済地理学のアプローチの総体的理解と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。マクロ及びグローバル経済成長と地域経済空間変動の関連についてこれまでに実施されてきた多様な都市経済地理学のアプローチについて、モデル論的展開と実証研究事例を多くの外国語文献を含め適宜紹介し集団セッションによる相互検討を通じて積極的に吸収していく中で、上記の目標を実現できるように鋭意努力する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：地域システムの概念とその実態
第3回：地域システムの定式とそのパターン
第4回：報告と討論(1)
第5回：報告と討論(2)
第6回：地域システムに関する社会科学的アプローチ
第7回：報告と討論(3)
第8回：報告と討論(4)
第9回：地域形成とその背景・都市空間論
第10回：地域形成とその背景・地域空間論
第11回：地域空間モデルの意義とその限界(1)
第12回：地域空間モデルの意義とその限界(2)
第13回：報告と討論(5)
第14回：総合討論

履修上の注意

空間変数を明示的分析単位とするアプローチに積極的な関心と地震の研究における具体的な展開の意志を有していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

モデルと英文の正確な理解と運用を図るため、レジュメ等の作成と事前提出を適宜求める。

教科書

特に定めない。地域空間システム論に関連して開始時に指定する膨大な量に及ぶ諸言語での参考文献を積極的かつ批判的に吸収することが求められる。

参考書

上記と同様に、指定する諸言語で書かれた参考文献を積極的かつ批判的に参照してもらう。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

学期中の報告(60%)及び討論への参加度(40%)。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	経済地理学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)		廣松 悟

授業の概要・到達目標

場所(トポス)論関連の様々な経済地理学のアプローチの総体的理解と各自の研究における展開能力の向上を主な目標とする。グローバス経済社会の進展の中で改めてその重要性が再確認されつつあるトポス論関連のさまざまな都市経済地理学のアプローチについて、モデル論的展開と実証研究事例を多くの外国語文献を含め適宜紹介し集団セッションによる相互検討を通じて積極的に吸収していく中で、上記の目標を実現できるように鋭意努力する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「場所」の概念とその実態
第3回：「場所」の定式とそのパターン
第4回：報告と討論(1)
第5回：報告と討論(2)
第6回：「場所」に関する社会科学的アプローチ
第7回：報告と討論(3)
第8回：報告と討論(4)
第9回：「場所」形成とその背景・グローバリズムとの関連
第10回：「場所」形成とその背景・ローカリズムの論理
第11回：「場所」モデルの意義とその限界(1)
第12回：「場所」モデルの意義とその限界(2)
第13回：報告と討論(5)
第14回：総合討論

履修上の注意

空間変数を明示的分析単位とするアプローチに積極的な関心と展開の意志を有していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

モデルと英文の正確な理解と運用を図るため、レジュメ等の作成と事前提出を求める場合がある。

教科書

特に定めない。モデルとしての場所論に関連して指定する膨大な量に及ぶ諸言語での参考文献を積極的かつ批判的に吸収することが求められる。

参考書

上記と同様に、指定する諸言語で書かれた参考文献を積極的かつ批判的に参照してもらう。

課題に対するフィードバックの方法

学生の興味関心に一定程度応じて課題を数回課し、提出物のパフォーマンスに応じた対応を行う。

成績評価の方法

学期中の報告(60%)及び討論への参加度(40%)。

その他

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備 考	
科 目 名	地域産業論特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本特殊研究では、博士論文の作成にむけ、先行研究レビュー、統計処理及びフィールドワークの精緻化とともに論文草稿作成指導を行う。
論文草稿の作成を目標とし、早期に博士論文の本格執筆に取り掛かれるようにする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 論文構成内容の検討・討論
- 第6回 地域産業関連理論の最新動向検討(1)：産業集積論
- 第7回 地域産業関連理論の最新動向検討(2)：地域構造論
- 第8回 地域産業関連理論の最新動向検討(3)：地域イノベーション・システム論
- 第9回 事例分析・統計分析の検討・討論
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、博士論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

特殊研究で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次の特殊研究でフィードバックする。

成績評価の方法

特殊研究での報告(50%)、研究計画書(50%)

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備 考	
科 目 名	地域産業論特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 奥山 雅之		

授業の概要・到達目標

本特殊研究では、博士論文の完成にむけた研究の一部に関する論文文化等を行う。
博士論文の構成要素となる論文の作成を目標とし、理論の補正および精緻化を繰り返し実施する。

授業内容

- 第1回 復習・レビュー、研究計画書のブラッシュアップ
- 第2回 地域産業関連理論の最新動向検討(1)：特定産業の構造分析
- 第3回 地域産業関連理論の最新動向検討(2)：特定地域の構造分析
- 第4回 地域産業関連理論の最新動向検討(3)：企業の経営行動理論
- 第5回 理論の補正および精緻化の検討・討論(1)：検討
- 第6回 理論の補正および精緻化の検討・討論(2)：討論
- 第7回 先行研究論文レビューおよび討論(1)：レビュー
- 第8回 先行研究論文レビューおよび討論(2)：討論
- 第9回 論文草稿の見直し・討論(1)：見直し
- 第10回 論文草稿の見直し・討論(2)：討論
- 第11回 論文修正および推敲(1)：修正
- 第12回 論文修正および推敲(2)：推敲
- 第13回 論文の完成
- 第14回 総括

履修上の注意

地域産業を研究対象とするため、博士論文およびその構成要素となる論文の作成には文献研究、統計処理、フィールドワークの3つの要素が不可欠である。こうしたことに主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

特殊研究で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。調べた内容はレポートとして提出すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、次の特殊研究でフィードバックする。

成績評価の方法

特殊研究での報告(50%)、博士論文の構成要素となる論文(50%)

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備 考	
科 目 名	中小企業論特殊研究Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

今日では、グローバル化や AI/IoT/DX化など、経営環境の変化が早い時代において、現実の経済活動における真実を解明するために、中小企業に対する研究の必要性が高まっている。

また、各国や地域、産業ごとに資本主義経済の成長と発展の過程が異なるために、多様な経営実態を有する中小企業を研究することは、複雑な経済活動を理解することにもつながる。

そこで、春学期においては、中小企業に関する多様な先行研究を使用して、中小企業の経営の課題と実態、および多種多様な成長戦略を研究する。この研究を通じて、中小企業の特定分野における経営課題を見出し、それに関するテーマを設定の上、研究・調査計画の作成、および論文の作成を進める。

さらに、これらの文献研究をふまえて、特定分野の経営手法に基づく中小企業の経営の改善や改革に関連するテーマを設定する。そして、このテーマに基づく研究と調査計画の作成を行った上で、論文の作成を行う。

授業内容

- 第1回：イントロダクション（博士論文テーマの決め方の解説と作成計画書の作成）
第2回：輪読と討議(1:論文・研究報告書の構想発表と添削)
第3回：輪読と討議(2:研究・調査計画の作成)
第4回：輪読と討議(3:論文・研究報告書の章立て発表と添削)
第5回：輪読と討議(4:論文・研究報告書の章立て及び一部執筆部分の発表)
第6回：輪読と討議(5:論文・研究報告書の章立て及び一部執筆部分の発表)
第7回：実態調査項目の設計(1)
第8回：実態調査項目の設計(2)
第9回：実態調査の実施(1)
第10回：実態調査報告発表と討議(1)
第11回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(1)
第12回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(2)
第13回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(3)
第14回a:論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(4)

履修上の注意

授業は、課題に基づく履修者によるプレゼンテーションと、それに対する教員による指導・講評によって進めていくので、授業出席時には必ず発表用資料を用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、履修者は初回授業時に、論文構想書を提出すること。また、毎回の授業時に論文執筆の進捗状況を説明する発表用資料と執筆途上の論文を必ず提出できるように、事前準備を行うこと。

復習として、発表用資料に基づいた授業中の発表時の討議の中で指摘されたことに従って、また授業時に添削された執筆途上の論文を修正すること、次の授業に備えること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営：環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一（八千代出版）
『企業の一生涯の経済学』橋本俊昭・安田武彦（ナカニシヤ出版）
『ネットワーク社会の経営学』百瀬恵夫・梶原 豊編（白桃書房）
『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄（同友館）
『中小企業白書・小規模企業白書 2025年版』中小企業庁（日経印刷）
『Product/Market Strategies of Small and Medium-sized Enterprises』Bambergarm（Avebury）

参考書

『A General Theory of Entrepreneurship』Scott Shane（Edward Elgar）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業時に論文執筆の進捗状況を説明すると共に、執筆途上の論文を提出を行い、添削指導を受ける。

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料と論文の構想書の提出、授業中に毎回行うプレゼンテーション、レポート（教科書毎に行う）、調査等の研究活動への参画状況によって、総合的に評価する。

総得点100点＝プレゼンテーション用資料と論文の構想書40点＋プレゼンテーション20点＋レポート20点＋調査等の研究活動への参画状況（調査報告書の作成）20点。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会あるいは地域産業視察会を実施する予定。

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備 考	
科 目 名	中小企業論特殊研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学) 森下 正		

授業の概要・到達目標

今日では、グローバル化や AI/IoT/DX化など、経営環境の変化が早い時代において、現実の経済活動における真実を解明するために、中小企業に対する研究の必要性が高まっている。

また、各国や地域、産業ごとに資本主義経済の成長と発展の過程が異なるために、多様な経営実態を有する中小企業を研究することは、複雑な経済活動を理解することにもつながる。

そこで、秋学期においては、中小企業経営にとって必要不可欠な資金調達、知的財産権、サプライチェーン・マネジメント、イノベーション、品質管理、CSR経営、連携・組織化など、数々の経営手法に関する先行研究に関する文献について研究する。さらに、これらの文献研究をふまえて、特定分野の経営手法に基づく中小企業経営の改善及び改革に関連するテーマ設定と研究・調査計画の作成を行った上で、論文の執筆指導を行い、博士論文の作成を目指す。

授業内容

- 第1回：イントロダクション（調査研究計画および論文執筆計画の修正）
第2回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(1)
第3回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(2)
第4回：輪読と討議(1)
第5回：輪読と討議(2)
第6回：輪読と討議(3)
第7回：輪読と討議(4)
第8回：輪読と討議(5)
第9回：実態調査項目の設計
第10回：実態調査の実施
第11回：実態調査報告発表と討議
第12回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(3)
第13回：論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(4)
第14回a:論文・研究報告書の執筆中間報告及び添削指導(5)

履修上の注意

授業は、課題に基づく履修者によるプレゼンテーションと、それに対する教員による指導・講評によって進めていくので、授業出席時には必ず発表用資料を用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、履修者は初回授業時に、論文構想書を提出すること。また、毎回の授業時に論文執筆の進捗状況を説明する発表用資料と執筆途上の論文を必ず提出できるように、事前準備を行うこと。

復習として、発表用資料に基づいた授業中の発表時の討議の中で指摘されたことに従って、また授業時に添削された執筆途上の論文を修正すること、次の授業に備えること。

教科書

『持続可能社会を築く中小企業経営：環境・歴史・文化・地域との共生を目指して』森下正・竜浩一（八千代出版）
『中小企業組合の歴史的展開』山本 貢（新山社）
『Innovation Management』Allan Afuah（Oxford）
『Lean and Meam』Bennet Harrison（BasicBooks）

参考書

『The Silicon Valley Edge』Chong-Moon Lee, William F. Miller, Marguerite Gong Hancock, and Herr S. Rowen（Stanford Business）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は、プレゼンテーション用資料と論文の構想書の提出、授業中に毎回行うプレゼンテーション、レポート（教科書毎に行う）、調査等の研究活動への参画状況によって、総合的に評価する。

総得点100点＝プレゼンテーション用資料と論文の構想書40点＋プレゼンテーション20点＋レポート20点＋調査等の研究活動への参画状況（調査報告書の作成）20点。

その他

8月下旬、11月上旬、及び3月上旬に産業集積地における中小企業などに対するヒアリング調査を、また8月1日、12月25日に工場視察会あるいは地域産業視察会を実施する予定。

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	環境経済学特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

環境経済論，環境経済理論史，環境政策

授業内容

環境経済学，環境政策の形成・発展の過程に着目した講義と演習を行う。環境志向ビジネスが環境志向資本として国民経済と世界経済に定着しつつある現状を理論と政策に組み込む。あわせて環境経済学の方法論についても検討を加える。

第1回目 環境経済学の理論に関する研究を進めるための準備(既存理論の検討1)

第2回目 環境経済学の理論に関する研究を進めるための準備(既存理論の検討2)

第3回目 環境経済学の理論に関する研究を進めるための準備(既存理論の検討3)

第4回目 環境経済学の理論に関する研究を進めるための準備(既存理論の検討4)

第5回目 以上4回のまとめ

第6回目 環境政策に関する研究を進めるための準備(既存政策の検討1)

第7回目 環境政策に関する研究を進めるための準備(既存政策の検討2)

第8回目 環境政策に関する研究を進めるための準備(既存政策の検討3)

第9回目 環境政策に関する研究を進めるための準備(既存政策の検討4)

第10回目 以上4回のまとめ

第11回目 受講者の採用する環境経済学の方法についての報告と討論1

第12回目 受講者の採用する環境経済学の方法についての報告と討論2

第13回目 受講者の採用する環境経済学の方法についての報告と討論3

第14回目 以上3回のまとめ

履修上の注意

既存の環境経済学の問題点について文献研究をしておくこと。
既存の環境政策の問題点について文献研究をしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

環境経済・政策論にかんする文献を2—3冊目を通しておくこと。

教科書

方法論については以下を教科書としたい。
カール・ウィリアム・カップ著(大森正之訳)(2014)『制度派経済学の基礎』人間の科学社

参考書

カップの既存の翻訳書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各まとめに際してレポートを提出してもらい、それを評価する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	環境経済学特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 大森 正之		

授業の概要・到達目標

環境経済論，環境経済理論史，環境政策

授業内容

受講者各自の論文作成についての指導を行う。

第1回 テーマ設定の理論的背景について

第2回 テーマ設定の実際的背景について

第3回 テーマに関する既存論文の検討1

第4回 テーマに関する既存論文の検討2

第5回 テーマに関する既存論文の検討3

第6回 テーマに関する既存論文の検討4

第7回 テーマに関する既存論文の検討5

第8回 参考文献の検討

第9回 論文骨子の検討1

第10回 論文骨子の検討2

第11回 論文骨子の検討3

第12回 論文の各章のストーリーの検討1

第13回 論文の各章のストーリーの検討2

第14回 論文の到達点と未到達の課題

履修上の注意

既書に書いた論文(学会誌発表済)の発展途上に新しい論文のテーマと概要を想定していること。

準備学習(予習・復習等)の内容

環境経済論，環境経済理論史，環境政策に関する基本的文献をそれぞれ2—3冊目を通しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

マックス・ヴェーバーの社会科学の方法論などの方法論の古典文献

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文の概要の提出を求め、それを評価する。

その他

博士後期課程

経済学専攻

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	協同組合論特殊研究Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		大高 研道

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

協同組合・社会的企業研究などに関連するテーマについての先行研究のアップデートおよび実証分析の検討を中心に行う。また、マクロな視点から社会的経済・社会的連帯経済の国内外の研究動向に関する文献講読を通して、現代社会の基礎構造分析にむけた基本視座の確立をめざす。

《到達目標》

博士論文の完成が最終的な到達目標となる。また、そのプロセスにおいて学内外の研究会・学会等で研究報告および論文投稿をしてもらう。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 研究課題の設定
第3回 研究計画の検討
第4回 先行研究のターゲットの検討
第5回 博士論文の検討(1)
第6回 博士論文の検討(2)
第7回 博士論文の検討(3)
第8回 博士論文の検討(4)
第9回 研究中間総括
第10回 学会報告および投稿論文の検討(1)
第11回 学会報告および投稿論文の検討(2)
第12回 博士論文の完成に向けた再検討
第13回 研究計画の達成度の検証および再設定
第14回 まとめと総括

履修上の注意

博士論文の中心的問いと全体構成をつねに念頭に置きつつ、独自の理論構築にむけて研究に取り組んでほしい。国内外の研究会・学会報告は年1～3回程度行ってもらおう。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習・復習》

毎回の報告内容および研究の進捗状況を踏まえて、事前・事後に教員より指示する。

教科書

特になし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点・調査課題等を整理して記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%，平常点(授業での報告・発表) 50%

その他

科目ナンバー：(PE) ECN792J			
経済学専攻		備考	
科目名	協同組合論特殊研究Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		大高 研道

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

協同組合・社会的企業研究などに関連するテーマについての先行研究のアップデートおよび実証分析の検討を中心に行う。また、マクロな視点から社会的経済・社会的連帯経済の国内外の研究動向に関する文献講読を通して、現代社会の基礎構造分析にむけた基本視座の確立をめざす。

《到達目標》

博士論文の完成が最終的な到達目標となる。また、そのプロセスにおいて学内外の研究会・学会等で研究報告および論文投稿をしてもらう。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 研究計画の設定
第3回 研究課題・方法の再検討
第4回 先行研究の再検討
第5回 投稿論文の検討(1)
第6回 投稿論文の検討(2)
第7回 研究中間総括
第8回 博士論文の検討(1)
第9回 博士論文の検討(2)
第10回 博士論文の検討(3)
第11回 博士論文の検討(4)
第12回 博士論文の検討(5)
第13回 研究計画の達成度の検証および再設定
第14回 まとめと総括

履修上の注意

博士論文の中心的問いと全体構成をつねに念頭に置きつつ、独自の理論構築にむけて研究に取り組んでほしい。国内外の研究誌への投稿は年1～2本ペースで行ってもらおう。

準備学習（予習・復習等）の内容

《予習・復習》

毎回の報告内容および研究の進捗状況を踏まえて、事前・事後に教員より指示する。

教科書

特になし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後にクラスウェブの「出席管理」に講義の感想・疑問点・調査課題等を整理して記入してもらう。翌週の講義の冒頭でこれらについて解説および意見交換を行う。

成績評価の方法

授業への参加度50%，平常点(授業での報告・発表) 50%

その他

交通遅延発生時の授業等の措置について

	緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。 なお、自身が利用する交通機関の遅延・運休により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。 (1) 地震発生時の行動 身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。) ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 (2) 地震直後の行動 大きな地震の後には、必ず余震が来ると思ってください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。 ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 (3) 地震後の行動 ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	---

	(4) 避難行動 ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。 ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。 ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。 ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。 ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html)を確認してください。 (5) 帰宅困難対策について 大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。 2 火災発生時の対応 (1) 火災を発見した場合の行動 ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。 ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。 ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。 ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。 (2) 初期消火のポイント ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。 ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3～5m)から消火してください。 ・出来るだけ多くの人で消火等を集めて、一気に消火してください。 ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。 (3) 避難行動 ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。 ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。 ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
--	---

3 災害発生時の連絡方法	(1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板(Web171)・Google パーソンファインダー等を利用するなど。) (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。 また、補助的手段として、X(旧 Twitter)からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。 明治大学公式アカウント(@Meiji_Univ_PR) 《参考》 ・災害発生時の公衆電話・ 災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報(119)も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。
4 平常時の備え	(1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。 (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路(通路、階段等)には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。 (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。 (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。 (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大規模地震発生時の避難マニュアル (駿河台キャンパス) 【学生用】

大規模地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！(落下物に注意)**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。



地震直後の行動

- (1) **余震に注意**
天吊りプロジェクターやガラスからは離れる。
- (2) **火の元確認。初期消火！**
出火した時は、落ち着いて消火活動と各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保する。
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室の安全を確認**
声をかける、傷病人がいないか確認する。



地震後の行動

- (1) **館内放送の指示に従う。**
- (2) **教室の安全を再確認**
傷病人がいないか再度確認し、いた場合は、各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **周囲の状況を確認する。**
火の元を確認する。



以下、大規模地震発生時の避難フローへ

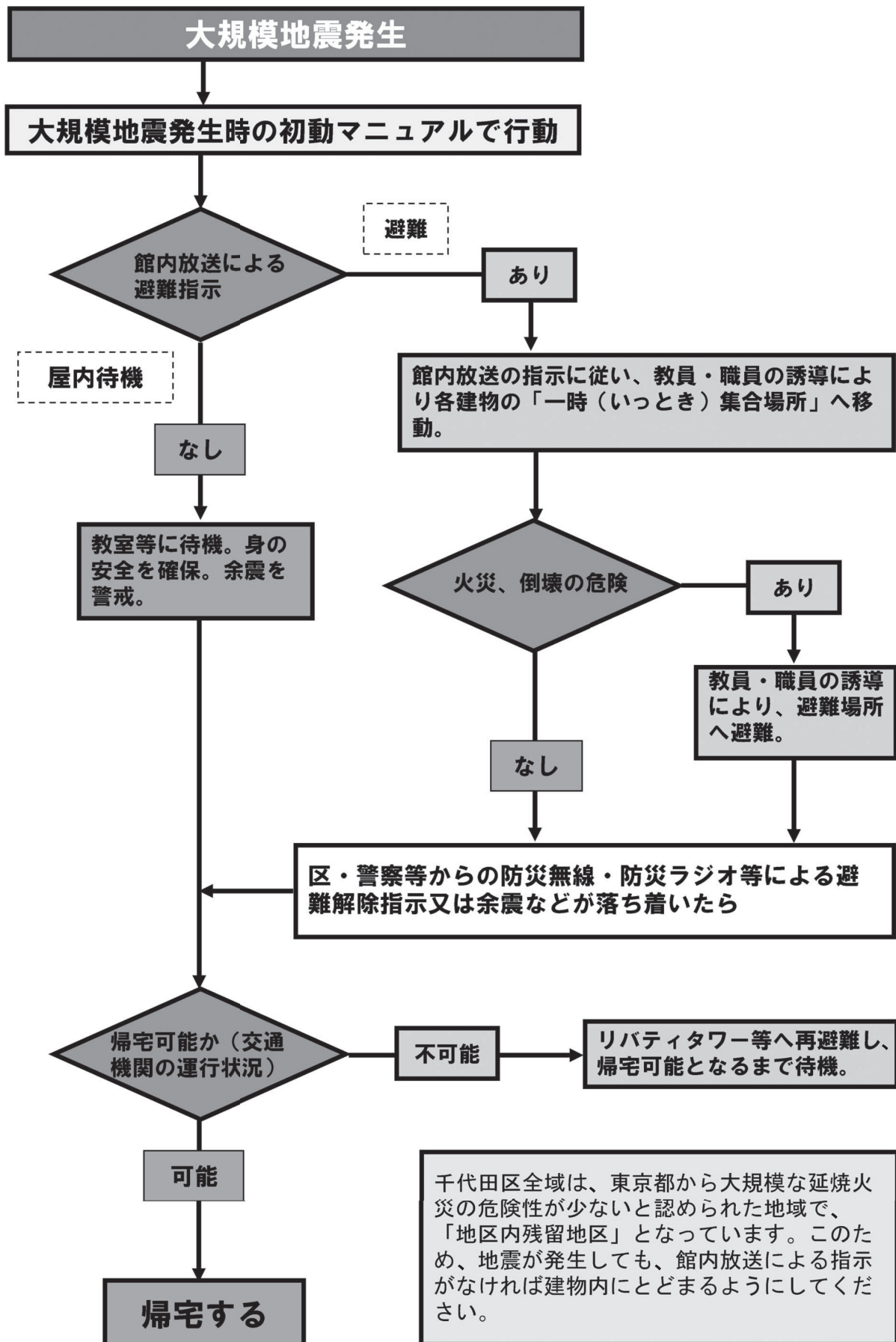
緊急連絡先：

リバティタワー防災センター (03-3296-4445)

アカデミーコモン防災センター (03-3296-4498)



大規模地震発生時の避難フロー



大規模地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、①大地震・火災が発生した場合の対応、②避難経路図を掲出していますので確認してください。リパティタワーやアカデミーコモンの非常用エレベーター付近の消火栓扉内には、防災センターに通じる非常電話を設置しています。教室内の電話と併せて確認してください。

【地震時の心構え】－落ち着いて行動－

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後に起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は、耐震建築又は耐震補強がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】－身の安全確保－ <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、天吊りプロジェクター、窓ガラス、自動販売機、ロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】－避難口の確保と火の始末－

小さな揺れのときや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保するとともに、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】－状況確認と救出・消火－ <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、最寄りの事務室や防災センター／守衛所にも連絡をしてください。（事務室等から119番通報します。）消火の際は、身の安全を第一に考え、消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

【エレベーター】

大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、エレベーター内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、エレベーター保守業者による救助を待ってください。（閉じ込めの発生しているエレベーターは業者の最優先対応となります。）

【屋外避難】

地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣の火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時（いっとき）集合場所」へ移動してください。その後、千代田区指定の避難場所へ移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※駿河台キャンパスでは、原則 大きな揺れがあった際は、各建物の防災センター／守衛所から館内放送を行います。（なお、猿楽町第五校舎は館内放送設備がないためハンドマイク等で対応します。）

【本学の一時（いっとき）集合場所の指定】

各建物の一時集合場所は、原則として次のように指定します。ただし、状況に応じて変更することもありますので、館内放送に注意してください。

- リパティタワー、研究棟、大学会館、12号館、紫紺館、10号館
⇒リパティタワー（低層階教室）
- アカデミーコモン⇒A1～A6会議室（2階）
- グローバルフロント⇒グローバルホール、多目的室（1階）
- 14号館、猿楽町校舎⇒猿楽町第一校舎グラウンド

【千代田区内の避難場所】

千代田区は、全域が東京都の調査により建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災の危険性が少ないと認められた地域のため、「地区内残留地区」となっています。このため、地震発生の際はすぐに避難を開始するのではなく、建物内にとどまり、被災状況を把握し、万が一危険を感じた場合は、に避難することとなっています。

本学では、千代田区内で指定された、「災害時退避場所」のうち、次の場所を「避難場所」とします。

- ①北の丸公園、②皇居東御苑、③皇居外苑

※避難時には、①～③のいずれかを指定し、館内放送、避難誘導により周知します。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、体制が整い次第、大学HP及び所属の学部事務室から「Oh-o!Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。X（公式アカウント@Meiji_Univ_PR）でも情報発信を行います。

一時集場所

グローバルフロント

一時集場所

一時集場所

一時集場所

紫紺館

アカデミーコモン

12号館

大学会館

研究棟

リベティタワー

10号館

14号館

部室センターB棟

部室センターC棟

プレハブ棟

第五校舎

第四校舎

第三校舎

猿楽町校舎

第二校舎

第一校舎

一時集場所
(グラウンド)

明 治 大 学 大 学 院

政治経済学研究科 ☎03-3296-4150

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務室